

信頼できるインターネット調査法の確立に向けて

石田浩 佐藤香 佐藤博樹 豊田義博
萩原牧子 萩原雅之 本多則恵 前田幸男 三輪哲

SSJDA-42

March 2009

信頼できるインターネット調査法の確立に向けて
—目次—

【第1部】

第1章 第1期調査設計と基本分析	5	萩原牧子
第2章 各調査回答者の属性分布 —就業構造基本調査（東京都・平成14年度）との比較—	15	本多則恵
第3章 調査方法による回答分布の偏りの相対的布置	33	三輪 哲
第4章 投票参加と意識の比較	49	前田幸男
第5章 調査回答に及ぼすモニター効果とモード効果	65	三輪 哲

【第2部】

第6章 第2期調査設計と基本分析	83	萩原牧子
------------------	----	------

第7章 調査法が回答者を選ぶ？	
—調査法(訪問・郵送・インターネット等)と無回答誤差の関係—	95
	本多則恵
第8章 傾向スコア法によるワーキングパーソンWeb調査補正の可能性	123
	三輪 哲
終章 インターネット調査の限界と有効性	133
	佐藤博樹
資料編	143

はじめに

本レポートは、株式会社リクルートワークス研究所からの委託研究として社会科学研究所が、2007年度と2008年度の2年間にわたり実施した「インターネット調査の有効性に関する調査研究」の成果を取りまとめたものである。

2年間の研究では、訪問調査、郵送調査、登録モニターを利用したインターネット調査など様々な調査手法の比較を通じて、それぞれの調査方法の有効性、限界、課題などを検討した。調査手法の比較分析のために、2007年度には同一設問により登録モニターを利用した調査（異なる調査会社のWEBモニター調査3件、郵送モニター調査1件）と郵送ランダム調査（母集団は選挙人名簿）を、2008年度には同一設問によりエリアサンプリングによる大規模訪問留置調査と登録モニターを利用したWEB調査を実施した。これらの調査は、本研究のためにリクルートワークス研究所が、研究会の議論を踏まえて実施したものである。

本レポートでは、これらの調査データの相互比較や代表性の高い従来型調査と比較を詳細に行っている。

研究会では、下記の研究会を組織し、2年間にわたり活発な議論を行い、本レポートを取りまとめた。本レポートの執筆に際して、本研究会に参加された石田浩、佐藤香、萩原雅之の3氏の意見やコメントがきわめて有益なものであった。

研究会（肩書きは2009年3月31日現在、*は執筆メンバー）

佐藤博樹 東京大学社会科学研究所教授・座長*
石田 浩 東京大学社会科学研究所教授
佐藤 香 東京大学社会科学研究所准教授
前田幸男 東京大学大学院情報学環准教授（社会科学研究所准教授（兼任））*
三輪 哲 東京大学社会科学研究所准教授*
本多則恵 東京大学社会科学研究所客員准教授
（内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付 少子・高齢化対策担当参事官）*
萩原雅之 ネットレイティングス株式会社 代表取締役社長
豊田義博 株式会社リクルートワークス研究所主任研究員
萩原牧子 株式会社リクルートワークス研究所研究員*

最後に、本研究を実施する機会をご提供いただいた、株式会社リクルートワークス研究所の大久保幸夫所長に記してお礼を申しあげたい。

佐藤博樹

第 1 部

第1章 第1期調査設計と基本分析

萩原牧子

1. 調査設計

1.1 比較調査の目的

社会調査でもっとも信頼性が高いとされてきた「住民基本台帳から無作為抽出した者への訪問面接調査」は、2006年の住民基本台帳法改正により、公益性が高い調査目的以外での住民基本台帳の閲覧が禁止されたことで、実施困難になった。さらに、昨今の個人情報保護への過剰ともいえる関心の高まりや、女性の社会進出に伴う調査実施時の不在世帯の増加などによって、訪問調査の回答率が大きく低下し、もはやこの従来型の調査手法の特徴である「代表性」は失われつつある。状況が改善する期待が持てない今、次なる信頼性のある調査手法の確立が求められている。

本研究は、同じ設問を異なる調査手法で実施し、その回答を比較することで、従来型の調査手法に代替する調査手法の可能性を検討するものである。

1.2 比較調査の基本設計

5つの調査手法を同じ設問を用いて同時に実施した(表1)。信頼性のある調査手法の可能性を検討するためには、事実と各調査結果の誤差を比較する必要がある。そこで、最も統計的に代表性が高いとされる無作為抽出法によりサンプリングした「①郵送ランダム調査」を実施し、比較する際に基準とする調査データとして位置づけた¹。その他4つの比較調査は、登録モニターを対象に、郵送で調査するもの(②)と、インターネットで調査をするもの(③④⑤)である。同じインターネットモニターでも、③④は調査専用のモニター、⑤は懸賞メーリングリストのひとつのサービスとして調査があるもので、莫大なモニター数をかかえるが、回答者にモニターという意識は薄く、回答率も低い【モニターの概要一付属資料I-1】。

また、調査設問には、従来型の調査法による既存調査の回答と比較できるように、いくつかの設問を抜粋して入れている。おもに参考にした調査は、住民基本台帳から無作為抽出し訪問面接法により調査した、総務省の「就業構造基本調査」(2007)と、エリアサンプリングで訪問留め置き法により調査した、リクルートの「ワーキングパーソン調査」(2006)である(表2)。

¹ 訪問面接法ではなく「郵送調査」の結果を比較基準としたのは次の理由による。(1) 訪問面接法には莫大な費用がかかる。予算の制約上、今回新たに実施する調査については「無作為抽出かモニターか」によって発生する回答の偏り(サンプリング効果)の比較分析に注力して設計し(発生誤差を整理する枠組みについては後述)、訪問面接法との回答比較は、その測定法による既存の調査設問をいれて比較することで補うことにした。(2) 郵送調査は回収率の低さからしばしば標本誤差の大きさが問題視されてきたが、昨今の訪問面接法の回収率低下という背景もあり、郵送調査の可能性が見直されている。郵送調査の方法論について研究するものや(林2006)、工夫によって郵送調査の高回収率を達成した報告もあり(松田2006)、今回は郵送調査で回収率を高めることに注力することにした。

表 1 比較調査の概要

調査名	台帳(サンプリング)	調査法(測定法)	調査時期
①郵送ランダム	選挙人名簿 無作為抽出	郵送	2007年10月11-31日
②郵送モニター	登録モニター		
③WEBモニターA	懸賞メーリングリスト	インターネット	2007年10月12-16日
④WEBモニターB			
⑤WEBモニターC			

表 2 参考調査の概要

(参考)既存調査名[実施主体]	台帳(サンプリング)	調査法(測定法)	調査時期
⑥就業構造基本調査07[総務省]	住民基本台帳 無作為抽出	訪問面接	2007年10月1日-
⑦ワーキングパーソン調査06[リクルート]	エリアサンプリング	訪問留め置き	2006年8月24日-9月7日

調査結果の誤差は発生要因で大きく 2 つに整理するとわかりやすい (本多 2006b)。ひとつは、調査対象の選び方によって規定され、目標母集団と回収標本の体系的な誤差である「サンプリング効果」である。いまひとつは、「測定法効果」といい、他記式 (電話や面接など人が介する方法) か自記式 (回答者が自分で回答を記入する方法) かで回答内容が異なることがあるが、このような回答収集法の影響による誤差である。

今回の比較調査と参考調査の回答差をこの枠組みで整理すると、次のようになる (図 1)。例えば、郵送ランダム調査 (①) と郵送モニター調査 (②) との回答の差は、無作為抽出かモニターかによる違いで発生する「サンプリング効果」によるもので、就業構造基本調査 (⑥) とWEBモニター (③④⑤) との回答の差は、サンプリング効果に加えて、調査員が介在するか否か、また、紙の調査票かネットの調査票かの違いにより発生する、「測定法効果」との両方によるものと整理できる²。

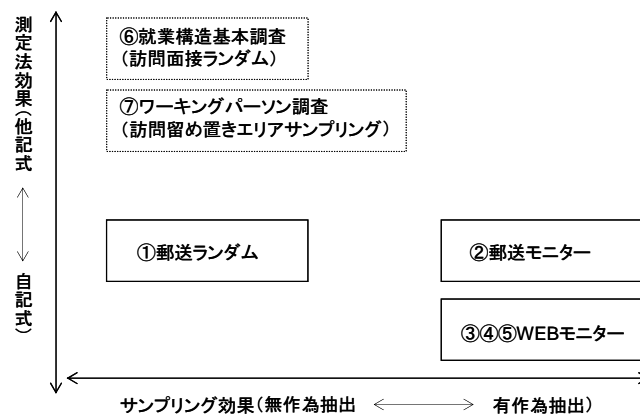


図 1 調査の基本設計

² 測定法が異なれば回答する人のタイプも違うことがあり、測定法はサンプリング効果の発生要因ともなる (本多 2006a, 本多 2006b)。

1.3 調査設計詳細

(1) 調査対象と割付

調査対象は男女 20 歳から 59 歳，調査エリアは東京都（首都圏 50 km 圏内）である。

郵送ランダム調査（①）は，対象エリアを 7 つに層化【付属資料Ⅱ-1】，各層の人口規模（平成 17 年国勢調査）により，調査地点数を比例抽出した【Ⅱ-2】。モニター調査（②③④⑤）は，郵送ランダム調査と同じく対象エリアを 7 つに層化，各層の人口規模により，10 歳刻みの男女で割付を行った【Ⅱ-3】。この詳細の割付は，通常のモニター調査では行われないものであるが，今回の研究目的が実践的な調査手法を検討することにあるため，モニター調査とランダム調査の条件を近づけるために行った。

(2) 配布・配信数

郵送ランダム調査は，回収サンプル 1000 を目標とし，回収率を 3 割弱と想定し，計 3500 人抽出，配布した。モニター調査は，回収サンプル 1000 を目標とし，配信数の設定や催促の方法は各調査会社のノウハウにより実施してもらった（表 3）。

表 3 調査設計詳細

調査名	配信数	回収数	回収率	回収締め切り方法	催促の有無	依頼主
①郵送ランダム	3500	753	21.5%	調査期間終了後、予定より多く回収したセルは無作為抽出	10/16に督促はがき発送	開示
②郵送モニター	1340	1108	82.7%		10/16に督促はがき発送	
③WEBモニターA	2666	1201	45.0%		督促なし。回収数未達のセルのみ追加配信10/15に実施	非開示
④WEBモニターB	2005	1472	73.4%	先着順受付	督促は1回(10/16) 配信方法は回収数をみながら 期間中分割配信	
⑤WEBモニターC	29995	2088	7.0%	調査期間終了後、予定より多く回収したセルは無作為抽出	10/15に1回	

(3) 各モニターの母集団

モニター調査の母集団を男女年代別にまとめると表 4 のとおりである【エリア別詳細—付属資料Ⅰ-2】。インターネット調査は，男女ともに 50 代のモニター数が少ない。配信者は，各割付内の母集団からランダム抽出している。

表 4 モニターの母集団（男女年代別）

	割付 サンプル	②郵送モニター (2007/11/20時点)	③WEBモニターA (2007/11/5時点)	④WEBモニターB (2007/11/21時点)	⑤WEBモニターC (2007/10/4時点)
男性20代	129	2223	8964	13830	38759
男性30代	150	2308	16532	14981	58297
男性40代	114	3288	12066	8089	44943
男性50代	121	2291	4435	3047	26292
女性20代	120	4059	11845	17283	26108
女性30代	142	4399	21448	21727	40987
女性40代	106	4930	10443	8265	21132
女性50代	118	3030	3102	2400	8000

(4) 回答の受付方法

通常のインターネットモニター調査は、回収サンプルが目標数に達すると回答の受付を終了するものが多いが、その方法だと回答が早い人の意見が反映されてしまうという指摘がある。よって、郵送調査(①②)の条件にあわせ、回答期間中は回答を受け付けて、期間終了後に回収目標を超えた割付セル³については、セル内で無作為抽出するという方法を試みた(③⑤)。ただし、インターネット専属モニター調査の2種類のうち、ひとつは通常の回収方法である先着順受付で回答を締め切る方法を残した(④)(表3)。

(5) その他

調査を実施するにあたり、調査主体である東京大学の名前を明記したのは、郵送ランダム調査だけである。調査実施期間は、回収にかかる郵送調査は期間が長くなっている(表1)。謝礼は、郵送ランダム調査は回答者に後日発送(500円の商品券)し、その他のモニターに対しては、各調査会社の通常の方法に準じた。調査を実施した会社は、郵送ランダム、郵送モニター、インターネットモニターAが同一の会社(a社)で、インターネットモニターB(b社)、インターネットモニターC(c社)の、計3社である⁴。

1.4 回収状況

男女年代別の回収状況をまとめた(表5)【エリア別詳細—付属資料Ⅱ—4】。まず、全体の回収率傾向を見てみると、同じインターネット調査でも、懸賞メーリングリストのサービスの中のひとつとして調査があるWEBモニターCは一桁台である。その次に期間中回答を受け付け続けたWEBモニターA、通常どおり回収数をみながら分割配信し先着順で回答を受け付けたWEBモニターBの順で回収率が上がる。事実に近い基準調査として位置づけた郵送ランダム調査は、回収率が目標の30%弱に届かず21.5%(宛先不明戻り分を除くと21.8%)であった。苦労してランダムサンプリングを実施したが、この回収率では代表性が高いとはいえない可能性があり、データを扱う際に注意が必要である。

次に、男女年代別に回収率を見てみる。どの調査手法も男性20代の回収率が比較的低い。郵送調査(①②)は年齢が高いほど回収率が高くなる。一方、インターネット調査(③④⑤)では、先述のとおり50代のモニター数は少なかったが(表4)、回収率については他の年代と大きな差はない。

割付に対する回収率を見てみる。モニター調査に関しては、ほぼすべてのセルで目標数に達しており、郵送でもインターネットでも、通常調査の経験値から回収数をかなりコントロールできることがわかる。一方、郵送ランダム調査は、女性50代のセル以外のすべてのセルで目標数に達成していない。

³ 「セル」とは、10歳刻みの「年代×性別×エリア」で区別した回答者の集団をさす。

⁴ 郵送ランダム、郵送モニター調査を同一の会社に依頼し、封筒や調査票の形状や色、発送や催促のタイミングなどの方法など、可能な限り条件を統一することに注力した。

表 5 回収状況（男女年代別）

	①郵送ランダム(宛先不明戻り分を除く)					②郵送モニター				③WEBモニターA				④WEBモニターB				⑤WEBモニターC				
	割付 サンプル	発送数	配信/割 付	回収数	回収率	宛先不 明戻り数	発送数	配信/割 付	回収数	回収率	配信数	配信/割 付	回収数	回収率	配信数	配信/割 付	回収数	回収率	配信数	配信/割 付	回収数	回収率
男性20代	129	441	3.4	59	13.4%	11	174	1.3	130	74.7%	411	3.2	157	38.2%	263	2.0	192	73.0%	3870	30.0	129	3.3%
男性30代	150	518	3.5	79	15.3%	7	199	1.3	173	86.9%	380	2.5	178	46.8%	302	2.0	222	73.5%	4500	30.0	302	6.7%
男性40代	114	394	3.5	91	23.1%	5	153	1.3	135	88.2%	337	3.0	142	42.1%	216	1.9	168	77.8%	3420	30.0	271	7.9%
男性50代	121	419	3.5	106	25.3%	4	162	1.3	144	88.9%	266	2.2	142	53.4%	238	2.0	176	73.9%	3630	30.0	224	6.2%
女性20代	120	413	3.4	91	22.0%	7	161	1.3	116	72.0%	356	3.0	149	41.9%	247	2.1	181	73.3%	3600	30.0	166	4.6%
女性30代	142	494	3.5	105	21.3%	3	191	1.3	154	80.6%	387	2.7	173	44.7%	293	2.1	210	71.7%	4260	30.0	346	8.1%
女性40代	106	362	3.4	87	24.0%	9	142	1.3	120	84.5%	281	2.7	121	43.1%	220	2.1	159	72.3%	3180	30.0	325	10.2%
女性50代	118	411	3.5	135	32.8%	2	158	1.3	136	86.1%	248	2.1	139	56.0%	226	1.9	164	72.6%	3535	30.0	325	9.2%
合計	1000	3452		753	21.8%		1340		1108	82.7%	2666		1201	45.0%	2005		1472	73.4%	29955		2088	7.0%

1.5 設問・調査票

調査結果の比較検討を行うため、おもに従来型の調査手法による既存調査の設問を抜粋した（表 6）。また、設問数が多すぎることで回収率が下がることを避けるため、分析に必要な最低限の設問数（A3 版の表裏に収まる数）だけ採用した【調査票，各インターネット調査画面一付属資料Ⅲ】。

（1）生活意識に関する設問

総務省「就業構造基本調査」（2007 年：層化二段無作為抽出法，訪問面接）より，一部の設問を抜粋した。

（2）就業状況・就業意識などについての設問

株式会社リクルート「ワーキングパーソン調査」（2006 年：エリアサンプリング，訪問留め置き）と，「日本版 General Social Survey」（2007 年：層化二段無作為抽出法，面接留め置き）より，一部の設問を抜粋した。

（3）政治意識に関する設問

財団法人明るい選挙推進協会「参議院議員通常選挙についての意識調査」（2007 年：層化二段無作為抽出法，訪問面接）より，一部の設問を抜粋した。

（4）調査の協力意向・インターネット利用状況・モニター調査登録状況についての設問

総務省「平成 18 年通信利用動向調査」（2006 年：層化二段無作為抽出法，郵送調査），独立行政法人労働政策研究・研修機構「日本人の働き方調査」（2005 年：層化二段無作為抽出法，訪問留め置き）より，一部の設問を抜粋した。

（5）基本属性についての設問

「日本版 General Social Survey」（2007 年：層化二段無作為抽出法，面接留め置き）と，株式会社リクルート「ワーキングパーソン調査」（2006 年：エリアサンプリング，訪問留め置き）より，一部の設問を抜粋した。

表 6 抜粋した設問の今回の郵送調査票の設問番号

(参考)既存調査名[実施主体]	郵送調査の設問番号
⑥就業構造基本調査07[総務省]	Q1、Q2、Q9、SQ9-A1・A2・A3・A4、SQ9-B、Q16
⑦ワーキングパーソン調査06[リクルート]	SQ9-A5・A6、Q11
⑧日本版General Social Survey07	Q5、Q6、Q8
⑨参議院議員通常選挙についての意識調査07[明るい選挙推進協会]	Q3、SQ3-1・3、Q7
⑩平成18年通信利用動向調査[総務省]	Q14
⑪日本人の働き方調査[労働政策研究・研修機構]	Q15、SQ15-1・2

2. クロス集計

2.1 クロス集計による検証

全体と男女別で、5つの調査手法との全設問のクロス集計を作成した【付属資料IV】。以下、特徴を列挙する。

(1) 基本属性の比較

郵送、インターネット調査ともにモニター回答者の学歴が高い傾向がある(Q16)⁵。インターネットモニター調査回答者の未婚率が郵送調査に比べて高い(Q1)。

(2) 生活意識の比較

年金制度に対する信頼(Q4)、所得税の高低感(Q5)、人への信頼(Q8-2)で、インターネットモニター調査の回答が批判的で、次に郵送モニター、郵送ランダムで肯定的になる傾向がある。日本社会階級での自分の位置づけ(Q8-3)はインターネットモニター調査のなかでも懸賞メーリングリストで「中の下」「下」が高く(計51.3%)、インターネット専属モニター、郵送モニターの順でその割合は下がり、郵送ランダムでは47.5%が「中の中」と回答している。

(3) 就業状況の比較

全体では男性の9割弱、女性の半数弱が仕事をおもにしていると回答している(Q9)。調査手法で比較すると、郵送調査に比べ、インターネットモニターの女性の回答者は、「仕事をおもにしている」割合、「家事をおもにしている」割合がともに高い傾向があり、郵送調査は、「家事がおもで仕事もしている」という回答がインターネットモニターより高い。

ふだん働いている人の就業形態を見ていく。就業形態については、雇用者・自営といった従業上の地位区分と、雇用者については勤務先での呼称という2つの調査設問から比較する。郵送ランダム回答者は、ほかに比べて、常雇(期間の定めのない雇用者)の割合が

⁵本多・本川(2005)のモニター調査回答者が、従来型調査回答者と比較して、中卒、高卒が少なく、大卒が多いという結果と整合的である。

低い。インターネットモニター回答者の自営業（雇用人なし）の割合が高い（SQ9-A1）。勤務先での呼称は、女性の郵送モニター回答者のパートタイマーの割合（34.3%）が女性全体（27.5%）と比較して高い。1週間の就業時間（SQ9-A2）は、男性では郵送ランダム回答者が最も長い傾向があり、郵送モニター、インターネットモニター調査の順に短くなる一方、女性ではインターネットモニター調査回答者のほうが、長い傾向がある。収入（SQ9-A3）も、男性では郵送ランダムが高い傾向があり、郵送モニター、インターネットモニター調査の順に低くなるが、インターネットモニター調査の中でも懸賞メーリングリストは最も低い。女性は、インターネットモニター調査回答者のほうが、収入が高い傾向がある。職種（SQ9-A4）は、全調査とも分散していることに変わりはないが、郵送調査が営業・販売職、サービス職の割合が比較的に高く、インターネットモニター調査が専門・技術的職業、女性のインターネットモニター回答者は事務職の割合が高くなる。退職経験（Q11）は、WEBモニターA、WEBモニターCで多い傾向があり、退職経験者の退職回数は郵送ランダムが最も少なく、郵送モニター、インターネットモニター調査の順で多くなる傾向がある。

ふだん仕事をしていないひとで、「収入になる仕事をしたいと思っている」という回答率は、インターネットモニター調査のほうが高く、次に郵送モニター、郵送ランダムの順で低くなる（SQ9-B）。

（4）就業意識の比較

仕事満足度（SQ9-A5）は、インターネットモニター調査回答者が低い傾向がある。働く理由（SQ9-A6）については、郵送ランダム回答者に前向きな回答率が高く、次に郵送モニター、インターネットモニター調査の順で、後ろ向きの回答率が高くなる傾向がある。例えば、「視野を広げるため」を働く理由として「あてはまる」と回答した率が、郵送ランダム（26.0%）、郵送モニター（20.0%）、インターネットモニター調査（17%前後）である一方、「他にやることがないから」に「あてはまらない」と回答した率は、郵送ランダムが最も高く（41.8%）、郵送モニター（36.6%）、インターネットモニター調査と低くなる。

（5）政治意識の比較

07年7月29日の参議院選挙で、選挙区、比例代表のどちらも投票しなかった割合が、インターネットモニター調査で比較的に高い（Q3）。投票の際、重視した問題（SQ3-2）は、「政治とカネの問題」と回答した率が、インターネットモニター調査で比較的に高い。投票した政党（SQ3-3）として、「民主党」の回答率がインターネット調査で比較的に高く、支持政党は「支持政党なし」と、「民主党」の回答率が同じくインターネットモニター調査で比較的に高い（Q7）⁶。

⁶ 前田・大隈（2006）のウェブパネル回答者が郵送パネル回答者よりも民主党支持が少し高いという結果と整合的である。

(6) 調査協力意向・インターネット利用状況・モニター調査登録状況などの比較

どこが実施している調査なら回答するか(Q12)は、回答者全体では「国や都道府県などの自治体」「大学や公的な研究機関」は高い。一方、「マスコミ」、「民間調査会社」は、郵送ランダム回答者の協力意向度が比較的 low (40%以下) 差が開いた。ただし、この結果には今回の調査が郵送ランダム調査のみ、調査主体名を東京大学と表記していることが影響している可能性があるため、注意が必要である。

つぎに調査手法による協力意向度を見る。今回の調査は郵送とインターネット調査による回答であるので、各回答者のそれぞれの調査手法に対する協力意向度が高いのは当然だが、注目すべきは、インターネットモニター調査回答者でも郵送調査への協力意向度が高いこと(WEBモニターAから順に 70.4%, 80.1%, 62.6%) だろう。一方、郵送調査回答者のインターネット調査協力意向度は、郵送ランダムが 39.7%, 郵送モニターで 60.1% である。郵送ランダム回答者にはインターネットでの調査可能性が一見低いように思われるが、郵送ランダム回答者のほかの手法への意向度と比較すると、「訪問面接」5.6%、「留め置き」18.9%、「電話」9.7%と、実は、インターネット調査は比較的 가능성이高い手法であることがわかる。また、モニターの調査手法による協力意向度に注目すると、郵送とインターネット以外は協力意向度が低く、従来調査の訪問面接や留め置き法では、回答者として取り込めていない層である可能性がある(Q13) 7。

1年間のインターネット利用経験(Q14)は、郵送調査でも9割前後が利用していると回答している。民間調査会社登録状況(Q15)は、郵送ランダム回答者では14.5%だが、「登録していないが登録してもよい」という回答が30.5%であり、「登録するつもりがない」も54.2%と過半数を越すものの、今後の可能性が感じられる。一方、懸賞メーリングリストのWEBモニターCは、「登録している」という回答率が67.5%で、回答者に登録モニターであるという意識は専属モニター調査に比べて低いことが確認された。

2.2 クロス集計による比較の要約

5つの調査のうち、3つのインターネットモニター調査は、運営する調査会社、モニターの特徴(専属モニターか、懸賞メーリングリストか)、調査回収方法(回収後無作為抽出か、先着順受付か)など異なるものだが、残り2つの郵送調査と比べると回答の傾向に大きな違いはなかった⁸。詳細に目をつぶると、郵送ランダムとインターネットモニター調査の回答の間に、郵送モニターの回答が位置する傾向が見られた。

個人属性は、郵送調査と比べて、インターネットモニター調査で学歴が高めで、未婚率が高いこと、自営業(雇用人なし)が多いこと、職種が専門・技術的職業が多いこと(女

⁷ 日本マーケティング・リサーチ協会(2005)でも、モニターが訪問面接、留め置き、電話のいずれにおいても協力意向度が低く(順に8%, 15%, 23%), 調査員が介在する他記式を好まない傾向があることを指摘している。

⁸ 本多・本川(2005)の確率抽出訪問面接調査とモニター調査(インターネット4種、郵送1種)の比較分析、松田(2006)の郵送調査とインターネットモニター調査(2社)の比較分析でも、インターネットモニター調査は、調査会社間で回答傾向に大きな差はみられなかった。

性は事務職も多い)、労働時間は男性が短く、女性が長いこと、給与は男性が低めで女性が高いこと、退職経験率が高く、回数も多いことが確認された。

意識設問では、郵送ランダムに比べてインターネットモニター調査で批判的で、間に郵送モニターの回答が位置するという傾向が見られた。

調査協力意向度の設問からは、従来型の調査手法(訪問面接、訪問留置調査)への意向度が低いことが確認された。今回の郵送調査、インターネットモニター調査の回答者が、従来型の調査でとりこめていない可能性もあり、代表性が高いとされている従来型の調査手法の限界を再認識させられた。どの調査手法を選択しても、調査をすれば必ず誤差は発生する。従来型の調査手法の回収率低下が進むなかで、もはやその回答を基準として補正するという方法にも限界があるだろう。調査実施者は、調査手法によりどのような偏りが発生するか注意したうえでデータを読むことが、ますます重要になってくるであろう。

郵送ランダムと郵送モニターの回答を比較することで、ランダムとモニターの違いにより発生する回答の偏り(サンプリング効果)の影響をみようとしたが、結果的には郵送ランダム調査の回収率が低かったことで、その枠組みでの単純比較には限界があるといわざるをえない。続く分析編では、さまざまな条件をコントロールした上で、モニターによる効果が分析されている。また、代表性が高いデータと比較することで、各調査の回答の偏りについて検証されている。

【文献】

- 日本マーケティング・リサーチ協会, 2005, 『平成 16 年度調査研究委員会報告書 テーマ 2. マルチモード調査の有効性検証』(社)日本マーケティング・リサーチ協会。
- 林英夫, 2006, 『郵送調査法 [増補版]』関西大学出版部。
- 本多則恵, 2006a, 「調査法が調査結果に与える影響について—インターネット調査, モニター型調査の特性—」『日本人の働き方とセーフティネットに関する研究—予備分析』(JILPT 資料シリーズ No.14): 129-197, 労働政策研究・研修機構。
- , 2006b, 「インターネット調査・モニター調査の特質—モニター型インターネット調査を活用するための課題—」『日本労働研究雑誌』551: 32-41。
- ・本川明, 2005, 『インターネット調査は社会調査に利用できるか—実験調査による検証結果—』(労働政策研究報告書 No.17) 労働政策研究・研修機構。
- 前田忠彦, 2005, 「郵送調査法の特徴に関する—研究—面接調査法との比較を中心として—」『統計数理』53(1): 57-81。
- ・大隅昇, 2006, 「自記式調査における実査方式間の比較研究」『ESTRELA』143。
- 松田映二, 2006, 「世論調査報告 長野県知事選挙(2006年7~8月) 郵送・インターネット比較調査で世論調査の可能性を探る」『朝日総研レポート』198。

第2章 各調査回答者の属性分布 —就業構造基本調査（東京都・平成14年度）との比較—

本多則恵

1. 分析の趣旨・目的

代表性が高い調査である就業構造基本調査（総務省）と、実験調査5種の結果を属性（性、年齢、学歴、就業状態、雇用形態）に着目して比較する。これにより、無作為抽出サンプル・郵送調査、モニター・郵送調査、モニター・インターネット調査といった調査法の違いと回答者の属性分布の関係を把握する。

[各調査名の表記と概要]

「就調 14」：「平成 14 年就業構造基本調査」から、実験調査の調査対象者と同じ「東京都在住」「20 歳～59 歳」の者の分のみを集計したもの。

「郵送ランダム」：無作為抽出サンプル・郵送調査

「郵送モニター」：モニター・郵送調査（インテージ）

「web モニターA」：モニター・インターネット調査（インテージ(yahoo リサーチ)）

「web モニターB」：モニター・インターネット調査（マクロミル）

「web モニターC」：モニター・インターネット調査（エルゴブレインズ）

*以下の図表では、就調 14 と比較して±5%ポイント以上の差があるセルをマーキングしている。

*図表中、空白のセルは 0.0%を意味している。

2. 分析結果¹

(1) 性、年齢

- ・ 回答者の性別、年齢別の構成は、web モニター調査3種と就調14では大きな違いはない。
- ・ 郵送ランダム調査は、男性の比率が低い。また、20代、30代が少なく、50代が多い。

調査名と性別のクロス表

(単位:人、%)

	人数	男性	女性	合計
就調14	7,219,300	51.4	48.6	100.0
(割付)	—	51.4	48.6	100.0
郵送ランダム	753	44.5	55.5	100.0
郵送モニター	986	51.7	48.3	100.0
webモニターA	1000	51.4	48.6	100.0
webモニターB	1000	51.4	48.6	100.0
webモニターC	984	50.7	49.3	100.0

調査名と年代のクロス表

(単位:%)

	20代	30代	40代	50代	不明
就調14	27.5	27.9	20.4	24.1	—
(割付)	25.2	29.4	22.2	23.2	—
郵送ランダム	19.9	24.4	23.6	32.0	0.0
郵送モニター	24.1	29.5	22.2	24.1	0.0
webモニターA	24.9	29.2	22.0	23.9	0.0
webモニターB	24.1	29.4	22.3	24.2	0.0
webモニターC	24.0	29.1	22.6	23.8	0.6

¹ 分析対象となる項目について無回答の者は、各項目についての集計から除外した。

(2) 学歴

- ・ 実験調査5種はすべて、就調14よりも「大学・大学院卒」の比率が大幅に高い。性別、年代別の各層においても同様の傾向である。若年層ほどインターネット利用は浸透しているものと思われるが、ネットモニターは高学歴が多い特徴は若年層でも高年層でも変わらない。
- ・ 実験調査5種のなかでは、郵送ランダム of 回答者の学歴がやや低い。

調査名と学歴のクロス表

(単位:%)

調査名	就調14	小学・ 中学	高校・ 旧制中	短大・高専・ 専門学校	大学・ 大学院	合計
就調14		7.2	35.1	20.9	36.7	100.0
郵送ランダム		3.1	24.6	27.0	45.3	100.0
郵送モニター		1.8	20.2	23.3	54.7	100.0
webモニターA		1.8	18.5	24.9	54.8	100.0
webモニターB		.8	18.3	24.6	56.3	100.0
webモニターC		1.4	23.3	25.3	50.0	100.0

(注) 「短大・高専・専門学校」については、就調14では、選択肢は「短大・高専」である。(なお、「専門学校」は選択肢には明示されていないが、調査票設計上では、「短大・高専」に「専門学校」が含まれるものとされている。統計審議会 答申 参照。)

調査名と学歴と性別のクロス表

(単位:%)

	調査名	小学・ 中学	高校・ 旧制中	短大・高専・ 専門学校	大学・ 大学院	合計
男	就調14	8.2	33.2	10.5	48.1	100.0
	郵送ランダム	3.9	20.6	10.9	64.5	100.0
	郵送モニター	1.6	17.8	10.6	70.1	100.0
	webモニターA	2.1	17.3	15.4	65.2	100.0
	webモニターB	0.6	13.6	14.0	71.8	100.0
	webモニターC	1.6	20.0	17.0	61.4	100.0
女	就調14	6.1	37.2	32.0	24.8	100.0
	郵送ランダム	2.5	27.8	40.2	29.5	100.0
	郵送モニター	1.9	22.9	37.0	38.2	100.0
	webモニターA	1.4	19.8	35.0	43.8	100.0
	webモニターB	1.0	23.3	35.8	39.9	100.0
	webモニターC	1.2	26.7	33.7	38.3	100.0

調査名と学歴と年代のクロス表

(単位:%)

		小学・ 中学	高校・ 旧制中	短大・高専・ 専門学校	大学・ 大学院	合計
20代	就調14	3.9	24.5	24.9	46.6	100.0
	郵送ランダム	2.0	9.4	33.6	55.0	100.0
	郵送モニター	1.3	7.7	14.6	76.4	100.0
	webモニターA	2.8	13.7	19.3	64.3	100.0
	webモニターB	.8	12.9	20.3	66.0	100.0
	webモニターC	1.3	14.4	23.7	60.6	100.0
30代	就調14	4.3	34.0	25.1	36.6	100.0
	郵送ランダム	1.7	22.7	27.3	48.3	100.0
	郵送モニター	1.7	19.9	25.9	52.4	100.0
	webモニターA	2.4	19.9	31.8	45.9	100.0
	webモニターB	1.0	16.3	32.0	50.7	100.0
	webモニターC	2.8	21.7	26.2	49.3	100.0
40代	就調14	5.6	38.3	19.8	36.3	100.0
	郵送ランダム	2.3	27.3	25.0	45.3	100.0
	郵送モニター	.9	24.7	27.9	46.5	100.0
	webモニターA	1.4	20.5	26.4	51.8	100.0
	webモニターB	.4	26.0	20.2	53.4	100.0
	webモニターC	.9	28.8	26.1	44.1	100.0
50代	就調14	15.6	45.8	12.6	26.0	100.0
	郵送ランダム	5.5	33.5	24.2	36.9	100.0
	郵送モニター	3.0	28.9	24.7	43.4	100.0
	webモニターA	.4	20.1	20.9	58.6	100.0
	webモニターB	.8	19.0	24.0	56.2	100.0
	webモニターC	.4	29.1	24.8	45.7	100.0

調査名と学歴と年代と性別のクロス表

(単位:%)

			小学・中学	高校・旧制 中	短大・高専・ 専門学校	大学・大学 院
男	20代	就調14	5.0	26.9	13.7	54.4
		郵送ランダム	3.4	8.5	18.6	69.5
		郵送モニター	.0	6.5	8.9	84.7
		webモニターA	3.1	14.7	13.2	69.0
		webモニターB	.0	9.7	12.1	78.2
		webモニターC	1.7	11.3	18.3	68.7
	30代	就調14	5.4	34.8	12.7	47.1
		郵送ランダム	1.3	17.9	12.8	67.9
		郵送モニター	1.4	20.4	10.9	67.3
		webモニターA	3.3	19.3	22.7	54.7
		webモニターB	.0	11.8	22.9	65.4
		webモニターC	3.4	19.0	19.7	57.8
	40代	就調14	7.3	33.8	8.6	50.3
		郵送ランダム	3.4	25.0	6.8	64.8
		郵送モニター	.9	16.2	15.3	67.6
		webモニターA	1.8	20.2	16.7	61.4
		webモニターB	.9	17.7	10.6	70.8
		webモニターC	.9	25.7	12.4	61.1
50代	就調14	16.3	38.1	5.9	39.8	
	郵送ランダム	6.7	25.7	8.6	59.0	
	郵送モニター	4.2	27.7	7.6	60.5	
	webモニターA	.0	14.9	7.4	77.7	
	webモニターB	1.6	16.1	8.1	74.2	
	webモニターC	.0	24.2	16.7	59.2	
女	20代	就調14	2.8	21.9	37.0	38.2
		郵送ランダム	1.1	10.0	43.3	45.6
		郵送モニター	2.8	9.2	21.1	67.0
		webモニターA	2.5	12.5	25.8	59.2
		webモニターB	1.7	16.2	29.1	53.0
		webモニターC	.8	17.4	28.9	52.9
	30代	就調14	3.2	33.1	38.4	25.2
		郵送ランダム	2.0	26.5	38.8	32.7
		郵送モニター	2.2	19.4	41.7	36.7
		webモニターA	1.4	20.4	41.5	36.6
		webモニターB	2.1	21.3	41.8	34.8
		webモニターC	2.2	24.5	33.1	40.3
	40代	就調14	3.8	43.0	31.8	21.5
		郵送ランダム	1.2	29.8	44.0	25.0
		郵送モニター	1.0	33.7	41.3	24.0
		webモニターA	.9	20.8	36.8	41.5
		webモニターB		34.5	30.0	35.5
		webモニターC	.9	32.1	40.4	26.6
50代	就調14	14.9	53.5	19.3	12.2	

郵送ランダム	4.6	39.7	36.6	19.1
郵送モニター	1.7	30.2	42.2	25.9
webモニターA	.8	25.4	34.7	39.0
webモニターB	.0	22.0	40.7	37.3
webモニターC	.9	34.2	33.3	31.6

(3) 就労状態

- ・ 回答者全体で見ると、郵送ランダム、郵送モニターでは「家事が主、仕事に従」が就調 14 よりやや多いが、全体としてそれほど大きな乖離はない。(ただし、カイ 2 乗検定 (適合度検定、独立性検定) では、どの実験調査も就調 14 とは有意な差があった。)
- ・ 性別に見ると、男性は、どの実験調査でも就調 14 に比べて「仕事の主」の割合が 3～4%ポイント高い。女性は、就調 14 と比較すると、郵送ランダムと郵送モニターはともに、「家事が主、仕事に従」が多く「家事」が少ないのが特徴である。web モニターA、web モニターB は就調 14 と大きな違いはない。web モニターC は「仕事の主」が多く、「家事」が少ない。
- ・ 年代別にみると、郵送ランダム、郵送モニターは 20 代で「仕事の主」が少なく、「通学が主、仕事に従」が多い。

調査名 と 就労状況 のクロス表

(単位:%)

	仕事の主	家事が主、仕事に従	通学が主、仕事に従	家事通学以外が主、仕事に従	家事	通学	その他	合計
就調14	64.9	8.9	1.8	.6	14.0	4.5	5.2	100.0
郵送ランダム	64.5	13.9	3.4	.7	12.1	3.5	2.0	100.0
郵送モニター	65.4	12.7	4.2	.8	11.2	4.4	1.3	100.0
webモニターA	67.6	9.7	2.0	1.4	13.1	4.0	2.2	100.0
webモニターB	65.9	9.1	1.5	1.4	16.2	4.4	1.5	100.0
webモニターC	68.8	9.6	2.1	1.6	11.1	2.8	3.9	100.0

調査名 と 就労状況 と 性別 のクロス表

(単位:%)

		仕事 が主	家事 が主、 仕事 が従	通学 が主、 仕事 が従	家事通学 以外が主、 仕事 が従	家事	通学	その他	合計
男	就調14	84.9	.2	1.9	.4	.5	5.2	6.8	100.0
	郵送ランダム	88.4		3.5	.6	.3	4.1	3.1	100.0
	郵送モニター	87.4	.4	5.2	.4	.2	4.4	2.0	100.0
	webモニターA	88.9	.4	1.6	1.2	.8	5.1	2.1	100.0
	webモニターB	88.3	1.2	1.6	1.2	1.2	5.3	1.4	100.0
	webモニターC	87.3	1.4	2.2	.8	1.2	3.6	3.4	100.0
女	就調14	43.8	18.0	1.7	.8	28.4	3.7	3.5	100.0
	郵送ランダム	45.3	25.1	3.3	.8	21.5	3.0	1.0	100.0
	郵送モニター	41.7	25.9	3.0	1.3	23.1	4.3	.6	100.0
	webモニターA	45.1	19.5	2.5	1.6	26.1	2.9	2.3	100.0
	webモニターB	42.2	17.5	1.4	1.6	32.1	3.5	1.6	100.0
	webモニターC	49.9	18.0	2.1	2.5	21.3	1.9	4.3	100.0

調査名 と 就労状況 と 年代 のクロス表

(単位:%)

		仕事 が主	家事 が主、 仕事 が従	通学 が主、 仕事 が従	家事通学 以外が主、 仕事 が従	家事	通学	その他	合計
20 代	就調14	61.5	2.4	6.2	1.0	6.8	15.6	6.5	100.0
	郵送ランダム	63.4		15.5		4.2	16.2	.7	100.0
	郵送モニター	57.6	5.1	15.7	.4	3.0	16.5	1.7	100.0
	webモニターA	62.2	2.4	7.2	1.2	7.6	15.7	3.6	100.0
	webモニターB	59.3	3.7	6.2	1.2	10.8	17.0	1.7	100.0
	webモニターC	62.3	5.9	8.5	1.3	8.1	10.6	3.4	100.0
30 代	就調14	68.7	7.7	.3	.4	17.7	.6	4.5	100.0
	郵送ランダム	67.0	13.1			18.2	.6	1.1	100.0
	郵送モニター	69.6	11.7	.7	.4	16.3	1.1	.4	100.0
	webモニターA	71.6	9.6	.7	1.4	15.8	.3	.7	100.0
	webモニターB	71.4	8.5		1.0	16.3	1.0	1.7	100.0
	webモニターC	72.4	9.1	.3	1.0	14.0	.3	2.8	100.0
40 代	就調14	66.1	14.1	.1	.5	15.5	.1	3.7	100.0
	郵送ランダム	69.3	17.5	.6		12.0		.6	100.0
	郵送モニター	69.0	20.0	.5	1.0	8.1		1.4	100.0
	webモニターA	70.9	15.0		2.3	11.8			100.0
	webモニターB	68.6	13.0		.4	17.0		.9	100.0
	webモニターC	73.9	10.4		2.3	10.4	.5	2.7	100.0
50 代	就調14	63.4	13.2	.0	.5	16.8	.1	6.0	100.0
	郵送ランダム	59.8	20.5	.4	2.2	12.2	.4	4.4	100.0
	郵送モニター	65.0	15.0		1.7	16.2		2.1	100.0
	webモニターA	65.3	12.6		.8	16.7		4.6	100.0
	webモニターB	63.2	11.6		2.9	20.7		1.7	100.0

webモニターC	66.2	13.2	2.1	11.5	6.8	100.0
----------	------	------	-----	------	-----	-------

調査名と就労状況と性・年代のクロス表

(単位:%)

		仕事 が主	家事 が主、 仕事 が従	通学 が主、 仕事 が従	家事 通学 以外が主、 仕事 が従	家事	通学	その他	合計
男									
20代	就調14	66.4	.1	6.3	1.1	.5	18.0	7.7	100.0
	郵送ランダム	58.9		19.6			21.4		100.0
	郵送モニター	60.3	.8	18.3	.8		17.5	2.4	100.0
	webモニターA	66.7		5.4	.8	3.1	20.2	3.9	100.0
	webモニターB	66.1	.8	6.5	1.6	1.6	21.8	1.6	100.0
	webモニターC	67.0	.9	8.7	2.6	1.7	14.8	4.3	100.0
30代	就調14	92.3	.1	.4	.3	.4	.8	5.7	100.0
	郵送ランダム	96.1				1.3	1.3	1.3	100.0
	郵送モニター	98.0		1.3	.7				100.0
	webモニターA	96.0	1.3	.7	1.3			.7	100.0
	webモニターB	93.5	2.0		1.3	1.3		2.0	100.0
	webモニターC	93.9	1.4	.7		1.4		2.7	100.0
40代	就調14	93.8	.4	.2	.1	.4	.0	5.1	100.0
	郵送ランダム	98.8						1.2	100.0
	郵送モニター	97.2		.9				1.9	100.0
	webモニターA	98.2			1.8				100.0
	webモニターB	98.2	.9			.9			100.0
	webモニターC	94.7	1.8		.9		.9	1.8	100.0
50代	就調14	90.0	.4	.1	.1	.7	.1	8.7	100.0
	郵送ランダム	90.0			2.0			8.0	100.0
	郵送モニター	94.1	.8			.8		4.2	100.0
	webモニターA	95.0			.8			4.1	100.0
	webモニターB	95.2	.8		1.6	.8		1.6	100.0
	webモニターC	91.7	1.7			1.7		5.0	100.0
女									
20代	就調14	56.3	4.9	6.1	.9	13.7	13.0	5.1	100.0
	郵送ランダム	66.3		12.8		7.0	12.8	1.2	100.0
	郵送モニター	54.5	10.0	12.7		6.4	15.5	.9	100.0
	webモニターA	57.5	5.0	9.2	1.7	12.5	10.8	3.3	100.0
	webモニターB	52.1	6.8	6.0	.9	20.5	12.0	1.7	100.0
	webモニターC	57.9	10.7	8.3		14.0	6.6	2.5	100.0
30代	就調14	43.4	15.9	.2	.6	36.3	.4	3.2	100.0
	郵送ランダム	44.4	23.2			31.3		1.0	100.0
	郵送モニター	38.1	24.6			34.3	2.2	.7	100.0
	webモニターA	45.8	18.3	.7	1.4	32.4	.7	.7	100.0
	webモニターB	47.5	15.6		.7	32.6	2.1	1.4	100.0

	webモニターC	49.6	17.3		2.2	27.3	.7	2.9	100.0
40代	就調14	36.8	28.5	.1	.9	31.4	.1	2.2	100.0
	郵送ランダム	38.3	35.8	1.2		24.7			100.0
	郵送モニター	39.8	40.8		1.9	16.5		1.0	100.0
	webモニターA	41.5	31.1		2.8	24.5			100.0
	webモニターB	38.2	25.5		.9	33.6		1.8	100.0
	webモニターC	52.3	19.3		3.7	21.1		3.7	100.0
50代	就調14	36.6	26.2		.9	33.0	.0	3.3	100.0
	郵送ランダム	36.4	36.4	.8	2.3	21.7	.8	1.6	100.0
	郵送モニター	35.3	29.3		3.4	31.9			100.0
	webモニターA	34.7	25.4		.8	33.9		5.1	100.0
	webモニターB	29.7	22.9		4.2	41.5		1.7	100.0
	webモニターC	39.5	25.4		4.4	21.9		8.8	100.0

(4) 就労形態

- ・ 就労している者について、就労形態別の構成比を見ると、全体では就調 14 と実験調査に大きな差は見られない。
- ・ 性別にみると、郵送ランダム、webB、webC は女性の常雇が少なく自営業主が多い。
- ・ 年代が高い層では、実験調査は就調 14 よりも役員が少なく、自営業主が多い。

調査名 と 就労形態 のクロス表

(単位:%)

	常雇	臨時雇	日雇	会社などの 役員	自営業 主	家族 従業者	合計
就調14	72.8	9.3	1.9	6.4	7.4	2.3	100.0
郵送ランダム	69.1	11.4	1.6	3.7	11.0	3.1	100.0
郵送モニター	77.0	9.3	.6	2.6	8.3	2.2	100.0
webモニターA	71.6	9.3	1.6	3.5	11.6	2.4	100.0
webモニターB	69.8	8.9	1.4	3.6	13.9	2.4	100.0
webモニターC	66.3	10.6	1.4	3.4	16.0	2.4	100.0

調査名 と 就労形態 と 性別 のクロス表

(単位:%)

		常雇	臨時雇	日雇	会社など の役員	自営業 主	家族 従業者	合計
男	就調14	76.1	4.1	1.5	8.3	9.0	.9	100.0
	郵送ランダム	76.7	4.7	.8	5.0	11.6	1.2	100.0
	郵送モニター	81.2	4.8	.5	3.3	9.0	1.2	100.0
	webモニターA	76.7	4.0	.6	4.2	14.2	.2	100.0
	webモニターB	74.7	4.9	1.7	5.3	12.7	.8	100.0
	webモニターC	70.9	5.3	.9	4.4	17.4	1.1	100.0
女	就調14	67.9	16.8	2.4	3.7	5.1	4.2	100.0
	郵送ランダム	61.2	18.4	2.4	2.4	10.4	5.2	100.0
	郵送モニター	70.7	16.3	.7	1.4	7.2	3.6	100.0
	webモニターA	64.4	16.8	3.0	2.4	8.1	5.4	100.0
	webモニターB	62.3	15.1	1.0	1.0	15.7	4.9	100.0
	webモニターC	60.3	17.4	2.0	2.0	14.3	4.0	100.0

調査名 と 就労形態 と 年代 のクロス表

(単位:%)

		常雇	臨時雇	日雇	会社など の役員	自営業主	家族 従業者	
20代	就調14	80.8	13.3	2.3	.8	1.8	1.1	100.0
	郵送ランダム	81.1	14.2	.9		1.9	1.9	100.0
	郵送モニター	80.7	13.7	2.5	.6	1.9	.6	100.0
	webモニターA	80.2	12.6	2.2		3.8	1.1	100.0
	webモニターB	80.0	12.4	1.8	1.8	3.5	.6	100.0
	webモニターC	72.8	19.0	1.1	1.6	4.3	1.1	100.0
30代	就調14	79.3	6.5	1.3	4.0	6.7	2.2	100.0
	郵送ランダム	79.2	9.6	.8	1.6	5.6	3.2	100.0
	郵送モニター	84.2	6.5		2.3	5.1	1.9	100.0
	webモニターA	80.7	6.2	1.6	2.5	7.0	2.1	100.0
	webモニターB	69.3	10.1	1.7	2.5	13.9	2.5	100.0
	webモニターC	75.5	6.3	.8	2.1	11.0	4.2	100.0
40代	就調14	70.3	8.6	1.7	8.7	8.7	2.0	100.0
	郵送ランダム	68.3	7.3	1.6	4.1	16.3	2.4	100.0
	郵送モニター	72.1	10.9		3.6	9.7	3.6	100.0
	webモニターA	66.0	9.8	1.0	4.6	14.9	3.6	100.0
	webモニターB	70.5	7.1	1.1	2.7	14.8	3.8	100.0
	webモニターC	60.9	8.9	1.6	3.6	23.4	1.6	100.0
50代	就調14	59.1	9.0	2.2	13.0	12.9	3.8	100.0
	郵送ランダム	53.2	14.3	2.6	7.8	17.5	4.5	100.0
	郵送モニター	68.6	7.1		3.8	17.9	2.6	100.0
	webモニターA	57.4	9.6	1.6	6.9	21.8	2.7	100.0
	webモニターB	60.6	5.9	1.1	7.4	22.3	2.7	100.0
	webモニターC	53.9	9.4	2.1	6.3	26.2	2.1	100.0

調査名 と 就労形態 と 年代 と 性別 のクロス表

(単位:%)

			常雇	臨時雇	日雇	会社などの 役員	自営業 自主	家族 従業者	合計
男	20代	就調14	82.9	10.2	2.4	1.2	2.2	1.1	100.0
		郵送ランダム	79.5	13.6			2.3	4.5	100.0
		郵送モニター	82.0	13.5	2.2	1.1	1.1		100.0
		webモニターA	83.0	10.6	2.1		3.2	1.1	100.0
		webモニターB	81.7	8.6	3.2	3.2	3.2		100.0
		webモニターC	74.7	15.4	1.1	2.2	4.4	2.2	100.0
	30代	就調14	82.4	2.7	1.1	5.2	7.1	1.5	100.0
		郵送ランダム	89.4	3.0		3.0	4.5		100.0
		郵送モニター	85.6	5.0		3.6	5.0	.7	100.0
		webモニターA	87.2	2.7		2.7	7.4		100.0
		webモニターB	75.0	5.4	2.0	3.4	12.8	1.4	100.0
		webモニターC	80.1	3.5	1.4	3.5	9.2	2.1	100.0
	40代	就調14	74.8	1.8	1.2	11.2	10.4	.6	100.0
		郵送ランダム	78.4	2.7	1.4	2.7	13.5	1.4	100.0
		郵送モニター	81.1	1.1		4.2	11.6	2.1	100.0
		webモニターA	69.3	2.6	.9	7.0	20.2		100.0
		webモニターB	78.6	3.6		4.5	12.5	.9	100.0
		webモニターC	67.3	1.8		4.5	26.4		100.0
50代	就調14	63.2	2.1	1.4	16.3	16.5	.4	100.0	
	郵送ランダム	62.2	2.7	1.4	12.2	21.6		100.0	
	郵送モニター	74.5			4.1	19.4	2.0	100.0	
	webモニターA	65.5	1.7		6.9	25.9		100.0	
	webモニターB	65.3	2.5	1.7	9.9	19.8	.8	100.0	
	webモニターC	59.8	2.7	.9	7.1	29.5		100.0	
女	20代	就調14	78.3	16.8	2.1	.4	1.3	1.1	100.0
		郵送ランダム	82.3	14.5	1.6		1.6		100.0
		郵送モニター	79.2	13.9	2.8		2.8	1.4	100.0
		webモニターA	77.3	14.8	2.3		4.5	1.1	100.0
		webモニターB	77.9	16.9			3.9	1.3	100.0
		webモニターC	71.0	22.6	1.1	1.1	4.3		100.0
	30代	就調14	74.1	13.0	1.6	2.0	5.9	3.3	100.0
		郵送ランダム	67.8	16.9	1.7		6.8	6.8	100.0
		郵送モニター	81.6	9.2			5.3	3.9	100.0
		webモニターA	70.2	11.7	4.3	2.1	6.4	5.3	100.0
		webモニターB	60.0	17.8	1.1	1.1	15.6	4.4	100.0
		webモニターC	68.8	10.4			13.5	7.3	100.0
	40代	就調14	63.5	18.9	2.5	4.8	6.2	4.2	100.0
		郵送ランダム	53.1	14.3	2.0	6.1	20.4	4.1	100.0

	郵送モニター	60.0	24.3		2.9	7.1	5.7	100.0
	webモニターA	61.3	20.0	1.3	1.3	7.5	8.8	100.0
	webモニターB	57.7	12.7	2.8		18.3	8.5	100.0
	webモニターC	52.4	18.3	3.7	2.4	19.5	3.7	100.0
50代	就調14	53.1	18.9	3.2	8.3	7.7	8.7	100.0
	郵送ランダム	45.0	25.0	3.8	3.8	13.8	8.8	100.0
	郵送モニター	58.6	19.0		3.4	15.5	3.4	100.0
	webモニターA	44.4	22.2	4.2	6.9	15.3	6.9	100.0
	webモニターB	52.2	11.9		3.0	26.9	6.0	100.0
	webモニターC	45.6	19.0	3.8	5.1	21.5	5.1	100.0

(5) 雇用形態

- ・ 雇用者（常雇、臨時雇、日雇。役員は含まない。）について、雇用形態別の構成比を見ると、男性ではあまり差がないが、女性では、就調 14 に比べて、実験調査 5 種は正社員の比率が低く、非正規社員の比率が高い。
- ・ web 調査 3 種では、全体的に、20 代、30 代では就調よりも正社員比率が低い、50 代以上ではパート比率が高い、契約社員がやや多いといった特徴がある。

調査名 と 雇用形態 のクロス表

(単位:%)

	正社員・正 職員	パート	アルバイト	派遣社 員	契約社員・ 嘱託	合計
就調14	71.5	11.5	9.7	2.7	4.6	100.0
郵送ランダム	63.1	14.9	10.1	3.4	8.4	100.0
郵送モニター	64.8	14.0	8.3	4.2	8.8	100.0
webモニターA	66.2	11.1	6.3	6.6	9.8	100.0
webモニターB	68.1	10.3	6.6	6.9	8.2	100.0
webモニターC	64.7	10.8	8.1	4.8	11.6	100.0

調査名 と 雇用形態 と 性別 のクロス表

(単位:%)

		正社員・正 職員	パート	アルバイト	派遣社員	契約社員・ 嘱託	合計
男	就調14	87.0	.9	8.1	.7	3.4	100.0
	郵送ランダム	85.2	.5	8.1	1.9	4.3	100.0
	郵送モニター	83.1	.3	8.6	.6	7.5	100.0
	webモニターA	82.9	1.0	4.9	2.3	8.8	100.0
	webモニターB	84.7	.3	7.0	2.1	6.0	100.0
	webモニターC	81.1	.6	8.6	.3	9.4	100.0
女	就調14	50.5	25.9	12.0	5.4	6.1	100.0
	郵送ランダム	40.5	29.8	12.2	4.9	12.7	100.0
	郵送モニター	37.3	34.4	7.9	9.5	10.8	100.0
	webモニターA	43.4	24.9	8.2	12.5	11.0	100.0
	webモニターB	41.4	26.4	5.9	14.6	11.7	100.0
	webモニターC	44.1	23.7	7.5	10.4	14.3	100.0

調査名 と 雇用形態 と 年代 のクロス表

(単位:%)

		正社員・ 正職員	パート	アルバイト	派遣社員	契約社員・ 嘱託	合計
20代	就調14	66.3	3.4	22.0	3.2	5.1	100.0
	郵送ランダム	56.4	3.0	32.7	4.0	4.0	100.0
	郵送モニター	60.6	3.9	23.2	3.9	8.4	100.0
	webモニターA	59.5	2.9	17.9	8.7	11.0	100.0
	webモニターB	60.6	3.8	16.9	10.0	8.8	100.0
	webモニターC	55.6	6.4	21.6	5.3	11.1	100.0
30代	就調14	78.2	7.6	5.8	4.0	4.4	100.0
	郵送ランダム	75.9	10.7	3.6	5.4	4.5	100.0
	郵送モニター	70.3	10.3	5.1	5.6	8.7	100.0
	webモニターA	72.6	7.0	2.3	8.4	9.8	100.0
	webモニターB	72.0	8.3	3.6	8.8	7.3	100.0
	webモニターC	70.4	9.2	4.6	4.1	11.7	100.0
40代	就調14	72.3	17.8	3.8	1.7	4.5	100.0
	郵送ランダム	72.3	16.0	4.3	1.1	6.4	100.0
	郵送モニター	65.4	24.3	2.2	3.7	4.4	100.0
	webモニターA	64.4	21.5	3.4	3.4	7.4	100.0
	webモニターB	70.1	14.6	2.1	6.9	6.3	100.0
	webモニターC	68.6	12.4	2.2	8.0	8.8	100.0
50代	就調14	68.6	22.6	3.6	1.0	4.2	100.0
	郵送ランダム	48.1	29.6	.9	2.8	18.5	100.0
	郵送モニター	60.3	21.6	.9	2.6	14.7	100.0
	webモニターA	66.7	17.1	.8	4.7	10.9	100.0
	webモニターB	69.3	16.5	3.1		11.0	100.0
	webモニターC	64.0	17.6	1.6	1.6	15.2	100.0

調査名と雇用形態と年代と性別のクロス表

(単位:%)

		正社員・正職員	パート	アルバイト	派遣社員	契約社員・嘱託	合計	
男	20代	就調14	73.4	1.0	20.8	1.0	3.8	100.0
		郵送ランダム	62.5	2.5	35.0			100.0
		郵送モニター	64.0	1.2	26.7		8.1	100.0
		webモニターA	67.8	2.2	16.7	3.3	10.0	100.0
		webモニターB	72.4		18.4	3.4	5.7	100.0
		webモニターC	66.3	1.2	24.1	1.2	7.2	100.0
	30代	就調14	91.2	.5	4.1	.8	3.3	100.0
		郵送ランダム	96.7		1.6	1.6		100.0
		郵送モニター	86.5		5.6	1.6	6.3	100.0
		webモニターA	86.6		.7	3.7	9.0	100.0
		webモニターB	86.1	.8	4.1	3.3	5.7	100.0
		webモニターC	82.5		5.8		11.7	100.0
	40代	就調14	93.7	.8	2.6	.3	2.6	100.0
		郵送ランダム	91.7		3.3	1.7	3.3	100.0
		郵送モニター	93.5		1.3		5.2	100.0
		webモニターA	85.5	2.4	3.6	1.2	7.2	100.0
		webモニターB	91.3		2.2	1.1	5.4	100.0
		webモニターC	89.5		2.6		7.9	100.0
50代	就調14	91.8	1.3	2.5	.3	4.1	100.0	
	郵送ランダム	81.6			4.1	14.3	100.0	
	郵送モニター	88.9				11.1	100.0	
	webモニターA	91.0				9.0	100.0	
	webモニターB	88.1		4.8		7.1	100.0	
	webモニターC	87.3	1.4	1.4		9.9	100.0	
女	20代	就調14	58.0	6.2	23.5	5.8	6.6	100.0
		郵送ランダム	52.5	3.3	31.1	6.6	6.6	100.0
		郵送モニター	56.5	7.2	18.8	8.7	8.7	100.0
		webモニターA	50.6	3.6	19.3	14.5	12.0	100.0
		webモニターB	46.6	8.2	15.1	17.8	12.3	100.0
		webモニターC	45.5	11.4	19.3	9.1	14.8	100.0
	30代	就調14	56.8	19.3	8.6	9.1	6.2	100.0
		郵送ランダム	51.0	23.5	5.9	9.8	9.8	100.0
		郵送モニター	40.6	29.0	4.3	13.0	13.0	100.0
		webモニターA	49.4	18.5	4.9	16.0	11.1	100.0
		webモニターB	47.9	21.1	2.8	18.3	9.9	100.0
		webモニターC	51.3	23.7	2.6	10.5	11.8	100.0
	40代	就調14	42.4	41.5	5.4	3.6	7.1	100.0
		郵送ランダム	38.2	44.1	5.9		11.8	100.0
		郵送モニター	28.8	55.9	3.4	8.5	3.4	100.0
		webモニターA	37.9	45.5	3.0	6.1	7.6	100.0
		webモニターB	32.7	40.4	1.9	17.3	7.7	100.0
		webモニターC	42.6	27.9	1.6	18.0	9.8	100.0
50代	就調14	39.1	49.5	5.0	2.1	4.3	100.0	
	郵送ランダム	20.3	54.2	1.7	1.7	22.0	100.0	
	郵送モニター	13.6	56.8	2.3	6.8	20.5	100.0	
	webモニターA	29.4	43.1	2.0	11.8	13.7	100.0	
	webモニターB	32.6	48.8	.0		18.6	100.0	
	webモニターC	33.3	38.9	1.9	3.7	22.2	100.0	

第3章 調査方法による回答分布の偏りの相対的布置

三輪 哲

1. 問題設定

科学的な手続きに基づく社会調査であっても、調査により得られた回答分布が異なることが常である。そもそも母集団が異なれば結果は違って当然であろうし、同一母集団からの標本調査であればサンプリングに伴う標本誤差ゆえに回答結果にはいくらかの違いが生じうる。本稿で問題にしたいのは、そうした違いではなく、同一母集団に対し、異なる調査方法によってアプローチした場合における系統的な結果の差異である。すなわち、調査における質問への回答傾向は調査方法に依存しているのか、依存しているなら質問項目群ごとに何らかの系統的な差異があるのか、あるいは方法ごとの特徴はいかなるものかであろうか。これらの問いに答えることが本稿の目的となる。

方法論者であろうと応用的研究者であろうとも、社会調査を生業とする研究者のあいだでは、調査方法が回答分布に何らかの影響を及ぼすであろうことは暗黙のうちに認められているのではなかろうか。控えめに言うとしても、回答分布を比較するにあたり調査方法による違いを考えずともよいと強弁するに足る証拠は見当たらない。調査結果に対して調査方法の影響があることは定評ある社会調査法テキストでも論じられていることであるし（原・海野 2004）、そもそも方法による偏りがあることを前提として議論を立てることもしばしばある（大隈 2002；前田 2005）。

さて、さまざまある調査方法の中でも、とりわけ偏りが強調されがちなのは、インターネットを通じた Web 調査であろう。近年、Web 調査の普及は著しい。コストが安く、調査実施から結果報告までがきわめて短時間でできる点はその利点といえる。しかしながら、標本設計、質問への回答段階など調査の全工程にわたって伝統的な方法との違いが大きく、確かに回答に偏りが発生するとの疑念を抱くことは無理なからぬことかもしれない。現に、Web 調査における回答傾向と他のそれとのあいだに隔たりがあることを実証する知見は既に存在している（本多・本川 2005；前田・大隈 2006）。

しかしながら、Web 調査だけが「真の姿」から乖離するという見方は誤りであろう。Web 調査にはアクセスしないが訪問すれば回答してくれる人もいる一方で、逆に訪問面接調査には協力しないけれども Web 調査ならば答えてくれる人もいるわけである。ならば、調査方法はそれぞれが特異なのであることを認めたい。調査方法間相互の距離をまずは測ってみることが有用なのではないだろうか。つまり、調査方法互いの相対的位置から各々がもつ独自の偏り方の全体像を知ること、およびどの項目でどのタイプの偏りが拡大されるのか質問項目ごとの偏り方の特性を知ること、以上2点に関する基本的知見を獲得することが調査方法と結果の関係に関しておさえるべき課題となる。

そこで本稿では、比較のためにデザインされた複数の調査データに対し、個人差多次元尺度構成法を適用して、調査方法ごとの回答分布の偏りが分析される。そのねらいは2つあり、回答分布の偏りにみられる調査方法の相違と類似の識別と、質問項目ごとの偏りの出方に関する特徴の記述である。

2. データと方法

2.1 データ

本稿においては、2つの種類の調査プロジェクトに基づくデータセットを使用した。第1に、リクルートワークス研究所と東京大学社会科学研究所によりおこなわれた調査手法の比較調査である。ランダムサンプリングによる標本抽出をした郵送調査（以降、郵送ランダムと略す）、モニターから割り当て法で標本抽出をした郵送調査（郵送モニターと略す）、そして3社それぞれが実施したWeb調査（WebモニターA、B、Cとそれぞれ略す）の、計5つからなる。これらは、実査方法の違い、標本抽出法の違い、調査会社の違いの効果を識別するために設計された。各々の調査法の詳細については、萩原（2009）を参照されたい。

第2に、リクルートワークス研究所が実施したワーキングパーソン調査2006（これ以降、WPS調査と略す）より東京都在住のサンプルだけに絞られた比較用WPS調査データである。WPS調査そのものは、首都圏全域にわたる調査であるが、そのなかから今回の比較調査の設計にあわせてというわけである。

それらのカバーする範囲をあわせ、比較の条件をそろえるために、(1)東京都在住で、(2)被雇用者の、(3)20-59歳男女というように分析対象を限定した。そのため、分析に用いられる標本規模は、郵送ランダムが410、郵送モニターは578、WebモニターAは670、WebモニターBは608、WebモニターCは635、比較WPSは2,463となった。

さらに工夫をしたのは、比較用WPS調査データから、無作為にリサンプリングして、それぞれ標本規模500となるデータセットを25個作成したことである。25のリサンプリングデータのそれぞれから得られる統計数値は、このリサンプリングの確率的手続きによってのみばらつきが発生する。それゆえ、これらのばらつきをいわば「(今回の比較調査くらいの標本規模のときに表れる)ランダムな誤差の程度」と擬似的にみなし、他の統計数値の違い、たとえば郵送ランダムと郵送モニターとの違いを評価する際のベースラインとして用いることができるというわけである。

回答傾向の偏りを検討するための材料とする、分析に使用する変数は、基本属性（性別、年代、婚姻状態、学歴、就労形態、職種、収入）、仕事の状況（労働時間、退職経験）、意識（仕事満足度、仕事理由：生計維持のため、仕事理由：視野を広げるため、仕事理由：他にやることがないため、仕事理由：今の仕事が好きなため、仕事理由：社会に影響を与えたいため）であり、合計で15項目となる。

2.2 分析法

統計分析法としては、個人差MDS (INDSCAL) を採用した。MDSとは多次元尺度構成法の略称である¹。対象間の類似性または非類似性を表す距離行列から、対象それぞれのあいだの近さ-遠さを導く方法で、マーケティングリサーチや心理学、社会学などでしばしば用いられる(岡太 2001; 田辺 2004)。今回のケースでは、それぞれの調査方法間で回答分布がどれだけ似ているか、あるいはどれだけ離れているかを判断するための基礎情報を得るために用いる。散布図におけるプロットの位置を見れば相対的な配置がわかるので、調査方法間の回答の偏りに関する概略図を描くのにふさわしい方法であるといえよう。

さらに、個人差MDSでは、個人それぞれが得られた次元にいかほどの重みをもつかが析出される。注意が必要なのは、ここでいう「個人」というのは、本稿の分析では、「質問項目」に相当するということである。つまり、まず15個の質問項目について、1つずつ調査データ間の距離行列が求められる。その行列をもとにして、平均像として調査方法の相対的配置が出る(共通対象配置という)とともに、個々の質問項目がもつ次元ないし軸に対する重みが算出される。重みはいわば「軸の伸び率」とも言い換えられる。重みが大きいということは、その軸に調査データ間での回答分布の違いが反映されていることを示唆する。仮に、性別が第2次元の軸に大きな重みをもっており、その第2次元では郵送調査とWeb調査が遠くに離れているとしよう。もしそのようになっているならば、性別の回答分布の違いは、郵送とWeb調査とで大きく異なることを意味する。

個人差MDSの要諦を簡潔に述べるとすると、共通対象配置をもとに対象(本稿では調査手法)のあいだの類似性の平均的な構造をとらえ、個人(本稿では個々の質問項目)の重みによって個人ごとの構造の特異性を測る手法といえる。統計手法には仮定・制約が付きものであるが、MDSではそうした仮定がきわめて緩いことや、探索的因子分析などに比べ比較的次元数の少ないシンプルな解が得られやすいことも本稿の目的にとっては利点となる。調査手法間の類似性の総合的把握に向けた情報縮約に、まさにMDSが適していることが強調できる。

3. 結果

3.1 記述統計にみる5調査間比較

それでは、表1により、5つの調査およびWPSのあいだでの回答分布を比べてみよう。ここでは、性別などの基本的属性から働く理由などの意識項目まで、合計15の変数に関して検討している。ただしWPSについては、先に述べたように、ケース数を500としてリサンプリングを25回繰り返したデータセットから得られた平均値、標準偏差、最小値、最大

¹ MDSの解説には、Kruskal and Wish (1976=1980)、岡太・今泉(1994)、齋藤・宿久(2006)などの邦語書籍がある。個人差MDSについては、岡太・今泉(1994)、Arabie et al. (1987=1990)を参照されたい。

値を表示している。太字の数値は、それがWPSリサンプリングデータ25個における最小値未満の値であることを、太字斜体の数値はWPSリサンプリングデータにおける最大値よりも大きい値であることを、それぞれ示している。

表1 調査法ごとの回答分布

	郵送法 ランダム モニター	Web調査			平均値	標準偏差	留置法			
		A社	B社	C社			最小値	最大値		
性別	1 男性 2 女性	52.0 48.0	59.7 40.3	59.1 40.9	63.0 37.0	57.0 43.0	58.9 41.1	2.5 2.5	54.8 37.4	62.6 45.2
未既婚	1 配偶者がいる 2 配偶者はいない	59.5 40.5	62.2 37.8	54.2 45.8	57.4 42.6	47.4 52.6	64.8 35.2	2.3 2.3	60.8 31.2	68.8 39.2
年代	1 20代 2 30代 3 40代 4 50代	19.3 27.6 24.1 29.0	21.1 33.9 24.0 20.9	22.8 32.7 23.3 21.2	22.4 31.4 23.8 22.4	24.1 31.6 22.8 21.5	27.1 28.9 21.2 22.7	2.1 1.8 1.6 1.4	23.0 26.0 18.2 20.4	31.2 32.8 25.6 25.2
就労形態【ベース: 常雇・臨時雇・日雇】	1 正社員 2 その他	67.1 32.9	68.6 31.4	68.2 31.8	70.2 29.8	67.3 32.7	69.8 30.2	2.0 2.0	66.8 26.0	74.0 33.2
1週間就業時間 【ベース:仕事をして いる方】	1 15時間未満 2 15~19時間 3 20~21時間 4 22~29時間 5 30~34時間 6 35~42時間 7 43~45時間 8 46~48時間 9 49~59時間 10 60~64時間 11 65時間以上	4.9 5.9 4.2 4.2 4.7 23.3 7.8 11.8 18.6 6.9 7.8	6.6 2.9 2.6 4.3 5.7 22.2 12.5 9.4 18.9 6.2 8.7	8.5 3.0 2.8 3.6 4.6 29.3 14.2 9.3 13.0 5.2 6.6	9.4 4.8 4.1 3.6 2.5 23.0 14.0 11.7 14.6 5.3 7.1	6.1 2.8 2.4 3.8 7.1 25.2 15.4 11.3 14.8 3.5 7.6	2.9 3.2 2.7 6.0 4.3 34.7 10.6 4.3 17.7 6.8 6.7	0.6 0.7 0.7 0.8 0.7 1.7 1.4 1.0 1.1 0.9 0.9	1.8 1.8 1.4 4.2 2.8 31.5 8.5 2.4 15.4 5.6 4.0	4.4 4.4 3.9 7.9 6.0 38.2 13.9 6.1 19.4 8.2 9.5
1年間収入(収益) 【ベース:仕事をして いる方】	1 50万円未満 2 50~99万円 3 100~149万円 4 150~199万円 5 200~249万円 6 250~299万円 7 300~399万円 8 400~499万円 9 500~599万円 10 600~699万円 11 700~799万円 12 800~899万円 13 900~999万円 14 1000~1499万円 15 1500万円以上	2.0 8.3 7.1 4.9 7.6 6.8 12.5 13.4 9.0 7.8 3.9 4.4 4.6 5.4 2.2	2.1 7.4 7.4 3.3 4.9 8.2 14.4 10.9 10.0 9.1 4.9 4.9 3.2 7.4 2.1	2.8 5.4 5.2 3.6 6.9 6.3 15.2 18.7 9.3 6.9 5.5 4.9 4.2 3.9 1.3	2.5 5.1 5.4 3.1 5.6 6.4 15.0 15.0 11.3 6.7 6.3 4.6 4.1 6.4 2.5	3.0 5.5 4.9 4.1 8.3 7.6 16.4 13.4 10.6 8.7 4.7 3.3 3.9 4.3 1.4	3.4 7.0 9.0 5.0 7.8 6.9 14.0 11.5 10.3 6.2 6.0 5.3 2.5 4.7 0.4	0.7 1.0 1.1 0.9 1.3 0.8 1.4 1.3 1.2 1.2 0.9 1.0 0.7 1.2 0.3	2.2 4.8 7.4 3.2 5.4 5.2 11.0 8.9 7.5 4.4 2.8 1.3 2.9 0.2	5.1 9.7 11.7 7.7 11.3 8.5 16.9 13.6 12.1 9.5 8.1 7.5 4.4 7.6 1.3

(表1 続き)

職種【ベース:仕事を している方】	1 ホワイトカラー その他	2 その他	3 その他	4 その他	5 その他	6 その他	7 その他	8 その他	9 その他	10 その他	11 その他	12 その他	13 その他	14 その他	15 その他	16 その他	17 その他	18 その他	19 その他	20 その他
仕事満足度【ベ ース:仕事をして いる方】	1 非常に満足している	9.9	5.9	6.6	4.6	4.1	9.8	1.2	7.8	12.6										
	2 まあ満足している	54.2	63.1	50.0	55.3	53.7	66.0	1.5	62.8	69.4										
	3 あまり満足していな い	26.0	23.6	29.1	28.1	30.2	20.2	1.2	18.0	22.4										
	4 満足していない	9.9	7.3	14.3	12.0	12.0	4.0	1.0	1.8	5.8										
	5 満足していない	80.6	76.0	77.0	70.7	79.4	69.0	1.9	64.8	72.1										
働く理由【ベース:仕 事をしていない方】A)	1 あてはまる	13.2	16.6	16.7	22.7	13.5	19.7	1.4	16.0	22.2										
	2 ややあてはまる	1.0	2.6	1.9	3.1	3.5	5.9	1.0	3.6	9.2										
	3 どちらともいえない	3.4	2.8	2.5	2.8	1.4	3.3	0.6	2.0	4.4										
	4 あまりあてはまらな い	1.7	2.1	1.8	0.7	2.2	2.0	0.6	0.6	3.4										
	5 あてはまらな い	27.0	19.3	15.8	16.4	17.0	26.3	1.3	24.0	29.4										
働く理由【ベース:仕 事をしていない方】B)	1 ややあてはまる	32.7	37.0	35.4	39.0	33.5	38.5	1.5	35.6	41.0										
	2 ややあてはまる	19.3	23.3	23.0	22.7	22.4	23.1	1.7	20.0	26.6										
	3 どちらともいえない	11.6	12.7	13.3	13.7	13.2	7.3	0.8	6.0	9.2										
	4 あまりあてはまらな い	9.4	7.8	12.5	8.2	13.9	4.8	0.8	3.4	6.2										
	5 あてはまらな い	9.2	6.4	7.9	7.4	9.4	4.3	0.7	3.2	6.0										
働く理由【ベース:仕 事をしていない方】C)	1 ややあてはまる	16.1	14.9	16.9	20.6	18.1	9.6	1.3	7.0	12.2										
	2 ややあてはまる	13.6	19.4	23.3	26.0	19.8	22.6	1.6	19.2	26.0										
	3 どちらともいえない	18.6	21.5	21.3	20.6	18.9	23.6	1.7	20.6	27.0										
	4 あまりあてはまらな い	42.4	37.7	30.6	25.5	33.7	39.9	2.2	37.1	43.9										
	5 あてはまらな い	21.0	14.1	12.4	12.3	13.5	17.9	1.4	15.0	19.8										
働く理由【ベース:仕 事をしていない方】D)	1 ややあてはまる	35.4	34.9	30.7	33.4	29.8	33.5	1.8	30.0	37.1										
	2 ややあてはまる	24.8	30.0	26.6	28.8	29.6	30.1	2.2	26.4	33.8										
	3 どちらともいえない	11.6	12.8	16.3	12.7	13.9	11.0	1.2	9.0	13.6										
	4 あまりあてはまらな い	7.2	8.2	14.0	12.8	13.2	7.5	1.1	5.2	9.0										
	5 あてはまらな い	8.2	5.6	4.5	5.6	6.0	7.2	0.9	5.4	9.0										
働く理由【ベース:仕 事をしていない方】E)	1 ややあてはまる	16.6	15.1	13.9	18.4	12.1	16.4	1.3	13.8	19.4										
	2 どちらともいえない	20.8	29.9	28.5	28.8	29.3	41.7	1.9	37.8	45.2										
	3 どちらともいえない	23.5	22.4	21.0	20.6	19.1	18.2	1.5	15.6	21.2										
	4 あまりあてはまらな い	30.9	27.0	32.1	26.6	33.5	16.4	1.8	12.8	20.2										
	5 あてはまらな い	38.8	36.3	34.6	42.7	34.2	37.1	2.0	32.6	40.0										
退職経験	1 退職したことばない	61.2	63.8	61.2	63.8	55.3	61.0	2.1	56.0	66.5										
	2 退職したことがある	45.2	45.4	38.8	36.2	44.7	39.0	2.1	33.5	44.0										
	3 退職したことがある	2.5	1.1	1.6	0.7	0.9	4.3	0.8	3.2	6.2										
	4 短大・高専	13.0	10.7	12.1	11.7	15.9	15.1	1.3	12.4	17.6										
	5 大学	10.5	8.5	13.6	9.4	8.3	9.8	1.4	7.2	12.2										
在籍・卒業学校	1 小学・中学	25.1	22.4	18.2	18.1	22.0	34.2	1.3	31.2	36.4										
	2 高校・旧制中	13.0	10.7	12.1	11.7	15.9	15.1	1.3	12.4	17.6										
	3 専門学校	10.5	8.5	13.6	9.4	8.3	9.8	1.4	7.2	12.2										
	4 短大・高専	44.1	50.9	47.3	51.0	46.9	34.7	2.0	29.9	38.0										
	5 大学院	4.8	6.5	7.2	9.2	5.8	1.9	0.5	1.0	3.2										

WPS のエリアを東京のみに限定し、比較 5 調査はいずれも被雇用労働者に限定するよう
にして、すべての調査で母集団の定義を形式上揃えたものの、基本属性の分布からして小
さくはないズレがさまざま出ていることがわかる。性別や年代に関しては、ランダムサン
プリングをした郵送調査と WPS との違いは大きい。これは、回収率の偏りによるものであ
る。計画標本の時点では母集団を反映する構成比になっているのだが、回収された有効標

本では若年や男性の回収率が相対的に低くなり、回答分布が崩れるのだ。一方、モニター調査の場合は、性別や年代は割り当ての条件になっているゆえ、回収後の乖離が生じにくい。そのようなわけで問題は小さいものの、それでもなお若年層が過小となっていることに注意を要する。これは、WPS では性別・年代と就労形態の組み合わせに応じて割り当てたのに対し、比較用のモニター4 調査では就労形態を割り当てには用いなかったことに起因する。つまり、これら調査に若年で答えてくれたのは、被雇用労働者以外の者、おそらくは仕事に就いていない者が実態よりも多めだったということであろう。

労働に関わる項目を見ると、就労形態はほとんど違いがないにもかかわらず、労働時間や収入の回答分布にはさまざまな乖離があることに気付く。ただしそれら乖離のうち、系統的なのは、比較のための郵送・Web 調査のほうが収入の最上層が多めなことと、労働時間が最も少ないカテゴリーが多めなことである。あとは、WPS に比べ、分布の中央に集中していない傾向があるくらいで、違うことは違うのだけど、一定方向へのバイアスとして読むのはやや難しい。

それに対して満足度や仕事の理由などの意識項目には、一貫した傾向がみとれる。WPS に比べて郵送・Web 調査の回答は、ネガティブな方向に偏っている。すなわち、満足していない、仕事の理由も「他にやることがない」という負のニュアンスの質問へは肯定的に、他の正のニュアンスをもつ質問に対しては否定的になっている。とりわけこのような意識の回答傾向が Web 調査について表れることは、既に指摘されている（本多・本川 2005）。

最後に強調したいのは、系統的で最も大きな偏りをみせるのは、学歴であることだ。郵送・Web 調査いずれも、学歴が高めになっていることは明白である。訪問留置法に比べて、モニターに基づく Web 調査や郵送調査では、より協力意向のある人が回答しがちであり、それは高学歴者に多いことがうかがえる結果といえる。

以上のように 15 項目の乖離具合を概観したところ、やはり少なからず WPS からズレがあることが明らかとなった。では、どの調査同士は相対的に近いといえるのか、またそこでみられた調査間の「距離（非類似度）」はランダムに発生しうる誤差と比べてどの程度のものと判断すべきか、検討を続けていこう。

3.2 個人差 MDS による 5 調査の布置

記述統計では、全 15 項目を総合的に考慮したときに、調査データのうちいったいどれとどれとが近いのか、あるいは遠いのか、判断がしがたかった。その点を明らかにするためにここで用いるのは、個人差多次元尺度法（MDS）である。個人差 MDS により情報を縮約した結果を本項では検討していくこととする。

具体的な分析結果に先立って、まずは解の次元を増加させたときにどれだけ適合度が改善されるのか、モデルのあてはまりを確認したい。表 2 は、個人差 MDS において解を 1 次元から 5 次元まで増加させていったときに、それぞれ VAF 比の値がどれほどになるかを示

している。VAF 比は 0 から 1 までの範囲をとり、値が大きいほど適合度がよいとされる指標である。全体の VAF 比は、1 次元のときの 0.412 から 5 次元の 0.686 まで増加する。0.686 という値は十分高いとはいえないけれども、それほど悪くもない許容できる水準と考えられる（岡太・今泉 1994）。VAF 比の増加量に着目すると、3 次元解から 4 次元解に上がるときに VAF 比が顕著に増加することがわかる。しかも、4 から 5 次元に上げて、それほど VAF 比は増加しない。そこで、4 次元解が採用されるべき解の次元数というように決定される。

表2 INDSCALにおける解の次元数と適合度(VAF比の値)

	1次元	2次元	3次元	4次元	5次元
(平均)	.412	.483	.579	.651	.686
性別	.000	.000	.610	.634	.632
未既婚	.427	.705	.704	.820	.884
年齢	.170	.442	.443	.506	.525
就労形態	.006	.012	.671	.662	.665
労働時間	.774	.786	.788	.810	.813
収入	.026	.087	.106	.924	.966
職種	.304	.322	.349	.373	.371
仕事満足	.882	.905	.906	.909	.901
生計維持	.389	.643	.641	.630	.670
視野広げる	.797	.829	.830	.833	.850
他にない	.612	.626	.630	.621	.683
今の仕事好き	.271	.364	.365	.335	.584
社会に影響	.775	.769	.783	.775	.823
退職経験	.000	.000	.091	.086	.088
学歴	.754	.752	.760	.856	.830

項目ごとにみていくと、どの次元で当該の項目の情報がある程度反映されるかがわかる。1 つの次元だけで、既に学歴、職種、労働時間のほか、仕事満足や仕事の理由のうちいくつかの情報がとらえられているようである。2 次元にすると、年代、配偶関係、仕事の理由から 2 つ（生計維持のため、今の仕事が好き）の情報がそれぞれの軸に反映されるようになったわけである。最終的に 4 次元にまで解の次元数を上げると、重要な変数の 1 つである収入の違いの情報も入ってくる。なお、退職経験のように、4 次元（そして 5 次元でも）の解であっても情報がほとんど含まれないこともあるし、職種や「今の仕事が好き」という仕事理由のように VAF 比が決して高くはならないこともある。だが、細かい適合度はさておき、ここで重要なのは、部分的にそれぞれ項目をみたときでも、4 次元を超える解を採用する理由は見つけにくいことである。したがって、この後は解の次元を 4 としたときの結果をみていこう。

図 1 は、求められた 4 つの次元のうち、第 1 次元と第 2 次元とでつくられた平面上に、30 の調査データの布置をプロットしたものである。○と●は郵送調査であり、前者がラン

ダムサンプリングの調査，後者がモニターによる調査であることを示す．◆，■，▲はそれぞれ A 社，B 社，C 社による Web モニター調査である．そして×は，WPS からリサンプリングされたデータであり，図中に 25 個存在している．

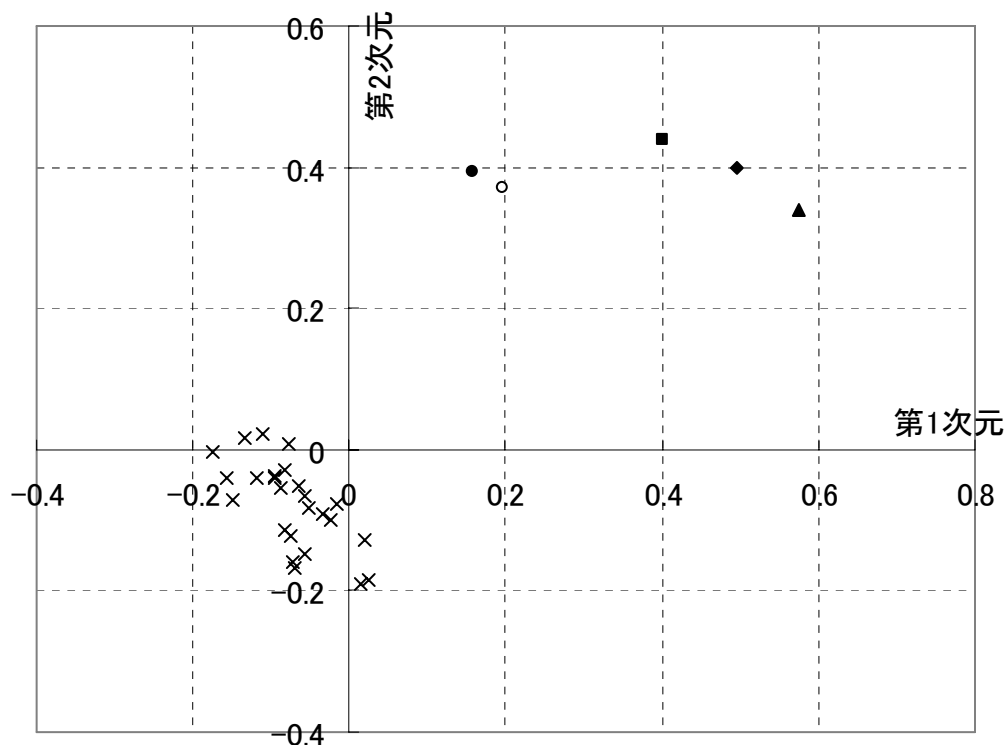


図1 個人差MDSの共通対象付置(第1次元×第2次元)

図から読み取れる基本傾向は，調査方法による違いによって大きく群が分かれていることである．郵送，Web，留置の3者はそれぞれ他から区別される独自の群を形成しているがごとく，図中でかたまっている．3つの群の分かれ方は，第1次元では留置-郵送-Web という順序で並んでおり，第2次元は留置とそれ以外とが分かれているととらえられる．原点付近に×印が少しばらつきながら分布しているが，これらはすべて WPS から無作為にリサンプリングしたデータであるので，標本規模が 500 ではこの程度のばらつきが確率的に生じてしまうことを示唆する．そのばらつき具合を基準として考えると，2つの郵送調査のなかでの回答分布の違いはあまり大きくないといえそうである．また，Web 調査のなかの違いは，郵送のそれよりは大きいかもしれないが，やはりリサンプリングデータ内のばらつきを参考にする限り，特筆に値するほど大きいわけではないのである．

続いて図2および図3をみてみよう．図2は第1次元と第3次元，図3は第2次元と第3次元による散布図である．それらによると，第3次元に沿って×印が長く散らばっていることがわかる．つまりこれは，第3次元が確率的な誤差の情報を多く含んだ軸であることを意味する．郵送やWeb調査のほうでもデータごとに第3次元の違いがありそうだが，

それはあまり意味のあるものではないだろう。

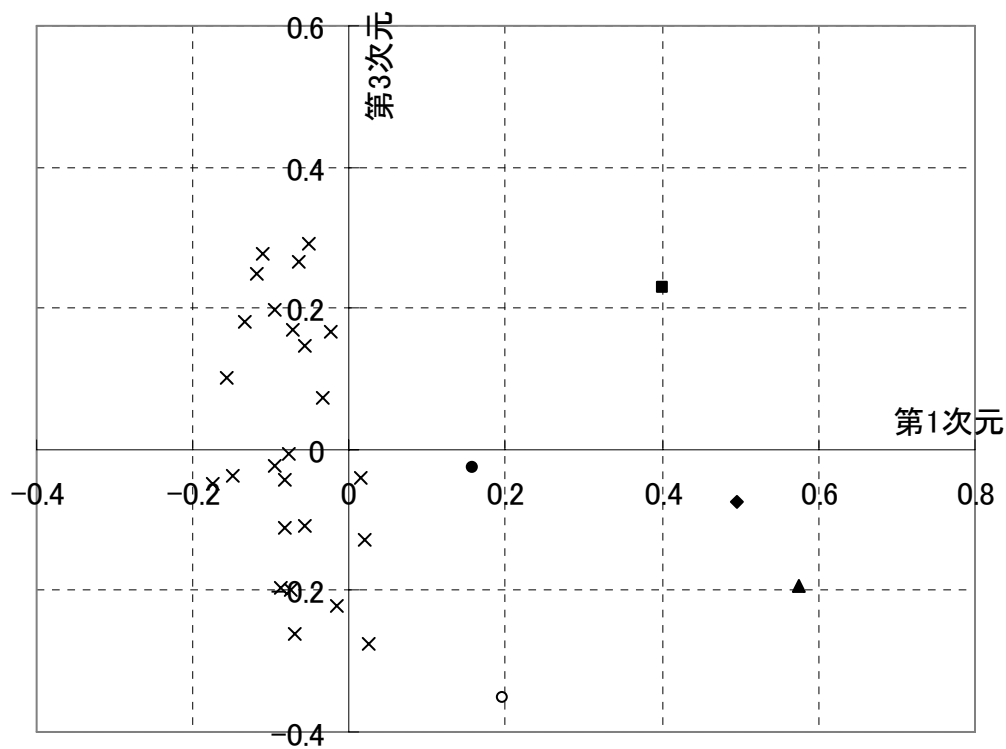


図2 個人差MDSの共通対象付置(第1次元×第3次元)

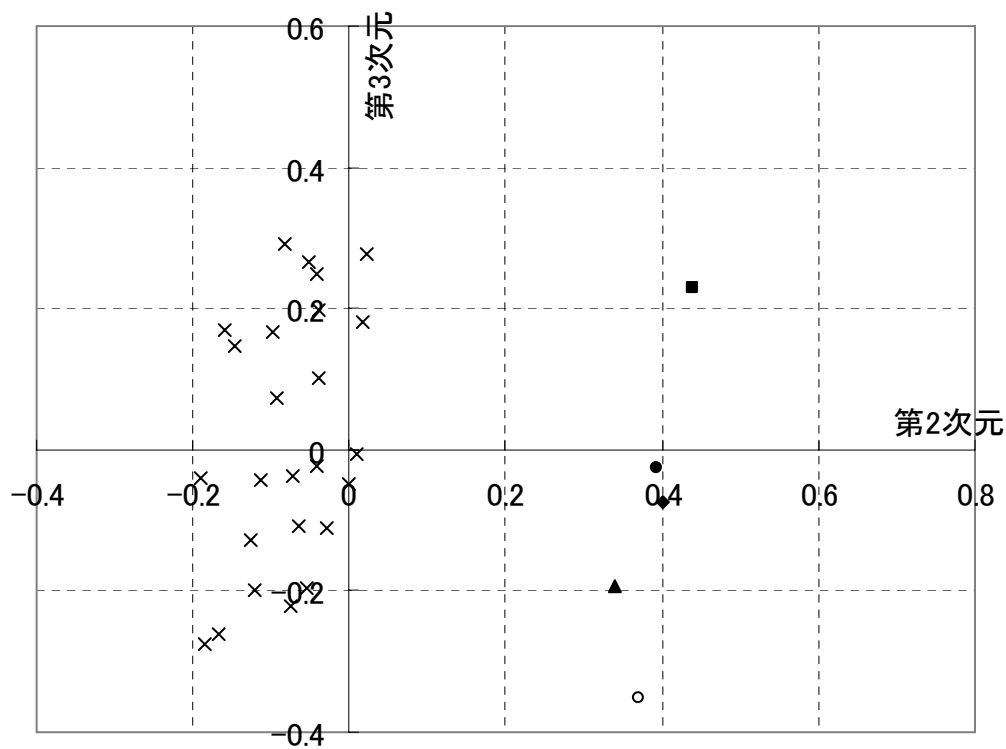


図3 個人差MDSの共通対象付置(第2次元×第3次元)

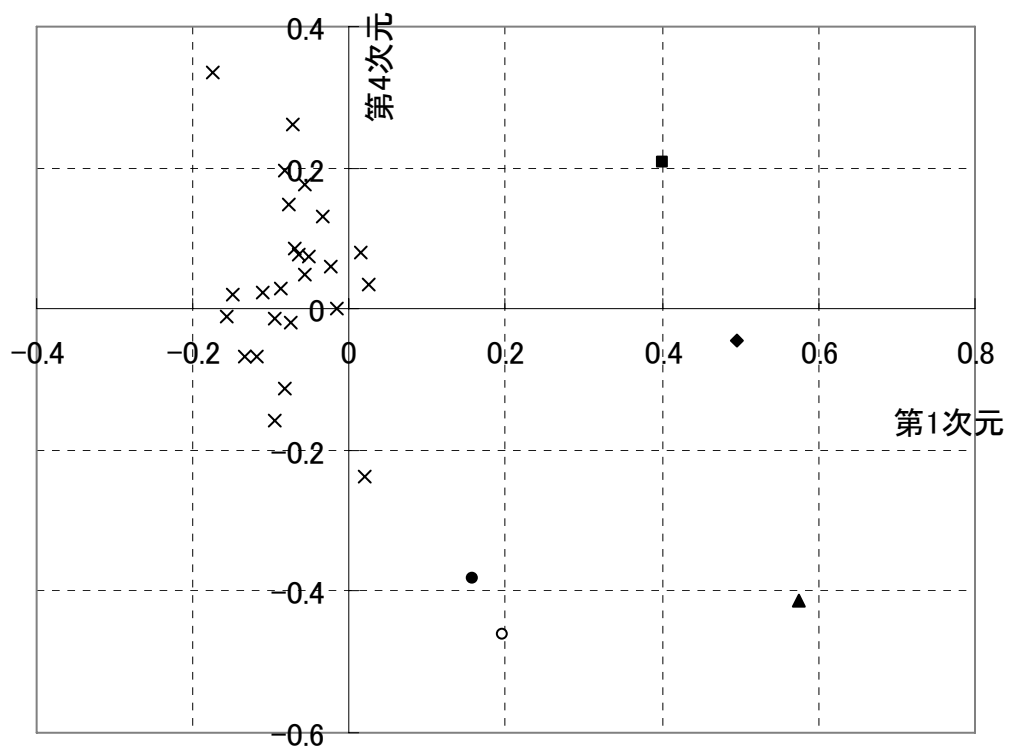


図4 個人差MDSの共通対象付置(第1次元×第4次元)

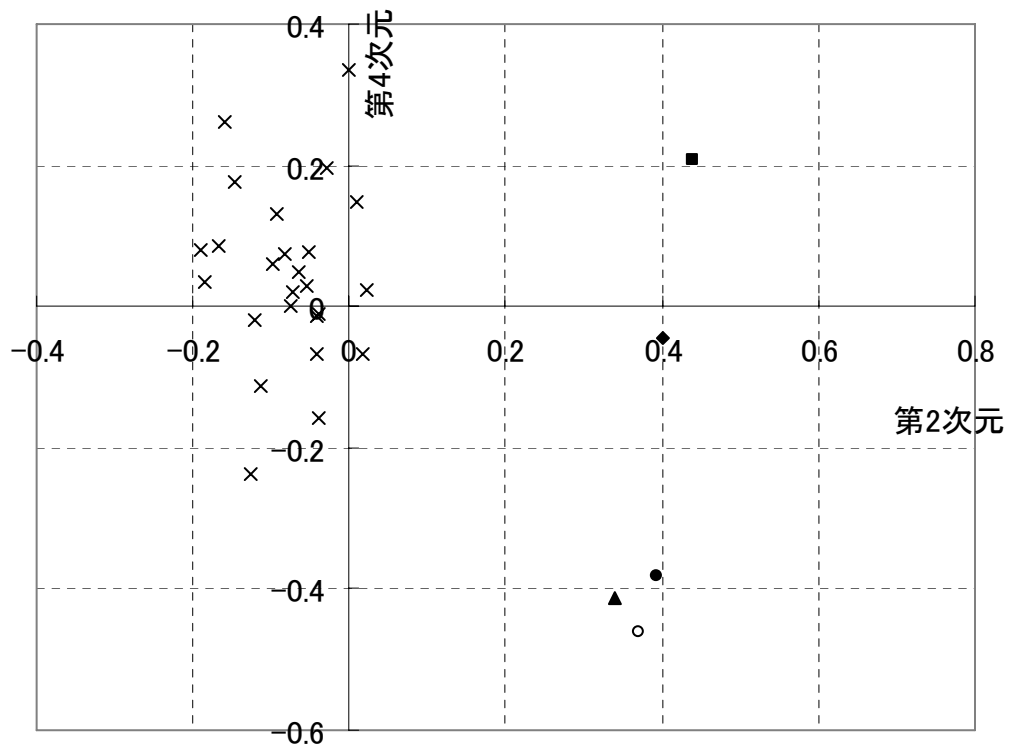


図5 個人差MDSの共通対象付置(第2次元×第4次元)

それに対して、図4、図5にみられる第4次元のほうは何らかの意味が隠されているように思われる。第4次元も×印が長く散らばることだろうかえるように、抽出に伴う確率的な誤差を多く含む軸である。だが、その範囲の外に2つの郵送調査とC社のWeb調査が位置している点で第3次元とは話が別である。C社の調査対象は登録されたモニターではなく、懸賞目的でアクセスしてきた人たちである。その意味で郵送調査の回答者と共通するある種の能動的要素を色濃く持っているのかもしれない。

個人差MDSの結果得られた調査データ間の相対的布置からは、やはり方法による違いが鮮明にみられたと結論すべきだろう。情報の大部分を占める第1、第2の次元で描かれた相対的布置は、疑問の余地がないほどに、調査手法間の異質性と手法内の類似性を表現していたとみることができる。細かく項目やカテゴリーごとに検討すれば、統計的に差異を検出できるのも確かだろう。だが、それでもなお、データを全体的に眺め、そしてリサンプリングデータの散らばりによる確率的誤差の推定値を手がかりに考察する限りにおいて、得られたデータの回答傾向の違いが第一義的には調査手法に基づくとする根本の結論は決して揺らぐものではない。

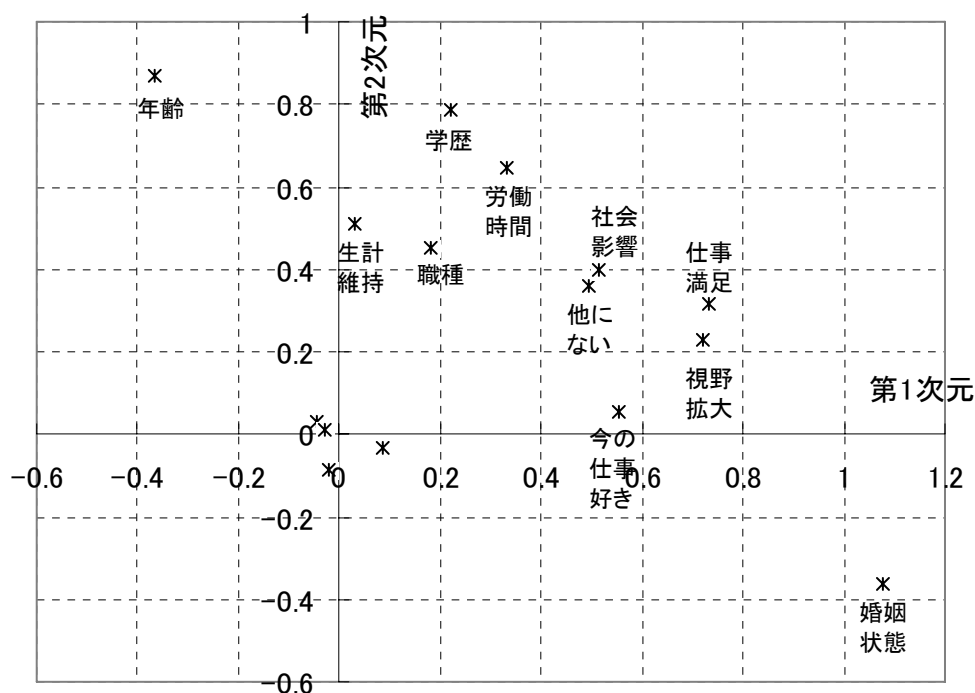


図6 個人差MDSの個人(項目)付置(第1次元×第2次元)

3.3 個人差MDSによる属性・意識項目の重み

個人差MDSの強みは、データ間の類似性を明らかにすると同時に、各々の次元に与える個人(ただし今回の場合は質問項目)の重みをとらえられることである。そこで次に、属性や意識項目がどの次元に対して重みを与えているかをみていこう。ある項目の重みが大

きい次元があるならば、仮にその項目だけでデータ間の相対的布置を描いたときに、当該の次元の影響が大きい、すなわちその軸に沿って分布する調査データ間の距離を大きめに解釈すべきだということになる (Arabie et al. 1987=1990). そのように、重みそのものだけではなく、データの共通対象布置のほうも併せて情報を読むように用いられる。

図6は、第1次元と第2次元に対する項目の重みを表している。全15項目中11の項目で原点から離れていることが確認できる。このことは、多くの項目で調査方法による回答差が生じることの傍証となる。ここで第1次元において大きな重みの値をとる項目には、仕事満足度やさまざまな仕事理由があるが、それらのような意識項目は、ネガティブな回答割合が多い順に Web、郵送、留置の順にと、系統的に並んでいることが背景にあると思われる。他方、第2次元において大きな重みをとる、職種や労働時間、学歴、年齢といった社会人口学的属性は、Web と郵送ではそれほどの違いはないものの、留置と郵送・Webとのあいだに違いが顕在化する項目なのであろう。ただし例外的なのは婚姻状態で、この項目については第1次元に非常に大きな重みを持つゆえ、3つの方法のあいだで回答が大きく異なる。以上、第1次元は意識、第2次元は属性というように大まかに対応付けられることが明らかになり、総合的な把握に役立てられる。

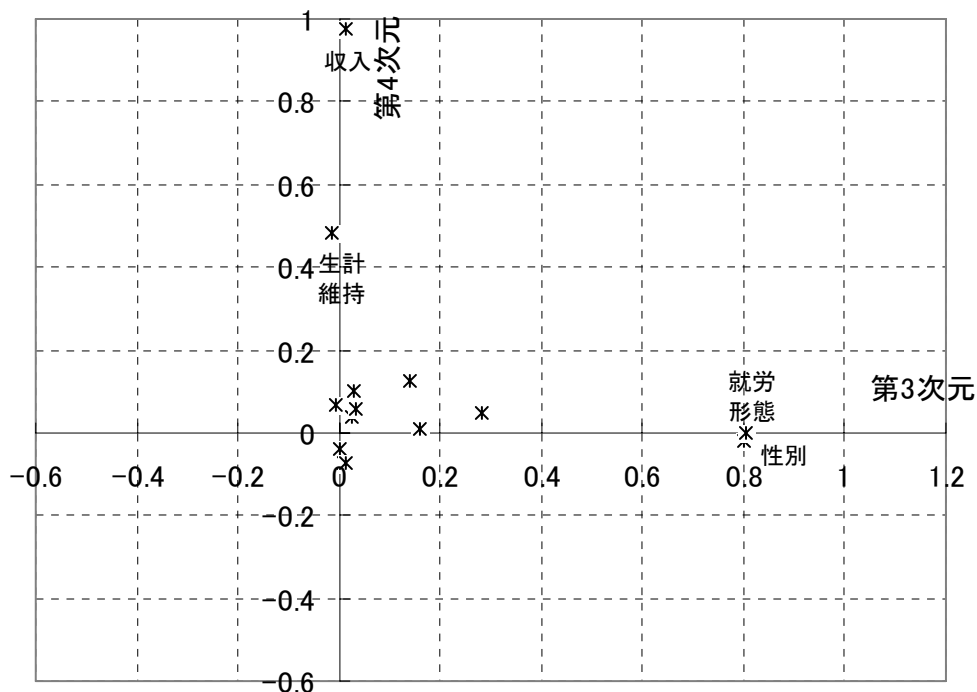


図7 個人差MDSの個人(項目)付置(第3次元×第4次元)

最後に図7をみてみよう。これは、同じく項目の重みを、第3次元と第4次元について求めた結果の図である。一見して気付くのは、ほとんどの項目が原点付近にあることである。したがって、第3および第4次元はいずれも、項目ごとの回答分布差の情報をそれほ

ど反映していない、情報量の少ない次元としてみる事ができる。そんな中で、第3次元には性別と就労形態が、第4次元には収入が大きな重みをもっていることがうかがえる。前者は、もとのWPS自体が性別や就労形態を割り当てていたため、リサンプリングによる誤差がそれら項目の主たる変動要因であることによる。やはり第3次元は誤差の軸に他ならないのである。第4次元のほうは、はっきりと大きな重みを有するのは収入くらいである。それと、仕事の理由を「生計維持のため」とする意識項目が弱いながら重みをもつ。つまり、第4次元は経済的な状況と認識に関わる意味をもつものである。ただし、あくまで第4番目として出てくる軸であり、それが有する重要性は他の軸に比して小さい。

結局のところ、特に意味があるのは、第1次元に対する意識項目の重みが全体的に大きめであること、および第2次元に対しては属性項目が大きな重みをもちがちであることに集約される。残りの次元は、適合度を上げるために必要ではあるけれど、実質的な意味はさほど大きくはないのである。

4. まとめ

本稿で明らかにされた知見を整理すると、次の3点にまとめられる。第1に、調査方法によって回答分布がはっきり異なることが裏付けられた。属性や意識についての15の質問項目を用いて調査方法間の距離を描いたところ、訪問留置、郵送、Webはそれぞれ独自の群を形成していた。リサンプリングされたWPSデータ(留置)の25のプロットのある領域には、郵送調査もWeb調査もどれひとつ入ってはこなかった。また、3つのWeb調査と2つの郵送調査も領域を共有していなかった。これらを根拠にして、調査方法ごとに回答傾向は異なることが改めて確認されたとみてよいだろう。

第2に、質問項目でも属性と意識とでは、回答の偏りにみられる調査方法間の相違パターンが違う。意識の分布の違いは、留置、郵送、Webのあいだのすべてにおいて表れがちである。そしてこの順番に並ぶので、3つの方法の中では、留置とWebとのあいだで最も大きく傾向が異なる。他方、属性の分布の違いは、留置とそれ以外とのあいだに表れる傾向がうかがえる。言い換えると、郵送とWebとでは違いがあまりないということだ。婚姻状態のような例外もあるが、基本的には上述のパターンにしたがっている。

そして第3に、情報をうまくまとめられなかった部分がみられた。具体的に言うと、収入、性別、就労形態については主要2次元では情報を縮約することができず、さらに第3、第4の次元を必要とした。このことは、標本の回収の際の設計によるものと、他の項目とは異なる挙動を示した項目があったことに起因すると思われる。回答の偏りの分析においても、質問項目の選び方に依存して結果が変わるのは間違いなからう。含める質問項目が他項目とは調査間での回答傾向の類似性のあり方が違うものであるなら、より複雑な構造をなすのは自明であり、高次の解を必要とせざるを得なくなる。

最後に残された課題を述べたい。まず本稿の意義は、調査方法間の回答分布の類似性の

総合的把握に限られることである。違いがあることと違いの有様は明らかにできたものの、残念ながら、どうして違いが生じるのか、その要因について答えられるものではない。要因について考察する研究は別稿（本多 2009；三輪 2009）でおこなわれているので、そちらに譲ることとしたい。

それから、本稿は限られた項目、限られた調査方法・データの枠内での探索的素描に過ぎないものである。それゆえ、別の質問項目を含めたときにも今回同様の知見が再現されるかは必ずしも保証されない。そしてまた、本稿で扱わなかった方法、たとえば面接調査、電話調査がどこに位置づけられるかに関しては、まったく情報は提供できていない。これらは皆、分析の範囲を拡大しての追試によって将来的に検証されるべき課題である。適切な設計のもとでの実験的調査研究によって、調査方法と調査結果の関係の解明に向けた研究の今後の発展が期待される。

【文献】

- Arabie, P., J. D. Carroll, and W. S. Desarbo., 1987, *Three-way Scaling and Clustering*, Sage. (=岡太彬訓・今泉忠訳, 1990, 『3元データの分析—多次元尺度構成法とクラスター分析法—』共立出版.)
- 萩原牧子, 2009, 「第1期調査設計と基本分析」『信頼できるインターネット調査法の確立に向けて』(SSJDA Research Paper Series 42) 東京大学社会科学研究所: 頁未定(印刷中).
- 原純輔・海野道郎, 2004, 『社会調査演習 第2版』東京大学出版会.
- 本多則恵, 2009, 「調査法が回答者を選ぶ?—調査法(訪問・郵送・インターネット等)と無回答誤差の関係—」『信頼できるインターネット調査法の確立に向けて』(SSJDA Research Paper Series 42) 東京大学社会科学研究所: 頁未定(印刷中).
- ・本川明, 2005, 『インターネット調査は社会調査に利用できるか—実験調査による検証結果—』(労働政策研究報告書No.17) 労働政策研究・研修機構.
- Kruskal, J. B., and M. Wish, 1978, *Multidimensional Scaling*, Sage. (=高根芳雄訳, 1980. 『多次元尺度法』朝倉書店.)
- 前田忠彦, 2005, 「郵送調査法の特徴に関する一研究—面接調査との比較を中心として—」『統計数理』53:57-81.
- ・大隅昇, 2006, 「自記式調査における実査方式間の比較研究」『ESTRELA』143:12-19.
- 三輪哲, 2009, 「調査回答に及ぼすモニター効果とモード効果」『信頼できるインターネット調査法の確立に向けて』(SSJDA Research Paper Series 42) 東京大学社会科学研究所: 頁未定(印刷中).
- 岡太彬訓, 2001, 「次元の縮約とクラスター化」岡太彬訓・木島正明・守口剛編『マーケティング

ィングの数理モデル』朝倉書店, 35-72.

岡太彬訓・今泉忠, 1994, 『パソコン多次元尺度構成法』共立出版.

大隈昇, 2002, 「インターネット調査の適用可能性と限界」『行動計量学』29:20-44.

齋藤堯幸・宿久洋, 2006, 『関連性データの解析法—多次元尺度構成法とクラスター分析法』
共立出版.

田辺俊介, 2004, 「「近い国・遠い国」—多次元尺度構成法による世界認知構造の研究—」
『理論と方法』36:235-249.

第4章 投票参加と意識の比較

前田 幸男

1. はじめに

近年の調査環境の悪化とインターネットの急速な普及により、マーケティング分野を中心にインターネットを利用した「調査」は急激に増加した。インターネット調査の特性を利用しようとする立場からの研究も積極的に行われている（例えば、井上・日本マーケティング・サイエンス学会編 2007）。しかし、様々な要因から、インターネット調査は従来の確率標本抽出に基づいた社会調査を代替するに至っていない（大隅 2006）。本稿では、既存研究とは異なる観点から、インターネット調査による従来型の社会調査の代替可能性（あるいは不可能性）を探るために、東京大学社会科学研究所が2007年10月に東京都で行った比較調査のデータから、投票参加と政治・社会意識の質問を検討する。

2. 研究目的と理論的背景

インターネット調査と従来型の社会調査を並行して実施し、その結果を比較した研究には日本でも一定の蓄積がある（例えば代表的なものとして、大隅 2004, 2005）。最近では、内閣府が「国民生活に関する世論調査」の結果と同時に行ったインターネット調査の結果を比較検討している（片山 2008a, 2008b）。インターネット調査の究極の目的が、その結果を旧来最も標準的とされてきた確率標本抽出された人々に対して行う面接調査の結果と置き換えることにあると考えるならば、上記のような比較研究が出てくるのは当然であろう。

ただし、従来型の調査とインターネット調査との間に差が存在する原因を知りたいのであれば、両者を直接比較することには、適切とはいえない面がある。何故ならば、従来型の調査とインターネット調査との間には、単に従来型－インターネットという対比で片付けられない調査実務上の差が存在するからである。通常、訪問面接調査と郵送調査の比較検討と言えば、標本抽出方法を固定した上で、データ収集方法の違いから生ずる回収率、回答者属性の偏り、そして回答の傾向の違い等を検討することを意味する。一方、訪問面接調査とインターネット調査との比較研究となると、データ収集方法の違いのみならず標本抽出法の違いを同時に検討する必要に迫られる。さらに言えば、インターネット調査では、多くの場合登録済みのモニターにより言わば事後的に母集団が定義されており、国民や日本人有権者というように概念的に定義された母集団に対応する台帳からの抽出が行われているわけではない。従って、通常の標本調査論の教科書にあるように単純無作為抽出を基準として標準誤差の相対的大きさを議論することはできない。

従来型の面接調査とインターネット調査との間に存在する違いを整理したのが表1である。（1）従来型調査では層化した後に、層の大きさに比例する形で、調査地点が選ばれる

のに対し、インターネット調査では層化まではできるが、さらに地点を抽出することは困難である。(2)従来型調査で利用する抽出枠は住民基本台帳か選挙人名簿であることが多いが、インターネット調査の場合はモニターとなった人が何らかの経緯で自発的に登録した名簿であることが多い。(3)やや細かい点であるが、台帳からの抽出は、従来型調査では殆どの場合系統抽出法を用いていると思われるが、インターネット調査は調査モニターの名簿から単純無作為で抽出していると考えられる。

表1 調査方法の対比

比較項目		従来型調査	インターネット調査
標本抽出	地点抽出	層化多段	地区割り困難
	台帳	住基台帳・選挙人名簿	自発的登録リスト
	対象抽出	系統抽出	無作為抽出
調査依頼		郵便	電子メール
依頼主		開示	通常非開示
測定	調査員	訪問	なし
	記録方法	他記式	自記式
	調査票	本人は見ない	PC画面(HTML)
謝礼		定額	懸賞、ポイント

次に、(4)実地調査の段階では、従来型の面接調査では多くの場合郵送あるいは調査員の直接投函により依頼文書や資料が配達されるのに対し、インターネット調査では間違いなく電子メールである。また、(5)依頼主は、前者では開示されるが、後者は開示しないことが多いように思われる。

最後にデータの収集にかかわる部分であるが、(6)従来型の面接調査では調査員という生身の人間と調査対象者とが対峙するのに対し、インターネット調査では調査対象者は他者の介在無しに質問に対して回答することになる。従って、(7)従来型調査では対象者は調査票を見ず、調査員が調査票に記入するのに対し、インターネット調査では対象者がコンピュータ・ディスプレイの上に映し出された調査票に目を通すと言った具合に、細かい差が生ずる。

これらの違いを全て事細かに検証するためには、最低でも変数+1の調査を同時並行して行う必要がある。しかし、幾つかの特徴はインターネット調査に密接不可分である。例えば、層化二段で抽出された地点の中から系統抽出された対象者に郵便を送って特定のURLへのアクセスを促す調査や、インターネット・モニターを訪問する調査というのも理屈の上では考えられる。ただし、インターネット調査と従来型の調査を比較する場合、厳密に条件を揃えることは、ある意味でインターネット調査が有する利点(迅速性等)を無意味にしてしまい、

比較調査の現実的な意味が失われてしまう。そこで、この研究では、従来型調査でも訪問面接ではなく、郵送調査を比較対象として選んだ。ただし、単純に確率標本抽出された調査対象者に対する郵送調査だけではなく、郵送モニターも比較の枠組みに組み込み調査が実施された。

2. 投票率の比較

本比較調査の調査票は政治意識から、職業観まで多岐にわたる質問を掲載しているが、ここでは職業の有無によって「該当せず」に分類されることがない、政治や社会意識に関連した質問を主に検討する。その中でも重視するのは、2007年参議院選挙での投票・棄権である。態度や意識項目については母集団真値を知り得ない以上、あくまで複数の調査間の相対比較しかできない。しかし、投票・棄権については、有権者全体については選挙結果から母集団真値を知り得るという利点がある。本比較調査では残念ながら調査対象が20歳以上59歳未満であるため、選挙管理委員会が報告する投票率の数字を使うことはできない。しかしながら、悉皆調査ではないものの、極めて精度が高いと思われる東京都選挙管理委員会の調査結果を参照できる。

①年代別投票行動調査（選管調査）

東京都選挙管理委員会は集落抽出法により各市区町村から一つの投票区を選ぶ大規模な調査を各選挙について行っており、かなり精度の高い性・年代別投票率推計値が利用可能である（東京都選挙管理委員会 2007年a）。性・年代別の投票率推計値が存在するので、それを本比較調査の母集団定義に合わせる形で再集計し、比較する際の基準とすることができる。この調査は有権者に対する質問ではなく、選挙管理上の業務記録から作成されており、測定方法による誤差は無いと考えて良い。

②参議院議員選挙世論調査結果（世論調査）

さらに、同じく東京都選挙管理委員会は、時期が本比較調査とは異なるが、2007年9月6日から19日まで選挙人名簿を台帳とした層化無作為抽出による訪問面接調査を行っている（東京都選挙管理委員会 2007年b）。この調査の個票データは利用できないが、性別・年齢別の集計結果が利用可能なので、やはり本比較調査の母集団定義に合わせる形で再集計が可能である。

以下では、この二つの選挙管理委員会の調査と、本研究の五つの調査との対比を中心に検討を進める。

平成19年参議院（東京都選出）議員選挙の投票率は選挙管理委員会の報告（全数）によると、57.87%であった。本比較調査の母集団は20～59歳の成人男女なので直接の比較はできない

が、先述の選管調査の結果を再集計すると投票率は52.6%と、全体よりも5%程度低い。これは、選管調査において最も投票率の高い60歳代が除外されていること、並びに、70歳代以上（67.8%）の投票率も50歳代と同じ程度（68.2%）であることが影響しているように思われる。

表2 投票率の調査間比較 年代別

	選管調査	世論調査	郵送ランダム	郵送モニター	WEBモニターA	WEBモニターB	WEBモニターC
全体	52.6%	71.6%	72.2%	71.3%	67.2%	70.9%	67.6%
選管調査との差		+19.0%	+19.6%	+18.7%	+14.6%	+18.3%	+15.0%
	選管調査	世論調査	郵送ランダム	郵送モニター	WEBモニターA	WEBモニターB	WEBモニターC
20歳代	35.5%	55.5%	53.0%	55.6%	54.6%	54.3%	50.8%
30歳代	48.7%	59.9%	65.3%	67.7%	66.4%	68.0%	63.6%
40歳代	59.1%	74.2%	76.7%	80.0%	69.0%	80.7%	75.2%
50歳代	68.2%	82.1%	86.5%	84.0%	79.4%	81.8%	82.4%
20歳代		0.040	0.031	0.040	0.037	0.035	0.023
30歳代		0.013	0.028	0.036	0.031	0.037	0.022
40歳代		0.023	0.031	0.044	0.010	0.046	0.026
50歳代		0.019	0.034	0.025	0.013	0.019	0.020
二乗誤差の和		0.095	0.123	0.145	0.090	0.138	0.092
20歳代		20.0%	17.5%	20.1%	19.1%	18.8%	15.3%
30歳代		11.2%	16.6%	19.0%	17.7%	19.3%	14.9%
40歳代		15.1%	17.6%	20.9%	9.9%	21.6%	16.1%
50歳代		13.9%	18.3%	15.8%	11.2%	13.6%	14.2%

各調査について全体および年齢範疇別の投票率を比較したのが表2である。選管調査も世論調査も共に比例代表ではなく東京都選挙区についての投票率を報告しているので、本比較調査の問3の設問については、「1. 選挙区、比例代表とも投票した」、「2. 選挙区だけ投票した」の二つの和を全有効回答者数で割った数値を投票率としている。なお、二つの郵送調査についてはこの設問を飛ばして次に進むことができるため、データセット上は若干の無回答が存在するが、投票率を計算する段階では分母から除外した。インターネット調査では、無回答が許されなため、厳密な比較としては郵送における無回答を分母から除外する方が適切と考えられるからである。

表2の上段で全体の投票率の傾向を見ると、選管調査（集落抽出法）と比較して、全ての調査が投票率を過剰に推定していることがわかる。その幅は14.6%から19.6%にわたるが、都世論調査と郵送ランダムの無作為抽出調査と郵送モニターがそれぞれ19%前後過剰推定している。インターネット調査についてはWEBモニターAが14.6%、WEBモニターCが15%と、過剰推定の幅が小さいとも言えるが、WEBモニターBの過剰推定幅は18.3%と、むしろ訪問や郵送の調査と近い数値になっている。投票参加の質問は投票義務についての社会規範が存在するため、人々は実際には棄権していても投票に行ったと答えがちと考えられてきた（例えば、西平 1985: 7-8）。その観点から、この調査結果を解釈すると、社会的望ましさから来る回答の歪みは、少なくとも投票参加については、調査員が介在する訪問面接でも、郵送でも、あるいはインターネットを通じた調査でも大きくは変わらないということになる。

インターネット調査の利点の一つは答えにくい質問に対して本音を引き出すことができる点にあると言われるが、選挙管理委員会が行った面接調査と比べても「本音」を引き出すことに成功しているとは言えない。しかし、この調査結果を見ると、棄権した人が回答者の中に少ないのが実態で、虚偽の回答はむしろ少ないと考える方が妥当であるようにも思われる（松本 2001: 136-140）。この推論が正しいならば、従来型調査もインターネット調査も棄権した人々を補足することに失敗している点では共通している。

次に、年齢別に投票率を推定する場合について、検討したい。表2には各調査について投票率、および選管調査を基準とした場合の二乗誤差、そして選管調査との単純な差を年齢集団毎に表示している。若年層の投票率が過剰推定される傾向があるようにも見えるが、調査によっては40歳代、50歳代が最も過剰に推定されているので特にどの年齢層が過剰あるいは過小に推定されているとは言えない。二乗誤差の総和を取ると、最大値を示すのが郵送モニター(0.145)なのに対して、最小値はWEBモニターA(0.090)である。WEBモニターAとWEBモニターCについては二乗誤差の和が1を切っているが、WEBモニターBは郵送ランダムと郵送モニターの間であり、調査方法による差異を明確に議論することは難しい。むしろ、インターネット調査の結果もモニター登録簿の構築方法によって結果が異なることを示唆しているように思われる。

表3 投票率の調査観比較 性別

	選管調査	世論調査	郵送ランダム	郵送モニター	WEBモニターA	WEBモニターB	WEBモニターC
男性59歳以下	51.8%	70.1%	76.2%	75.2%	69.4%	74.9%	70.1%
女性59歳以下	53.5%	69.7%	69.0%	67.1%	64.8%	66.6%	64.9%
男性59歳以下		0.034	0.060	0.055	0.031	0.054	0.034
女性59歳以下		0.026	0.024	0.018	0.013	0.017	0.013
二乗誤差の和		0.060	0.084	0.073	0.044	0.071	0.047
男性59歳以下	男・乖離	18.3%	24.4%	23.4%	17.6%	23.1%	18.3%
女性59歳以下	女・乖離	16.2%	15.5%	13.6%	11.3%	13.1%	11.4%
	乖離の男女差	2.1%	8.9%	9.8%	6.3%	10.0%	6.9%

最後に、男女別の投票率推計について確認する。2007年の参議院選挙東京選挙区については、『選挙結果調』によると女性の投票率が58.0%、男性の投票率が57.8%と殆ど差が無い。それが、年齢を59歳以下に限定すると、集落抽出法による推計ではあるが、女性の投票率53.5%に対して男性の投票率51.8%と、1.7%の差がつく。一方、都が行った世論調査では、男性の投票率が70.1%、女性の投票率が69.7%とほぼ等しく、それぞれ18.3%、16.2%選管調査の結果から乖離する。

本比較研究の五つの調査に関して言うと、郵送ランダム調査のズレが大きく、男性の投票率は選管調査から24.4%ずれている。一番ズレが小さいのはWEBモニターAで、17.6%となる。ただし、郵送モニターは23.4%、WEBモニターBは23.1%ずれており、郵送ランダムの乖離幅が飛び抜けて大きいわけではない。むしろ、WEBモニターBが二つの郵送調査

と似た傾向を示すことの方が興味深い。なお、女性の場合、選管調査と他の調査とのズレが男性の場合よりも必ず小さいことは注目に値する。最大の乖離は郵送ランダムの15.5%で最小はWEBモニターAの11.3%となる。その意味では、女性の結果の方が男性の結果よりも調査間で似通っていると言える。さらに言えば、都の世論調査では男女それぞれの選管調査からの乖離の幅の差は2.1%しかない(18.3-16.2=2.1)のに対し、他の調査では乖離の幅の差が大きい。例えば、郵送ランダムの場合は8.9%の差(24.4-15.5=8.9)があり、最小のWEBモニターAでも6.3%(17.6-11.3=6.3)の差がある。すなわち、この男女における投票率のズレ方の傾向は、回収率の高い都の世論調査と比べて、本比較研究の5つの調査は良く似ている。東京都選挙管理委員会のお墨付きで行われた回収率の高い訪問面接調査の結果と比べると、回収率の低い無作為抽出の郵送調査と、標本抽出のフレームに問題があるインターネット調査とは、同じような傾向を示すということもできよう。

3. 政策意見と社会意識についての比較

本節では、広い意味で政治や社会に関連する意見の分布が五つの調査でどう異なるかを検討する。ここでは、選択肢が四つ以上ある五つの質問に分析を限定した。これらの質問を便宜上連続尺度として扱い、調査毎の平均値を計算した結果が表4に示してある。また、平均値の差の下には、調査の種類を要因とした分散分析の結果を掲載してある。

まず、各質問に現れる傾向を確認したい。国の年金制度に対する信頼を聞いたQ4であるが、五つの調査を一括すると77%が年金制度を信頼していないが、その中でも調査方法による差があることが窺える。郵送ランダム調査が最も年金制度に対する信頼が高い数値を示し、三つのWEBモニター調査が信頼感の低い数値を示し、その中間に郵送モニター調査が位置している。これらの調査間の平均値の差は、分散分析の結果を見る限り、統計的に有意である。

年金制度とは少し傾向が異なるが、社会階層帰属について聞いたQ8(3)では、郵送ランダムと郵送モニターの数値が近く、WEBモニターの数字はやはり相互に近い。ただし、WEBモニターの中でも、懸賞メイリング・リストのWEBモニターCは特に下層帰属感が強く出ている。この質問に対する回答の平均値の差も統計的に有意である。

表4 各調査における意見の平均値

Q4. あなたは、国の年金制度を、全体として、信頼していますか、信頼していませんか。
(4点尺度—数値が大きいほど不信)

	郵送ランダム	郵送モニター	WEBモニターA	WEBモニターB	WEBモニターC
平均値	2.95	3.08	3.23	3.17	3.23
対象者数	750	981	1000	998	978

要因	平方和	自由度	平均平方	F値	P値
群間(調査間)	46.75	4	11.69	18.59	0.00
群内(調査内)	2955.74	4702	0.63		
計	3002.48	4706	0.64		

Q5. あなたに課せられている所得税は、高いと思いますか。(5点尺度—数値が大きいほど高いと思っている)*

	郵送ランダム	郵送モニター	WEBモニターA	WEBモニターB	WEBモニターC
平均値	4.29	4.39	4.40	4.41	4.38
対象者数	602	826	839	854	815

*「わからない」と「所得税を払っていない」が集計から除外されており、対象者数が他の質問と比べ少ない

要因	平方和	自由度	平均平方	F値	P値
群間(調査間)	5.70	4	1.43	2.08	0.08
群内(調査内)	2689.94	3931	0.68		
計	2695.64	3935	0.69		

Q6. 「政府は、裕福な家庭と貧しい家庭の収入の差を縮めるために、対策をとるべきだ」という意見に、あなたは賛成ですか、反対ですか。(5点尺度—数値が大きいほど反対)

	郵送ランダム	郵送モニター	WEBモニターA	WEBモニターB	WEBモニターC
平均値	2.20	2.34	2.32	2.36	2.32
対象者数	753	986	1000	998	978

要因	平方和	自由度	平均平方	F値	P値
群間(調査間)	13.05	4	3.26	2.75	0.03
群内(調査内)	5582.52	4710	1.19		
計	5595.57	4714	1.19		

Q8. (1) 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである。(4点尺度—数値が大きいほど反対)

	郵送ランダム	郵送モニター	WEBモニターA	WEBモニターB	WEBモニターC
平均値	3.04	3.01	3.05	2.97	3.06
対象者数	753	984	1000	998	978

要因	平方和	自由度	平均平方	F値	P値
群間(調査間)	5.72797291	4	1.43199323	1.68	0.1516
群内(調査内)	4012.56271	4708	0.852286048		
計	4018.29069	4712	0.852778159		

Q8. (3) かりに現在の日本社会全体を、以下の5つの層にわけるとすれば、あなた自身はどれに入るとお考えですか。(5点尺度—数値が大きいほど下層)

	郵送ランダム	郵送モニター	WEBモニターA	WEBモニターB	WEBモニターC
平均値	3.25	3.22	3.36	3.32	3.49
対象者数	746	982	1000	998	978

要因	平方和	自由度	平均平方	F値	P値
群間(調査間)	42.43	4	10.61	13.73	0.00
群内(調査内)	3630.20	4699	0.77		
計	3672.63	4703	0.78		

一方、所得税についての重税感を聞いたQ5だが、郵送ランダム調査が低めの数値を示している。郵送モニターと三つのWEBモニター調査はほぼ同じ数値を示し、ランダムかモニターかの違いによって数値が異なっているように思える。同様の傾向は経済的格差の是正（結果の平等）について尋ねたQ6にも存在する。郵送ランダムの平均値だけが他の調査よりも肯定的な値を示し、他の四つのモニター調査の平均値は比較的似通っている。ただし、Q5の重税感については、調査間で平均値は等しいという帰無仮説を危険率5%で棄却できない。また、Q6の経済的格差の是正についての質問は、5%水準で有意であるが、F値は辛うじて棄却点を超えるに過ぎない。重税感や年金格差については、年金信頼や階層帰属意識ほど明瞭な差が調査の間に存在しないと言えるだろう。性別役割分業意識を尋ねるQ8(1)については、体系的な差はないように思われる。実際、分散分析では、各調査の平均値が等しいという帰無仮説を棄却できない。

以上の分析は、あくまで五つの調査間に存在する平均値の差が偶然に発生したのか、それとも何か体系的な違いがあるのかを検討したものであり、個別の調査間に存在する差を検討したわけではない。そこで、各調査間での一対一の比較をするために、多重比較（シェッフェの検定）を行った結果を示したのが、表5である。

表5 多重比較

Q4. あなたは、国の年金制度を、全体として、信頼していますか、信頼していませんか。				Q8. (1)男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである。(4点尺度—数値が大きいほど反対)			
郵送ランダム	郵送モニター	モニターA	モニターB	郵送ランダム	郵送モニター	モニターA	モニターB
郵送モニター	0.13 *			郵送モニター	-0.04		
	(0.03)				(0.95)		
モニターA	0.28 ***	0.15 **		モニターA	0.00	0.04	
	(0.00)	(0.00)			(1.00)	(0.91)	
モニターB	0.22 ***	0.09	-0.06	モニターB	-0.08	-0.04	-0.08
	(0.00)	(0.18)	(0.64)		(0.56)	(0.93)	(0.43)
モニターC	0.28 ***	0.15 **	0.01	モニターC	0.02	0.05	0.01
	(0.00)	(0.00)	(1.00)		(1.00)	(0.79)	(1.00)
			0.06				0.09
			(0.56)				(0.28)
Q5. あなたに課せられている所得税は、高いと思いますか。(5点尺度—数値が大きいほど高いと思っている)*				Q8. (3)かりに現在の日本社会全体を、以下の5つの層にわけるとすれば、あなた自身はどれに入ると思いますか。(5点尺度—数値が大きいほど下層)			
郵送ランダム	郵送モニター	モニターA	モニターB	郵送ランダム	郵送モニター	モニターA	モニターB
郵送モニター	0.09			郵送モニター	-0.03		
	(0.34)				(0.98)		
モニターA	0.11	0.02		モニターA	0.11	0.14 *	
	(0.19)	(1.00)			(0.17)	(0.02)	
モニターB	0.11	0.02	0.00	モニターB	0.07	0.09	-0.04
	(0.15)	(0.99)	(1.00)		(0.66)	(0.22)	(0.89)
モニターC	0.09	-0.01	-0.02	モニターC	0.24 ***	0.27 ***	0.13 *
	(0.42)	(1.00)	(0.99)		(0.00)	(0.00)	(0.02)
			-0.03				0.17 **
			(0.98)				(0.00)
Q6. 「政府は、裕福な家庭と貧しい家庭の収入の差を縮めるために、対策をとるべきだ」という意見に、あなたは賛成ですか、反対ですか。(5点尺度—数値が				†(p<.10), *(p<.05), **(p<.01), ***(p<.001)			
郵送ランダム	郵送モニター	モニターA	モニターB	セルの数値は、上が行の調査平均から列の調査平均を引いたものである。たとえば、Q4の左上の数字は、郵送モニターの平均値から郵送ランダムの平均値を引いた数値である(0.13=3.08-2.95)。下にある括弧内の数値は、二つの平均値が等しいという帰無仮説を基準とした際に、実際に測定された平均値の差よりも大きな差を得る(両側)確率である。従って、シェッフェの検定によると、国の年金制度に対する信頼について、郵送ランダム調査と郵送モニター調査の間に差はないという帰無仮説は危険率5%で棄却される。			
郵送モニター	0.14						
	(0.13)						
モニターA	0.12	-0.02					
	(0.24)	(1.00)					
モニターB	0.16 *	0.02	0.04				
	(0.05)	(1.00)	(0.96)				
モニターC	0.13	-0.01	0.00				
	(0.22)	(1.00)	(1.00)				
			-0.04				
			(0.97)				

表5の結果は表4の結果を追認するものだが、より詳細な情報を与えてくれる。表の読み方だが、セルの数値は、上が行の調査平均から列の調査平均を引いたものである。具体的には、Q4の左上の数字は、郵送モニターの平均値から郵送ランダムの平均値を引いた数値であ

る ($0.13=3.08-2.95$)。下にある括弧内の数値は、二つの平均値が等しいという帰無仮説に対して、実際に測定された平均値の差よりも大きな差を得る (両側) 確率である。従って、シェッフェの検定によると、国の年金制度に対する信頼について、郵送ランダム調査と郵送モニター調査の間に差はないという帰無仮説は危険率5%で棄却される。

具体的な設問について検討すると、国の年金制度に対する信頼 (Q4) については、郵送ランダム調査とモニター調査 (郵送モニターとWEBモニター調査) との間に統計的に有意な差がある。ただし、郵送モニターとWEBモニターとの比較については、三つのうち二つだけが、統計的有意差を示している。WEBモニター間には明確な差はない。やはり、郵送ランダムに回答する人々の方が、他のモニター調査の回答者と比べて、国の年金制度に対する不信感が弱いと言える。

一方、階層帰属意識 (Q8(3)) については、WEBモニターCが他の全ての調査との間で統計的有意差を示す。WEBモニターCの回答者は、他のどの調査と比べても、自分自身の社会階層を低く位置づけている。年金制度の回答については、ランダム対モニターの対比であったが、社会階層帰属については、懸賞メイリング・リスト対それ以外という対比が明瞭である。これは、一口にインターネット調査といっても、モニターの募集方式およびモニターに対する誘因の与え方の違いにより、結果が異なることを示している点で興味深い。

経済格差是正政策 (Q6) については、郵送ランダムと郵送モニターとの間、および郵送ランダムとWEBモニターBとの間に差があるが、この差が何に起因するのかは、年金制度信頼や社会階層帰属の差と違い、解釈が難しい。重税意識については、個別の双対比較では差を検出できなかった。性別役割分業意識についても同様である。

4. 回帰分析

以上の分析は、各調査で対象者が回答を与える際の因果関係は一定であることを前提に、平均値の差のみを検討してきた。しかしながら、調査間に単純な平均値の差がある以上に、様々な要因がその差を増幅、あるいは相殺している可能性は否定できない。本節では、交互作用項を投入した重回帰分析を行って、平均値の差が他の要因により増幅あるいは相殺されているかを、年金制度信頼と社会階層帰属の二つについて確認する。

回帰分析の手続きは以下の通りである。まず、参照基準となる調査を除き各調査をダミー変数とし、諸要因を統制した後でも平均値の差が有意となるかを確認する。統制する変数は社会属性変数に限る。具体的には、性別 (男性が1, 女性が0) のダミー変数, 年齢 (実数), そして学歴 (大学・大学院以上を1, それ以外を0) のダミー変数である。調査のダミー変数と社会属性のみを統制した回帰分析を行った後に、一つの社会属性変数と調査の種類との交互作用項を投入した分析を行う。調査は五つあるので、分析に投入される調査のダミー変数は四つである。その四つのダミー変数についてそれぞれ社会属性変数との交互作用項を作成し、一挙に分析に投入する。ただし、三つの社会属性について、全ての交互作用項を投入

すると、結果の解釈が著しく煩雑になるので、交互作用を用いた分析は社会属性毎に3回行った。

表6 年金制度信頼に対する調査方法の影響(基準・郵送ランダム)

独立変数	(1)	(2)	(3)	(4)
性別(男=1/女=0)	0.107 *** (0.024)	0.108 *** (0.024)	0.241 *** (0.059)	0.107 *** (0.024)
年齢(実数)	-0.011 *** (0.001)	-0.009 *** (0.002)	-0.011 *** (0.001)	-0.011 *** (0.001)
大学・大学院	-0.091 *** (0.024)	-0.093 *** (0.024)	-0.093 *** (0.024)	-0.010 (0.059)
郵便モニタ	0.109 ** (0.039)	0.250 † (0.140)	0.163 ** (0.053)	0.154 ** (0.054)
WEBモニターA	0.247 *** (0.038)	0.240 † (0.141)	0.286 *** (0.053)	0.258 *** (0.054)
WEBモニターB	0.194 *** (0.038)	0.186 (0.141)	0.283 *** (0.053)	0.240 *** (0.054)
WEBモニターC	0.253 *** (0.038)	0.342 * (0.143)	0.361 *** (0.053)	0.326 *** (0.053)
郵便モニターと年齢の交互作用		-0.004 (0.003)		
WEBモニターAと年齢の交互作用		0.000 (0.003)		
WEBモニターBと年齢の交互作用		0.000 (0.003)		
WEBモニターCと年齢の交互作用		-0.002 (0.003)		
郵便モニターと性別の交互作用			-0.121 (0.077)	
WEBモニターAと性別の交互作用			-0.093 (0.076)	
WEBモニターBと性別の交互作用			-0.190 * (0.076)	
WEBモニターCと性別の交互作用			-0.227 ** (0.077)	
郵便モニターと学歴の交互作用				-0.097 (0.077)
WEBモニターAと学歴の交互作用				-0.035 (0.077)
WEBモニターBと学歴の交互作用				-0.097 (0.077)
WEBモニターCと学歴の交互作用				-0.154 * (0.077)
定数	3.386 *** (0.054)	3.342 *** (0.108)	3.327 *** (0.059)	3.350 *** (0.060)
標本規模	4670	4670	4670	4670
修正済決定係数	0.040	0.040	0.042	0.041

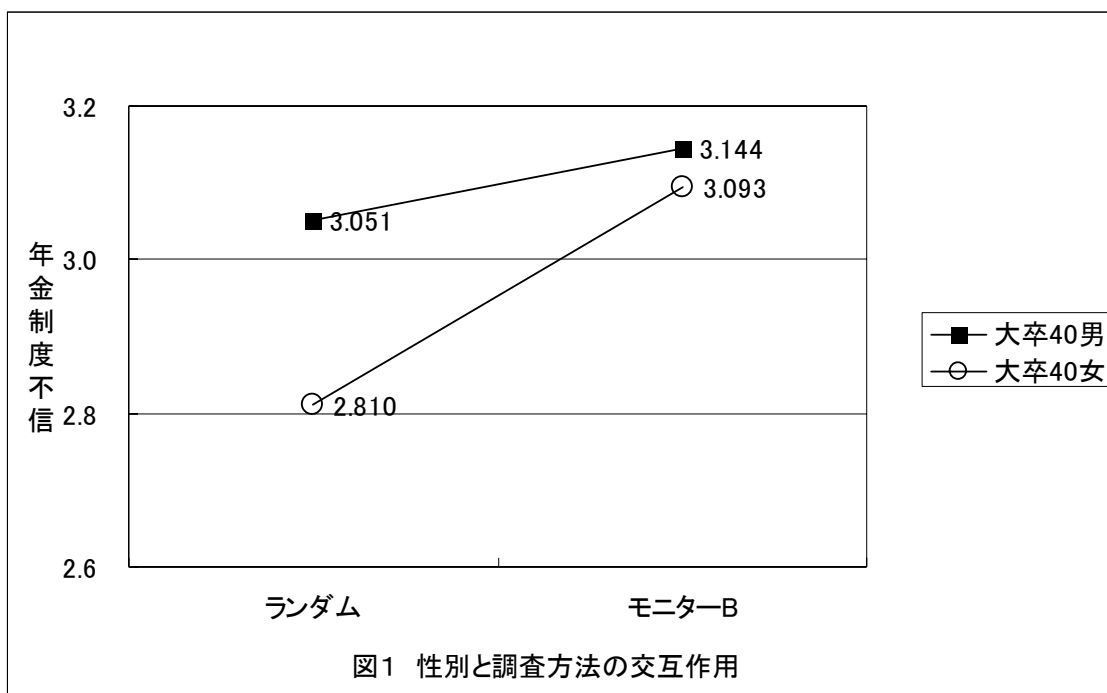
†(p<.10), *(p<.05), **(p<.01), ***(p<.001)

表6には、年金制度信頼を従属変数とする重回帰分析の結果が掲載してある。第1列目は社会属性と調査のダミー変数だけが投入された場合の結果が示されており、両側5%水準で統計的に有意な係数には網掛けが施されている。全ての変数が統計的に有意であるので、各調査で平均値が異なるのは、ここで統制されていない社会属性あるいは態度次元での差異が存在するためだと考えられる。そして、各調査ダミー変数の偏回帰変数は、社会属性要因を統制してもなお残る各調査と郵送ランダム調査との平均値の差を表している。¹

次に第2列には、年齢との交互作用効果を投入した重回帰分析の結果が示してある。どの交互作用も統計的には有意ではないので、調査間の差異が年齢により増幅されるということはない。

一方、第3列は、性別と調査方法との交互作用項を投入した場合の推定結果が掲載してある。ここでは、WEBモニターBと性別の交互作用、およびWEBモニターCと性別との交互作用がそれぞれ統計的に有意である。この場合、郵送ランダム調査とWEBモニターBとの平均値の差は、社会属性を統制した後も0.283存在するが、男性の場合はその差は0.093

(=0.283-0.190)となる。これは郵送ランダム調査とWEBモニターB調査との比較で言えば、女性の場合は後者で0.283だけ年金不信になるが、男性は0.093だけしか変化しないことを意味する。図1は、この交互作用を視覚的に表現したものである。データの視覚的表現と解釈には慎重であるべきだが、二つの調査の間に存在する差は、主に女性回答者における違いだと思われる。同様の解釈が、郵送ランダム調査とWEBモニターC調査との間にも成立する。



¹ なお、四つの偏回帰係数の大きさは、社会属性要因が統制されるために全く同一ではないが、さきほどのシェッフェ検定の表における調査間の差に近い。

最後に、学歴との交互作用であるが、WEBモニターCとの交互作用のみが統計的に有意となった。WEBモニターCの回答者は総じて郵送ランダム調査よりも不信感が強い(不信度が0.326高まる)が、大学卒以上の学歴を持つ場合だけは、その影響が半減する($0.172=0.326-0.154$)。同じWEBモニター調査でも、懸賞MLのWEBモニターCだけは、特に郵送ランダムとの違いを増幅する要因が何かあるのかもしれない。

なお、確認のために年齢、性別、学歴すべてについて各調査との交互作用を一挙に投入した場合でも、WEBモニターBと性別、およびWEBモニターCと性別の交互作用項は統計的に有意であった。ただし、WEBモニターCと学歴との交互作用は統計的に確認できなくなった。

次に、表7に階層帰属意識を従属変数とした同様の分析結果を掲載している。ただし、多重比較の結果に鑑み、ここではWEBモニターCを基準とした分析を行っている。第1列は社会属性と調査種類ダミーだけが独立変数として投入されているが、全ての偏回帰係数が統計的に有意である。²

第2列から第4列までの結果をみると、第2列では、郵送ランダム調査と年齢の交互作用、および郵送モニターと年齢の交互作用が統計的に有意になっている。係数の値は小さいが、年齢は実年齢が投入してあるので、実際の影響は係数の大きさから受ける印象よりも大きい。残りの第3列と第4列については、それぞれ郵送モニターとの交互作用だけが両側5%水準で統計的に有意であった。

ここでは懸賞MLであるWEBモニターCと郵送モニターとの対比について、少し詳しく見ておきたい。単純に調査が異なることだけの影響を見る場合(第1列)、WEBモニターCと郵送モニターの間には、 -0.252 の違いがある(第1列)。即ち、郵送モニターの方が、5点尺度で 0.252 だけ高い社会階層帰属感を持っている。次に、第2列の結果を利用して、20歳の年齢差が及ぼす影響を考えてみよう。WEBモニターCの登録者については年齢が20歳上がると、階層帰属意識の得点は約 -0.18 ($= -0.009 \times 20$) 変化し、より高い階層への帰属を表明すると解釈できる。年齢が一定とすると、郵送モニターであることは、WEBモニターCと比較して、階層帰属意識の得点が -0.635 変化する(より高い階層への帰属を表明する)。ただし、郵送モニターの登録者の場合、交互作用の存在により、年齢の影響が相殺されてしまう。具体的には、20歳の年齢差が階層帰属意識に与える影響は約 0.02 ($= -0.009 \times 20 + 0.010 \times 20$) に過ぎない。この結果を視覚的に表現したのが、図2であるが、郵送モニターとWEBモニターCとでは、階層帰属意識に対して年齢の与える影響が大幅に異なることがよく現れている。

² また、各調査ダミーの偏回帰係数はシェッフェ検定における平均値の双対比較と近い値である。

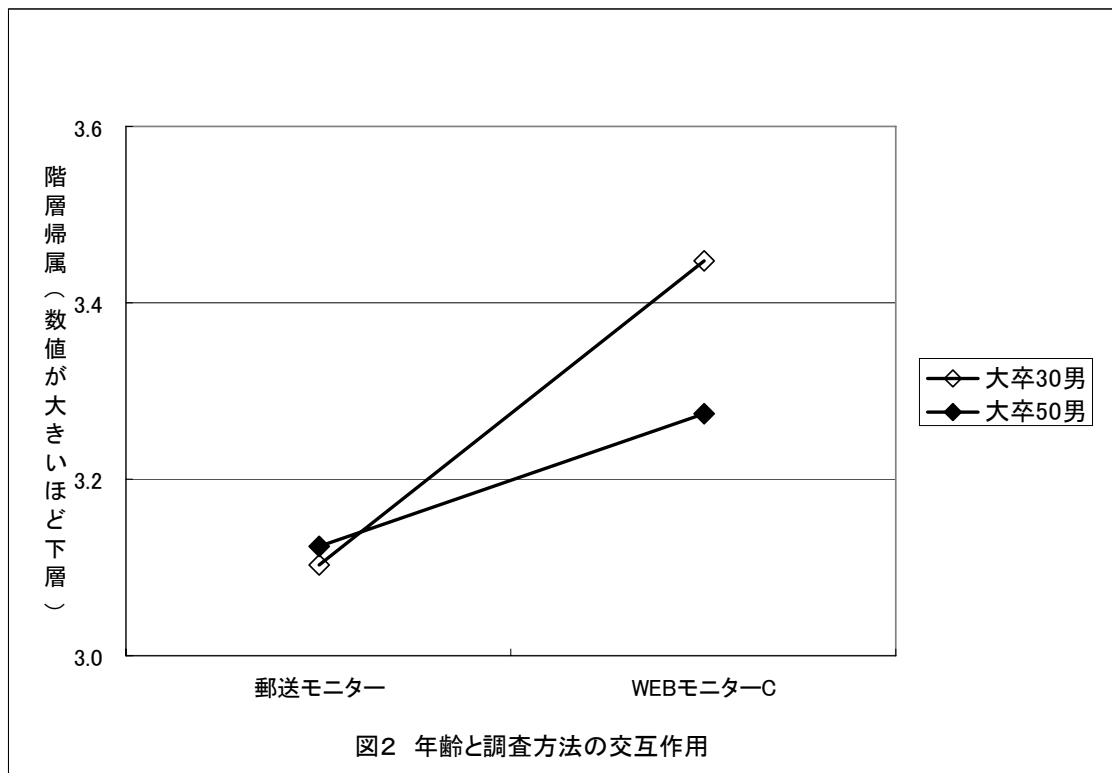
表7 階層帰属意識に対する調査方法の影響(基準・懸賞ML)

独立変数	(1)	(2)	(3)	(4)
性別(男=1/女=0)	0.186 *** (0.026)	0.186 *** (0.026)	0.266 *** (0.055)	0.190 *** (0.026)
年齢(実数)	-0.004 ** (0.001)	-0.009 *** (0.003)	-0.004 *** (0.001)	-0.004 *** (0.001)
大学・大学院	-0.438 *** (0.026)	-0.433 *** (0.026)	-0.437 *** (0.026)	-0.345 *** (0.055)
郵送ランダム	-0.242 *** (0.042)	-0.602 *** (0.156)	-0.205 *** (0.058)	-0.183 ** (0.058)
郵便モニター	-0.252 *** (0.039)	-0.635 *** (0.144)	-0.166 ** (0.055)	-0.170 ** (0.056)
WEBモニターA	-0.115 ** (0.038)	-0.160 (0.145)	-0.061 (0.055)	-0.090 (0.056)
WEBモニターB	-0.149 *** (0.038)	-0.336 * (0.145)	-0.123 * (0.055)	-0.070 (0.056)
郵送ランダムと年齢の交互作用		0.009 * (0.004)		
郵便モニターと年齢の交互作用		0.010 ** (0.004)		
WEBモニターAと年齢の交互作用		0.001 (0.004)		
WEBモニターBと年齢の交互作用		0.005 (0.004)		
郵送ランダムと性別の交互作用			-0.072 (0.084)	
郵便モニターと性別の交互作用			-0.169 * (0.078)	
WEBモニターAと性別の交互作用			-0.105 (0.077)	
WEBモニターBと性別の交互作用			-0.052 (0.077)	
郵送ランダムと学歴の交互作用				-0.120 (0.084)
郵便モニターと学歴の交互作用				-0.158 * (0.078)
WEBモニターAと学歴の交互作用				-0.053 (0.077)
WEBモニターBと学歴の交互作用				-0.151 † (0.077)
定数	3.762 *** (0.056)	3.952 *** (0.106)	3.723 *** (0.061)	3.718 *** (0.061)
標本規模	4667	4667	4667	4667
修正済決定係数	0.068	0.071	0.069	0.070

†(p<.10), *(p<.05), **(p<.01), ***(p<.001)

次に性別との交互作用を確認する。第3列の結果を参照すると、WEBモニターCの場合、男性は女性よりも0.266大きな階層帰属意識の値を示す（より低い階層への帰属を表明する）のに対し、郵送モニターの場合は、男性は女性より0.097 (=0.266-0.169) 大きな値（低い

階層への帰属)を示すだけである。従って、郵送モニターにおいては、階層帰属意識は年齢と性別によってそれほど左右されないと言うことができる。



それに対して、第4列の学歴については、WEBモニターCの場合、大学・大学院卒だと高卒以下と比較して-0.345小さな値（高い階層帰属）を表明する。それが、郵送モニターになると、学歴による差は-0.503 (= -0.345 - 0.158) に拡大する。従って、郵送モニターの場合、常に社会属性による差が小さくなるのではなく、学歴のように差が拡大する場合もある。なお、確認のために全ての交互作用項を一挙に投入しても、年齢と郵送モニターおよび年齢と郵送ランダムとの交互作用だけは、危険率5%水準で有意であり、偏回帰係数の大きさも大きくは変化しなかった。

5. 考察

以上、簡単ではあるが、投票参加と政治的態度について五つの調査間の差異を検討した。前者について言えば、東京都選挙管理委員会による集落抽出法の推計値と比べると、回収率が高い選挙管理委員会世論調査も本研究の五つの調査も、投票率を過剰推定していることが明らかになった。この結果については二つの解釈が可能である。一つは、インターネット調査といえども特に他の調査方法と異ならず、少なくとも投票参加については、やはり社会的に望ましい方向へ回答を誘導する傾向があるというものである。もう一つは、インターネッ

ト調査も通常の郵送ランダム調査と同様に、投票に行かない人々を補足することはできないという解釈である。従来は、選挙で棄権したにもかかわらず、投票に行ったと答える人がいるため、世論調査における投票率は公式の結果よりも高めに出ると言われることが多かった（例えば、西平 1985: 7-8）。しかし、調査員を介さない郵送でも、インターネットでも投票率が過剰に推定されていることを考えるならば、むしろ回答者は正直に投票参加について報告しており（松本 2001: 136-149）、全ての調査が棄権者の補足に失敗していると考えの方が妥当であるように思える。この解釈に立つと、投票参加という点に限って言えば、インターネット調査における潜在的回答者の集合と郵送ランダム調査で実際に回答する可能性がある人々との間に体系的な差異はないことになる。

一般的にインターネット調査は通常の面接調査では補足しにくい若年層などを補足するのに有益と考えられがちであるが、すくなくとも政治的に不活発、あるいは極めて政治に関心が乏しいと思われる層を補足するには必ずしも適当なデータ収集方法ではない。これは、政治参加が、心理的には様々な形で社会への関わり方と連動しているからではないかと考えられる。

ただし、調査間に明確な差が無いのは、単純に平均値のみを議論した場合である。実際、回収率の高い選挙管理委員会世論調査による推定値が、男女とも同じ程度、東京都の集落抽出法による投票率の推定値からずれていたのに対し、郵送ランダム調査を含めた五つの調査全てにおいて、男性のズレの幅が、女性のズレの幅よりも顕著に大きかった。その意味では、インターネット調査は回収率の著しく低い確率標本抽出データと似た傾向を示すとも言えるかも知れない。おそらく、インターネット調査に答える人々と、どんな調査にでも律儀に答える人々との間には一定の共通性があるのではないか。それと同時に、推定された複数の平均値がそれほど違わないように見えても、二変量以上で検討した場合には、必ずしも結果が等しいことが保証されないことをこの結果は改めて示したと言える。

後半の、政治的態度や階層帰属意識の分析は二変量以上で検討した結果を、別の角度から示したものである。ただし、事態は確率標本抽出調査対インターネット調査と図式的に割り切れるほど単純ではない。実際の所、分散分析の結果、五つの調査間で平均値に差があるらしいということが分かっても、どこで線を引くかは質問内容毎に異なる。国の年金制度に対する信頼は大きく分けると郵送ランダム調査とWEBモニター調査との対比という形で整理できる。その一方で、社会階層帰属については、懸賞MLであるWEBモニターCとそれ以外という対比の方が鮮明である。つまり、確率標本抽出対インターネット・モニターという形で全てが割り切れるのではなく、インターネット・モニター間の体系的な差も考えなければならぬ。さらに、回帰分析による検討では、調査間で平均値に差があるだけでなく、ある変数の影響が「モニター独特のクセ」により、場合により増幅あるいは相殺される可能性があることが明らかになった。

本章の結果を前提にすると、現段階では伝統的な確率標本抽出法に基づいた調査をインターネット・モニターの調査で完全に代替してしまうというのは軽率と判断せざるを得ない。もし、訪問面接調査の回収率の低下が問題ならば、郵送調査へ切り替えて十分な回収率改善の努力をする方が賢明であるように思われる（松田 2006a, 2006b）。ただし、インターネット・モニターを利用した調査には、複雑な実験条件に基づいた測定やデータ収集の速度等、それ独自の利点があることも確かなので、インターネット調査で言えることと言えないこと、理論的に検討したい母集団と実際に調査対象となる可能性がある人々の集合との乖離を常に意識しながら利用することを考える必要があるだろう。

【文献】

- 井上哲治・日本マーケティング・サイエンス学会編，2007，『Webマーケティングの科学』千倉書房，2007年。
- 大隅昇，2004，「インターネット調査の何が問題かー現状の問題と解決すべきことー」『新情報』，91，1-24。
- _____，2005，「インターネット調査の何が問題か（つづき）ー現状の問題と解決すべきことー」『新情報』，92，1-19。
- _____，2006，「インターネット調査の抱える課題と今後の展開」『ESTRELA』143，3-11。
- 片山朗，2008a，「インターネット調査と訪問面接調査の比較分析①」『統計』59巻7号，59-65。
- _____，2008b，「インターネット調査と訪問面接調査の比較分析②」『統計』59巻8号，56-62。
- 東京都選挙管理委員会，2007a，『平成19年7月29日執行参議院議員選挙年代別投票行動調査結果』東京都選挙管理委員会。
- _____，2007b，『選挙に関する世論調査 平成19年7月29日執行 参議院議員選挙』東京都選挙管理委員会。
- 西平重喜，1985，『統計調査法 改訂版』培風館。
- 松田映二，2006a，「最新郵送調査事情ー高い回収率，個人の事情や本音を聞く質問で威力発揮」『朝日総研レポート』，190，166-181。
- _____，2006b，「調査をめぐる今日的課題と展望」『新情報』，94，8-17。
- 松本正生，2001，『政治意識図説』中公新書。

第5章 調査回答に及ぼすモニター効果とモード効果

三輪 哲

1. はじめに

調査方法が異なれば、調査結果も異なるのか。この素朴だがきわめて重要な問いに対し、力強く否定することはもはや難しい。三輪（2009）は、回答傾向の偏りに基づいて調査方法間の非類似性を明らかにした。それと同じ研究プロジェクトからは、萩原（2009b）も留置調査とWeb調査とのあいだでは、属性も意識項目も非常に大きな回答分布のずれがあることを報告している。それ以外にも、調査方法によって結果が異なることは、さまざまな論者が指摘していることが知られている（本多・本川 2005；前田・大隅 2006）。

では何故に違いが生じるのかと言えば、実のところ、よくわかっていないことが多い。Grovesら（2004）によれば、質問紙調査において誤差が混入する過程は、大きく次の2つに分けられる。1つは、測定の誤差である。真値を測ろうとしているのだが、そこに何らかの偏りが生じてしまうとか、間違えて答えてしまうなどがありうる。もう1つは、対象者選択の誤差である。これは、目標母集団をどの程度的確にとらえたフレームが利用可能かというカバレッジ誤差、フレームから確率的に標本抽出する際に生じるサンプリング誤差、そして計画標本に含まれた調査対象者のうちかなりの割合が回答してくれないことによる無回答誤差からなるとされる。これらの誤差が、調査方法に依存して発生し、結果的に回答の偏りをもたらすのではないかと考えられる。そしてそれら誤差の原因もさまざまであるとみられている。たとえば測定誤差1つとってみても、調査員による聞き間違い・書き間違いや、本人の記憶違いなど誤差を発生させる主体も理由も多様に存在するわけである。

話を単純にするために、本稿においては郵送調査とWeb調査だけを扱うこととする。その理由は、この2つの調査法は、自記式でおこなわれるため測定誤差の発生主体がほぼ本人に限られる点、調査員訪問や電話調査のような調査者側からの積極的な働きかけがないため調査対象者にかかる回答圧力が弱い点で共通しているからだ。対象者がある程度能動的に調査に向かいあっているだいたい同質の状況との仮定を受け容れられれば、得られた回答の違いを、紙かコンピュータ画面かという調査方法の違いに帰責しやすいと考えたのである。こうした調査における回答局面の方法は、調査モードと呼ばれる。そして本稿では、調査モードによる差異を「モード効果」とみなすこととする。

郵送調査を焦点とするもう1つの大きな理由は、それが無作為抽出による標本設計と、調査会社へと登録したモニターに基づく標本設計の、両者がともに頻繁に用いられていることである。その点、訪問留置調査はモニターを使う事例は少なく、逆にWeb調査のほとんどがモニター調査であり代表性のあるサンプリングフレームから無作為抽出をする例は

皆無に近い。よって、これらは同一調査モードの中での標本設計の違いを検討するのに適していない。以上の考察の末に、本稿では郵送調査法に調査モードをそそえた中での、モニター調査結果と無作為抽出調査結果とを比較していくスタンスをとることとした。これらの差異を、本稿では「モニター効果」とみなす。

調査モード効果の析出にあたって重要なことは、それが同一個体の中での違いであらねばならないことである。しばしばある調査方法間比較の調査設計は、同一母集団に対する異方法（モード）によるアプローチである（本多・本川 2005；萩原 2009a；日本マーケティング・リサーチ協会 2005）。だがそれは、インプット（調査方法）とアウトプット（調査結果）との関係を記述することは可能であるものの、調査モード効果を検討することは困難である。というのは、上述の従来型比較設計のもとでは、刺激により反応が変わるかという調査モードによる効果と、誰が答えるのかというカバレッジやレスポンスによる効果とが交絡してしまうからだ。この問題を解消するためには、同一個体を異なる方法で追跡調査する特殊なパネルデータが要求される。このようなデータならば、個体の異質性を統制した上で、調査モードだけが変わったときの回答の差異を取り出すことができるのだ。

そしてもう1点強調したいのは、モニターであることが持つ何らかの効果である。実際、これがとらえられるか否かも、比較の設計に依存する。よくあるのは、調査の質問で調査モニターになっているかをたずね、その変数のカテゴリーで分けて回答分布を比較するやり方である。ところが、そうしたやり方では、精確なモニター効果の抽出には決して至らない。なぜなら、そこでの「モニター参加者」は、あくまで通常の（無作為抽出による）調査に答えてくれた標本の中にいるという条件のもとでの「モニター参加者」だからだ。モニターをしている人すべてが、自分が能動的に登録した覚えのない通常の調査へと協力してくれるとは限らない。そもそも通常の調査とモニター調査とがカバーできる範囲の共通性と異質性自体がモニター効果の議論以前に問われなければならない課題である。通常の調査とモニター調査それぞれのいわば守備範囲を見極めたうえで、同一母集団・同一調査モード・異標本設計でおこなわれた複数調査を比較することが求められる。

そこで本稿では、調査方法がもたらす回答の偏りの要因を2点のみに絞って、それらが有するインパクトの推定を試みる。繰り返しになるが、1つはモード効果で、もう1つはモニター効果である。2点だけとはいえ、いずれも調査方法論的に未踏の課題であって、単なる方法間の相違の記述を超える成果をもたらすものである。そして得られた知見は、それがもつ偏りゆえにしばしば疑いの眼差しを向けられがちなWeb調査の特性を理解するための資料としても有用となることだろう。

2. 研究方略・方法

2.1 使用するデータ

本稿では、分析目的に応じて3つのデータを使い分ける。まず第1に、モード効果を析

出するために使用される「東大社研高卒パネル調査」データである。第2に、モニター効果析出のために設計された調査手法比較研究用のデータから「郵送ランダム」と「郵送モニター」データを用いる。そして第3に、督促と有効標本の偏りとの関係を調べるための「仙台教育意識調査」データである。ではそれぞれの調査データについて、説明を加えよう。

「東大社研高卒パネル調査」は、2004年1月～3月に日本全国4県101校の全日制高校に通う高校3年生を対象として「高校生の生活と進路に関するアンケート調査」を実施した調査対象者を追跡したものである。高校調査では7,563人（回収率69.1%）から協力を得て、101校のうち78校（回収率77.2%）からは学校調査の回答を得た。

卒業後半年ほどたった2004年10月には、卒業後の追跡調査に協力を同意した2000名強の高卒者に「高校卒業後の生活と意識に関するアンケート調査」（高卒者）を、その保護者には同調査（保護者用）を郵送した。第2回目の追跡調査は2005年10月に実施し、調査票を高卒者に郵送し、郵送で回収した。2006年10月には第3回の追跡調査を高卒者、保護者に対して郵送した。2007年1月末日までに郵送とWebにより回収できたのは、高卒者549名（回収率27.9%）、保護者349名（回収率17.8%）であった。第4回目の追跡調査は2008年10月に、郵送とWebを併用して実施された。高卒者のうち530名から回収票をえた。

本分析で用いられるのは、郵送とWebという異なる調査モードを併用した2006年調査（第3回追跡）と2008年調査（第4回調査）である。前者では、507名が郵送、42名がWebにより、後者は507名が郵送、23名がWebで回答した。2回ともWebだった者は5名に過ぎない。どちらかだけWebで回答したケースは、同一対象者が異なる調査モードで回答した際の偏りを検討する貴重な資料となるのである。

次に、東京大学社会科学研究所受託研究の一環としてリクルートワークス研究所により行われた調査方法比較調査データである。比較調査は、2007年に、東京都の20歳から59歳までの男女を対象に実施された。ランダムサンプリングによる標本に対する郵送調査（郵送ランダム）、調査モニターに対する郵送調査（郵送モニター）、そして3つのWeb調査の、5つの調査が同時になされた。標本設計や回収率等の詳細は、萩原（2009a）を参照されたい。

それらのなかから、本稿では、郵送ランダム調査と郵送モニター調査のデータを比較分析のために用いる。これら両者は、ほとんど同一の調査票を使用し、ほぼ同時期に、同一の目標母集団を設定して、同一の調査会社により実施されたため、比較可能性がきわめて高い。唯一、実際に調査対象として選ばれたのが、有権者名簿から無作為抽出されたのか、それとも調査モニターのリストから割り当て抽出されたのかが、はっきりした違いである。これらを比べることにより、調査モニターがもつ特性を描き出すことがねらいである。

それから、筆者が独自に実施した「仙台教育意識調査」データである。同調査は2003

年2月に、仙台市在住の20歳以上70歳未満の有権者男女を対象として行われた郵送調査である。非層化二段無作為抽出によって選ばれた計画標本1,050名に対して574名の回収標本をえた。有効回収率は54.7%であった。

この調査データを用いる理由は、督促を比較的多く行ったこと（3回）と、督促の実施と回収に関する情報が豊富にあるので、督促の効果をみるのに都合がよいためである。

2.2 東大社研高卒パネルデータの分析法

前項で述べた複数のデータの分析にあたり、できる限りシンプルな統計分析によりアプローチするよう心がけた。次節で扱う分析結果の大半は、構成割合や属性相関係数、比率の差といった、クロス集計レベルで求められた結果を図示化したものである。それらは特に解説不要であろう。ただし、「東大社研高卒パネル調査」に適用する分析方法についてだけ、どうしてもパネルデータ分析の技法の1つである固定効果モデルを用いたゆえに、その補足説明が必要と思われる。

固定効果モデルとは、線形を仮定した従属変数に対するパネルデータ用の回帰モデルの一種である¹。パネルデータを使用するメリットとして、一般に、個人の観察されない異質性の統制が挙げられる。同じ個人の従属変数の値がいくつも観測されているので、それらの平均的傾向をいわば「個人特有効果」としてモデルに含めれば、個人の異質性を統制することができるわけである。その結果、独立変数が個人内で変わることによって、従属変数がやはり個人内で変わるとかどうかとらえられる。特に固定効果モデルは、個人の異質性を完全に統制したモデルであって、そこで残る説明されるべき変動はすべて個人内の話に帰せられる。

$$y_{it} = a_i + b_1 X_1(it) + b_2 X_2(it) + e_{it}$$

上の数式は、今回用いた固定効果モデルの構造方程式である。ここで X_1 はWeb調査での回答のときに1、郵送のときに0をとるWebダミー変数、 X_2 は2008年の回答は1、2006年の回答は0となる2008年ダミー変数である。Yは各々の従属変数である。ここで添え字がitとなっているが、iは個人、tは時間（調査時点）を示す。よってYもXも個人および時間とともに変わるということの意味する。 a_i は個人別の定数項であり、これが個体特有の効果となる。誤差 e_{it} も、個人・時間ごとに独自の値をとることが示唆される。

この式を推定することで算出される b_1 こそが、調査モード効果分析の際の根拠となる重要な値である。なぜならそれがパネルデータの固定効果モデルで求められることによって、同一の個人の中で、調査モードが郵送からWebに変わったときに、従属変数とした質問項目

¹ 固定効果モデルを含め、パネルデータの回帰分析技法についての説明は、北村（2005）、坂本（2007）、Hsiao（2003=2007）などを参照のこと。

への回答の変化量を示す値となるからである。そしてそれこそが、本稿でいう調査モード効果の有無を解釈するための実証的証拠なのである。

3. 結果

3.1 調査モード効果の析出

それでは、最初に調査モード効果の分析から始めたい。先述した、東大社研高卒パネル調査データセットを用い、同一個体内での調査モードによる違いを固定効果モデルによって取り出した。まず、日常生活の悩みに関する9項目における違いを図1に示した。参考として、2008年調査のダミー変数の効果も図示している。統計的に有意なもの（t比の絶対値が2以上）に限り、図中に斜体太字で数値を表示した。

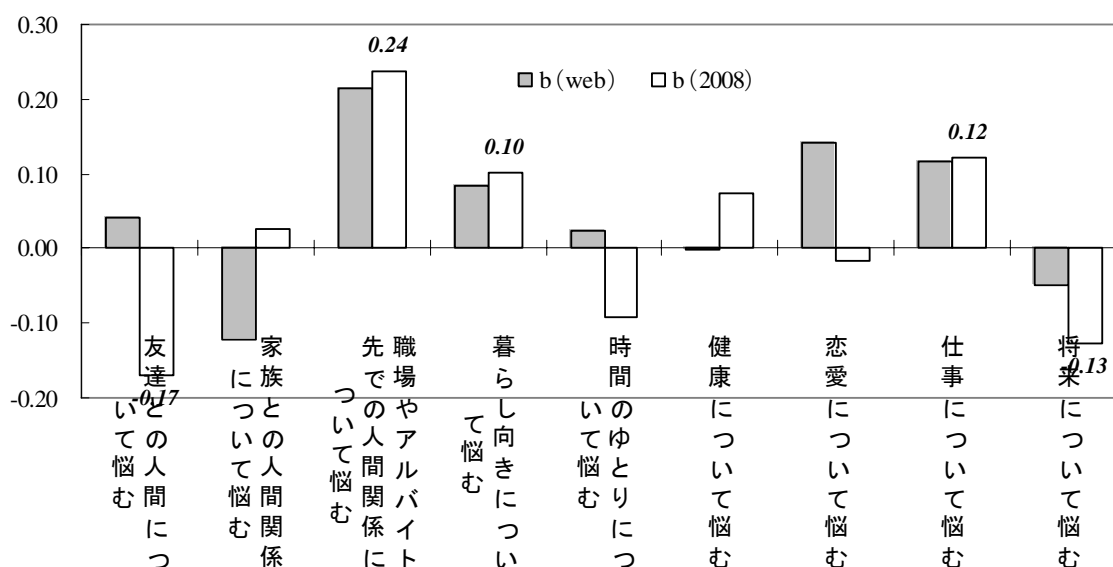


図1 日常生活における悩みに関するモード効果

図1によれば、日常生活の悩みについては、Web調査と郵送調査とのあいだで有意な違いはまったくみられない。同一個体の中であら、調査をWebで行おうが郵送で行おうが、回答の方向性に違いは出ないということである。Webで回答する時のほうが、悩みがあると報告したりするようなことはみられないし、その逆もみられない。では、これらの項目が意味ある差異が出ないものかといえ、そうではない。参考にした時点効果の係数をみると、2006年に比べて2008年時のほうが、将来のことや友人関係で悩むことは減る一方で、仕事や職場での人間関係、暮らし向きについては悩みが増えている。これは、この調査対象者が2006年時では21歳、2008年時は23歳であることから容易に理解できる。時代効果ではなく、おそらくライフステージが学生から社会人になったことの効果によって、悩みの変化がもたらされたのであろう。明らかに、仕事を中心に悩むように変貌したことが傍証となる。そのようなことも考慮しつつ、Webと郵送という調査モードによる効

果を再考しても、やはり当初の知見は覆されなかったとすべきであろう。

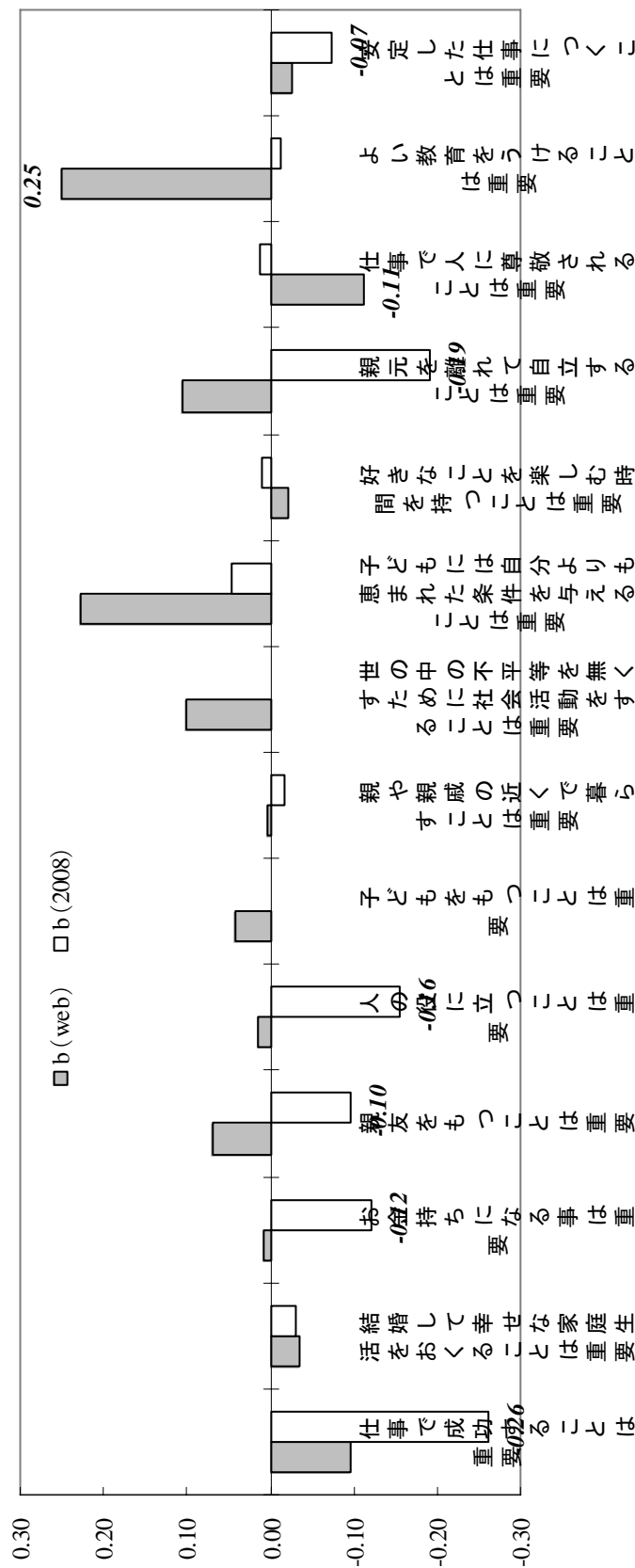


図2 人生にとって重要なものに関するモード効果

図2では、人生において重要なものは何か、項目それぞれに対して3件のスケールを設定して回答を得たデータに対して、Web調査の効果を調べている。こちらについても、Webという調査モード特有の効果があったようには思えない。まず全14項目中、統計的有意なものは2つだけである。符号の向きをみると、「仕事で人に尊敬されること」に対してマイナスで、「よい教育を受けること」に対してはプラスの効果がある。特に系統的に解釈しうる結果とはあまり思えない。仮に何らかの系統的な効果があるならば、時点効果のようにならなければならない。2008年調査ダミー変数の係数は、重要性項目の6つに対し、すべてネガティブに効いている。このようであれば、どうもこの2年間のあいだに人生におけるいろいろな重要性を低く判断する方向へと変化したらしいと考えることができるわけである。だが、調査モード間の差異についてはそうした意味のあるパターンを描いてはいえず、やはり基本的には効果なしとする見方が妥当であろう。

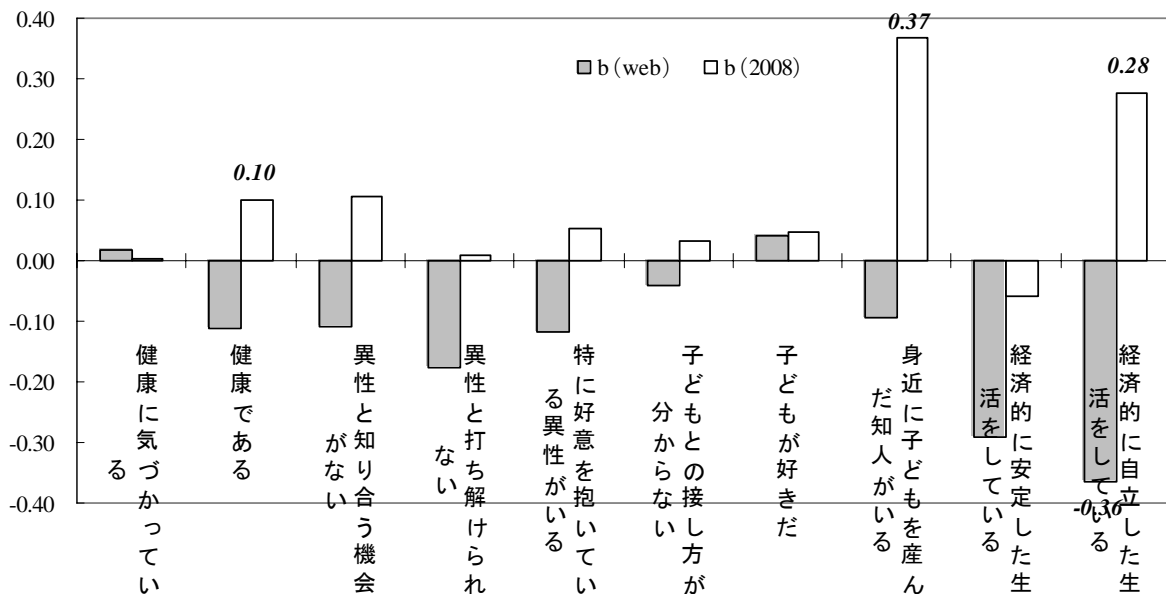


図3 日常生活にかかわる事からに関するモード効果

さらに図3に、日常生活にかかわるさまざまな事からに関する回答にみられる調査モード間の違いを表示した。ここでの結果も、これまで見たものと実に似ている。時点の効果は解釈可能であるが、調査モード効果はないとみるほかはないのである。時点の効果は再びライフステージの変化ととらえられるものである。つまり、経済的に自立したというのはこの2年の間に就職した者が多数を占めることで了解できるし、身近に子どもを産んだ知人がいるというのも従来からの知人が結婚・出産を迎える年代に上がってきたことを表すものであろう。しかし、Web調査で回答すると「経済的に自立していない」と答えやすいというのは理解しがたい。この証拠のみで、俗説的なインターネット依存型の「ひきこもり」や「ニート」を反映した結果と読むのは勇み足に過ぎる。なぜなら、それならば、

異性と知り合う機会にはマイナスの効果，異性と打ち解けられないにはプラスの効果，子どもとの接し方がわからないにはプラスの効果なども出てきそうだが，そういう証拠は得られていない．無理やりに解釈をするよりも，日常生活の事に対する調査モード効果があるという証拠は得られなかった，としておくのが素直なデータの読み方と思われる．

要するに，同一個体のなかで調査モードを変えたとしても，それが回答に影響するわけではないことが明らかにされた．本項での固定効果モデルに加えて，変量効果モデルでも同様に検討したところ，全33項目中で2つだけしか統計的有意にならなかった．統計的検定は，母集団レベルで完全に無関連でも，標本レベルで分析すると5%程度は誤って関連を取り出してしまうことが仮定されている．33項目のうち有意なものが2つか3つくらいという数字は，人為的に設定したそもそもの危険率とほぼ同水準の値である．したがって，今回検討した限りにおいては，Web調査と郵送調査とで実質的な回答分布の違いはみられなかったとするほうが適切であろう．同一個体であることを前提にした場合に，純粋な調査モード効果はみられなかったのである．

3.2 調査モニター効果の析出

調査モードの効果がそれほどではないとしたら，調査方法間の結果の違いを「応答してくれる人」の違いのほうに求めるのは自然である．ただし調査の方法が違えば，その方法によって調査に応じてくれるという無回答誤差の問題，それから標本設計段階の問題などさまざまな背景要因が複雑に絡むのは当然で，いったい何が結果の差異をもたらす主要因か見極めがたくなる．そこで本項では，同一の調査会社による2つの郵送調査から得られたデータの分析に特化して，調査モニターのもつ特徴を描くことを試みたい．

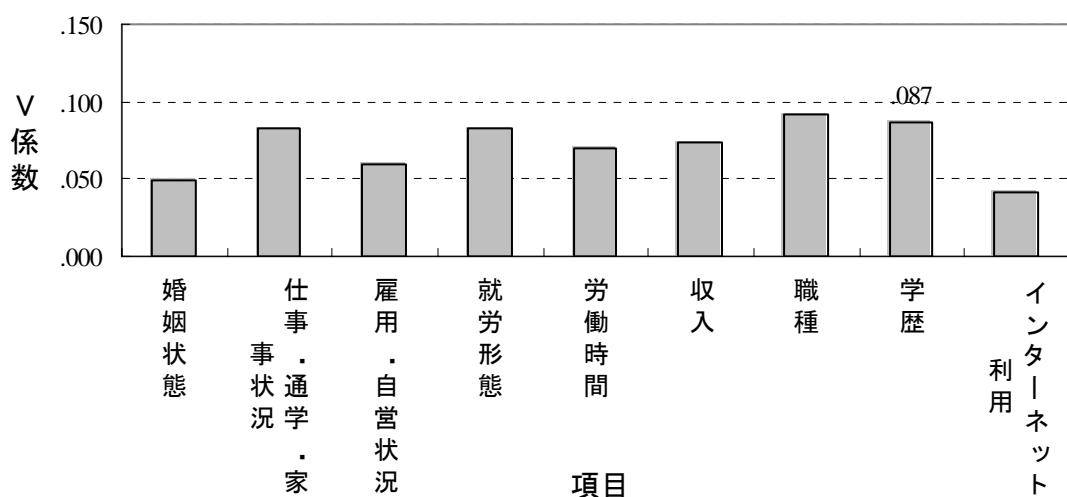


図4 郵送モニターと郵送ランダム属性回答の違い(Cramer's V)

図4には、属性項目について、郵送ランダム調査と郵送モニター調査のあいだでの回答の乖離の程度を示した²。それはクラメールのV係数で測られている。この係数は、2つの調査間で回答分布が完全に等しければ0になり、1に近づくほど両者の乖離が大きいという意味として読むことができる。なお、5%水準で有意なものに限り、値を表示している。

結果をみると、思いのほか、両者の違いが小さいことがわかる。統計的に有意な関連を示したのは9項目中で学歴ただ1つである。図表は割愛したが、郵送モニターのほうが学歴が高めになる傾向がある。ただし、関連の大きさを意味する係数の値そのものに注目すると、それが0.1を超えていて関連がそれなりに大きめとみなすべきものは(Babbie et al. 2003)、実際1つもみあたらない。それなりの分布のずれはあるが、郵送モニターと郵送ランダムのあいだで属性が大きく異なるわけではなかった。

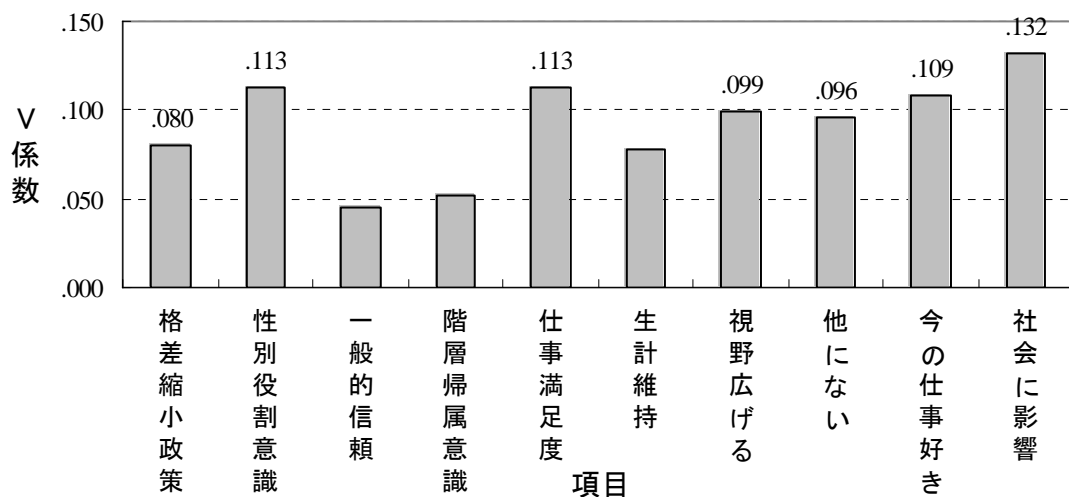


図5 郵送モニターと郵送ランダムの意識回答の違い(Cramer's V)

図5から意識について検討すると、全体的にもう少し関連が強いことがわかる。つまり、モニターの特異性が出るとしたら、それは属性よりも意識のほうにおいてであるということである。興味深いことに、モニターの意識がポジティブ、ネガティブなどどちらかへと偏っているということはあまりなさそうである。

意識における郵送ランダムに比べてのモニターの特徴を一言で述べると、回答が真ん中へと集中していることである。図表は割愛したが、図5で分析した10の意識項目のうち、無回答を欠損処理した上で平均値の差の検定をおこなうと、平均の差があるのは2項目(格差縮小政策への賛否、仕事をする理由：今の仕事が好き)に過ぎないが、分散の差があるのは6項目(性別役割意識、仕事満足度、仕事理由のうち4つ)もあった。仕事をする理由

² 無回答の出方もここでの分析の範囲内であるので、欠損値とせず1つのカテゴリーとした。なお、労働時間や収入はカテゴリー数がそれぞれ12、16と非常に多いが、他項目とそるえるためにいずれも(無回答も含めて)6カテゴリーへと統合した。

の回答分布を図示してその事実を図6により確認しよう。これは郵送モニターの回答比率から郵送ランダムを引いた値をプロットしたもので、もし両者のずれがなければ縦軸が0の位置をとるはずである。結果は一目瞭然であり、明らかに両端の選択肢において低い値になり、中央付近の選択肢では高い値となっている。これが先に述べたモニターにおける回答の真ん中への集中の証拠である。これがなぜかを特定するのは困難である。あえて可能性を考えてみると、モニターのほうが回答者内部が同質的であることや、モニターは「調査慣れ」をして極端な回答を避けるような傾向があるのかもしれない。

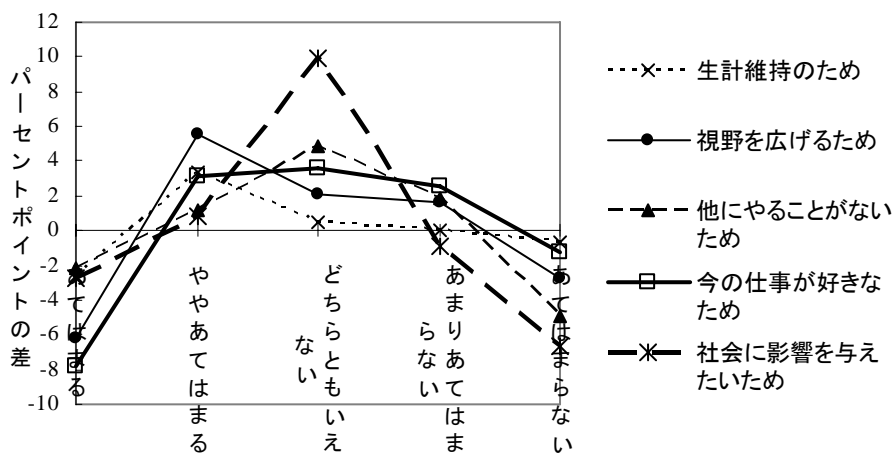


図6 「仕事をする理由」における郵送モニターの特徴 (郵送ランダムを基準とした回答のズレ)

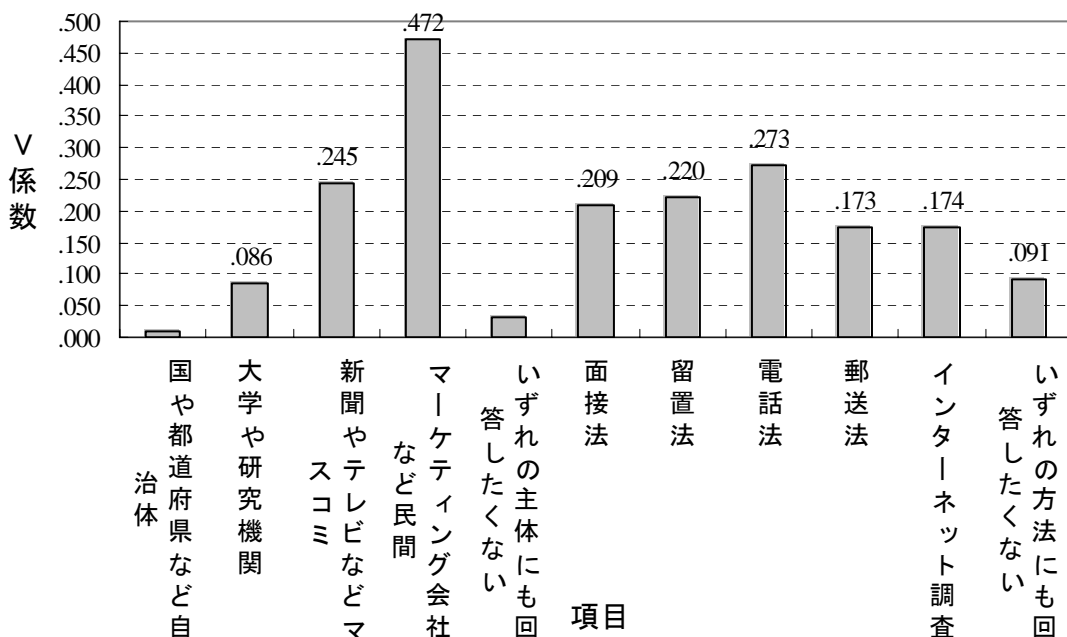


図7 郵送モニターと郵送ランダムを意識回答の違い (Cramer's V)

それよりも顕著な違いが観察されるのは、調査への協力性向についてである。図7は、さまざまな調査主体、さまざまな調査法の社会調査に対する協力性向ないし選好における郵送ランダムとモニターの違いを示している。属性、意識などのときとは比べものにならないくらい、両者の違いが際立っている。とりわけ、マーケティング会社など民間企業の調査を許容するかどうかで違いが大きい。これは、調査モニターはこの時点で既に調査会社にモニター登録しているのであるから、ある意味当然であろう。それ以外の選択肢のほとんどでも、両者の回答は異なる。再び図表は割愛するが、ここで統計的に有意差がある項目ほとんどすべてにおいて、モニターのほうがポジティブな回答をしている。要するに、モニターに登録してくれるくらいだから、調査に回答をする気でいてくれやすい。調査への協力性あるいはやる気が、この両者ではまったく違うわけである。

ただし1つだけ例外があったことを付言しておこう。それは、大学・研究機関の調査を許容するか、という選択肢で、これについては郵送モニターの正応答率は郵送ランダムを下回った。この事実は次のように解釈されうる。比較のための5つの調査のなかで、郵送ランダム調査のみ、選挙人名簿閲覧の必要上、東京大学社会科学研究所が実施主体であると銘打って実査がなされた。そこで、大学・研究機関に信頼を置きやすい人が、郵送ランダム調査に回答しがちであったのではないかと思われる。そうした事前の選択バイアスもあって、大学・研究機関の調査に関する項目の結果だけが、逆の挙動を示したのではないだろうか。

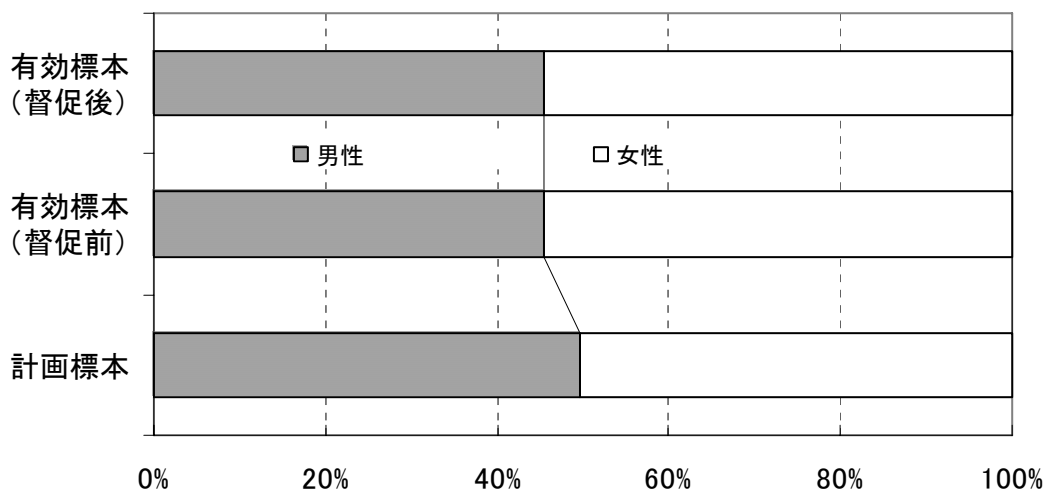


図8 督促と有効回収標本の偏り: 性別

3.3 督促と有効回収標本の偏り

郵送調査では、督促をすることによって回収率を上げることができることはよく知られている (Mangione 1995=1999)。回収率が低い郵送調査は、有効回収標本の中に調査に非常に協力的な人が多くなり、モニターに性質が近くなるかもしれない。そこで、郵送調査に

において督促によって回収率が上がると、本来とらえたい集団の特性に近づくのかどうかを検討してみた。

先述の仙台教育意識調査データを用いて、計画標本において情報のわかっている、性別、年代、居住地域の3変数の分布を求めた。なお計画標本の標本規模は1,050で、督促なしで回収できた有効標本規模は457（この時点で回収率は43.5%）、督促をして以降に返送された追加分の有効標本規模は117であった（最終的な回収率は54.7%）。計画標本、督促前時点での有効標本、督促後の最終的な有効標本を比較した分析結果は、以下の図8～図10に示されている。

性別については、督促前にあった偏りがそのまま維持された。督促して追加的に回収できた標本も、督促前のそれとほとんど男女比が変わらなかったのである。結果的に、女性は過大なままとなっている。よって、督促により回収率が上昇しても、偏りを補正する結果とはまったくならなかった。

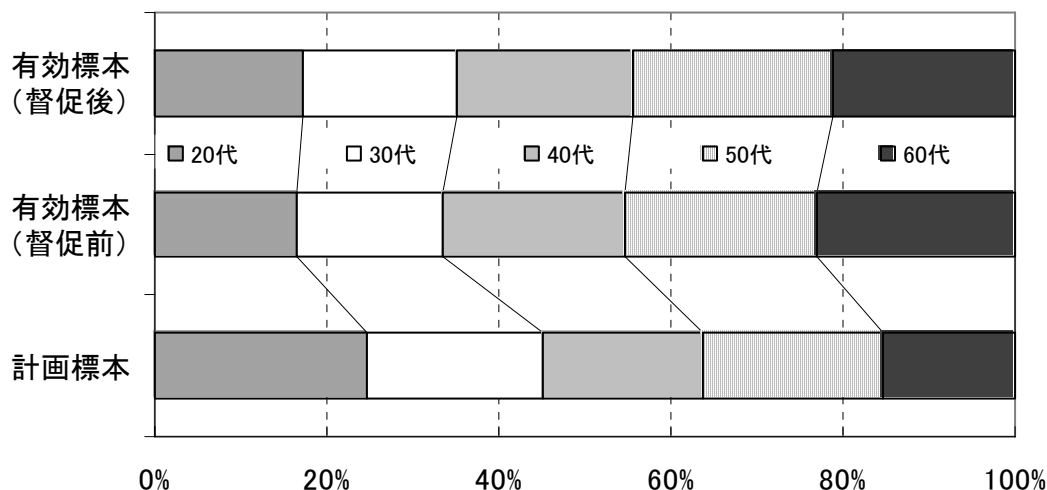


図9 督促と有効回収標本の偏り: 年代

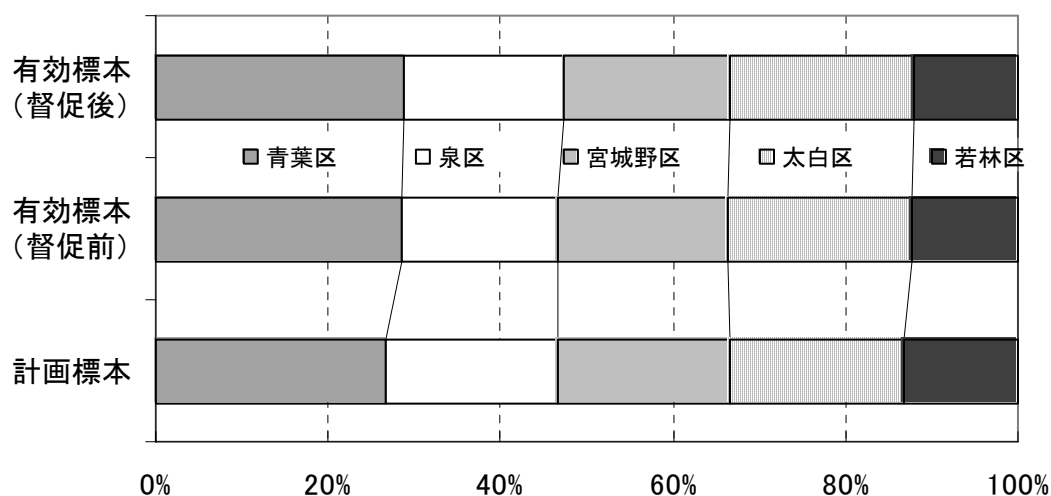


図10 督促と有効回収標本の偏り: 居住地域

だが年代は、わずかではあるが督促によって回答分布が計画標本における分布に近づいた。図9でみると少ししか変わっていないように見えるが、それは督促前に回収できた標本の規模が督促後のそれよりも4倍ほど大きいためである。督促後の有効標本だけをみると、60代が少なめで、30代が多めとなっており、補正というべき方向への変化をもたらしている。ただし、そのインパクトは必ずしも大きいとはいえない。

居住地域に関しては、督促前の段階でもそれほど計画標本からずれておらず、督促後もそれは変わっていない。常にこうした結果が出るとは保証し得ないが、今回に限っては、地域間の非回収バイアスはあまりなかったといっていよう。

ここでの結論としてまず言わねばならないのは、偏った分布の補正という側面においては督促の効果はあまり期待できないということだ。仮に60%台の回収率を80%台、90%台にまで引き上げることができるなら、確かに有効標本における回答分布は計画標本のそれへと徐々に近づいていくことが予想されるだろう。だが郵送調査が直面しているのは、どうにか50%を目指し、20%とか30%程度の回収率から督促をかけていくという現実ではなかろうか。そのような局面では、督促をしたとしても、それに反応して返送してくれるのは、督促なしで返送した人びとと似たような属性をもった人である蓋然性が高い。そのため、分布を補正する効果は小さい。しかも、督促により新たに回収できる標本規模が、当初に回収できた標本規模を上回るようなことはほとんど考えられないので、量的に劣るがゆえに影響力も乏しいことだろう。郵送調査において督促を誠実におこなうべきことを否定する気はまったくないものの、督促に分布の偏りを補正する役割を期待するのは荷が重過ぎる。督促が果たすことのできる役割として強調されるべきは、分析に利用できる有効標本規模を大きくすることなのである。

4. まとめ

本稿では、調査方法による回答結果の違いをもたらす要因を探るために、調査モード効果と調査モニター効果に絞って検討を進めた。できる限り当該の要因だけによる差異を取り出そうとして設計された分析枠組みのもとで、従来の研究で明らかにできていなかった事実の一端に迫ることができた。

調査モード効果は、本稿の検討の範囲ではみられなかった³。単なる方法間比較ではなく、同一の個人の中での調査モードによる回答の違いをパネルデータ分析技法で再検討したところ、統計的な有意差がみられる質問項目はあまりなかった。加えて、調査モード効果の推定値とみなした係数の符号は、プラスのものもあればマイナスの場合もあり、特に系統的に定まっている様子はみられなかった。したがって、今回の分析結果から、調査モード効果があるとみるスタンスをとることはできない。

³ アプローチは異なるがJMRA調査研究委員会分科会（2005）でも、郵送とWeb調査について、モードの違いが回答に及ぼす影響は小さいとされている。

調査モニター効果としては、以下の点が指摘できる。モニターとランダムに抽出された回答者とは、調査に対する協力性向が大きく異なる。モニターとはまさに調査のために登録された人びとであり、調査を苦にしない、もしくは調査を喜んでおこなう性質の人から成っているのである。だがそれが質問への回答を大きく左右するののかといえ、必ずしもそうとはいえない。郵送法という方法の枠内で比較する限り、属性は学歴をのぞけば少しだけしか変わらないことが明らかとなった。意識項目の分布には、郵送モニターと郵送ランダムとで違いがあるけれども、それは平均の位置が系統的にずれるということではない。むしろ、分散すなわちバラツキが異なることに特徴がある。調査モニターは回答が中央に集中しがちで回答の分散が小さいのだ。これの解釈可能性としては、モニターの内部が同質的であること、モニターは調査に繰り返し回答するうちに極端な選択肢を避けるようになること、などが考えられる。ある程度調査をやる気がある人びとがモニターに残っているので、いい加減な回答をしているとは見るべきではないだろう。いずれにせよ、ここでみられたモニターでは分散が小さくなる現象は、今後追試で確認され、原因に迫る必要があると思われる。

郵送調査における督促が回答分布を補正する効果をも検討したが、得られた結果はそれに否定的なものであった。督促をしっかりと行えば回収率が上がり、本来とらえたい母集団の姿に近づくのではないかと素朴に思われるのだが、それは期待できない。もちろん回収率の非常に高いところならば補正効果はあるのかもしれない。まったく現実的ではないが、督促によって100%回収できてさえしまえば、無回答誤差はゼロで、計画標本からの乖離は皆無になるはずだ。しかしながら、郵送調査の現実的状况である、回収率3割ないし4割前後において、督促でそこから回収率を1割ほど上げて、回答分布の補正にはほとんど寄与できないのである。

さて以上のように個別に効果を検討してみると、意外なほどに、ひとつひとつの効果は小さかった。では我々が通常目にしてきた、調査方法間の大きな結果の違いは何だったのか。それを解く鍵は、本稿であえて外していた要因にあるように思われる。つまり、調査モード自体ではなく、調査モニターだということでもなく、それぞれの調査方法によってどのような人が協力してくれるか、調査方法と回答者層との対応関係の問題である。どういうタイプの人かどの調査ならば応諾してくれるのか、調査法選好の問題はこの先真剣に取り組まれるべきであろう。本多（2009）はその嚆矢となる重要な研究成果として位置づけられる。

最後に、本稿における分析の限界を率直に述べたい。まず調査モード効果抽出のためにおこなったパネルデータ分析についてである。調査データそのものは500名弱というそれなりの標本規模であったが、Webでの回答をした者が少ない（一度でもWebで回答したのは60名）。それゆえ、Web回答のサンプルが小さすぎて検定力がなく、本来はあるはずの調査モード効果を発見できなかったのかもしれない。また、Webで回答するというのは、

調査者側がランダムに割り当てたわけではなく、対象者自身が選んできたものである。よって何らかのサンプルセレクションバイアスが隠れている可能性もある。これらをクリアできる実験的調査によって、本稿の結果は確認されるべきであろう。

そして、調査モニター効果についてもまだ再検討の余地がある。郵送の中でのランダムサンプリングデータとモニターの比較に今回の分析が限られていたので、モニターが最もよく使われる Web 調査においても同じ話が通用するかはわからない。すなわち、Web 調査にまで議論の射程を伸ばしたときには、外部妥当性が保証されないのである。この点も新たな調査計画を要求するところだろう。調査方法と結果の関係というテーマが、調査の科学として真摯に取り組むにふさわしい問題群を形成しているのは間違いなく、そこではまだまだやらねばならないことが山積しているのである。

【文献】

Babbie, E., F. Halley, and J. Zaino., 2003, *Adventures in Social Research (5th edition)*., Pine Forge Press.

Groves, R. M., F. J. Fowler Jr., M. P. Couper, J. M. Lepkowski, E. Singer, and R. Tourangeau, 2004, *Survey Methodology*, Wiley.

萩原牧子, 2009a, 「第 1 期調査設計と基本分析」『信頼できるインターネット調査法の確立に向けて』(SSJDA Research Paper Series 42) 東京大学社会科学研究所: 頁未定 (印刷中) .

———, 2009b, 「第 2 期調査設計と基本分析」『信頼できるインターネット調査法の確立に向けて』(SSJDA Research Paper Series 42) 東京大学社会科学研究所: 頁未定 (印刷中) .

本多則恵, 2009, 「調査法が回答者を選ぶ?—調査法(訪問・郵送・インターネット等)と無回答誤差の関係—」『信頼できるインターネット調査法の確立に向けて』(SSJDA Research Paper Series 42) 東京大学社会科学研究所: 頁未定 (印刷中) .

———・本川明, 2005, 『インターネット調査は社会調査に利用できるか—実験調査による検証結果—』(労働政策研究報告書No.17) 労働政策研究・研修機構.

Hsiao, C, 2003, *Analysis of Panel Data (2nd edition)*, Cambridge University Press.

(=国友直人訳, 2007, 『マイクロ計量経済学の方法—パネル・データ分析—』東洋経済新報社.)

北村行伸, 2005, 『パネルデータ分析』(一橋大学経済研究叢書 53) 岩波書店.

前田忠彦・大隅昇, 2006, 「自記式調査における実査方式間の比較研究」『ESTRELA』143: 12-19.

Mangione, T. W, 1995, *Mail Surveys: Improving the Quality*, Sage. (=林英夫監訳, 1999, 『郵送調査法の実際—調査における品質管理のノウハウ—』同友館.)

- 三輪哲, 2009, 「調査方法による回答分布の偏りの相対的布置」『信頼できるインターネット調査法の確立に向けて』(SSJDA Research Paper Series 42) 東京大学社会科学研究所: 頁未定 (印刷中) .
- JMRA 調査研究委員会分科会, 2005, 『平成 16 年度調査研究委員会報告書 マルチモード調査の有効性検証』日本マーケティング・リサーチ協会.
- 坂本和靖, 2007, 「パネルデータ分析」筒井淳也ほか『Stata で計量経済学入門』ミネルヴァ書房: 137-172.

第 2 部

第6章 第2期調査設計と基本分析

萩原牧子

1. 調査設計

1.1 比較調査の目的

1カ年目の実験調査の知見を踏まえ、2カ年目はインターネットモニター調査の可能性について実践的に検証する。具体的には、住民台帳の使用が制限されるもとで、エリアサンプリング訪問留め置き法という従来型調査に準じた方法で実施されている大規模、大量設問での社会調査と並行して、同規模でインターネットモニター調査を実施し、両調査の回答の差を比較分析する。

1.2 調査設計詳細

(1) 調査対象と割付、調査期間

調査対象は正規社員・正規職員、契約社員・嘱託、派遣、パート・アルバイト、業務委託として2008年7月最終週に1日でも就業している、18から59歳の男女(学生除く)で、調査エリアは首都圏50km圏内である。就業構造基本調査(2007)のデータから、性別・年齢別5歳階級別に、「正規社員・正規職員グループ」と、「それ以外グループ(契約社員・嘱託、派遣、パート・アルバイト、業務委託)」に分け、割付を行った(表1)。サンプル数は6500名(男性3745名、女性2755名)である。訪問留め置き調査は地点を抽出後、エリアサンプリングにて、インターネットモニター調査は、割付をさらに都県別まで設計し、対象エリアのモニターに調査を依頼した。両調査、回収目標が達成するまで調査を継続したが、インターネットモニター調査は、18～19歳と女性の55～59歳のセルは、依頼できるモニター数が少なく、数回の督促の後、未達成で終了した。回収不足数は表2のとおりである。また、インターネットモニター調査は、回収目標を超えた割付セルについては、セル内で無作為抽出した。

表1 割付表(人)

	正規	それ以外
男性	3,172	572
18～19歳	13	41
20～24歳	177	154
25～29歳	398	96
30～34歳	525	69
35～39歳	541	56
40～44歳	455	38
45～49歳	365	31
50～54歳	328	31
55～59歳	370	57
女性	1,263	1,492
18～19歳	6	47
20～24歳	164	155
25～29歳	243	153
30～34歳	208	173
35～39歳	178	192
40～44歳	135	204
45～49歳	109	193
50～54歳	105	174
55～59歳	115	201

表2 モニター調査回収不足数(人)

	正規	それ以外
男性	-6	-34
18～19歳	-6	-33
20～24歳	0	-1
25～29歳	0	0
30～34歳	0	0
35～39歳	0	0
40～44歳	0	0
45～49歳	0	0
50～54歳	0	0
55～59歳	0	0
女性	-5	-35
18～19歳	-1	-35
20～24歳	0	0
25～29歳	0	0
30～34歳	0	0
35～39歳	0	0
40～44歳	0	0
45～49歳	0	0
50～54歳	0	0
55～59歳	-4	0

(2) 調査設問, 調査

働く人々の就業に関する実態と意識を明らかにすることを目的に、多くの設問を投入している。その量は、通常の質問紙で実施した訪問留め置き調査でいうと A4 で 16 ページで、大設問だけでも 70 を超え、それに多数のサブ設問が加わる。これだけの分量の調査設問を 6500 という大量のサンプル数で、訪問留め置き調査とインターネット調査で同時に実施したのは、先行研究では類をみない。【調査票－付属資料 V】

設問は、プロフィール（性別、年齢、年収、家族構成、学歴、生活意識）、就業実態（現在の就業形態、勤務先の属性、職種、労働時間、勤務先選択理由、満足度、初職など）、転職経験（転職経験、退職理由、転職前後の状況と変化など）、これからの働き方（雇用不安、転職意識など）、能力と学習行動（能力に対する自己評価、学習行動など）といった働くことにまつわる設問に加え、調査手法研究に関する設問として、パソコンを使ったインターネット利用頻度や、調査モニター登録有無、協力してもよい調査について問うている。

(3) 調査期間, 謝礼, その他

調査期間は、訪問留め置き調査が 2008 年 8 月 19 日～10 月 14 日で、インターネットモニター調査が 2008 年 8 月 28 日～9 月 8 日である。謝礼は、訪問留め置き調査は、調査票回収時に 500 円の商品券を、インターネットモニター調査は調査会社の通常の方法に準じた。調査を実施するにあたり、調査主体者の名前は、両調査とも明記していない。なお、両調査とも同じ調査会社に実施を依頼した。

(4) 回収エリア

先述のとおり、訪問留め置き法がエリアサンプリング法により、ランダムサンプリングに準じている一方、インターネットモニター調査は、都県別の割付まで設計し、対象エリアのモニターに調査依頼をするほかは、詳細のコントロールはできていない。この方法だと、インターネットモニター調査の回答者は、都県単位までは割付どおり回収できても、その中の詳細エリアが偏ってしまう可能性がある。

これを検証するため、回収エリアを表 3 に整理した¹。エリアサンプリング法を実施している訪問留め置き法のエリア分布と比較してみると、結果的にはインターネットモニター調査も同じように分布して回収できており、懸念していたエリアの偏りは見られないという興味深い結果となった。

¹ なお、首都圏 50 km 圏内で調査を実施すると、茨城県の一部が含まれるが、インターネットモニター調査では、該当エリアのモニター登録者が少なく、割付での回収コントロールが実現不可能であったため、このエリアだけ調査を断念した。よって、訪問留め置き調査だけ、茨城県の一部のサンプリングが実施されている。2つの調査手法の回答を比較する際、訪問留め置き法だけに含まれる茨城県の一部の回答者の質が、ほかの訪問留め置きの回答者と違う（差がある）ならば、省いた上で比較すべきだが、X²乗検定の結果、ほとんどの設問（有意差がやすい学歴を含め）で有意な差が見られなかったため、首都圏 50 km 圏内の対象者として特異ではないと判断し、データを省かずに分析対象とした。

表3 回収エリア比較

東京			神奈川			千葉			埼玉		
	(n数)			(n数)			(n数)			(n数)	
	ネット	訪問		ネット	訪問		ネット	訪問		ネット	訪問
あきる野市	8	20	愛甲郡愛川町	7		印西市	14		さいたま市浦和区	28	40
稲城市	22	20	綾瀬市	15	20	印旛郡栄町	5	20	さいたま市岩槻区	21	20
羽村市	9		伊勢原市	1		印旛郡酒々井町	6		さいたま市見沼区	41	20
葛飾区	79	80	横須賀市	64	80	浦安市	49	40	さいたま市桜区	22	20
江戸川区	130	120	横浜市旭区	49	60	我孫子市	20	20	さいたま市西区	17	20
江東区	95	80	横浜市磯子区	35	40	鎌ヶ谷市	18	20	さいたま市大宮区	29	20
港区	53	40	横浜市栄区	16	20	君津市	13	20	さいたま市中央区	24	20
荒川区	44	40	横浜市金沢区	40	40	佐倉市	25	40	さいたま市南区	45	20
国分寺市	23	20	横浜市戸塚区	52	60	四街道市	13	20	さいたま市北区	32	40
国立市	8	20	横浜市港南区	54	40	市原市	43	40	さいたま市緑区	18	40
狛江市	11		横浜市港北区	88	60	市川市	134	100	ふじみ野市	16	20
三鷹市	23	40	横浜市神奈川区	53	40	習志野市	41	40	越谷市	73	80
渋谷区	51	60	横浜市瀬谷区	22	20	松戸市	118	100	桶川市	8	20
小金井市	23	20	横浜市西区	25	20	成田市	24		吉川市	12	20
小平市	24	40	横浜市青葉区	77	60	千葉市稲毛区	32	20	久喜市	8	
昭島市	18	20	横浜市泉区	34	40	千葉市花見川区	46	40	狭山市	34	20
新宿区	55	60	横浜市中区	37	20	千葉市若葉区	20	40	戸田市	34	40
杉並区	115	120	横浜市鶴見区	53	60	千葉市中央区	40	40	幸手市	15	20
世田谷区	142	160	横浜市都筑区	50	40	千葉市美浜区	38	20	鴻巣市	16	40
清瀬市	16	20	横浜市南区	37	60	千葉市緑区	19	20	坂戸市	22	20
西多摩郡瑞穂町	7	20	横浜市保土ヶ谷区	49	40	船橋市	126	120	三郷市	23	20
西多摩郡日の出町	4		横浜市緑区	41	40	袖ヶ浦市	8	20	志木市	22	20
西東京市	28	40	海老名市	29	40	長生郡長柄町	2		春日部市	53	60
青梅市	18	20	鎌倉市	27	40	柏市	87	80	所沢市	82	80
千代田区	14		茅ヶ崎市	37	40	白井市	8	20	上尾市	43	40
足立区	108	140	厚木市	26	40	八街市	6	20	新座市	34	40
多摩市	33	20	高座郡寒川町	8	20	八千代市	44	40	川越市	65	60
台東区	32	20	座間市	27	20	富津市	2		川口市	113	100
大田区	123	140	三浦郡葉山町	4		木更津市	29	20	草加市	59	40
中央区	26	20	逗子市	9	20	野田市	23	20	朝霞市	30	20
中野区	71	40	川崎市宮前区	68	40	流山市	38	40	鶴ヶ島市	16	
町田市	70	80	川崎市幸区	34	20	総合計	1091	1020	南埼玉郡宮代町	4	20
調布市	47	40	川崎市高津区	51	40				南埼玉郡白岡町	9	
東久留米市	23	20	川崎市川崎区	33	40				日高市	11	20
東村山市	19	20	川崎市多摩区	61	40				入間郡三芳町	8	20
東大和市	7	20	川崎市中原区	60	60				入間郡毛呂山町	9	20
日野市	22	40	川崎市麻生区	35	40				入間市	23	20
八王子市	93	120	相模原市	133	140				八潮市	9	
板橋区	93	100	足柄下郡湯河原町	1					鳩ヶ谷市	15	20
品川区	58	80	大和市	46	40				飯能市	14	
府中市	44	60	藤沢市	78	60				比企郡吉見町	1	
武蔵村山市	10	20	総合計	1666	1600				比企郡川島町	4	
武蔵野市	23	20							富士見市	27	20
福生市	8	20							北葛飾郡栗橋町	5	20
福生市	8	20							北葛飾郡松伏町	5	
文京区	33	40							北葛飾郡杉戸町	9	20
豊島区	71	40							北葛飾郡鷺宮町	6	
北区	75	60							北埼玉郡騎西町	1	
墨田区	33	60							北足立郡伊奈町	8	
目黒区	53	40							北本市	8	20
立川市	25	40							本庄市	2	
練馬区	129	140							蓮田市	17	20
総合計	2349	2500							和光市	26	
									蕨市	19	
									総合計	1295	1240

2. 基本分析

2.1 クロス集計による検証

2つの調査手法と抜粋設問とのクロス集計を作成した【付属資料VI】。以下、特徴を列挙する²。

(1) 基本属性の比較

インターネットモニター調査の回答者は既婚率（F3）が54.4%と、訪問留め置き調査（64.9%）に比べて低い。特に女性の30代でその差は大きく20ポイントの差が見られる。子供がいる割合（F5）も、インターネットモニター調査の回答者は46.0%に対して訪問留め置き調査は63.6%と差が大きく、男女ともに30代、40代での差が顕著である。同居家

² 性別・年齢別の特徴に触れているが、設問数が多いため、クロス集計の掲載については、両調査の全体比較に限定している。

族については、訪問留め置き調査回答者は配偶者や子供、あるいは親との同居率が高いのに対して、インターネットモニター調査は一人暮らしの割合が高くなる。年代別に見ると、10代から30代にかけてインターネットモニター調査の一人暮らし率は訪問留め置き調査より20ポイント以上高くなる。

学歴（F9）は、インターネットモニター調査回答者の大学卒の割合が高く44.4%だが、訪問留め置き調査では28.5%にとどまる。一方、高等学校卒は訪問留め置き調査が38.2%に対して、インターネットモニター調査は23.3%と、手法間で差が顕著である。また、中退経験（F10）は差がみられないが、中退経験者の中退した教育機関については、インターネットモニター調査回答者が大学中退の割合が高い（49.1%）のに比べ、訪問留め置き調査は高等学校の中退の割合が高い（40.0%）。

平均年収（F4）は、インターネットモニター調査回答者の平均が463.66万円に対して、訪問留め置き調査回答者は407.98万円である。また、数人レベルではあるが、3000万円を超える高額年収の人が見られるのもインターネット調査の特徴といえるだろう。

住居形態（F8）は、訪問留め置き調査回答者の一戸建ての割合が高く54.9%である。インターネットモニター調査は逆の傾向で、アパート・マンション（共同住宅）の割合が59.3%を占める。また、アパート・マンション（共同住宅）居住者のなかで、オートロックがある割合にも差がみられ、インターネットモニター調査回答者では36.7%だが、訪問留め置き調査では19.1%である。

（2） 就業状況、理由

業種（Q6）は、訪問留め置き調査回答者、インターネットモニター調査回答者ともに分散しており、それほど大きな差はみられないが、訪問留め置き調査は卸売、小売業の割合が比較的高く、インターネットモニター調査では情報通信業がやや高い。

労働日数（Q9）は、男性の週6日労働の割合が、訪問留め置き調査では29.2%で、インターネットモニター調査（14.0%）よりも高い。ただし、週労働時間には大きな差はみられない。

勤務先の選択理由（Q5）、一生の仕事とするものを決めているか（Q15）、仕事の段階（Q16）は、目立った差が見られなかった。

退職経験（Q33）は大きな差は見られず、両者とも経験ありが65%前後であるが、退職経験者の退職回数はインターネットモニター調査回答者のほうが多い傾向がある。退職理由（Q34）は、結婚、出産を理由にした退職の割合が訪問留め置き調査の女性において高い。転職の際の情報源（Q36）は、訪問留め置き調査の回答者で縁故の割合が37.0%（インターネットモニター調査24.6%）と高い。また、インターネットモニター調査回答者の若年層においては、インターネットの転職情報サイトの割合が高くなる。

能力の自己評価（Q49）は、「円満な人間関係を築く力」や「人と協力しながら物事に取り組む力」など人に関わる能力が、インターネットモニター調査回答者で「持っていない（計）」の割合がやや高くなり、一方で「情報を収集・分析して、課題を発見する力」や「課

題解決のための計画を立案する力」は、インターネットモニター調査回答者のほうが「持っている（計）」の割合が高くなる。そのほかの能力は、大きな差は見られない。

（3） 就業意識，意向

職場満足（Q8），仕事満足（Q12），仕事をするに対する意欲（Q3），困難に対する強い意志（Q14），成長実感（Q13），雇用不安（Q48）など，満足度や就業意識に関しては，インターネットモニター調査回答者のほうが，ネガティブな回答傾向である。

副業意向（Q47）は，インターネットモニター調査の意向あり（計）が5割近くと，訪問留め置き調査（2割強）に比べ高い。

転職意向（Q43）も，独立意向（Q46）も，同じくインターネットモニター調査回答者が高く，転職意向があり（計）は55.2%（訪問留め置き調査は43.9%），独立意向あり（計）は40.5%（訪問留め置き調査は24.1%）である。ただし，転職意向に差があっても，先に見たように転職経験については差がないことは留意しておきたい。転職の阻害要因（Q44）は，訪問留め置き調査回答者において，「子供の養育費」や「家族の理解が得られない」などの家庭的要因をあげる人の割合が高くなる。

（4） 調査協力意向，インターネット利用頻度

どの調査なら協力してよいか（F17）は，訪問留め置き調査回答者では，どの調査にも協力したくない人の割合が40.3%と，インターネットモニター調査（2.7%）に比べると大きな差がある³。各手法の回答者のそれぞれの調査手法に対する協力意向度が高いのは当然だが，インターネットモニター調査回答者は，郵送調査への協力意向度が高い（60.4%）ほかは，協力意向度が低くなるのに比べ，訪問留め置き調査回答者は，郵送調査への協力意向度が比較的高い（32.5%）ことは同じ傾向であるが，インターネット調査に対しても22.0%と，ほかの手法に比べて高いことが興味深い。

パソコンを使ったインターネット利用頻度（F15）は，インターネットモニター調査回答者の9割以上が，ほぼ毎日利用しているのに比べ，訪問留め置き調査では5割程度で，まったく利用していない割合も13.9%。訪問留め置き調査は，男女ともに年齢が高くなるにつれて利用率が低くなる傾向がある。

以上，訪問留め置き調査とインターネットモニター調査の回答を比較した。第1期の実験調査を含め，先行研究でいわれてきたように，インターネットモニター調査回答者の学歴が高く，情報通信業の割合が高く，既婚率が低く，意識がネガティブという傾向が，この訪問留め置き調査との比較でも見られた。さらに，設問数が多い今回の調査比較より，一人暮らしが多く，アパート・マンション（共同住宅）居住者が多く，人に関わる能力が低い一方，課題解決に対する能力が高いという傾向が明らかになった。また，勤務先の選

³ この回答は「訪問留め置き法で回答してくれた人」による回答であるため，実際には，協力意向度はさらに低くなるものと予想される。

択理由や、一生の仕事とするものを決めているか、仕事の段階など、目立った差が見られない設問があることが示された。

一方、退職経験や1週間の労働時間には差はないという、第1期の実験調査とは違う傾向も見られた。今回は調査対象が働いているひとであり、年齢5歳階級別で就業形態別の割付を行っていることや、訪問留め置き調査回答者との比較であることなど、さまざまな要因により結果に違いが生じていると思われる。

また、どの調査なら協力してよいか、調査手法による協力意向度については、第1期の郵送調査とインターネットモニター調査の回答者よりも、さらに、今回の訪問留め置き調査の回答者のほうが、あらゆる調査に対して協力意向度が低い傾向が確認された。ただし、これらの手法が違う回答者内でも、郵送調査に続いて、インターネット調査への協力意向度が比較的高く、一方、訪問面接法や電話調査が低いという、共通する傾向がみられた。

2.2 回答者の偏りの分析

以上で、訪問留め置き調査とインターネットモニター調査の回答を比較し、学歴や既婚率など、さまざまな設問で顕著な差があることが整理された。ただし、2つの調査間の比較だけでは、どちらの回答が正しい値から偏っているのかは判断できない。ここでは、代表性が高く、入手可能な比較データとして、総務省の就業構造基本調査2007（のち就調）と国勢調査2005（のち国調）を利用し、個人属性について男女別の比較分析を試みる。その際、条件を統一するために、東京都、20～59歳、就調と国調では今回の訪問留め置き調査とインターネットモニター調査が対象を雇用者（役員を含まない）としているのに合わせて、有業者に限定した。詳細の区分が違うため、正しく比較するためには、さらに就業形態の単位（正社員や、非正社員、もしくは、アルバイト・パートといったグループ）での比較が必要になるのだが⁴、項目によっては、それより大きい単位である雇用者（役員を含

⁴ 就調と国調の区分では、有業者＝自営業者＋家族従業員＋雇用者（会社などの役員＋正規職員・従業員＋パート＋アルバイト＋労働者派遣＋契約社員＋嘱託＋その他）である。右ページの下表では就調（2007）の有業者の内訳を、比較対象である20～59歳のデータに加工した。今回の実験調査は役員を含まない雇用者だけを対象としているため、雇用者単位で比較しても、役員の方だけデータに差がでてしまう。望ましいのは、その下の単位である、各就業形態別に比較することであるが、項目によっては、雇用者（役員を含める）、もしくは、有業者でしか、データが公開されていない。その影響は年齢が高くなるほど、また、女性より男性のほうが大きい、全体の傾向を変えてしまうほどの差ではないと思われるので、できるだけ、分析対象から削除せずに、傾向をとらえることとした。

む) もしくは、さらに大きい単位での有業者でしか、データが公開されていないものもある。詳細は対象設問において後述する。

なお、先述のとおり、訪問留め置き調査とインターネットモニター調査は、調査設計の段階において、就業構造基本調査(2007)から、男女別に年齢5歳刻みで正社員グループとそれ以外のグループでの割付を行っていることから、その分布については揃っていることを留意しておく。

(1) 年収

手法別に年収分布のクロス集計表を作成した(表4)。表側は、一番上に就調(もしくは国調)で、次にインターネットモニター調査(WEB)、訪問留め置き調査(留置)の順に並べている。

男性は両調査とも、正社員、パート・アルバイトともに、高所得層が多い(逆にいうと、低所得層が少ない)。特に、パート・アルバイトでのその差は大きい。

女性は、インターネットモニター調査では男性と同じく高所得層が多すぎるが、訪問留め置き調査では、とくに正社員においては逆の傾向である。

表4 手法別の年収分布(男女・就業形態別)

			(%)			
		n数	200万円未満	200万円以上400万円未満	400万円以上700万円未満	700万円以上
男性	就調(正社員)	2353500	2.2	25.8	40.8	29.4
	WEB(正社員)	1077	1.9	17.0	44.0	37.0
	留置(正社員)	1088	1.2	20.3	46.0	32.4
	就調(パートアルバイト)	253800	73.7	24.3	0.2	
	WEB(パートアルバイト)	95	42.1	50.5	7.5	
	留置(パートアルバイト)	113	38.9	49.6	11.5	
女性	就調(正社員)	1128000	8.8	46.8	33.0	9.8
	WEB(正社員)	517	5.0	44.9	40.6	9.5
	留置(正社員)	432	8.3	57.6	30.1	3.9
	就調(パートアルバイト)	703700	88.7	8.1	0.3	
	WEB(パートアルバイト)	245	73.1	22.4	4.5	
	留置(パートアルバイト)	397	84.9	14.4	0.8	

※パート・アルバイトは年収が高いグループを「400万以上」でまとめている
 ※就調より5ポイント以上高い場合は太字、5ポイント以上低い場合は斜体

	有業者総数		自営業主		家族従業者		雇用者																	
	総数	女性などの役員	総数	正職員の役員・従業員	パート	アルバイト	派遣社員	契約社員	嘱託	その他	正職員の役員・従業員		パート		アルバイト		派遣社員		契約社員		嘱託		その他	
											総数	女性などの役員	総数	正職員の役員・従業員	パート	アルバイト	派遣社員	契約社員	嘱託	その他				
男性20~59歳 合計	3,423,000	8.3	0.5	90.8	8.9	68.8	1.0	6.4	1.3	3.0	0.5	1.0												
20~24	282,100	1.0	0.6	98.2	0.9	51.0	2.2	37.5	2.1	3.1	0.3	1.0												
25~29	442,600	2.7	0.5	96.3	2.8	71.7	1.1	10.7	3.0	5.4	0.2	1.4												
30~34	519,500	6.2	0.7	92.6	3.3	77.3	0.7	4.7	1.7	4.1	0.4	0.4												
35~39	546,100	8.2	0.8	90.4	6.6	75.7	0.7	2.7	1.0	1.9	0.3	1.3												
40~44	473,600	10.1	0.3	89.2	9.5	73.0	0.9	1.9	0.5	2.0	0.2	1.0												
45~49	386,200	11.7	0.3	87.9	14.1	68.0	0.7	1.6	1.0	2.0	0.1	0.4												
50~54	344,800	13.2	0.3	86.0	16.0	64.2	0.6	1.5	0.2	1.9	0.6	1.0												
55~59	428,100	12.5	0.2	86.9	19.2	57.9	1.3	1.9	0.7	3.1	1.6	1.2												
女性20~59歳 合計	2,440,900	4.6	2.7	92.4	3.3	46.2	20.7	8.1	6.0	5.4	1.0	1.7												
20~24	260,300	0.8	0.1	98.5	0.0	51.6	4.4	31.5	3.1	6.1	0.2	1.5												
25~29	360,300	1.5	0.4	97.8	0.5	64.8	6.9	8.2	7.0	7.8	0.6	1.8												
30~34	360,200	3.7	2.3	93.8	1.1	52.3	12.9	7.8	11.3	6.3	0.4	1.6												
35~39	345,300	5.5	2.9	91.5	2.6	50.3	19.1	4.5	7.4	4.6	1.3	1.6												
40~44	310,500	5.8	2.8	91.3	3.1	40.3	26.7	6.6	6.2	5.4	1.2	1.9												
45~49	267,400	6.8	2.8	90.2	5.6	35.4	33.4	3.1	4.7	4.3	1.3	2.5												
50~54	246,300	7.8	4.7	87.3	6.3	33.4	35.6	2.3	2.8	3.3	1.9	1.8												
55~59	290,600	5.8	6.3	87.6	8.9	33.0	33.2	3.1	2.6	4.1	1.4	1.1												

(2) 配偶者の有無 (表 5)

男性正社員では、訪問留め置き調査の有配偶率が 15 ポイントも高い。一方、インターネット調査の有配偶率は偏りが小さい。非正社員では両調査とも偏りは小さい。

女性は、正社員、非正社員ともに、インターネットモニター調査の有配偶率が 10 ポイント以上低い。

訪問留め置き調査は調査実施時に対象者が不在でも、家族がいれば調査を依頼することができる。その結果、回答者が有配偶者に多く偏っていることが予想される。一方、インターネットモニター調査は、調査実施期間中なら回答者本人が時間に制約されずに回答画面に接触できるため、家族環境の影響を受けにくい。本研究を含め、先行研究では、インターネットモニター調査回答者の未婚率が高いことに焦点が当てられてきたが、それは、むしろ正しい値であり、留め置き調査のほうが有配偶率が高すぎる方向に偏っているという興味深い結果がみられた。ただし、女性に関しては、インターネットモニター調査にも大きな偏りがあり、その方向は、訪問留め置き調査と逆向きであることは見落とせない事実である。

表 5 手法別の有配偶率 (男女・就業形態別)

		(%)	
		n数	配偶者がいる
男性	就調(正社員)	2,353,500	60.5
	WEB(正社員)	1112	58.0
	留置(正社員)	1211	75.6
	就調(非正社員)	447,700	24.5
	WEB(非正社員)	210	22.4
	留置(非正社員)	202	25.7
女性	就調(正社員)	1,128,000	42.6
	WEB(正社員)	533	29.3
	留置(正社員)	493	45.6
	就調(非正社員)	1,046,800	65.2
	WEB(非正社員)	494	54.9
	留置(非正社員)	549	70.7

(3) 職種 (表 6)

男性は両調査とも生産工程・労務職と事務営業販売職の割合が低い傾向があり、正社員は管理的職業従事者と専門的技術的職業従事者の割合が高い。インターネットモニター調査は専門的技術的職業従事者の割合が高く、訪問留め置き調査はサービス職業従事者の割合が高い。

女性は訪問留め置き調査でサービス職業従事者の割合が高いのは男性と同じ傾向だが、特徴的なのはインターネットモニター調査の事務営業販売職の割合が高いことである。

パソコンを使う仕事をしているひとがインターネット調査に回答しやすいことは想像に難くないが、見落としとしてはならないことは、両調査とも生産工程労務職の回答を得られていないことである。

表 6 手法別の職種（男女・就業形態別）

	n数	サービス 職業従 事者	保安 職業従 事者	農林 漁業作 業者	運輸・ 通信従 事者	生産 工程・労 務作業 者	管理 的職業 従事者	事務営業 販売職	専門 的・技術 的職業 従事者	分類不 能の職業	
男性	就調(正社員)	2,353,500	5.2	2.6	0.3	4.8	20.0	1.5	42.2	19.5	3.9
	WEB(正社員)	1077	3.7	1.1	0.1	3.7	3.6	14.5	35.3	35.7	2.3
	留置(正社員)	1088	10.7	1.6	0.2	6.4	8.0	17.8	27.2	25.1	2.8
	就調(非正社員)	447,700	17.6	2.1	0.1	4.7	25.5	0.0	28.9	14.5	6.7
	WEB(非正社員)	205	17.6	2.0	0.0	7.8	7.8	3.4	28.3	25.4	7.8
	留置(非正社員)	175	30.3	1.7	0.0	12.6	14.3	1.1	18.8	19.4	1.7
女性	就調(正社員)	1,128,000	7.3	1.4	0.1	0.4	4.0	0.3	56.2	27.2	3.2
	WEB(正社員)	517	3.1	0.2	0.0	0.4	0.8	3.1	65.6	24.6	2.3
	留置(正社員)	432	10.2	0.2	0.0	0.5	1.9	1.9	58.1	25.5	1.9
	就調(非正社員)	1,046,800	18.4	0.1	0.1	0.4	12.7	0.0	50.4	12.3	5.6
	WEB(非正社員)	476	15.8	0.0	0.0	0.4	2.1	1.1	56.1	18.3	6.3
	留置(非正社員)	485	27.6	0.2	0.2	1.9	4.5	0.2	48.6	13.0	3.7

(4) 学歴（表 7）

学歴は、就調は有業者でのデータしか公開されていないため、実験調査の最大単位である就業者（全）と傾向だけ比較することにする。

男性も女性も同じ傾向で、インターネットモニター調査は大卒以上が 10 ポイント以上高く、高卒以下が低い。訪問留め置き調査は、その逆で、高卒以下が高く、大卒以上が低い。

表 7 手法別学歴（男女別）

		n数	(%)			
			中学校・ 高等学校	専修各種 学校	短大+高 専	大学・大 学院
男性	就調(有業者)	3229800	32.2	12.4	3.0	51.3
	WEB(役員除く雇用者)	1322	27.7	12.6	3.1	63.2
	留置(役員除く雇用者)	1413	36.5	16.1	2.7	44.7
女性	就調(有業者)	2301000	31.2	17.9	18.1	31.5
	WEB(役員除く雇用者)	1027	23.7	18.9	15.6	42.4
	留置(役員除く雇用者)	1042	38.7	20.6	19.1	21.5

(5) 住宅形態（表 8）

住宅形態は、国調は雇用者（経営者含む）のデータまでしか公開されていないため、実験調査の就業者（経営者は含まない）と傾向を比較することにする。

男性は、インターネットモニター調査に偏りがほぼない一方、訪問留め置き調査の一戸建てが 20 ポイント近く高い。女性は、訪問留め置き調査で一戸建てが 40 ポイント以上も高いが、インターネットモニター調査も 15 ポイント以上高い。

訪問留め置き調査は、オートロック式のマンションが増えると、対象者にさえ会えないという実査の限界が、回答者の大きな偏りによってうかがえるようである。一方、男性のインターネットモニター調査は、その影響をうけないことも注目すべきことであろう。女性に関しては、男性と同じ理由に加え、一戸建てに住む親と同居する未婚者の影響など、ほかにも様々な要因がありそうである。

表 8 手法別住居形態（男女別）

		(%)			
		n数	一戸建	アパート・マンション	その他
男性	国調	1871117	29.7	68.4	1.7
	WEB	1322	30.9	66.6	2.6
	留置	1413	48.3	50.3	1.3
女性	国調	506427	11.2	87.4	1.2
	WEB	1027	27.7	69.2	3.1
	留置	1042	51.4	47.4	1.2

以上、個人属性に関して、代表性の高い調査データと比較することで、比較調査の回答者の偏りについて検証した。そこから、多くの先行研究が共通して注目してきたインターネットモニター調査回答者の偏りは、もはや、従来型調査手法に準じたエリアサンプリング法による訪問留め置き調査においても発生していること、また、むしろ、訪問留め置き法のほうが、実査時の調査対象者の家族状況や住宅環境に影響をうけやすく、回答者に大きな偏りを生じているという実態が明らかになった。

2.3 まとめと考察

訪問留め置き調査とインターネットモニター調査の回答を比較し、個人属性に関しては代表性の高いデータを参照することで両調査の回答がどのように偏っているのかを検証した。配偶者の有無、同居家族、住居形態、学歴などに見られる顕著な個人属性の差からは、訪問留め置き調査とインターネットモニター調査の回答者では「回答者そのものが異なっている」ことがうかがえ、さらに、代表性の高いデータの参照から「いずれも目標母集団からずれている」という傾向が捉えられた。先行研究では、インターネットモニター調査の偏りに焦点があてられてきたが、従来型調査手法に準じた訪問留め置き調査においても回答が偏っていることが、今回の比較調査で確認できた。詳細に目をつぶり、各調査の回答者の偏りの傾向を表 9 に整理した。これらの属性の偏りが、調査手法ごとの意識や意向の回答の顕著な差につながっている可能性も考えられる。

表 9 回答者の偏り傾向

	インターネットモニター調査	訪問留め置き調査
学歴	大卒多い	高卒多い
平均年収	高い	(男)高い (女)低い
有配偶率	(男)偏り少ない(女)低い	高い
職種	専門的技術職多い	サービス職多い
住居形態	(男)偏り少ない(女)一戸建て多い	一戸建て多い

では、この偏りを、調査設計の段階で割付し、調整することは可能なのだろうか。これに対しては、現段階では見通しは暗いといわざるをえない。本調査は、すでに性別・年齢 5 歳階級別で、就業形態（正社員とそれ以外グループ）の割付を行っている。インターネット

トモニター調査については、この割付においても若年層でモニターの数足りなかった。また、訪問留め置き調査では、調査実施時の回答者へのアクセスの限界がこの回答者の偏りの要因になっている。回収後のウエイト値による補正も考えられるが、補正の基準となる公のデータが細分化されて公開されていないことなど問題が残る。以上のことを踏まえると、現段階では、調査を通じてどのような知見を得ることを目的とするのか、優先順位に見合った設計を行うことが現実的であろう。

第7章 調査法が回答者を選ぶ？

— 測定法（訪問・郵送・インターネット等）と無回答誤差の関係 —

本多則恵

1. はじめに

調査におけるデータ収集の方法（測定法）には、訪問面接、訪問留置き、郵送、電話、インターネットなどがあるが、本稿は、測定法の違いが調査の誤差に及ぼす影響について検討する。

測定法が誤差に与える影響については、測定誤差（回答者の真の特性と回答された測定値とのずれから生ずる誤差）¹が取り上げられることが多いが、本稿では、測定法が調査対象者の回答傾向に与える影響を分析することにより、測定法と無回答誤差の關係にアプローチする。

分析には、2007年10月に実施した「生活と社会意識に関する調査」（住民基本台帳から無作為抽出したサンプルに対する郵送調査（郵送ランダム調査）、郵送モニター調査、webモニター調査3種の計5種類）（以下「2007年調査」という。）及び2008年に実施した「働く人々の就業実態調査」（webモニター調査、エリアサンプリングによる訪問留置き調査の計2種類）（以下「2008年調査」という。）を用いる。

2. 先行研究

2.1 無回答誤差についての先行研究

今、調査を実施する者にとっての最大の課題は「回収率の低下」である。回収率の低い調査は、“計画標本と調査結果のずれ”，すなわち“無回答誤差(nonresponse error)”が大きく、信頼性が低いとみなされる。

回収率が低下するに伴って、無回答誤差についての研究は増えている。世論調査研究の学術誌である *Public Opinion Quarterly* は、2006年に「世帯調査における無回答誤差 (Nonresponse Bias in Household Surveys)」という特集を組んだ。ここから無回答誤差に関する現在の研究水準をうかがい知ることができる。

同特集の巻頭論文である Singer (2006)によれば、無回答についての研究は1980年代半ばから関心を集めるようになり、関心を集めたトピックスに応じて1980年代半ばから現在までを次の3つの期間に区切ることができるという。

〔第1期〕1980年代半ば～1990年代初め

回答率の低下の要因とその拡がりが問題となり、欧米諸国では調査への回答率の低

¹ 詳細については本多(2006a)pp131-133 参照。

下が広範に起きていること、無回答の内訳として「無接触」（不在等）の増加はどの国でもみられる一方、「拒否」による無回答の動向は国によって異なっていることなどが観察された。

〔第2期〕1992年～2002年

無回答（無接触，拒否）を減ずるための実査上の工夫——調査対象者への謝礼の効果，抽出方法，ITを利用した回答機器，調査員のトレーニングなど——への関心が高まった．統計的な観点からは，ウェイト付け(weighting)や代入(imputation)による欠測値の補完方法の検討が進められた．

〔第3期〕2002年以降

さまざまなコストをかけた取組にもかかわらず，回答率の低下はむしろ加速．調査法研究者の関心は，「回収率と無回答誤差の関係」に向けられるようになった．

この「Public Opinion Quarterly 特集号」に掲載された論文はすべて，第3期の問題意識に基づいたテーマを設定したものであり，無回答誤差の要因を分析してそれを補正に用いることを目指している．以下，主要な数本の論文の概略を紹介する．

○Groves(2006)は，無回答率と無回答誤差の関係を分析し，“無回答率の高低と無回答誤差の有無が必ず関連するわけではなく，また，ひとつの調査の中でも統計量によって誤差は異なりうる”と結論づけている．

○Abraham et al(2006)は，米の Current Population Survey (CPS) の対象者を母集団とした 全米時間利用調査が，無回答者についても CPS の情報が入手できることに着目して，回答者と無回答者の比較を行い，無回答誤差はきわめて小さいという結果を得た．

○Olson(2006)は，“回収率を引き上げるための方策は，回収率を改善して無回答誤差を縮小する一方で，測定誤差を増大させるおそれがある”という通説の検証を試みている．Olson は，level of effort（調査員の訪問回数等），調査協力の有無，回答内容と行政記録からの情報を含んだデータセットを用いて検証を行い，回答者全体を対象にした統計量のトータル・バイアス（total bias）のほうが，回答者の中の接触・協力が容易な回答者を対象にした統計量のトータル・バイアスよりも小さいが，無回答誤差，測定誤差と回答傾向の関係は，無回答の理由や統計量によってまちまちであったとしている．また，協力傾向の低い回答者に回答させることによって，いくつかの統計量については測定誤差が生ずるが，すべての統計量について生ずるわけではないことを確認している．

○Groves(2006)は，無回答誤差を，回答傾向と調査対象となっている変数(the survey variables of interest)の間の共分散の関数であると定義している．回答傾向とは，調査に応答するか否かについて各個人が有する（観察されない）傾向であり，確率として表現されるものである．回答傾向は，実査の各プロセス（依頼，接触等）によっ

て影響を受けるので、Groves は、実査プロセスの何らかの要素が回収率とともに共分散を変化させる可能性について、科学的に研究する必要があると述べている。

2.2 R. M. Groves による研究サーベイと提言

以上のうち、Groves (2006) は、無回答誤差に関する過去の研究をサーベイしており、示唆に富むものであるなので、もう少し詳細に紹介しておきたい。

Groves は、まず、誤差を評価する方法についての研究をレビューし、以下のように整理している。

①調査対象者のサブグループ（性、年齢等）ごとの回収率の比較

調査対象者のサブグループごとの回収率を比較し、回収率に大きな差がなければ無回答誤差の問題はないと判断したり、差がある場合には、事後補正 (postsurvey adjustment) を行っている場合が多い。回答傾向に影響を与える主な原因がサブグループの分類に用いた変数（性、年齢等）のみであれば、そうした判断は妥当であるが、一般的には、それは確かめようがない。

②外部データの利用

標本抽出の際の情報や外部データベースの情報を用いて、無回答者についてもデータを収集して回答者と無回答者を比較するという方法。例えば、医療記録の利用が可能な健康調査についてこの方法が用いられることが多い。

この方法には、回答者と無回答者の双方について同じソースのデータを入手することができ、さらに、回答者についてはそのデータと調査項目の統計的な関係を推定することができるので、そこから外部データの変数についての無回答誤差については正確に推定できるというメリットがある。一方、外部データで入手できる情報は調査の関心事項のすべてはカバーしていない（カバーしているのであれば新たな調査は必要がない）ことから生ずる限界がある。

③他の情報源の類似データとの比較

無回答誤差の分析について最もよく行われる方法は、回答者ベースの推定量を外部のより正確な情報と比較する方法である。一例として、世帯調査における回答者の年齢、性、人種等の社会人口学的変数を、直近のセンサスデータと比較するという方法があげられる。この方法の欠点は、対象とする調査の主要な項目は外部データには存在しないという点と、比較する調査と測定方法が異なるために測定誤差も異なる点、政府のセンサス調査についてはカヴァレッジや無回答の内訳についての情報が十分にはわからないという点である。

④調査中のヴァリエーションの分析：無回答のフォローアップ研究

「初期回答者と後期回答者の比較」「データ収集中の観察に基づく回答者、無回答者についてのデータ」を用いた分析である。これは“後期回答者は無回答者に近い”と

いう仮定に基づく研究であるが、その仮定が正しいかどうかはわからない。後期回答者と無回答者は大いに異なるという実証分析結果もある。

⑤事後補正の効果測定

補正を行う前後のデータの比較をし、その差が補正によって除去された無回答誤差だとみなす方法である。

続いて Groves は、無回答誤差を推定した調査研究を幅広くサーベイし、30 の論文（大半は医療関係の学術誌に掲載されたもの）、235 の推定量についてメタ分析を行っている。235 の推定量の無回答率の平均は 35% である。Groves はメタ分析の結果を次のように要約している。

- ・ 無回答誤差が発生していることは、多くの事例で実証された。
- ・ しかし、無回答率だけでは、誤差の指標としてはよい指標とはいえない。無回答誤差の大きさと無回答率との相関は小さい。したがって回収率が高いほど無回答誤差が小さいとはいえない。
- ・ 無回答誤差は、一つの調査の中でも質問によって異なりうる。
- ・ 誤差は、回答傾向と調査対象変数の間の共分散に強く影響される。

“回答傾向” に影響を与える要因としては、以下のものがあげられている。

- ・ 調査主体：調査の実施主体が政府、学術機関、企業のいずれであるかによって、回答傾向や回答内容に影響がある。（政府＞学術機関＞企業の順に回収率が低くなる）
- ・ 回答負担：自記式の調査では、回答負担（調査票のページ数）が大きいと回収率は下がる。面接や電話調査では回答負担の影響はそれほど明確ではない。
- ・ 性別（女性＞男性）
- ・ 居住地域（都市＜地域）
- ・ 世帯形態（単身世帯＜家族世帯）
- ・ 子どもの有無（子有世帯＞子無し世帯）

回答傾向に影響を与えるこれらの要因が、同時に調査対象変数とも相関している場合がある。このため、調査の実施者は、相関の有無を判断し、回答傾向の低いグループを特定したうえで、そのグループの回収率を上げるための対策（事前の依頼状の送付、謝礼等のインセンティブ提供、訪問回数の増加等）が必要になるかどうかを決定する必要がある。回収率改善のための対策が調査対象変数に関して異なる回答者集団について異なる影響を与える場合には、無回答誤差を拡大させるおそれがあると Groves は指摘する。

最後に、以上のサーベイを踏まえ、「調査実施者は何をすべきか？」について Groves は次のように提案する。

1. やみくもに高回収率を追求するべきではない。回収率を上げるための手段が、どういう層の回収率に影響を及ぼし、その結果、調査対象変数についての無回答誤差が拡大するかどうかを検討したうえで、回収率の改善を行うかどうかを決定すべきである。

2. 回収率が低くても、確率抽出は有意抽出 (volunteer panel) よりもメリットがある。抽出枠を用いて確率抽出を行えば、無回答者についても抽出枠に基づく情報が得られるので、その情報を用いて調査結果を改善することができる。有意抽出ではそれができない。
3. 回答者と無回答者の双方について補足情報を収集し、主要な下位集団の回収率をバランスさせることは有効である。その際、回答傾向と調査対象変数の両方と相関する補足情報を収集できることが最も望ましい。
4. 100%の回収率はもはや期待できないのであるから、事後補正を試みるべきである。
5. 無回答誤差の評価を行う際に、付随情報の活用、無回答者の二相抽出 (double sampling)、測定法の切替などを試みることは、回答傾向と調査事項の関係についての示唆をもたらさう。こうした研究の蓄積は、調査実践者の新たな義務である。

2.3 回答傾向のもう一つの規定要因・・・“測定法”

「ある調査対象者が調査に回答するか回答しないか」、すなわち「調査標本の中のある個体の回答傾向 (response propensity)」を規定するのはどのような要因だろうか。

上記のGroves (2006)では、調査主体、回答負担、性別、居住地域、世帯形態、子どもの有無があげられている。三輪(2008)も地域特性、個人属性、住居を規定要因としてあげている²。

これらの客観的な属性のほか「調査テーマ」「回答者の忙しさ」なども影響を与えると考えられるが、それに加えて「測定法 (訪問面接、訪問留置き、郵送、電話、インターネット等) (data collection mode)」の影響は看過できない要因だろう。同じテーマ、同じタイミング、同じ主体が行う調査であっても、訪問面接調査であれば回答するが電話調査なら回答しないとといったケースは多々あるものと思われる。回答者は各種の測定法に対して何らかの選好をもっており、この選好と他の要因があわさって各人の「回答傾向」が規定されると考えられる。

本稿では、各種の測定法についての個人の選好の状況を概観したあと、測定法に対する選好と個人の属性等 (人口学的特性 (demographics)、心理学的特性 (psychographics)、行動特性) の関係を分析する。

各測定法の選好に個人の属性がどのような影響を与えているかが把握できれば、その属性と調査対象変数が相関している場合に、無回答誤差の内容を推定する手がかりとできる。

3 2007年調査の分析

² 回収しやすさの大小については、女性>男性、中部・中国四国>関東・近畿、郡部>都市部といった結果がみられるという。

3.1 分析方法

2007年調査では、訪問面接、訪問留置き、郵送、電話、インターネットの5つの測定法への協力意向について以下のように質問した。

**Q13. あなたが、今後、調査に協力してもよいとお考えの調査の方法はつぎのどれにあたりますか。
(〇はいくつでも)**

1. 訪問面接調査 (調査員が調査対象者の自宅を訪問し、面接で行う調査)
2. 留置き調査 (調査員が調査対象者の自宅を訪問して調査票を渡し、調査対象者が自分で回答を記入し、後日、調査員が訪問して調査票を回収する調査)
3. 電話調査 (調査員が調査対象者に電話をして行う調査)
4. 郵送調査 (調査対象者の自宅に調査票を郵送し、調査対象者が自分で回答を記入したあと郵送で返送する調査)
5. インターネット調査 (インターネットを通じて調査の依頼や回答を行う調査)
6. いずれも協力したくない

この質問への回答は各測定法に対する回答者の選好を示すものといえる。本稿では、この質問を鍵として「測定法の選好はどのような要因によって規定されているか」を分析する。

3.2 回答した調査の種類と測定法選好の関係

まず、測定法の選好の分布について概観する。(図表1)

郵送調査回答者(「郵送ランダム」「郵送モニター」)は郵送調査への協力意向が高く、インターネット調査回答者(webモニターA・B・C)はインターネット調査への協力意向が高いのは当然であるが、インターネット調査回答者も、郵送調査には6割～8割が協力してもよいと回答している。一方、郵送調査回答者のうちインターネット調査に協力してもよいと回答しているのは、郵送ランダムでは4割、郵送モニターでは6割である。

訪問面接調査への協力意向はどの種類の調査の回答者でも低い。

また、「いずれの調査にも協力したくない」(=どれもいや)がどの調査でも数パーセントある。モニター調査の回答者は、質問に回答することを前提としてモニターとなっているのであり、現に今回の調査には回答しているのであるが、それでも2～5%は「いずれの調査にも協力したくない」と回答している。これは、調査に回答することは好まないが謝金などがインセンティブとなってモニターになっている者がいるためではないかと推測する。特に、webモニターCに着目すると、「どれもいや」の比率がwebモニターCは4.8%

と、web モニターAの 2.0%や同Bの 2.1%よりも若干高く、また、他の測定法への協力意向も、他のモニター調査回答者（郵送モニター、web モニターA, B）と比べて低い。これは、ひとくちに「調査モニター」といっても、その募集方法が異なることに由来する差ではないだろうか。web モニターCは、調査よりも懸賞がモニター募集の目玉になっている。一方、他の調査モニターは、調査のみを目的としてモニター募集が行われたものであり、それだけ調査に回答することじたいを好む者が多いのだろうと考えられる。

図表1 協力してもよい調査方法（MA）【2007年調査】

	N	訪問面接調査	訪問留置調査	電話調査	郵送調査	ネット調査	どれもいや	無回答
郵送ランダム	753	5.6	18.9	9.7	84.1	39.7	8.0	1.1
郵送モニター	986	20.1	40.6	32.4	94.7	60.1	3.1	0.5
webモニターA	1000	10.9	30.5	22.0	70.4	96.5	2.0	0.0
webモニターB	1000	15.8	36.8	27.4	80.1	97.1	2.1	0.0
webモニターC	984	8.6	26.4	18.5	62.6	92.9	4.8	0.0

3.3 測定法選好間の相関関係

次に、5種の調査の全回答者を対象として、ある測定法への協力意向が他の調査への協力意向とどのように関係しているかを分析する（図表2、図表3）。例えばある2つの測定法への協力意向が強い相関関係にある場合には、他の条件が同じであれば、その2つの測定法によって実施した調査の回答者は類似性をもつと考えられる。

比較的強い相関が見られる（相関が0.4以上）のは、訪問面接調査と訪問留置き調査、訪問面接調査と電話調査、訪問留置調査と電話調査である。この3種の測定法にはいずれも調査員が介在するという共通点がある。

一方、郵送調査、インターネット調査は他の調査と相関が弱いですが、今回の調査は郵送調査とインターネット調査で実施したものなので、多くの回答者がこの2つの測定法に協力してもよいという選好を持っており、相関係数としては現れにくかったのではないかと考えられる。

図表2 「協力してもよい調査方法」別 協力してもよい調査方法【2007年調査】

(%)

			協力してもよい調査方法				
			訪問面接 調査	留置 調査	電話 調査	郵送 調査	ネット 調査
協力しても よい調査方 法	訪問面接調査	592人	100.0	92.6	79.7	94.6	90.0
	訪問留置調査	1475人	37.2	100.0	50.5	95.7	87.1
	電話調査	1068人	44.2	69.8	100.0	95.8	90.1
	郵送調査	3688人	15.2	38.3	27.7	100.0	79.5
	ネット調査	3742人	14.2	34.3	25.7	78.3	100.0

図表3 「協力してもよい調査方法」の相関関係【2007年調査】

	訪問面接 調査		留置 調査		電話 調査		郵送 調査		ネット 調査		どれも いや
訪問面接調査	1.000										
訪問留置調査	0.523	***	1.000								
電話調査	0.530	***	0.460	***	1.000						
郵送調査	0.088	***	0.156	***	0.142	***	1.000				
ネット調査	0.220	***	0.233	***	0.259	***	0.159	***	1.000		
どれもいや	-0.094	***	-0.158	***	-0.127	***	-0.709	***	-0.241	***	1.000

3.4 測定法選好と属性のクロス集計

次に、年齢、本人の収入、インターネット利用状況（過去1年間の利用の有無）、学歴、就業状況、就業形態、雇用形態について、測定法選好別に比較してみる。（図表4～10）

属性の面から見て特徴があらわれたのは「どれもいや（いずれの調査方法にも協力したくない）」グループであり、具体的には、他のグループとの対比において次のような特徴が観察された。

- ・ ネット利用経験者が少なめ
- ・ 平均年齢がやや高い
- ・ 就業状況は「仕事の主」が少なめ、「家事の主、仕事に従」「家事が主」が多め
- ・ 仕事をしている人の中では「常雇」が少なめ、「自営業手伝い」が多め
- ・ 雇用者の中では、「正社員」が少なくパートが多い
- ・ 学歴が低い
- ・ 本人の平均年収が低い

一方、多くの点でこれと対照的な特徴を示したのが「訪問面接調査」に協力してもよいと回答したグループである。本人の年間収入は「訪問面接調査」のグループが最も高く、

「どれもいや」と比較すると約 100 万円の開きがある。また、学歴が高く、「仕事為主」、
「常雇」、**「正社員・正職員」**がやや多い。

「訪問面接調査」「どれもいや」以外の他の測定法を選好するグループについては、属性
では目だった特徴が見られなかった。

図表 4 「協力してもよい調査方法」別の回答別 平均年齢【2007年調査】

平均年齢（歳）	
訪問面接調査	42.3
訪問留置調査	40.7
電話調査	40.7
郵送調査	41.7
ネット調査	40.2
どれもいや	42.9

図表 5 「協力してもよい調査方法」別の回答別 本人の平均年間収入【2007年調査】

本人の平均年収（万円）	
訪問面接調査	493.9
訪問留置調査	478.3
電話調査	470.8
郵送調査	453.3
ネット調査	461.6
どれもいや	394.1

(注)「本人の平均年収」：各階級の中央値により計算

図表 6 「協力してもよい調査方法」別の回答別 ネット利用経験有無【2007年調査】

ネット利用経験あり（％）	
どれもいや	81.6
電話調査	96.1
郵送調査	97.8
訪問面接調査	97.8
訪問留置調査	97.8
ネット調査	99.4

(注)「ネット利用経験あり」：過去 1 年間のネット利用経験者の割合

図表7 「協力してもよい調査方法」別 学歴【2007年調査】

(%)

	小学・中学	高校・旧制中	専門学校	短大・高専	大学	大学院
訪問面接調査	1.7	16.9	10.4	10.1	54.0	7.0
訪問留置調査	1.0	17.6	11.8	11.1	50.9	7.6
電話調査	1.4	17.9	10.8	11.4	52.3	6.1
郵送調査	1.4	19.6	13.0	11.4	48.2	6.4
ネット調査	1.2	18.2	12.9	10.8	49.9	7.1
どれもいや	5.7	32.8	13.8	14.9	29.9	2.9

図表8 「協力してもよい調査方法」別 就業状況 【2007年調査】

(%)

回答 協力しても よい調査方法	N (人)	仕事为主	家事が主, 仕事に従	通学が主, 仕事に従	家事・通学 以外が主, 仕事に従	家事	通学	その他	合計
総数	4660	66.5	10.8	2.6	1.2	12.8	3.8	2.2	100.0
訪問面接調査	585	68.5	12.3	2.7	0.7	11.3	3.4	1.0	100.0
訪問留置調査	1460	65.3	11.7	3.0	1.4	12.9	4.2	1.5	100.0
電話調査	1055	64.8	12.0	2.7	1.0	13.8	4.4	1.2	100.0
郵送調査	3638	65.7	11.2	2.7	1.3	13.4	3.9	1.9	100.0
インターネット調査	3711	67.9	9.5	2.7	1.3	12.1	4.4	2.1	100.0
どれもいや	174	60.9	14.4	2.3	0.0	15.5	4.0	2.9	100.0

図表9 「協力してもよい調査方法」別 就業形態（仕事をしている人が対象）【2007年調査】

(%)

回答 協力しても よい調査方法	N (人)	常雇	臨時雇	日雇	役員	自営業・ 雇人有	自営業・ 雇人無し	自営業 手伝い	内職	合計
総数	3598	70.8	9.8	1.3	3.3	2.2	8.5	2.4	1.7	100.0
訪問面接調査	472	73.1	6.6	2.3	2.5	2.8	8.1	1.5	3.2	100.0
訪問留置調査	1146	72.7	9.1	1.5	2.2	2.3	7.9	2.4	2.0	100.0
電話調査	817	72.3	9.2	1.8	2.8	1.5	8.3	2.0	2.1	100.0
郵送調査	2792	72.1	10.1	1.2	3.0	2.0	7.9	2.2	1.5	100.0
インターネット調査	2946	71.2	9.7	1.3	3.3	2.0	8.7	2.1	1.6	100.0
どれもいや	117	64.1	7.7	1.7	5.1	3.4	8.5	6.0	3.4	100.0

図表 10 「協力してもよい調査方法」別 雇用形態（常雇・臨時雇・日雇が対象）【2007年調査】

(%)

協力しても よい調査方法	回 答 N (人)	正社員・ 正職員	契約社員・嘱 託	フリーター (社会人ア ルバイター)	学生アルバ イター	パートタイ マー	派遣	合計
総数	2393	65.6	9.4	4.3	3.4	12.0	5.3	100.0
訪問面接調査	386	71.2	7.5	4.1	3.9	9.8	3.4	100.0
訪問留置調査	953	67.5	10.2	3.4	4.1	10.9	4.0	100.0
電話調査	680	68.1	10.1	2.6	3.7	11.2	4.3	100.0
郵送調査	2325	66.0	9.1	4.1	3.5	12.2	5.1	100.0
インターネット調査	2419	66.8	9.5	4.2	3.6	9.9	6.0	100.0
どれもいや	86	59.3	10.5	4.7	3.5	22.1	0.0	100.0

3.5 測定法選好と意識項目のクロス集計

次に、意識についての調査項目をいくつか取り上げて、測定法選好との関係を見る。

たとえば、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」という意見への賛否についての質問への回答を「協力してもよい調査方法」ごとに集計してみると(図表 11)、「どれもいや(いずれも協力したくない)を選んだグループでは、「そう思わない」という回答が 47.5%と他のグループに比べて顕著に多く、どうやら調査への協力意向と回答傾向には関係がありそうである。そこで、今回調査の中の意識についてのいくつかの質問への回答傾向を、「協力してもよい調査方法」別に点数化したのが図表 12 である。

図表 11 「協力してもよい調査方法」別「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」
【2007 年調査】

回 答 協力しても よい調査方法	N (人)	(%)				合計	点数
		そう思う (0 点)	どちらかとい えばそう思う (0.33 点)	どちらかとい えばそう思わ ない(0.66 点)	そう思わない (1 点)		
総数	4721	4.0	29.4	26.8	39.8	100.0	0.67
どれもいや	179	7.3	25.7	19.6	47.5	100.0	0.69
インターネット調査	3742	3.6	28.6	28.7	39.2	100.0	0.68
郵送調査	3686	3.7	30.0	26.9	39.4	100.0	0.67
訪問留置き調査	1474	4.5	29.9	27.8	37.9	100.0	0.66
電話調査	1068	3.9	30.6	27.6	37.8	100.0	0.66
訪問面接調査	592	5.7	31.4	24.5	38.3	100.0	0.65

図表 12 「協力してもよい調査方法」別の回答者平均点 【2007 年調査】
(点数の昇順又は降順に並べたもの) (点)

年金制度信頼度	所得税高低感	格差縮小対策賛否	性別役割
信頼している (1 点) ～信頼していない (0 点)	低い (1 点) ～高い (0 点)	賛成 (1 点) ～反対 (0 点)	そう思わない(1 点) ～そう思う (0 点)
ネット調査 0.27	どれもいや 0.13	どれもいや 0.69	どれもいや 0.69
郵送調査 0.29	ネット調査 0.15	郵送調査 0.67	ネット調査 0.68
電話調査 0.30	電話調査 0.16	ネット調査 0.66	郵送調査 0.67
どれもいや 0.30	郵送調査 0.16	訪問留置調査 0.66	電話調査 0.66
訪問留置調査 0.30	訪問面接調査 0.16	電話調査 0.66	訪問留置調査 0.66
訪問面接調査 0.31	訪問留置調査 0.17	訪問面接調査 0.65	訪問面接調査 0.65

人への信頼		所属階層		仕事満足度	
はい（1点）～いいえ（0点）		上（1点）～下（0点）		非常に満足（1点）～満足していない（0点）	
どれもいや	0.50	どれもいや	0.37	どれもいや	0.48
ネット調査	0.55	ネット調査	0.42	電話調査	0.51
電話調査	0.56	郵送調査	0.43	ネット調査	0.52
郵送調査	0.57	電話調査	0.44	郵送調査	0.53
訪問留置調査	0.58	訪問留置調査	0.44	訪問面接調査	0.53
訪問面接調査	0.59	訪問面接調査	0.44	訪問留置調査	0.54

(注)

- 1 点数の算出方法：例えば「年金制度信頼度」については、「信頼している」を1点、「やや信頼している」0.66点、「あまり信頼していない」0.33点、「信頼していない」0点として、「インターネット調査に協力してもよい」と回答した人の平均を算出したもの（0.27点）。
- 2 各項目について点数の昇順又は降順に調査方法を並べ替えてある。調査法の並べ順は、点数の昇順か降順のうち、「どれもいや」が上段にくるほうとした。

これを見ると、多くの項目で、「どれもいや」と「ネット調査」の点数が近く、また、「訪問留置き調査」「訪問面接調査」の点数が近く、その二つのグループの間に「郵送調査」「電話調査」が位置している。点数の開きは大きくないが、並び順の共通性が高いところが注目される。

これを見ると、「いずれの調査も協力したくない」「インターネット調査に協力してもよい」という人たちは、相対的に次のような傾向があるといえる。

- ・ 所得税を高いと感じる
- ・ 格差縮小対策に賛成
- ・ 性別役割（男は仕事，女は家庭）を否定
- ・ 人は信頼できないと思う
- ・ 所属階層は低いと認識
- ・ 仕事に不満

一方、訪問面接調査や訪問留置き調査に協力してもよいと考えている人たちは、これと反対の傾向があるといえる。

3.6 投票に関する意識と行動

次に、投票行動に焦点をあててみよう。

政党への支持については、調査法の選好にかかわらず、自民党、民主党のどちらの支持率も低く、支持政党なしが多いが、なかでも「どれもいや」グループは、自民支持率、民主支持率のどちらも6グループ中最低で、支持政党なしが6グループ中最高である。（図表13）

また、実際の投票行動を見ると（図表 14）、「どれもいや」グループは、投票しなかった人が多く、38.1%にのぼる。「訪問面接調査に協力してもよい」グループの 23.8%と比べると 14%ポイントの開きがある。投票している人の中でも、投票先の政党を「答えたくない」として明かさなかった人が多い。また、自民党、民主党に投票した人が少なく、公明党がやや多い。

“どれもいや”以外のグループでは、インターネット調査、郵送調査、電話調査が、ほぼその順序で“どれもいや”グループに近い特徴を示している。

なお、自民党、民主党それぞれの投票率はグループによって異なるが、自民党投票者数と民主党投票者数の比を見ると、どのグループも 2.5～2.8 の間に収まっており、大きな差はない（図表 15）。「答えたくない」という約 1 割の回答者の投票行動が把握できていないことを考慮する必要があるが、把握できている部分においては、調査法の選好とこの選挙での自民党－民主党間の選好には明確な関係はないようである。調査法の選好と関係があるのは、自民党－民主党間の選好ではなく、“投票先について回答した者”と、“投票しなかった・投票について回答しない者（「投票しなかった」「答えたくない・わからない」「無回答）」という二つのグループの比率の差である。

図表 13 「協力してもよい調査方法」別 支持する政党【2007年調査】

(%)

自民支持		民主支持		無党派	
自民党支持率		民主支持率		支持政党なし比率	
どれもいや	16.0	どれもいや	16.6	どれもいや	54.6
ネット調査	18.7	ネット調査	18.6	ネット調査	53.1
郵送調査	19.5	郵送調査	19.0	郵送調査	50.9
電話調査	19.7	電話調査	22.0	訪問留置調査	46.8
訪問留置調査	20.7	訪問面接調査	22.1	電話調査	46.7
訪問面接調査	23.1	訪問留置調査	22.1	訪問面接調査	43.3

図表 14 「協力してもよい調査方法」別 投票の有無・投票した政党【2007年調査】

(%)

	N(人)	投票の有無							答えたくない・わからない	無回答	投票しなかった	合計
		自民党	民主党	公明党	共産党	社民党	その他					
訪問面接調査	576	14.1	35.9	5.9	4.3	1.4	3.6	9.4	1.6	23.8	100.0	
訪問留置調査	1446	12.9	35.7	4.0	4.8	1.8	4.6	9.8	1.6	24.8	100.0	
電話調査	1045	13.0	33.8	5.1	4.7	1.7	4.5	9.0	1.9	26.3	100.0	
郵送調査	3602	11.7	32.5	4.5	3.9	1.6	4.9	10.1	2.9	27.8	100.0	
ネット調査	3686	11.2	31.9	3.9	3.9	1.4	4.3	11.4	1.1	31.0	100.0	
どれもいや	168	8.3	20.8	6.5	3.0	1.2	1.2	16.7	4.2	38.1	100.0	

図表 15 「協力してもよい調査方法」別 自民党と民主党の投票者数比【2007年調査】

協力してもよい調査方法	民主党投票者数／自民党投票者数
訪問面接調査	2.6
訪問留置調査	2.8
電話調査	2.6
郵送調査	2.8
インターネット調査	2.8
どれもいや	2.5

3.7 測定法選好の規定要因の分析

次に、協力してもよい測定法を被説明変数（協力してもよい＝1，協力したくない＝0）とし、測定法と関連があると予想される「回答した調査の種類」「性別」「年代」「配偶関係」「学歴」「就業の有無と労働時間」「他人への信頼度」「インターネットの利用経験」「帰属する社会階層」を説明変数としてロジスティック回帰分析を行った³。

図表 16 記述統計量

変数		平均値	標準偏差
協力してもよい調査方法	訪問面接調査	0.125	0.331
	訪問留置き調査	0.312	0.463
	電話調査	0.226	0.418
	郵送調査	0.781	0.414
	インターネット調査	0.792	0.406
	いずれも協力したくない	0.038	0.191
郵送モニターダミー		0.209	0.406
webモニターAダミー		0.212	0.409
webモニターBダミー		0.212	0.409
webモニターCダミー		0.208	0.406
女性ダミー		0.498	0.500

³ 今回の分析では、2007年調査では、郵送ランダムサンプル調査、郵送モニター調査、webモニター調査A・B・Cのあわせて5種類の調査結果を統合し、また、2008年調査については訪問留置き調査とwebモニター調査の2種類の調査結果を統合し、回帰分析等を行った。同様の方法により異なる調査のデータを統合して測定法、調査法等の影響を分析したものとしてDennis et al. (2005)がある。

30代ダミー	0.286	0.452
40代ダミー	0.225	0.418
50代ダミー	0.253	0.435
有配偶ダミー	0.575	0.494
中学ダミー	0.017	0.130
専修各種ダミー	0.133	0.339
短大・高専ダミー	0.117	0.321
大学ダミー	0.465	0.499
大学院ダミー	0.061	0.239
無業ダミー	0.189	0.391
週 30 時間未満	0.186	0.389
週 43 時間～48 時間	0.169	0.375
週 49 時間以上	0.217	0.412
他人への信頼度	1.115	0.578
ネット利用経験ダミー	0.959	0.199
社会階層	3.330	0.884

図表 17 各測定法への協力意向の規定要因【2007年調査】

被説明変数：各測定法への協力意向（Q13）

分析方法：ロジスティック回帰分析

	訪問面接調査	訪問留置調査	電話調査	郵送調査	ネット調査	どれもいや
郵送モニター	1.345 ***	1.065 ***	1.451 ***	1.104 ***	0.753 ***	-0.876 ***
web モニターA	0.653 ***	0.604 ***	0.911 ***	-1.075 ***	3.746 ***	-1.132 ***
web モニターB	1.054 ***	0.857 ***	1.190 ***	-0.568 ***	3.985 ***	-1.051 ***
web モニターC	0.413 **	0.434 ***	0.718 ***	-1.428 ***	3.028 ***	-0.209
女性	-0.285 **	-0.080	-0.014	0.441 ***	-0.045	-0.548 **
30代	-0.220	0.005	0.033	-0.107	-0.189	0.013
40代	-0.237	-0.010	0.078	-0.045	-0.461 **	0.011
50代	-0.414 **	-0.149	-0.264 **	-0.234 †	-1.073 ***	0.255
有配偶	0.327 **	0.253 **	0.077	0.277 **	-0.029	-0.063
小学・中学	0.319	-0.298	0.013	-0.491 †	-0.268	0.304
専門学校	-0.070	0.030	-0.110	0.204	0.160	-0.423
短大・高専	0.075	0.096	0.091	-0.065	0.228	0.145
大学	0.212	0.247 **	0.224 **	0.456 ***	0.785 ***	-0.721 ***
大学院	0.103	0.407 **	0.012	0.656 ***	1.571 ***	-0.947 †
無業	0.098	0.136	0.167	-0.084	-0.359 **	0.546 **
週30時間以下就労	0.469 **	0.268 **	0.192 †	-0.050	-0.226	0.328
週43～48時間	0.375 **	0.071	0.137	0.046	-0.107	0.153
週49時間以上	0.283 †	0.212 **	0.118	-0.061	-0.154	0.111
他人信頼	0.189 **	0.181 **	0.026	0.151 **	0.063	-0.386 **
NET利用	0.427	0.571 **	0.559 **	0.640 **	2.737 ***	-1.219 ***
社会階層	-0.071	-0.092 **	-0.119 **	-0.021	-0.070	0.104
定数	-3.354 ***	-2.244 ***	-2.594 ***	0.731 **	-2.627 ***	-1.188 **
サンプルサイズ	4571	4571	4571	4571	4571	4571
χ^2 乗	160.4 ***	200.2 ***	196.3 ***	494.1 ***	1715.9 ***	114.4 ***
-2 対数尤度	3298.1	5495.9	4701.4	4306.1	2816.3	1292.5
Nagelkerke R ² 乗	0.065	0.060	0.064	0.158	0.498	0.093

(注) 1. レファレンスグループは、郵送ランダムサンプリング調査、男性、20代、配偶者なし、高校卒、週労働時間30～42時間、ネット利用経験なし。

他人への信頼は「いいえ=0, 場合による=1, はい=2」、社会階層は「上=1～下=5」として点数化した。

2. †: p<0.10, *: p<0.05, **: p<0.01, ***: p<0.001

分析結果から、以下のような傾向が観察できる。

- ・ 郵送ランダム調査回答者と比較すると、他の調査回答者はほとんどの測定法に対して協力意向が強い。
- ・ 女性は「どれでもいいや」となる確率は男性より低い。また、女性は郵送調査への協力意向は有意に正だが、訪問面接調査には有意に負である。
- ・ 年齢についての推定結果があまり有意ではないが、40代、50代は20代よりもネット調査への協力意向が低く、50代は訪問面接調査、電話調査、郵送調査についても協力意向が低い。
- ・ 有配偶は訪問面接調査、訪問留置き調査、郵送調査への協力意向について有意に正の効果がある。配偶者がいない回答者は単身世帯である可能性が高いことから、セキュリティの心配が訪問調査への協力意向に影響しているのではないかと考えられる。
- ・ 学歴については、訪問面接調査には影響がないが、大学・大学院卒の高学歴者のほうが訪問留置き調査、電話調査、郵送調査、ネット調査への協力意向が高く、「どれでもいいや」が少ない。
- ・ 就労状態との関係では、やや意外なことに、週労働時間の長い人（週43時間以上）は訪問面接調査への協力意向が高い。「週49時間以上」は訪問留置き調査についても協力意向が高い。その一方で、週30時間以下の短時間労働の人も訪問調査への協力意向は高い。無業はネット調査への協力意向については負の関係にあり、くわえて、「どれでもいいや」とは正の関係、すなわち測定法にかかわらず調査に協力したがない傾向がある。
- ・ 訪問調査（面接、留置き）への協力意向は他人への信頼と正の関係にある。
- ・ 「インターネットの利用経験有」は、訪問面接調査を除く4つの測定法への協力意向と正の関係にある。学歴や年齢、回答した調査の種類をコントロールしてもなお正の関係が見られることから、「インターネットを利用する性向」と「調査に回答する性向」に何らかの類似性があるのではないかと考えられる。
- ・ 社会階層との関係が有意であったのは訪問留置き調査と電話調査だが、どの測定法への協力意向とも負の関係かつ「どれでもいいや」とは正の関係にあり、階層が高いほど調査全般への協力意向が強い傾向がありそうである。

4. 2008年調査の分析

4.1 分析方法

2008年調査にも、2007年調査と同様の「5つの測定法への協力意向についての質問」が含まれているので、それを用いて分析を行う。

4.2 各調査回答者の測定法の選好

この結果で興味深いのは、訪問留置き調査回答者のうち「訪問留置き調査に回答してもよい」という者が38.2%にとどまっている点である（図表18）。2007年調査では、郵送調査回答者の郵送調査への協力意向は80～90%台、webモニター調査回答者のネット調査への協力意向は90%台であり（図表1）、2008年調査のwebモニター調査回答者のネット調査への協力意向もやはり90%台であるのに比べて、これは大幅に低い数値である。訪問留置き調査回答者の約6割は、訪問留置き調査には協力したくないという選好を有しつつ、実際に今回の訪問留置き調査に回答しているということである。これはすなわち、訪問留置き法という測定法が、協力意向のない者にも回答させる効果を持っていることを示すものといえるのではないだろうか。換言すると、訪問留置き調査への回答傾向については、回答者の測定法選好の影響が小さいともいえる。ただし、訪問留置き調査回答者はどの調査法に対しても協力意向が低い中であって、その中では訪問留置き法への協力意向が最も高いことも事実であり、やはり測定法選好の影響は否定できないものと考えられる。

また、訪問留置き調査回答者のうち40.3%は「いずれも協力したくない」と回答している点も、他の調査と比較しての特徴である。ランダムサンプリングの2007年調査の郵送ランダム調査では「いずれも協力したくない」は8.0%であり、ここからも、訪問留置き調査の「答えさせる力」の大きさがうかがわれる。

図表18 協力してもよい調査方法（MA）【2008年調査】

		(%)						
	N	訪問面接調査	訪問留置き調査	電話調査	郵送調査	ネット調査	どれもないや	無回答
webモニター	6420	11.3	19.9	21.6	60.4	96.4	2.7	0.0
訪問留置き	6500	13.6	38.2	8.5	32.5	22.0	40.3	1.0

4.3 測定法選好間の相関関係、モニター登録との関係

測定法選好間の相関関係をみると、訪問面接調査と留置き調査、電話調査は、互いに相関が強い。これは2007年調査と共通した特徴である。また、電話調査と郵送調査、ネット調査と郵送調査の相関も強い（図表19）。

図表 19 「協力してもよい調査方法」の相関関係【2008年調査】

	訪問面接 調査	留置 調査	電話 調査	郵送 調査	ネット 調査	どれも いや
訪問面接調査	1.000					
訪問留置調査	0.463 ***	1.000				
電話調査	0.425 ***	0.354 ***	1.000			
郵送調査	0.195 ***	0.285 ***	0.384 ***	1.000		
ネット調査	0.041 ***	-0.054 ***	0.229 ***	0.382 ***	1.000	
どれもいや	-0.198 ***	-0.336 ***	-0.220 ***	-0.488 ***	-0.629 ***	1.000

モニター登録者は 9.5%，登録していないがしてもよい者（以下，潜在的モニターという）は 21.3%，あわせると 30.8%となる。測定法への選好をみるとモニター登録者と潜在的モニターは類似しており，どの測定法についても非登録者に比べて協力意向が高い⁴（図表 20）。

図表 20 モニター登録状況別 協力してもよい調査方法（MA）【2008年調査】

(%)

協力してもよい 測定法 回答した調査		訪問面 接調査	訪問留 置調査	電話 調査	郵送 調査	ネット 調査	どれも いや
		モニター登録者 (616人)	27.8	61.5	21.6	67.5	58.4
2008留置き 登録してもよい (1382人)	24.5	70.0	21.0	72.0	44.9	1.7	
モニター非登録者 (4491人)	8.4	25.3	2.9	16.6	10.0	56.7	

4.4 測定法選好と属性のクロス集計

測定法選好と雇用形態を見ると，2007年調査では「どれもいや」を選んだグループの非正規比率が高かったが，2008年調査では，測定法選好による差は顕著ではない（図表 21）。

⁴ 2005年に労働政策研究・研修機構が行った「日本人の働き方調査」では，モニター登録者は 2.5%，潜在的モニターは 15.0%，あわせると 17.5%であり，2008年調査のほうが，モニター登録者，潜在的モニターとも比率が高い。「日本人の働き方調査」は全国の満 20 歳以上～65 歳以下の男女 8,000 人を住民基本台帳から層化二段系統抽出法により抽出し，訪問留置き法により実施したものである。有効回答数 4,939 人，回収率 61.7%。詳細は本多(2006a)参照。二つの調査には，全国 vs.東京都，就労不問 vs.有業者，20～64 歳 vs.18～59 歳，2005 年 vs.2008 年といった調査法上の種々の違いがあり，これがモニター比率の差に結びついていると考えられる。

図表 21 協力してもよい調査方法別 雇用形態【2008年調査】

(%)

雇用形態 協力しても よい調査方法	N (人)	雇用形態		
		正社員・ 正職員	非正規社員	合計
総数	12920	68.6	31.4	100.0
訪問面接調査	1611	67.5	32.5	100.0
訪問留置調査	3760	67.4	32.6	100.0
電話調査	1938	65.9	34.1	100.0
郵送調査	5990	67.0	33.0	100.0
インターネット調査	7620	69.9	30.1	100.0
どれもいや	2790	68.0	32.0	100.0

4.5 測定法選好の規定要因の分析

続いて、2007年調査と同様に、協力してもよい測定法の規定要因について回帰分析を行う（図表 22、23）。

図表 22 記述統計量【2008年調査】

変数		平均値	標準偏差
協力しても よい 調査 方法	訪問面接調査	0.125	0.330
	訪問留置き調査	0.291	0.454
	電話調査	0.150	0.357
	郵送調査	0.464	0.499
	インターネット調査	0.590	0.492
	いずれも協力したくない	0.216	0.411
	訪問留置き調査ダミー	0.503	0.500
女性ダミー	0.423	0.494	
30代ダミー	0.301	0.459	
40代ダミー	0.237	0.425	
50代ダミー	0.213	0.410	
有配偶ダミー	0.599	0.490	
中学ダミー	0.031	0.172	
専門学校ダミー	0.156	0.363	
短大・高専ダミー	0.102	0.302	

大学ダミー	0.364	0.481
大学院ダミー	0.040	0.195
週 30 時間未満	0.186	0.389
週 43 時間～48 時間	0.161	0.368
週 49 時間以上	0.288	0.453
他人への信頼度	1.258	0.629
ネット利用経験ダミー	0.885	0.319

図表 23 各測定法への協力意向の規定要因【2008 年調査】

被説明変数：各測定法への協力意向 (F17)

分析方法：ロジスティック回帰分析

	訪問面接調査	訪問留置調査	電話調査	郵送調査	ネット調査	どれもいや
留置き調査	0.196 ***	0.975 ***	-1.038 ***	-1.059 ***	-4.384 ***	3.166 ***
女性	0.096	0.236 ***	0.179 **	0.558 ***	0.190 **	-0.434 ***
30 代	-0.092	0.044	-0.134 †	0.048	-0.114	0.044
40 代	-0.229 **	-0.091	-0.213 **	-0.070	-0.445 ***	0.122
50 代	-0.436 ***	-0.294 ***	-0.523 ***	-0.387 ***	-0.804 ***	0.349 ***
有配偶	0.373 ***	0.436 ***	0.288 ***	0.336 ***	0.292 ***	-0.486 ***
中学	0.120	0.226 †	-0.256	-0.199	-0.407 **	-0.106
専修各種	0.012	0.127 **	0.076	0.089	0.098	-0.043
短大・高専	-0.040	0.004	0.171 †	0.145 **	0.128	-0.059
大学	0.154 **	0.308 ***	0.351 ***	0.432 ***	0.406 ***	-0.191 **
大学院	0.074	0.388 ***	0.240 †	0.554 ***	0.773 ***	-0.363 **
週 30 時間以下就労	0.201 **	0.257 ***	0.275 ***	0.205 ***	0.112	-0.245 **
週 43～48 時間	0.056	0.046	-0.049	0.061	0.227 **	-0.170 **
週 49 時間以上	-0.103	0.003	-0.088	0.069	0.212 **	-0.206 **
他人信頼	0.060	0.013	0.043	0.048	0.122 **	-0.137 ***
NET 利用	0.029	0.168 **	0.141	0.364 ***	2.335 ***	-0.479 ***
定数	-2.339 ***	-2.103 ***	-1.743 ***	-0.634 ***	0.623 ***	-2.434 ***
サンプルサイズ	12853	12853	12853	12853	12853	12853
χ^2 乗	88.450 ***	759.956 ***	572.811 ***	1453.119 ***	9306.993 ***	3351.8 ***
-2 対数尤度	9578.8	14757.5	10321.2	16303.7	8068.2	9983.1
Nagelkerke R ² 乗	0.013	0.082	0.076	0.143	0.695	0.356

(注) 1. レファレンスグループは、web モニター調査、男性、20 代、配偶者なし、高校卒、週労働時間 30～42 時間、パソコンによるネット利用はほとんど又は全くなし。
他人への信頼は「いいえ=0, 場合による=1, はい=2」として点数化した。

2. †: $p < 0.10$, *: $p < 0.05$, **: $p < 0.01$, ***: $p < 0.001$

分析結果から、以下のような傾向が観察できる。

- ・ 訪問留置き調査の回答者は、web 調査回答者に比べ訪問留置き調査を選好する確率が顕著に高い。ここから、測定法の選好が実際の回答行動に影響を与えていることが推測できる。
- ・ 回答した調査の種類を説明変数とし、その効果をコントロールしてはいるものの、サンプル全体が web モニター調査または訪問留置き調査の回答者であるという制約は解消できない。その影響が現れている可能性があるのが、「年齢の効果」についての分析結果である。これを見ると、どの測定法についても 20 代と 30 代では有意な差がないが、40 代、50 代ではおおむね有意に負になっている。これは、“測定法の如何にかかわらず 20 代の回答率は低い”という広く共有されている経験則と不整合である。その理由として次の二つが考えられるが、前者の理由については「他の理由」に思い当たるものがなく、後者の理由のほうが蓋然性があると考えられる。
 - 20 代は回答したいという気持ちは他の年代よりも強いが、他の理由で回答できない。
 - 今回の調査回答者が 20 代の一般的傾向を代表していない、すなわち、訪問留置き調査または web モニター調査にすでに回答しているわけであるから、20 代の中でも回答確率の高い人に偏っている可能性がある。同様の偏りは他の年代についてもありうるが、20 代については、一般的な回答確率が低いだけに、今回調査回答者と 20 代全体の乖離が大きいのかもしれない。
- ・ 性別についての推定結果が、2007 年調査と 2008 年調査ではかなり異なる。共通しているのは、郵送調査の選好について女性ダミーの効果が有意に正という点のみで、その他の測定法については、2007 年調査では、訪問面接調査について女性ダミーの効果は有意に負、訪問留置き調査、電話調査、ネット調査では有意ではないが係数は負であったのに対し、2008 年調査では、訪問留置き調査、電話調査、ネット調査について有意に正、訪問面接調査については有意ではないがやはり係数は正である。2007 年調査は成人男女すべて、2008 年調査は有業者という対象者の違いはあるが、2007 年調査について就労の有無はコントロールしており、これほどの差が出る理由は判然としない。
- ・ 学歴については、他の測定法と比較して、訪問面接調査では学歴による選好の差が相対的に小さいものの、大学ダミー、大学院ダミーの効果がほとんどの測定法で有意に正であり、高学歴の人ほどどの測定法についても選好が強いと推定される。こ

の結果は、2007年調査でもおおむね同じである。

- ・ 就労時間については、ネット調査以外の測定法については短時間就労（週30時間以下）のほうが選好が強い。ネット調査については、逆に、就労時間が長いほうが選好が強い。
- ・ 「どれもいや」については、2007年調査と2008年調査で共通した傾向として、女性、高学歴、他人信頼、ネット利用の変数がいずれも有意に負である。

5. まとめ：分析結果と実査への提言

5.1 測定法選好は回答傾向に影響を与えている

分析結果から言えるのは、訪問留置き調査の回答者には「訪問留置き調査なら回答してもよい」、すなわち訪問留置き調査を選好している人が多く、郵送調査の回答者には郵送調査を選好している人が、そしてインターネット調査回答者にはインターネット調査を選好している人が多いということである。

測定法の選好は、少なくともこの3つの測定法——訪問留置き調査、郵送調査、インターネット調査——については、調査への回答傾向に実際に影響を与えている。ただし、訪問留置き調査の回答者のうち、「訪問留置き調査に回答してもよい」とした人は約4割にすぎないなど、測定法によっては、選好度と回答傾向の関係が弱いものもある。

例えば、今回の調査で見ると「訪問面接調査」はもっとも好まれない測定法であり、協力したいと思う人は郵送ランダム調査回答者の中の5.6%、訪問留置き調査回答者でも13.6%と非常に少ない。しかし、現実に調査を実施すると、訪問面接調査法の回収率は、近年低下しているとはいうものの50%~60%程度には達する 경우가多く、一般的には、「訪問留置き法」「郵送法」よりも高い回収率が実現できる測定法である。一方、調査協力意向が高い「郵送法」は逆に、一般的には回収率が低く、20~30%程度にとどまっているものも散見される。

このように、協力意向の有無と実際の調査への協力は必ずしも一致しない。「調査に協力したいと思っているが実際には協力しない人」「調査に協力したくないと思っているが実際には協力する人」の双方が相当数存在する。

したがって、上記の「協力してもよい調査方法」別の回答傾向が、そのまま「調査法」別の回答傾向になるわけではないのではないのだが、しかし、例えば「協力してもよい調査方法」として「訪問面接調査」を選んだ人は、それを選ばなかった人に比べ、実際に訪問面接調査への協力を依頼されたときに（他の条件が同一であれば）協力する確率が高いと考えるのがやはり自然であると思われる。

そのように考えれば、測定法選好についての情報は、それぞれの測定法の無回答誤差を推定するための材料となりうるものといえる。

5.2 測定法選好は回答者の属性と相関している

分析の結果、測定法の選好は、年齢、学歴、就業状態、他人への信頼度、社会階層などの回答者の属性と相関している可能性が高いことが判明した。各測定法におおむね共通しているのは、高学歴、有配偶といった属性が協力意向について有意に正であるという点であるが、その他の属性等の影響については、測定法によって相関の有無や方向性は異なることがある。

今回、分析の対象としなかった様々な個人の属性についても、測定法の選好に影響を与えるものはいろいろとありうると思われるので、今後、実証研究が重ねられ、データが蓄積されていくことを期待したい。

5.3 測定法の選択が無回答誤差の質と量に影響を与える

Groves は、調査内容と回答傾向に同時に影響する要因がある場合に、回収率の低下に伴って無回答誤差は大きくなると指摘している。

測定法選好の規定要因と調査内容との関連が強い場合、調査内容と調査対象者の回答傾向との関係が強いということであるから、調査内容に対して特定の傾向を持つ人たちの回答率とそうでない人の回答率に差が生ずる。これは、Missing At Random (ランダムな欠損)の仮定が成り立たないということであり、調査内容に照らして無回答者が偏りをもっているということである。したがって、回収率が低くなるほど、無回答誤差が大きくなる可能性がある。

極端な例をあげると、インターネット利用の好き嫌いをインターネット調査で質問するようなケースがある。インターネット調査法に対する選好の度合いはインターネット利用の好き嫌いとは密接に関連する(=インターネットを利用するのが嫌いな人はインターネット調査に協力したくないと思う確率が高い)であろうから、インターネット利用が好きな人は調査回答率が高く、嫌いな人は回答率が低くなる。この場合、無回答誤差は非常に大きいものになることが想像できる⁵。

調査の実践に当たっては、測定法によって属性と回答傾向の関係が異なることに注意して、調査内容と属性との関連に鑑みて無回答誤差を拡大させないような測定法を選定するという配慮が必要である。

⁵ 「測定法が回答傾向に与える影響」と「調査内容」の共変関係は、本稿のような「調査内容」が「測定法」である場合に特に深刻な問題となる。調査は必ず特定の測定法によって実施されるため、回答者は“特定の測定法”という刺激に反応した人の集団となり、回収率が100%に近い調査を別にすれば、“測定法の選好”という観点からみて必然的にサンプルセレクションバイアスが生ずる。これは測定法の分析にとって不可避である。

例えば、今回の2007年調査はインターネット調査と郵送調査、2008年調査はインターネット調査と訪問留置調査で、行われたものであるため、「ネット調査、郵送調査、訪問留置調査は拒否するが、面接調査や電話調査には回答する」という選好をもった人が存在するとしても、今回の調査では把握できない。

5.4 測定法の如何にかかわらず調査には協力したくないという「調査拒否」層が存在する

測定法の選好によって調査回答者を分類し、その特徴を調べていく中で、いちばん顕著な特徴が現れたのは「いずれの調査にも協力したくない」を選んだグループだった。今回の分析では、調査拒否層は、学歴が低い、他人への信頼度が低い、ネット利用経験者が少ない、年齢がやや高め等の特徴がみられた。

実際の調査の無回答者には、調査拒否した者のほか不在等の外在的な要因により回答できなかった者も含まれるので、現実の無回答者すべてがこのような特徴を共有するわけではない。しかし、経年的に無回答率が上昇している内訳は、不在等による対象者との「無接触」よりも、主として対象者による「回答拒否」の増加であることを考えると(本多(2005))、「調査拒否」グループが無回答誤差に与える影響は増しつつあるといえるだろう。

「いずれにも協力したくない」を選んだ人も、そもそも今回の調査には回答しているのだから、協力したくないと思いつつ実際には協力することがあるわけである。そうであっても、「いずれにも協力したくない」を選んだ人は、他の選択肢を選んだ人に比べれば、調査を依頼されたときに協力しない確率が高いと考えられる。また、今回の調査に回答していない、本当の「調査拒否」層は、今回の回答者の中では相対的には「どれもいや」と回答したグループに類似した属性等をもつと考えられる。

そのような層が調査回答者には含まれにくいことに調査実施者及び調査利用者は十分留意する必要がある。

【文献】

- Abraham, Katharine G., Maitland Aaron, Suzanne M. Bianchi, 2006, “Nonresponse in the American Time Use Survey: Who is missing from the data and how much does it matter?”, *Public Opinion Quarterly*, 70(5), Special Issue 2006:676-703.
- Dennis, J.M., C. Chatt, R. Li, A. Motta-Stanko and P. Pulliam, 2005, “Data Collection Mode Effects Controlling for Sample Origins in a Panel Survey: Telephone versus Internet”, <http://www.knowledgenetworks.com/gamp/papers/Research%20Final%20Draft%20January%202005.pdf>.
- Groves, Robert M., 2006, “Nonresponse rates and nonresponse bias in household surveys”, *Public Opinion Quarterly*, 70(5), Special Issue 2006:646-675.
- Groves, Robert M., Mick P. Couper, Stanley Presser, Eleanor Singer, Roger Tourangeau, Giorgina Piani Acosta, Lindsay Nelson, 2006, “Experiments in producing nonresponse bias” *Public Opinion Quarterly*, 70(5), Special Issue 2006:720-736.
- Olson, Kristen, 2006, “Survey participation, nonresponse bias, measurement error bias, and total

- bias”, *Public Opinion Quarterly*, 70(5), Special Issue 2006:737-758.
- 本多則恵, 2006a, 「調査法が調査結果に与える影響について —インターネット調査, モニター型調査の特性—」『日本人の働き方とセーフティネットに関する研究—予備的分析—』(JILPT 資料シリーズ№14) 労働政策研究・研修機構.
http://www.jil.go.jp/institute/chosa/2006/documents/06-014_03.pdf
- , 2006b, 「インターネット調査・モニター調査の特質—モニター型インターネット調査を活用するための課題」『日本労働研究雑誌』2006年6月号, No.551.
<http://www.jil.go.jp/institute/zassi/backnumber/2006/06/pdf/032-041.pdf>
- ・本川明, 2005, 『インターネット調査は社会調査に利用できるか —実験調査による検証結果—』(労働政策研究報告書№17) 労働政策研究・研修機構.
<http://www.jil.go.jp/institute/reports/2005/017.html>
- 三輪哲, 2007, 「働き方とライフスタイルの変化に関する全国調査 2007 における標本特性と欠票についての基礎分析」東京大学社会科学研究所パネル調査プロジェクトディスカッションペーパーシリーズ№10.
- 土屋隆裕, 2005, 「調査不能者の特性に関する一考察 —「日本人の国民性第 11 次全国調査」への協力理由に関する事後調査から—」統計数理(2005), 53 : 1 号.
<http://www.ism.ac.jp/editsec/toukei/pdf/53-1-035.pdf>

第8章 傾向スコア法によるワーキングパーソン Web 調査補正の可能性

三輪 哲

1. はじめに

この10数年のあいだに起きた社会生活上の大きな変化の1つに、インターネットの普及をあげることにはほとんど異論がないところだろう。情報の検索や発信、各種手続きやショッピングなど、今や我々の日常生活のいたるところで有用なツールとして利用されるようになってきている。そんななか、インターネットを通じた調査（これ以降、Web 調査と呼ぶ）が現在、社会調査において急増してきているとしばしば指摘される（本多 2005；日本マーケティングリサーチ協会 2007）。

しかしながら、Web 調査が、従来おこなわれていた訪問面接法や訪問留置法による統計的調査を代替するかというと、現状ではそれには懐疑的なスタンスをとらざるを得ない。なぜなら、従来型の調査（面接・留置）と Web 調査の回答傾向の違いは大きいことが既に知られているからである（本多・本川 2005；萩原 2009b）。つまり、Web 調査によって得られたデータの「正確さ」—ただし、ここでの正確さというのは従来型調査法の結果を真と仮定した場合なのだが—、それこそが疑問視されているわけである。ただそれでも、Web 調査には安価で、実施からデータ作成までの時間がきわめて短いなど、現場の要請からすると非常に望ましい性質が多々あることも事実である。ならば、コストの高い従来型方法でなされている調査を、どうにかして Web 調査に置き換えられないかと考えるのはきわめて自然な発想といえよう。

そこで注目されるのが、Web 調査を従来型調査法による結果へと近づけるための補正法である。これは、とりわけ Web 調査を使う機会の多い市場調査において注目されている（井上・日本マーケティングサイエンス学会編 2007）。いろいろな方法が提案されているが、あえてその中で代表的かつ実用的なものを挙げると、傾向スコア法（Rosenbaum and Rubin 1983；星野・繁樹 2004）が挙げられる。星野・森本（2007）は、傾向スコアを継続的市場調査の ACR 調査へと適用して、単純なモデルでも補正における十分な有効性をもつことを明らかにした。

では、この方法が、都市圏雇用労働市場の姿の縮図を得ようとした大規模データにおいても有効な補正をなしうるのだろうか。この素朴な問いを検証するために、本稿ではリクルートワークス研究所のワーキングパーソン調査の訪問留置データおよび Web 調査データを用い、できるかぎりシンプルな方法に基づいた補正法がいかほど有効かをテストする。そのようにして、Web 調査によって得られたデータから留置調査データの再現が容易に可能であるのかどうか判断することこそが、本稿の目的である。

2. データと方法

2.1 データ

本稿で用いるデータセットは、リクルートワークス研究所が実施した「ワーキングパーソン調査 2008」(以下、WPS 調査と略す)で得られたものである。通常、同調査は訪問留め置き法で、首都圏 50km の地域に住む 18 歳以上 59 歳以下の被雇用者男女を対象として、2 年おきに大規模な調査がおこなわれている。その伝統に則って、2008 年夏にも、回収レベルの標本規模が 6,500 になる調査がなされた。

その、いわば WPS 調査の本調査と並行して、インターネットモニターから割り当てによって比較のための Web 調査も同年同時期に同地域にておこなわれた。これら 2 つの調査が、今回の分析で使用されるデータセットである。調査設計と実施の詳細については、萩原 (2009b) に説明があるのでそちらを参照されたい。

それとは別に、東京大学社会科学研究所受託研究の一環としてリクルートワークス研究所により行われた調査方法比較調査データをも用いる。比較調査は、2007 年に、東京都の 20 歳から 59 歳までの男女を対象に実施された。ランダムサンプリングによる標本に対する郵送調査 (郵送ランダム)、調査モニターに対する郵送調査 (郵送モニター)、そして 3 つの Web 調査の、5 つの調査が同時になされた。この中から、別々の 3 社が実施した Web 調査 (Web モニター A, B, C とそれぞれ略す) のデータを使用した。標本設計や回収率等の詳細は、萩原 (2009a) を参照されたい。

それら 3 つの Web 調査の平均値の補正をするにあたって、目標となるべき「真値」とみなすのは、2006 年の WPS 調査である。これは、首都圏全域にわたる調査であるが、そのなかから今回の比較調査の設計にあわせて (1) 東京都在住で、(2) 被雇用者の、(3) 20-59 歳男女というように分析対象を限定した。

2.2 方法

補正のために使用する方法は、傾向スコア法である。傾向スコアとは、星野・森本 (2007) の表現を借用しつつ簡単に言えば、関心のある従属変数、独立変数ともに関連のある複数の共変量を 1 つにまとめた値のことである。それをもとに層別したりウェイト付けすることでデータを調整するのである (酒折ほか 2006)。Web 調査補正の場合は、従来型か Web かを見極めるような傾向スコアをまず求め、それをもとに Web 調査の回答者層が仮に従来型調査に回答したならばどのような値になりうるか、補正した上での推定値を算出することとなる。傾向スコア自体の求め方にもさまざまありうるが、ここではその中でも単純な、Web 調査回答であることを従属変数とした二項ロジスティック回帰分析による方法を採用した。その理由は、傾向スコアの算出法のうち最も単純で、再現しやすく汎用性が高いことと、それでもなお実際の補正における有効性では複雑な方法にひけをとらないことが知られているからである (星野・森本 2007)。

ここで、データ処理にあたってクロスバリデーション法を適用したことを付言しておきたい。クロスバリデーション法とは、1つのデータを無作為に2つに分割し、片方を何らかの推定用、残りの片方を（先に得られた推定式を用いての）予測または検証用に使う方法をさす。つまり本稿においては、留置 WPS 調査データとウェブ WPS 調査データを統合したデータセットを予め作成しておき、それを無作為に2分割して、片方を傾向スコア算出のためのデータとして用い、もう一方を傾向スコア使用による補正の有効性検証用にと使い分けた。

表1 傾向スコア推定のためのロジスティック回帰分析結果

	モデル1: 割当要因のみ			モデル2: 基本属性			モデル3: 調査協力意向			
	B	標準誤差	有意確率	B	標準誤差	有意確率	B	標準誤差	有意確率	
定数	-.032	.073	.664	-1.869	.213	.000	-3.031	.426	.000	
性 × 年代										
(ref 男性50-59)										
男性-29	-.003	.103	.978	-.538	.127	.000	-1.109	.214	.000	
男性30-39	-.049	.093	.596	-.354	.104	.001	-.832	.174	.000	
男性40-49	.009	.099	.927	-.097	.106	.362	-.497	.180	.006	
女性-29	-.012	.106	.910	-.403	.138	.004	-1.247	.233	.000	
女性30-39	.171	.108	.114	.126	.134	.346	-.594	.227	.009	
女性40-49	.360	.116	.002	.633	.139	.000	.225	.242	.354	
女性50-59	.425	.120	.000	.793	.141	.000	1.026	.261	.000	
雇用形態										
(ref 正社員)										
契約・嘱託	.698	.123	.000	.775	.133	.000	1.088	.239	.000	
フリーター	.130	.120	.278	.410	.132	.002	.511	.235	.030	
パート	-.830	.086	.000	-.311	.095	.001	.087	.166	.600	
派遣	.910	.143	.000	.991	.154	.000	.726	.245	.003	
業務委託	-.621	.266	.020	-.404	.287	.159	-.397	.453	.381	
配偶関係										
なし				-.016	.085	.855	.396	.141	.005	
子ども有無										
なし				.867	.089	.000	.698	.144	.000	
学歴										
(ref 中学校)										
高校				.641	.188	.001	-.571	.335	.088	
専修学校				.968	.193	.000	-.414	.344	.228	
短大				1.148	.206	.000	-.459	.366	.211	
高専				1.330	.280	.000	-.037	.527	.944	
大学				1.665	.187	.000	-.159	.333	.634	
大学院				2.459	.240	.000	.300	.391	.443	
世帯主										
いいえ				-.451	.080	.000	-.350	.134	.009	
住居形態										
(ref 一戸建て)										
アパート・マンション				.534	.059	.000	.504	.098	.000	
その他				.877	.206	.000	.770	.344	.025	
仕事満足度										
(ref 非常に満足)										
まあ満足				.127	.093	.172	.204	.147	.166	
あまり満足でない				.414	.103	.000	.497	.166	.003	
満足でない				.974	.151	.000	.834	.235	.000	
インターネット頻度										
(ref ほぼ毎日)										
回数回							-1.250	.145	.000	
週1回							-1.390	.286	.000	
月1-2回							-2.515	.498	.000	
ほとんど利用しない							-3.262	.488	.000	
全く利用しない							-3.112	.562	.000	
協力してよい調査方法(多重回答)										
面接							.167	.154	.279	
留置							-2.534	.134	.000	
電話							1.252	.147	.000	
郵送							.643	.119	.000	
web							4.830	.225	.000	
判別率										
		予測値	正分類率	予測値	正分類率	予測値	正分類率			
観測値		留置		留置		留置				
		Web		Web		Web				
	留置	2474	740	77.0	2200	971	69.4	2738	431	86.4
	Web	2158	1045	32.6	1153	2050	64.0	213	2990	93.3
				54.8			66.7			89.9

3. 補正の試み

3.1 傾向スコア法

それでは、前述の方法によって傾向スコアを求め、補正を試みた結果について説明していこう。まず表1は、傾向スコアを求めるための、ロジスティック回帰式の係数を示している。モデル1は、WPSの本調査において用いられた割当要因のみを含むベースラインモデルである。モデル2はそれに加えて、基本属性と仕事満足度を追加投入したモデルで、さらにモデル3ではインターネット利用頻度と調査への協力意向までを含めている。

モデル1の全体の判別率は54.8%と、あまり判別の精度が高くないことがうかがえる。モデル2ではそれが66.7%にまで向上する。そしてモデル3にいたっては、ほぼ9割がたを正しく判別できていることがわかる。

モデル3で新たに投入されたインターネット利用頻度と調査意向変数は、判別制度を大きく引き上げた。前者は、Web調査がインターネットアクセスに基づくものであるからきわめて当然の結果といえる。インターネットを全く、あるいはほとんど利用しない者と毎日利用する者のあいだでは、Web回答者である対数オッズ比が3（オッズ比のスケールに直すと20倍以上）も異なる。

後者の結果は、Web調査のモニターが調査に対して協力的であるというこれまでの知見（本多・本川 2005；本多 2009）と整合的である。全体的に、調査へと協力してもよいとする人ほどWeb調査回答者である蓋然性は高めとなっている¹。とりわけ、Web調査への協力意向は大きな正の効果であり、どちらの調査法の回答者かを分ける主要因としてみることができ。留置調査への協力意向のみ、他とは符号が逆転している。だがこれは、留置調査に既に回答している人たちであるのだから、留置調査への協力意向がWeb回答者たちよりも高くなるのは常識の範疇を出ない結果と思われる。

しかし、判別の成功が、必ずしも補正の成功を約束するわけではない。表2には、傾向スコアの重み付けによる補正の結果を表示した。左側パネルは、今回補正対象とした14変数の平均値である²。右側パネルは、留置における平均値を基準としたときの二乗誤差であり、ゼロに近いほど補正がうまくいったことを意味する数値である。この表からは、判別率が良好なモデル3よりも、モデル2のほうが補正には有効だったことが理解できる。補正後平均値が留置の値に近づいた項目数を数えると、モデル2が11項目であるのに対してモデル3はわずか5項目である。右下部の二乗誤差の和をもとに、誤差の減少率（高いほど補正が有効という意味）を求めると、モデル2は45.9%、モデル3は18.5%なので、結果の差は一目瞭然である。明らかに、補正がうまくいったのはモデル2のほうなのだ。

¹ もっとも、因果の向きは、ここでの説明と逆方向であろう。

² 分析に先立ち、すべての変数を最小値0、最大値1の値域をとるように規準化して、ダミー変数などを含め全変数のレンジをそろえるようにしている。

表2 傾向スコアの重み付けによる補正の結果(検証用データ使用)

		平均値				二乗誤差		
		留置WPS08	web補正前	M2補正後	M3補正後	web補正前	M2補正後	M3補正後
職種	専門	0.230	0.317	0.264	0.252	0.0076	0.0012	0.0005
	事務	0.223	0.375	0.352	0.333	0.0233	0.0168	0.0121
	営業	0.180	0.103	0.100	0.183	0.0059	0.0065	0.0000
	グレー・ブルー	0.324	0.161	0.235	0.156	0.0266	0.0079	0.0282
収入		0.383	0.426	0.402	0.406	0.0018	0.0004	0.0005
労働時間		0.528	0.522	0.493	0.503	0.0000	0.0012	0.0006
能力得点		0.638	0.628	0.627	0.613	0.0001	0.0001	0.0006
仕事意欲		0.667	0.604	0.621	0.596	0.0039	0.0020	0.0049
読書傾向		0.274	0.316	0.279	0.321	0.0018	0.0000	0.0022
生活価値観	家族	0.929	0.861	0.890	0.840	0.0046	0.0015	0.0078
	友人	0.807	0.753	0.756	0.765	0.0029	0.0026	0.0018
	余暇	0.774	0.786	0.777	0.736	0.0001	0.0000	0.0014
	仕事	0.749	0.669	0.675	0.662	0.0065	0.0055	0.0076
一般的信頼		0.645	0.609	0.614	0.691	0.0013	0.0009	0.0022
					二乗誤差の和	<i>0.0864</i>	<i>0.0467</i>	<i>0.0704</i>
					減少率		45.9%	18.5%

注: 太字は、補正後のほうが留置での平均値により近づいたことを表す。

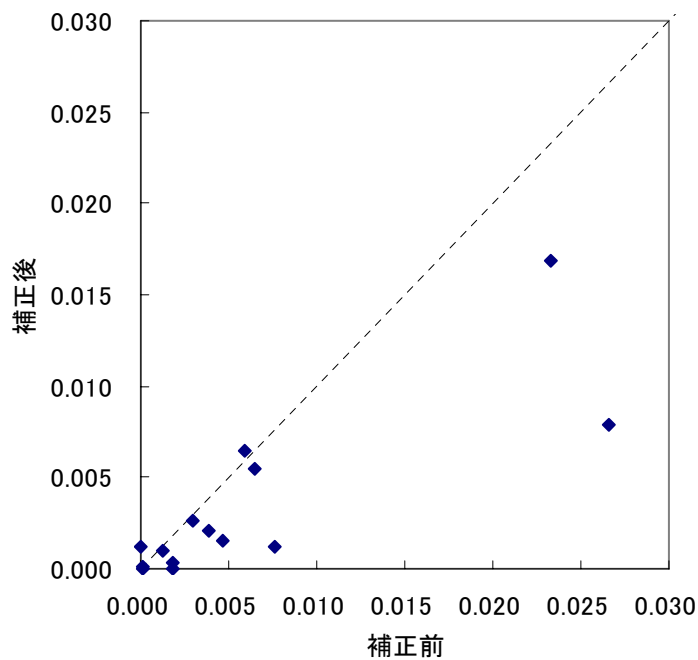


図1 傾向スコア重み付けによる二乗誤差減少

ではモデル2による補正がいかほどのインパクトがあったのか、結果をグラフ化して検討してみよう。項目ごとの二乗誤差の減少を示したのが、図1である。45度に引かれた点線は、補正前と補正後の誤差が同じ、すなわち変わらなかったことを示唆する線である。そこよりも左上の領域は、縦軸（補正後）の値が横軸（補正前）の値よりも大きくなっていくわけであるから、誤差がむしろ補正によって増大してしまったことを意味する。他方、右下の領域は、補正がうまくいき、誤差が減少したことを意味する。さて結果をみると、

例外こそあるものの、概ね右下の領域にプロットされている。したがって、それなりに補正が良好に機能してくれていたと評価するに足る証拠となる。

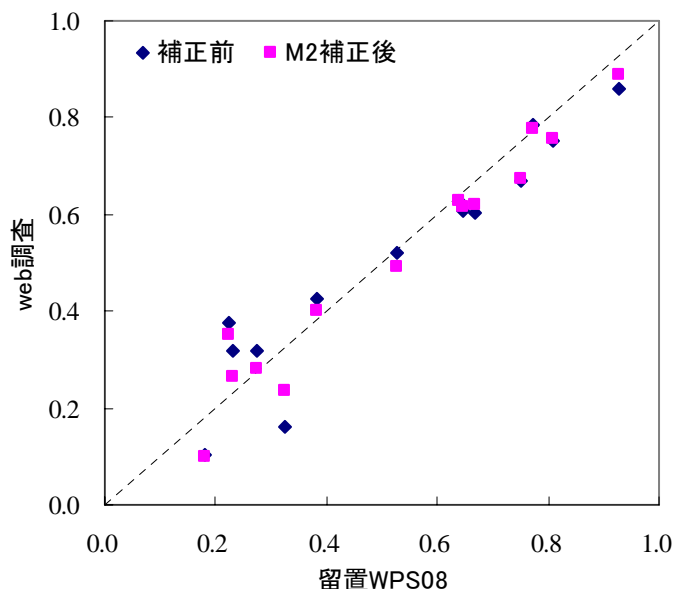


図2 web調査と留置調査の平均比較

次に、各項目の平均値の補正の程度を、グラフ化した図2から確認しよう。今度の図では、45度線は、留置調査とWeb調査とで平均値が一致することを意味するものとなっている。ダイヤモンド型と正方形は、それぞれ補正前と補正後の値を示す。横軸は留置の平均値であり補正によって変わらないので、ダイヤモンドに比べて正方形がより45度線に近づいているほど当該の項目において補正が有効であったことを示す。補正したことで、45度線にびたりと重なるようなことはなかったものの、補正前よりは幾分近づいているとみてよさそうである。しかしながら、補正で大きく改善されたとまでは言い難い。今回に関しては、微弱な程度にしか補正が機能しなかったと評価すべきかもしれない。

ここまでおこなった傾向スコアによる補正について、その有効性を問うならば、弱い効果がみられたとしてまとめられる。ただし、これはそれほど悲観視すべき結果ではない。14もの項目、しかも属性から意識まで多種多様な項目の中心傾向を同時に改善しようというのは、なかなか困難であるのはむしろ当然と思われる。どれか1つ、あるいは類似の項目群に絞ってよいのであれば、もっとよい補正ができる傾向スコアを作成することは可能であろう。また、星野・前田(2006)が提唱するような傾向スコア推定のための共変量選択法を用いれば、よりよい共変量の組み合わせを探索することもできるはずである。今回用いた、属性と満足度くらいの簡便なモデルでも、留置からのWebの乖離(二乗誤差)のほぼ半分を消すことができたわけである。この方法の可能性を信じ、突き詰める価値はあ

るように思われる。

3.2 別データでの再検証

傾向スコアの有効性を検討するために、もう少し分析を続けたい。今度は、別のデータ、すなわち 2006 年の WPS 調査と 2007 年に実施された比較 Web 調査とを用いた再検証を試みる。前項では、確かに誤差の減少率が 45 パーセント程度と、簡便な方法でもそれなりに平均値の補正ができることが示された。だがその内実、推定のためのデータと検証のためのデータはクロスバリデーションをおこなった独立のサンプルではあるけれど、元をたどれば同一の調査データであることも間違いない。ゆえに、推定データと検証データとの関係がきわめて近いからこそ、それなりの補正効果がみられたという疑いが残る。この観点から、前項同様の 2008 年 WPS 推定データによってまず傾向スコアを算出するための方程式を求め、その方程式にしたがって別データ（WPS06 年を真値とし、2007 年比較 Web 調査を補正される対象とする）における補正の有効性を検証しようというわけである。なお先に見た傾向スコア法の結果と比較するために、傾向スコア算出のために用いる共変量はできるだけ表 1 のモデル 2 のものにそろえた。

表3 別データにおける傾向スコア重み付けによる補正の結果(比較調査データ使用)

	平均値						
	WPS06	補正前			補正後		
		WebモニターA	WebモニターB	WebモニターC	WebモニターA	WebモニターB	WebモニターC
労働時間	0.579	0.551	0.550	0.570	0.534	0.531	0.560
収入	0.446	0.480	0.504	0.471	0.465	0.488	0.469
ホワト	0.603	0.612	0.638	0.553	0.569	0.614	0.545
仕事理由1	0.874	0.912	0.900	0.916	0.906	0.901	0.919
仕事理由2	0.688	0.572	0.604	0.567	0.597	0.609	0.578
仕事理由3	0.281	0.375	0.410	0.377	0.367	0.403	0.367
仕事理由4	0.613	0.528	0.549	0.541	0.566	0.585	0.581
仕事理由5	0.448	0.344	0.389	0.345	0.360	0.391	0.350
退職経験	0.626	0.654	0.579	0.658	0.673	0.610	0.688
		二乗誤差					
労働時間		0.0008	0.0009	0.0001	0.0021	0.0023	0.0004
収入		0.0012	0.0035	0.0006	0.0004	0.0018	0.0005
ホワト		0.0001	0.0013	0.0025	0.0011	0.0001	0.0033
仕事理由1		0.0014	0.0007	0.0018	0.0011	0.0008	0.0021
仕事理由2		0.0136	0.0070	0.0148	0.0084	0.0062	0.0122
仕事理由3		0.0089	0.0165	0.0092	0.0074	0.0148	0.0074
仕事理由4		0.0071	0.0040	0.0051	0.0021	0.0008	0.0010
仕事理由5		0.0108	0.0034	0.0106	0.0077	0.0032	0.0096
退職経験		0.0008	0.0022	0.0010	0.0022	0.0003	0.0038
二乗誤差の和		0.0447	0.0395	0.0457	0.0325	0.0302	0.0402
減少率					27.4%	23.5%	12.0%

注：太字は、補正後のほうが留置での平均値により近づいたことを表す。

表 3 に、3 つの会社による Web 調査それぞれにおいて、補正がどの程度有効であったかを示す平均値、および二乗誤差を示した。前項の分析とは扱う被説明変数が異なるほか、共変量の数とカテゴリーがやや少なくなっているため、単純な比較をするわけにはいかないことは承知している。とはいえ、二乗誤差和の減少率を見る限り、総じて補正はうまくいってはいないと言うしかない結果である。ただこれは、1) 留置調査の実施が 2006 年、Web 調査は 2007 年と、時期がずれていることや、2) 推定したデータは首都圏 50km 圏のもので、検証に用いたのは東京都のみのデータであること、3) 無作為のクロスバリデーションによってできたデータ性質の違いに比べ、比較調査データのほうのデータ間性質差が圧倒的に大きいこと、などからやむをえないものかもしれない。

調査データあるいは会社ごとに、補正による誤差減少率が大きく異なった。この中では相対的にうまくいったのは、A 社によるデータであった。この会社は、留置の WPS 調査も担当している会社であることには少し留意が必要であろう。2008 年の留置-Web をもとに推定式を作ったことは既に述べたとおりであるが、それらはどちらもこの A 社が担当した調査データである。つまり、ここでの 2006 年の WPS、2007 年の A 社 Web 調査と実施主体および方法の点からいうと相似形であるのだ。それが、ここでの誤差減少率の違いに反映されているのかもしれない。この推測が正しければ、傾向スコア推定用調査も、それを実際に用いる本番の調査も、同一の調査会社に委ねたほうがよいといえるだろう。一度だけの結果なので確証は持てないものの、調査会社ごとにモニターの集め方や性質、調査ノウハウなどに差異があるのもまた事実であり、あながち的外れではないのではなかろうか。

細部に目を向けると、変数によって補正されたものとそうでないものがあることもわかる。今回については、収入と仕事理由が留置の平均値に近づくように補正されたようであった。仕事理由は意識項目であるからか、もともとかなりズレが大きな項目であった。それらが傾向スコアで補正されたのは確かであるが、それでもなお大きな乖離が残っていることも見逃せない事実である。補正の動きがみられたということと、補正の結果妥当な値におさまったというのは、まったく別の話なのである。今回は 1 つだけ傾向スコアを作成して、それをたくさんの被説明変数の補正に使ってみた。もしどうしても補正したい項目が絞られるならば、それらだけを対象にして、もっと有効な補正を可能にする傾向スコアを作成するほうが望ましいであろう。

本項の結果を要約しよう。まず、補正は別データを使ったときにはあまり機能しなかった。12~28 パーセントという誤差減少率(改善率)は、まったく満足のいくものではない。調査会社、項目ごとにも補正の有効性が異なる結果もみられた。調査会社自体が何らかの特性を有するので、傾向スコア推定とその適用のための調査データは、どちらも同一の会社に委ねるのがよさそうである。項目に関しては、前項の繰り返しになるが、ターゲットとする項目が決まっているならば、それに応じた傾向スコアを作成するのがよいだろう。

4. まとめ

本稿では、いかにして Web 調査の回答の中心傾向（平均値）を留置のそれに近づけられるか、を称して補正と呼んだ。そして、補正がどの程度可能かを、2 つの分析によって明らかにした。属性と意識の双方を含めた被説明変数を対象として補正を試みたところ、同一データセットからクロスバリデーションで分けたデータ使用の場合は 5 割弱、完全に別物のデータを用いた場合は最良のケースで 3 割弱、誤差が減少する結果となった。

これらの結果の評価は二分されうる。第 1 の立場は、傾向スコアによる補正をあまり有効ではないとするものである。とりわけ、3.2 項の結果得られた誤差減少率は、実用に耐えうる水準を遥かに下回ると考えられる。この結果が重要なのは、実際のデータ解析の場面の想定に近いからである。つまり現場の要請としては、毎回毎回 Web と留置を組み合わせで調査をしていられず、できれば一度得られた傾向スコアの算出式をある程度長く使っていたいと思うのが自然であるのだ。ならば、傾向スコアの推定式とその補正能力ができる限り頑健であって欲しいと願うのはきわめて当然であろう。だがその期待には応えられなかった。少なくとも今回の結果からは、推定に用いたものとは別データを使う際に、補正に傾向スコアを適用することが困難というほかはない。

第 2 の立場は、傾向スコアの有効性に関する判断を留保するものである。というのも、ここで用いた調査データは、傾向スコアの算出をもともと念頭に置いて設計されたものではないし、共変量選択についてもまだまだ工夫の余地がいくらでもあるのだ。繰り返しになるが、特定の被説明変数だけを補正したいのであれば、それと強い関連を持ち、かつ Web か留置かで平均が異なる変数を探索し、それらを共変量とすることで誤差減少率は向上することだろう。傾向スコアの推定に使うべき変数が明らかとなれば、それを推定用の調査にも、適用のための調査にも入れることによって、補正の有効性を高めることができるはずである。

傾向スコア法が、共変量選択言い換えればモデルに大きく依存する方法であることは、多くの論者から指摘のあるところである（星野・前田 2006；酒折・山口 2006）。そうであるからこそ、今回の分析では証明できなかった補正における有効性も、モデル設定次第では可能性が残されているのではないかと十分に考えられる。また代替的方法として、共変量間の交互作用を考慮したより複雑なモデルをも容易に扱える潜在クラスモデルによる補正も、酒折・山口（2006）によって提唱されている。適切なモデルの発見は容易ではないとはいえ、将来の実験的調査の蓄積によってその実現に向けて進むであろうと信じたい。方法自体も現在進化をし続けているのだからこそ、推定式の検証と修正を繰り返し、実用に足るものへと達する日を期している。

【文献】

萩原牧子, 2009a, 「第 1 期調査設計と基本分析」『信頼できるインターネット調査法の確

- 立に向けて』(SSJDA Research Paper Series 42) 東京大学社会科学研究所: 頁未定 (印刷中) .
- , 2009b, 「第 2 期調査設計と基本分析」『信頼できるインターネット調査法の確立に向けて』(SSJDA Research Paper Series 42) 東京大学社会科学研究所: 頁未定 (印刷中) .
- 本多則恵, 2005, 「社会調査へのインターネット調査の導入をめぐる論点—比較実験調査の結果から—」『労働統計調査月報』57(2): 12-20.
- , 2009, 「調査法が回答者を選ぶ?—調査法 (訪問・郵送・インターネット等) と無回答誤差の関係—」『信頼できるインターネット調査法の確立に向けて』(SSJDA Research Paper Series 42) 東京大学社会科学研究所: 頁未定 (印刷中) .
- ・本川明, 2005, 『インターネット調査は社会調査に利用できるか—実験調査による検証結果—』(労働政策研究報告書No.17) 労働政策研究・研修機構.
- 星野崇宏・繁榊算男, 2004, 「傾向スコア解析法による因果効果の推定と調査データの調整について」『行動計量学』31: 43-61.
- 星野崇宏・前田忠彦, 2006, 「傾向スコアを用いた補正法の有意抽出による標本調査への応用と共変量の選択の提案」『統計数理』54: 191-206.
- 星野崇宏・森本栄一, 2007, 「インターネット調査の偏りを補正する方法について—傾向スコアを用いた共変量調整法」井上哲浩・日本マーケティングサイエンス学会編『Web マーケティングの科学—リサーチとネットワーク—』千倉書房: 27-59.
- 井上哲浩・日本マーケティングサイエンス学会編, 2007, 『Web マーケティングの科学—リサーチとネットワーク—』千倉書房.
- 日本マーケティングリサーチ協会, 2006, 調査手法別売上高構成比 (第 31 回経營業務統計実態調査 表 6) (<http://www.jmra-net.or.jp/toukei/keiei-j.html>) .
- Rosenbaum, P. R., and D. B. Rubin, 1983 “The central role of the propensity score in observational studies for causal effects,” *Biometrika*, 70: 41-55.
- 酒折文武・大石正平・竹内光悦, 2006, 『実践ワークショップ Excel 徹底活用 推測統計入門』秀和システム.
- 酒折文武・山口和範, 2006, 「潜在クラスモデルの局所独立性を利用した共変量調整法」『日本統計学会誌』36(1): 25-36.

終章 インターネット調査の限界と有効性

ここでは各章の分析から明らかになった事項をまとめるとともに、インターネット調査の限界と可能性について論点を整理することにしたい。

1. 第1部の分析から明らかにされた事項

第1部第1章の萩原論文は、本研究会で第1期（2007年度）に実施した調査設計の方法を整理するとともに、比較調査として実施した5つの調査結果を比較分析している。

第1期では、統計的に代表性が高いとされる無作為抽出法によって選定した対象者に対する郵送ランダム調査（1件）、「異なる方法」で構築された登録モニターを対象として実施した、郵送調査（郵送モニター調査1件）およびインターネット調査（WEBモニター調査3件）のそれぞれの結果の相互比較、さらにそれらの結果を他の既存の無作為抽出による訪問面接法の調査結果と比較することで、登録モニターを対象とした調査および調査方法の違い（郵送、ネット、訪問）による特徴の両者の把握を試みた。「異なる」登録モニターと述べたが、それらは調査専用のモニター（郵送モニター調査とWEBモニター調査の2件）と懸賞メーリングリストのひとつのサービスとして調査を行うモニター（WEBモニター調査）で、後者のモニターの登録者はモニターという意識は薄く、調査への回答率も低いことが知られている。

比較対象とした他の既存調査は、住民基本台帳から無作為抽出し訪問面接法によって調査した総務省の「就業構造基本調査」（2007年）と、エリアサンプリングで訪問留置法により調査したリクルートワークス研究所の「ワーキングパーソン調査」（2006年）などである。

比較研究のために実施した5つの調査結果を比較すると、3つのWEBモニター調査の回答は、運営会社、モニターの構築方法（調査専用モニター、懸賞メーリングリストによるモニター）、調査の回収方法（回収後に無作為抽出、先着順受付）などが異なるものの、回答傾向に大きな違いがないことが明らかになった。他方、郵送モニター調査の回答は、郵送ランダム調査とWEBモニター調査の間に位置する傾向が見られた。

具体的に調査毎の相違を見ると、個人属性では、郵送調査（郵送ランダム調査、郵送WEB調査）と比べてWEBモニター調査は、①学歴が高い、②未婚率が高い、③自営業（雇人なし）が多い、④専門・技術的職業が多い（女性は事務職も多い）、⑤労働時間は男性が短く女性が長い、⑥給与は男性が低めで女性が高い、⑦転職経験率が高く転職回数も多い。意識設問では、郵送ランダム調査に比べてWEBモニター調査の回答は「批判的」な傾向の回答が多く、郵送モニター調査の回答は両者の間に位置した。

第1部第2章の本多論文は、「就業構造基本調査」（2007年）と郵送ランダム調査および

モニター調査（郵送モニター1件，WEBモニター3件）を取り上げて，回答者の属性（性，年齢，学歴，就業状態，雇用形態）を比較することで，郵送ランダム調査，郵送モニター調査，WEBモニター調査といった調査方法による回答者の属性の違いを明らかにしている．その結果は，以下のようなになる．

「就業構造基本調査」（就調）と比較して，モニター調査は，性別や年齢構成には大きな違いはない．ただし郵送ランダム調査は，性別では男性の比率が低く，年齢構成では20代や30代が少なく50代が多くなる．学歴構成では，「就調」に比べてモニター調査は，「大学・大学院卒」の比率が大幅に高く，性別，年代別に比較しても同様の傾向となる．郵送ランダム調査も「大学・大学院卒」が多くなるが，モニター調査に比べるとその傾向は弱い．就業形態は，「就調」とモニター調査および郵送ランダム調査の間に大きな違いはない．ただし，郵送ランダム調査および郵送モニター調査は，「就調」に比べて「家事が主，仕事が従」がやや多くなる．就業者を取り出して就労形態別の構成を見ると，モニター調査および郵送ランダム調査と「就調」の間に大きな差は見られない．さらに，雇用者について雇用形態別の構成比を比較すると，男性ではあまり差はないものの，女性では「就調」に比べてモニター調査と郵送ランダム調査で正社員の比率が低く非正規社員の比率が高くなる．また，WEBモニター調査では，全体的に，20代，30代で「就調」よりも正社員比率が低く，50代以上でパートや契約社員が多くなる．

以上によれば，WEBモニター調査は，「就調」と比較して，性別，年齢構成，就業形態に大きな違いがないものの，学歴構成には大きな相違があり，「大学・大学院卒」の高学歴層が多くなる．

第1部第3章の三輪論文は，同一の目標母集団に対して異なる調査方法で調査を実施した場合に生じる調査方法の相違による回答の違いを分析している．比較の対象として取り上げたのは，4つのモニター調査（WEB調査3件と郵送調査1件）と郵送ランダム調査の5つの調査であるが，分析対象は雇用者のみに限定している．また，分析では，リクルートワークス研究所が実施した訪問留置調査によるワーキングパーソン調査2006（WPS調査と略）を比較対象調査として，同調査における東京都在住の雇用者を比較に取り上げた．

分析結果によると，第1に，属性や意識についての15の質問項目を用いて多次元尺度法によって調査方法間の距離を測定すると，調査方法によって回答分布が異なることが明らかにされた．第2に，意識設問の回答傾向の違いは，訪問留置調査（WPS調査），郵送ランダム，郵送モニター調査，WEBモニター調査の間のすべてに存在することが確認された．これらの調査方法の中では，訪問留置調査とWEBモニター調査の間に回答の傾向が最も大きく異なっていた．たとえば，仕事の満足度や仕事の理由などの意識項目は，訪問留置調査に比べ，郵送調査（ランダム，モニター）やWEBモニター調査では，一貫した傾向として否定的な回答傾向が高くなった．第3に，属性の分布の違いは，訪問留置調査とそれ以外とのあい

だで大きく異なり、とりわけモニター調査で学歴が高めとなる。訪問留置調査に比べて、モニター調査では協力意向のある人が回答しがちであり、その傾向は高学歴者で顕著であることがうかがわれる。

第1部第4章の前田論文は、5つの調査（郵送ランダム調査、郵送モニター調査、WEBモニター調査）の結果と、東京都選挙管理委員会の年代別投票行動調査（「選管調査」）および同委員会の参議院議員選挙世論調査（「世論調査」）から得られる投票率や意識を比較することで、モニター調査の回答の特徴を明らかにしている。「選管調査」は、選挙管理上の業務記録から作成されたもので、測定方法による誤差は「ない」と考えることができ、また「都世論調査」は、選挙人名簿を台帳とした層化無作為抽出による訪問面接調査、つまり従来型調査方法によりかつ回収率が比較的高いものである。

比較対象とした上記の2つの調査の特徴を踏まえ、「選管調査」の投票率を「都世論調査」と5つの調査の投票率を比較すると、5つの調査だけでなく「都世論調査」も含めてすべての調査の投票率は、「選管調査」の水準よりも高く、その幅は14.6%ポイントから19.6%ポイントとなった。つまり、5つの調査及び「都世論調査」の結果に基づくと投票率を過剰推計することになることがわかる。「選管調査」の投票率と比較して、5つの調査のうち郵送ランダム調査と郵送モニター調査の投票率はそれぞれ19%ポイント前後高く、またWEBモニター調査では14.6%ポイントから18.3%ポイントと高く、かつその幅がばらついている。

この結果は、「都世論調査」のように選挙人名簿を台帳とした層化無作為抽出による訪問面接調査つまり従来型調査も、モニターを対象とししかた郵送調査も、さらにWEB調査も、選挙で棄権した人を調査対象として補足することができていない点では共通していることを示している。WEB調査は、従来型調査である訪問調査（面接あるいは留置）では補足しにくい若年層などを補足するのに有益と考えられているが、今回の分析によれば、少なくとも政治的行動が不活発あるいは政治に対する関心が乏しいと層を補足するのには有益とは言えないことがわかる。

さらに、本研究で実施した5つの調査について、政治的態度や階層帰属意識を相互に比較した結果によると、性別、年齢、学歴をコントロールしても5つの調査の回答には有意な差が残り、かつ設問毎に5つの調査間の異同に一貫性がないことが明らかにされた。

以上の結果から著者は、「現段階では伝統的な確率標本抽出法に基づいた調査をインターネット・モニターの調査で完全に代替してしまうというのは軽率と判断せざるを得ない。もし、訪問面接調査の回収率の低下が問題ならば、郵送調査へ切り替えて十分な回収率改善の努力をする方が賢明である」と結論している。

第1部第5章の三輪論文は、回答方法（郵送調査とWEB調査）の違いが回答結果に及ぼ

す効果及び調査対象の選定方法（ランダム抽出と登録モニター）の違いが回答結果に及ぼす効果，さらに郵送調査における督促の効果を明らかにするものである。

第 1 に，回答方法の違いが回答結果に及ぼす効果を測定するために，社会科学研究所が実施している社研高卒パネル調査つまり同一個人を継続的に調査しているパネルデータを再分析した．社研高卒パネル調査の 2006 年度調査と 2008 年度調査は，郵送調査と WEB 調査の両者を併用しており，かつ 2006 年度と 2008 年度で異なる調査方法を選択した者が含まれている．そのため同一回答者に関して両者を比較することで調査方法の違いが調査結果に及ぼす効果を測定することが可能となる．パネルデータ技法に基づく分析によると，回答方法の違いが回答結果に相違をもたらすとは言えなかった。

第 2 に，比較研究のために実施した 5 つの調査のうち「郵送ランダム調査」と「郵送モニター調査」を比較することで，対象者の選定方法が回答結果に及ぼす効果を測定した．分析結果によると，登録モニターとランダムに抽出された回答者とは，調査に対する協力性向が異なることが知られているが，郵送法という調査方法内での検証であるが，対象者の選定方法の違いが回答結果を大きく左右するとはいえないことが明らかにされた。

第 3 に，郵送調査における督促が，回答分布を補正する効果がどの程度あるかを検討するために，著者が実施した「仙台教育意識調査」を分析した．この調査は，督促を 3 回実施しており，督促の回答への影響を把握できるデータとなっている．具体的には，計画標本において情報が得られている性別，年代，居住地域の 3 変数の分布を，督促の前と後で比較した．その結果によると，一般的には督促を行えば回収率が上がり，母集団の特性に近づくと想定されるが，回収率が 3 割ないし 4 割前後の水準の場合では，督促することで回収率を 1 割ほど上げても，回答分布の補正にはほとんど寄与できないことが明らかにされた。

2. 第 2 部の分析から明らかにされた事項

第 2 部第 6 章の萩原論文は，本研究会の第 2 期(2008 年度)に実施した調査設計の実施方法などを整理するとともに，首都圏の居住者を対象に実施した大規模調査である訪問留置調査（エリアサンプリング）と WEB モニター調査の回答を，個人属性に関して代表性の高いデータ（「就業構造基本調査」）と比較することで，両調査の回答がどのように偏っているのかを検証している．その結果によると，配偶者の有無，同居家族，住居形態，学歴などの個人属性に顕著な差があり，訪問留置調査と WEB モニター調査の両者の回答者は，代表性の高いデータとの比較によると，訪問留置調査（高卒が多い，専門的技術職が多いなど）と WEB モニター調査（大卒が多い，サービス職が多いなど）では，それぞれの偏りの内容が異なるが，いずれも「目標母集団からずれている」という傾向が指摘できた．つまり，WEB モニター調査だけでなく，従来型調査手法に準じた訪問留置調査においても回答者に偏りのあることが確認された。

また、この偏りを、調査設計の段階で割付し、調整することが難しいことも明らかにされた。それは、今回分析に取り上げた2つの調査は、性別・年齢5歳階級別に就業形態（正社員とそれ以外グループ）の割付を行って対象者を選定していることによる。それだけでなく、WEBモニター調査では、割付段階において若年層のモニターの数が不足しており、この点も偏りの要因となっている。また、訪問留置調査では、調査実施時においてアクセスの難しい層の存在が回答者の偏りの要因となっている。

第2部7章の本多論文は、異なる調査方法（訪問調査・郵送調査・WEB調査等）と調査への協力意向の関係を分析している。分析では、2007年度に実施した5つの調査（郵送ランダム調査、郵送モニター調査、WEBモニター調査3種の計5種類）（以下「2007年調査」）と2008年度に首都圏で実施したエリアサンプリングによる訪問留置調査及びWEB調査の計2種類）（以下「2008年調査」）を取り上げた。2007年度調査と2008年度調査の両者とも、訪問面接、訪問留置、郵送、電話、WEB調査の5つの調査方法への協力意向に関する設問が含まれており、この設問への回答を分析することで、異なる調査方法への協力意向がどのような要因によって規定されているかを明らかにしている。

分析によると、異なる調査方法への回答者は、それぞれの調査方法を選好している者が多いことが明らかにされた。すなわち訪問留置調査の回答者には訪問留置調査を選好している者が多く、郵送調査の回答者には郵送調査を選好している者が多く、さらにWEB調査の回答者にはWEB調査を選好している人が多い。ただし、今回の調査では調査対象者から最も好まれない調査方法である「訪問面接調査」は、実際の調査では通常、5～6割程度の回収率を実現しており、調査への協力意向と実際の調査への協力は必ずしも一致しないことに留意が必要である。

また、調査方法への選好は、年齢、学歴、就業状態、他人への信頼度、社会階層など回答者の属性や意識と関係があることが明らかにされた。各調査方法に関する選好としておむね共通しているのは、高学歴層や有配偶層で協力意向が高いことで、その他の属性の影響は調査方法によって異なるものとなった。

さらに、調査方法にかかわらず「いずれの調査にも協力したくない」としたいわゆる調査拒否層は、学歴が低い層、他人への信頼度が低い層、ネット利用経験が少ない層、年齢がやや高め層で多くなる。ただし、「いずれにも協力したくない」とした層も、今回の調査には回答していることから、協力したくないと思いつつ実際には調査に協力する者があることに注目する必要がある。ただし、こうした調査拒否層は、他の層に比べて調査を依頼されたときに協力しない確率が高いと言える。

第2部第8章の三輪論文は、WEB調査による回答の偏りの補正する可能性を検討するものである。WEB調査が増大しているが、他方でWEB調査が、従来の訪問面接法や訪問留置法による統計的調査を代替できるかという点、WEB調査の現状を考えると難しいと言えよう。それは、従来型の面接訪問調査等とWEB調査には回答傾向に大きな違いがあることが知られていることによる。他方、WEB調査は安価で、かつ短期間にデータが収集できる利点がある。こうしたことからWEB調査による調査結果の偏りを、従来型調査法による調査結果へと近づけるための補正方法の確立への関心が高まっている。本章では、2008年度に実施されたリクルートワークス研究所のワーキングパーソン調査の訪問留置調査のデータおよびWEB調査を利用して、補正法がどの程度有効であるか検証している。補正の方法として傾向スコア法が採用された。傾向スコアとは、補正したい従属変数とそれに関係する独立変数の両者に関連のある複数の共変量を1つにまとめた値のことで、傾向スコア法は、それをもとに層別化したりウェイト付けしたりすることでデータを調整する方法である。WEB調査の具体的な補正方法では、従来型調査かWEB調査かを見極めるための傾向スコアをまず求め、それをもとにWEB調査の回答者層が仮に従来型調査に回答したとするとどのような回答になりうるかを、補正した上での推定値を算出した。

回答者の属性と意識の両者を含めた被説明変数を対象としてWEB調査の結果を補正し、訪問留置調査と比較したところ、補正方法にもよるが、訪問留置調査との乖離で測定した誤差が50%弱から30%弱ほど減少する結果となった。この結果は、補正がある程度有効であることを示すものである。しかし、2008年度調査から得られた傾向スコアを2007年度調査のWEB調査(3件)に適用して補正し、それを2006年度調査の留置調査と比較すると、誤差減少率(改善率)は12~28%でしかなかった。また、3つの異なるWEB調査で補正の有効性の程度つまり誤差減少率が異なる結果となった。傾向スコアを算出するためには、WEB調査だけでなく、補正のベースとなる調査(たとえば、従来型調査の留置調査)が必要となるが、毎回両者の調査を実施するのでは補正の意味がなく、ある時点で作成した傾向スコアを継続的に新しい調査にも適用できることが望ましいが、今回の結果は、その有効性を否定するものであった。

3. インターネット調査の限界と有効性

インターネット調査の限界と可能性に関して、主要な論点を整理しておこう。

- ① 住民台帳や選挙人名簿から層化無作為抽出で調査対象を選定し、訪問面接や訪問留置で調査を実施する従来型調査(伝統的調査)の回収率の低下や、住民台帳や選挙人名簿の利用が制約されてきていることなどから、従来型調査の代替策として、登録モニターを利用したWEBモニター調査(インターネット調査)の利用が拡大しつつある。

また、WEBモニター調査は、従来型調査に比較して、短期間に調査の実査やデータの集計ができかつ調査費用も低廉であることからWEB調査への関心が高まり、WEB調査の利用が拡大している。

- ② しかし、本研究によれば、従来型調査をWEBモニター調査で代替することには、留意が必要なことが明らかにされた。ここでの従来型調査とは、明らかにしたい集団の特性を、当該集団（母集団）から統計的ルールに従って抽出した調査対象に対して調査を実施し、そのデータに基づいて母集団の特性を推定するものである。本研究によれば、WEBモニター調査は、従来型調査と比較すると、基本属性や意識の傾向に違いがあることが確認された。たとえば、WEBモニター調査の回答者の基本属性では高学歴層が多いことや未婚比率が高いこと、意識面では「批判的な」傾向が強いなどの特徴がある（第1部第3章、第2部第6章）。また、比較研究のために実施した5つの調査に関して、政治的態度や階層帰属意識を比較すると、性別、年齢、学歴をコントロールしてもそれぞれの調査の回答に有意な差が残り、かつ設問毎に調査間の異同に一貫性がない（第1部第4章）。さらに、WEBモニター調査における基本属性に見られる偏りは、性別、年齢構成、就業形態を事前に割り当てて登録モニターから調査対象を抽出しても解消されないことも確認された（第2部第6章）。
- ③ WEBモニター調査の利点として、訪問面接調査など従来型調査では補足することが難しくなっている層、たとえば若年層などを補足できることが指摘されている。しかし、政治行動に関する調査での比較であるが、政治に対して関心が薄い層は、WEB調査においても補足しにくいことが確認された（第1部第4章）。また、モニターを利用したWEB調査の課題として、他の年齢階層に比べて若年層のモニター数が相対的に少ないため、大規模調査を実施する際に、年齢構成を考慮して調査対象を割り付けする場合には、必要対象数を確保することが難しいことが指摘できる（第2部第6章）。
- ④ 住民台帳から調査対象者を無作為抽出して訪問面接法で調査が実施されかつ回収率の高い大規模調査である「就業構造基本調査」（従来型調査）と比較すると、従来型調査であっても、エリアサンプリングで調査対象を選定した訪問留置調査の場合では、回答者の基本属性に偏りがあることが確認された。たとえば、訪問留置調査では戸建てが多く単身者が少ないなどである（第2部第6章）。他方、選挙人名簿から対象者を無作為抽出した訪問面接調査であっても回収率が高くない場合では、調査に協力しない層が、回答に大きなゆがみを及ぼすことも確認された（第1部第4章）。
- ⑤ 調査対象者の調査への協力意向は、調査方法に対して中立的でなく、異なる調査方法に対して異なる選好を持っていることが明らかにされた（第2部第7章）。調査対象者は、自分が選好する調査方法に対して協力し、選好しない調査方法に対しては拒否する可能性が高いのである。また、全体としてみると、訪問調査（面接、留置）は、

他の調査方法に比べて、選好する者が少ない調査であることも明らかにされた。また、訪問調査を選好する者は、「他人への信頼度」が高いことが明らかにされており、こうした点を考慮すると、訪問調査であっても回答率が低い場合には、特定の選好を持った者（「他人への信頼度」が高い人など）が調査に協力している可能性が高く、そのことが意識面の回答に偏りをもたらしている可能性が指摘できる。

- ⑥ 訪問調査への協力度が低いことやオートロック・マンションなど訪問調査では対象者へのアクセスが難しい環境変化などから郵送調査を見直す動きもある。しかし、郵送ランダム調査でも回収率が低い場合は、モニター調査（WEB、郵送）に近い回答傾向があることが明らかにされた。郵送ランダム調査は、回収率が低い場合であったことを考慮する必要があるが、仕事の満足度や仕事の理由などを見ると、モニター調査（郵送、WEB）と同じく、否定的な回答傾向が見られた。つまり、郵送ランダム調査を実施する場合には、回収率を高める工夫が不可欠となる。他方、督促などで回収率を高める努力をしても3割から4割の回収率では、督促によって1割程度回収率を引き上げても、回答分布の補正に貢献しないことが明らかにされた（第1部第5章）。
- ⑦ WEBモニター調査の限界を指摘したが、これは、WEB調査で、住民台帳や選挙人名簿から層化無作為抽出で調査対象を選定し、訪問面接調査や訪問留置調査で調査を実施する従来型調査（伝統的調査）を代替する場合を想定したものである。他方、WEBモニター調査には、調査期間が短く、調査費用が相対的に低廉である利点のみならず、WEBモニター調査には有効な調査領域が存在する。それは調査母集団を確定できない対象に関して調査を実施する場合や、無作為抽出で調査対象を選定した場合は調査対象を十分に確保できい場合などではWEBモニター調査の有効性が高い。WEBモニター調査では、特定の属性や意識を持った層を抽出するための予備調査を容易に実施できるため、分析したい属性を持った対象者を事前に特定した後の本調査を実施出来ることによる。
- ⑧ WEBモニター調査間の比較では、運営会社、モニターの構築方法（調査専用モニター、懸賞メーリングリストによるモニター）、調査の回収方法（回収後に無作為抽出、先着順受付）などが異なっても、回答傾向に大きな違いがないことが明らかになった。他方、郵送モニター調査の回答は、郵送ランダム調査とWEBモニター調査の間に位置する傾向が見られた。（第1部第1章）
- ⑨ WEB調査の回答を補正する方法が開発されており、その一つが傾向スコア法である。傾向スコアを算出するためには、WEB調査と同時に補正のベースとなる調査（たとえば、従来型調査の訪問留置調査など）が必要となるが、毎回両者の調査を実施するのでは補正の意味がなく、ある時点で作成した傾向スコアを新しい調査にも適用できることが望ましい。しかし、今回の分析結果は、ある年度の調査でから算出した傾向スコアを他の年度の調査に適用したところの、補正効果が小さくなり、補正の有効性

を否定するものとなった。ただし、今回、傾向スコアを算出するために利用した調査は、傾向スコアの算出を想定して設計したものではない。今後は、傾向スコアの算出を想定した調査によって、傾向スコア法による補正の有効性の再検討が必要となる。

資料編

付属資料 I モニターの特徴

I-1 モニターの概要 (各調査会社より情報収集)

	②郵送モニター (2007/10/1時点)	③WEBモニターA (2007/10/1時点)	④WEBモニターB (2007/11/1時点)	⑤WEB懸賞メーリングリスト (2007/10/4時点)
全モニター数	238,967人(約10万世帯)	681,991人	582,116人	2,010,359人
属性情報 (職種・雇用形態別%)	<ul style="list-style-type: none"> ●会社員 20.1% ●公務員 2.9% ●管理職・経営 6.5% ●商工自営業 3.1% ●農林漁業 0.3% ●自由業 0.6% ●自営手伝い 1.3% ●パート・アルバイト 12.9% ●内職 0.4% ●主婦専業 16.9% ●大学・大学院生 4.6% ●短大・専門学校生 0.9% ●小・中・高生 18.3% ●未就学児 3.0% ●無職 3.4% ●その他の職業 1.6% ●不明 3.0% 	<ul style="list-style-type: none"> ●会社員(管理職以外の正社員) 28.6% ●会社員(管理職) 5.3% ●会社役員・経営者 2.8% ●派遣・契約社員 6.4% ●公務員・非営利団体職員 4.5% ●教職員講師 1.5% ●開業医、勤務医 0.4% ●看護師 0.8% ●薬剤師 0.3% ●その他医療関係者 1.2% ●弁護士、行政書士 0.1% ●会計士、税理士 0.1% ●農林漁業 0.3% ●自営業(農林漁業を除く) 6.0% ●SOHO 1.1% ●パート・アルバイト・フリーター 11.1% 	<ul style="list-style-type: none"> ●公務員3.5% ●経営者・役員1.6% ●会社員40.0% (事務系15.7%、技術系13.7%、その他10.5%) ●自営業5.2% ●自由業1.7% ●専業主婦18.2% ●パート・アルバイト11.6% ●学生11.7% ●その他6.6% 	<ul style="list-style-type: none"> ●公務員4.4% ●自営業(農林水産含)8.2% ●自由業(フリーランス)1.5% ●会社員(経営・役員)4.8% ●会社員(管理職)5.8% ●会社員(一般)11.0% ●会社員(派遣・契約・嘱託)1.6% ●学生11.2% ●専業主婦9.6% ●アルバイト・パート2.7% ●無職1.8% ●その他15.5%
属性情報 (居住地域別%)	<ul style="list-style-type: none"> ●北海道 4.3% ●東北 4.3% ●関東 3.5% ●京浜 40.6% ●北陸 5.0% ●東海 8.8% ●京阪神 20.6% ●中国 4.1% ●四国 2.7% ●九州 6.1% 	<ul style="list-style-type: none"> ●北海道 4.4% ●東北 5.2% ●関東 4.7% ●京浜 37.7% ●北陸 4.2% ●東海 10.3% ●京阪神 18.0% ●中国 4.8% ●四国 2.3% ●九州 6.5% 	<ul style="list-style-type: none"> ●北海道4.5% ●東北5.2% ●関東43.2% ●中部14.8% ●近畿17.4% ●中国4.7% ●四国2.3% ●九州7.9% 	<ul style="list-style-type: none"> ●北海道東北エリア9.7% ●関東地方エリア39.9% ●甲信越エリア3.2% ●北陸エリア2.0% ●東海エリア10.3% ●近畿エリア17.2% ●中国エリア4.5% ●四国エリア2.2% ●九州沖縄エリア8.0%
属性情報 (年齢層別%)	<ul style="list-style-type: none"> ●9才以下 6.9% ●10代 14.7% ●20代 13.3% ●30代 17.5% ●40代 20.8% ●50代 14.1% ●60代 12.8% 	<ul style="list-style-type: none"> ●10代 1.1% ●20代 22.6% ●30代 41.7% ●40代 23.4% ●50代 8.4% ●60代以上2.8% 	<ul style="list-style-type: none"> ●12才未満0.1% ●12～19才5.0% ●20才～24才11.7% ●25才～29才17.6% ●30才～34才21.3% ●35才～39才17.2% ●40才～49才18.4% ●50才～59才6.4% ●60才以上2.3% 	<ul style="list-style-type: none"> ●10代 5.3% ●20代 17.9% ●30代 30.6% ●40代 24.1% ●50代 13.5% ●60代 5.2% ●70代 2.1%
モニター募集方法	<ul style="list-style-type: none"> ●弊社パネル調査(SGLSL)協力修了者(SGLはクォータサンプリング、SLIは住民基本台帳より無作為抽出) ●単発調査協力者(もとの調査はランダムサンプリングもしくはクォータサンプリング) ●既登録モニターなどからの紹介 ●調査員紹介 ●自主応募 ●他社(人材派遣会社等)と提携募集など 	<ul style="list-style-type: none"> ●登録者本人が、パソコンから必要な情報を入力(登録無料) 	<ul style="list-style-type: none"> ●Yahoo!Japan・MSN・LYCOS・GOO・Exciteなど大手ポータルサイトにてモニター募集の告知を掲載。 ●コミュニティ・音楽・スポーツ・ビジネス・検索サイトなど色々なジャンルのサイト(5000サイト以上)からアフィリエイトプログラムで募集。 	<ul style="list-style-type: none"> ●3か月に1回、懸賞金がある会員として募集。主にプロバイダー系のポータルサイトを中心に広告を出稿。
モニター管理方法	<ul style="list-style-type: none"> ●属性更新は1～2年に一回、登録票や属性更新票は郵送での返送。 ●不良モニターの除外あり ●同一世帯への調査回数コントロール 	<ul style="list-style-type: none"> ●モニターの登録時、謝礼を振り込む口座として銀行口座を開設していただいています。口座開設の際には、「本店だけが支店がある」以下の3つの金融機関に限定(支店がある金融機関では支店の数だけ口座を開設出来てしまうため)。 1. ジャパンネットバンク 2. イーバンク銀行 3. ば・る・る(郵便貯金) これにより以下の2点を防止し、質の高いモニターの実現を可能にしています。 ●登録時本人確認書類が不十分なため、実在しない人間は口座を作れない重複登録防止:3金融機関のみ 	<ul style="list-style-type: none"> ●モニターの登録情報は、年に1度(4～6月頃を予定)、モニタ全員が必ず更新する仕組みを導入しています。また、モニターの登録情報に変更があった場合には、モニタ自身が自分のページから更新可能なシステムとなっており、随時更新を呼びかけています。 ●メールアドレスが有効でなくなった会員や、いい加減な回答が見受けられたモニターのクリーニングを毎月定期的に行い、クリーニング後の有効モニタ数を公表しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●毎年誕生日に、登録情報更新の依頼メール ●懸賞応募時、サイトでの商品購入時に登録情報の更新が必須 ●3か月懸賞メールのwebサイトにログインがない会員に対して、ポイントの有効期限の告知メールを送り、アクセスを促す。
モニター謝礼金支払い方法	<ul style="list-style-type: none"> ●基本的に図書カード500円から1000円先送り(調査票と同封) 	<ul style="list-style-type: none"> ●登録してもらった金融機関の口座に現金振り込み 	<ul style="list-style-type: none"> ●事前調査・本調査のいずれの場合にも、回答者全員に対し、ポイントで回答謝礼を付与しています。ポイントは一定以上集まると、銀行振込による現金化や商品券等との交換の他、提携ポイントプログラムへの移行が可能です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●アンケート回答者に抽選でポイントによる支払い
回収率目安 ①スクリーニング調査 ②スクリーニング後本調査 ③スクリーニングを経ない本調査(あれば)	<ul style="list-style-type: none"> ①55～65% ②30%前後 ③80～85% 	<ul style="list-style-type: none"> ①35～45% ②65～75% ③45～65%(テーマによりかなりばらつきあり、過去実績より推測して配信) 	<ul style="list-style-type: none"> 【調査開始から24時間後のデータ】 ①41.1% ②84.9% ③42.6% 	<ul style="list-style-type: none"> ①5%前後 ②55～60%前後 ③7%前後

I-2 モニター母集団 (各調査会社より情報収集)

	②郵送モニター (2007/11/20時点)	③WEBモニターA (2007/11/5時点)	④WEBモニターB (2007/11/21時点)	⑤WEBモニターC (2007/10/4時点)
区部中央部_男性_20代	410	1762	3535	9,016
区部中央部_男性_30代	413	3391	3492	12,909
区部中央部_男性_40代	518	2358	1664	9,671
区部中央部_男性_50代	427	884	562	5,719
区部東部_北部_男性_20代	405	1530	2298	6,623
区部東部_北部_男性_30代	472	3277	2777	11,443
区部東部_北部_男性_40代	689	2447	1597	8,481
区部東部_北部_男性_50代	424	814	523	4,418
区部西部_南部_男性_20代	707	2665	4243	10,209
区部西部_南部_男性_30代	694	4946	4716	18,023
区部西部_南部_男性_40代	1011	3512	2399	13,656
区部西部_南部_男性_50代	746	1367	978	7,614
多摩東部_男性_20代	383	1247	1575	7,284
多摩東部_男性_30代	366	1936	1680	7,160
多摩東部_男性_40代	564	1529	997	5,321
多摩東部_男性_50代	388	527	412	3,766
多摩中央北部_男性_20代	45	308	405	946
多摩中央北部_男性_30代	78	695	472	1,884
多摩中央北部_男性_40代	98	498	285	1,675
多摩中央北部_男性_50代	43	183	122	1,003
多摩中央南部_男性_20代	266	1346	1626	4,130
多摩中央南部_男性_30代	268	2062	1683	6,220
多摩中央南部_男性_40代	391	1535	1049	5,594
多摩中央南部_男性_50代	258	612	410	3,373
多摩西部_男性_20代	7	106	148	551
多摩西部_男性_30代	17	225	161	658
多摩西部_男性_40代	17	187	98	545
多摩西部_男性_50代	5	48	40	399
区部中央部_女性_20代	767	2399	3555	5,791
区部中央部_女性_30代	807	4525	4477	9,709
区部中央部_女性_40代	836	2065	1539	4,623
区部中央部_女性_50代	575	703	494	1,931
区部東部_北部_女性_20代	692	2103	3029	4,351
区部東部_北部_女性_30代	872	4280	4296	7,440
区部東部_北部_女性_40代	963	1999	1602	3,932
区部東部_北部_女性_50代	557	497	406	1,248
区部西部_南部_女性_20代	1321	3917	5708	7,988
区部西部_南部_女性_30代	1383	6991	7112	13,889
区部西部_南部_女性_40代	1479	3402	2647	7,110
区部西部_南部_女性_50代	944	1033	767	2,621
多摩東部_女性_20代	715	1557	2214	4,032
多摩東部_女性_30代	691	2352	2487	4,416
多摩東部_女性_40代	928	1260	1034	2,354
多摩東部_女性_50代	540	351	323	973
多摩中央北部_女性_20代	74	368	602	788
多摩中央北部_女性_30代	132	732	747	1,158
多摩中央北部_女性_40代	136	383	309	642
多摩中央北部_女性_50代	46	113	80	265
多摩中央南部_女性_20代	474	1390	1986	2,881
多摩中央南部_女性_30代	487	2346	2411	3,967
多摩中央南部_女性_40代	564	1230	1053	2,263
多摩中央南部_女性_50代	362	379	315	877
多摩西部_女性_20代	16	111	189	277
多摩西部_女性_30代	27	222	197	408
多摩西部_女性_40代	24	104	81	208
多摩西部_女性_50代	6	26	15	85

付属資料Ⅱ 調査設計詳細

Ⅱ－1 東京都（首都圏 50km 圏内）7層化

	地域名	該当区市町村
区部	区部中央部	千代田区、中央区、港区、新宿区、文京区、台東区、墨田区、江東区、渋谷区、豊島区、荒川区
	区部東部・北部	北区、板橋区、足立区、葛飾区、江戸川区
	区部西部・南部	品川区、目黒区、大田区、世田谷区、中野区、杉並区、練馬区
市郡部	多摩東部	武蔵野市、三鷹市、調布市、小金井市、小平市、東村山市、国分寺市、狛江市、清瀬市、東久留米市、西東京市
	多摩中央北部	立川市、昭島市、福生市、東大和市、武蔵村山市、羽村市、瑞穂市
	多摩中央南部	八王子市、府中市、町田市、日野市、国立市、多摩市、稲城市
	多摩西部	青梅市、あきる野市、日の出町

Ⅱ－2 無作為抽出郵送調査（①）の50地点の割り当て

区部中央部	9
区部東部・北部	10
区部西部・南部	15
多摩東部	6
多摩中央北部	2
多摩中央南部	7
多摩西部	1

Ⅱ－3 モニター調査 1000 サンプルの割付

区部中央部	男性	女性	多摩中央北部	男性	女性
20代	23	22	20代	5	5
30代	28	27	30代	7	6
40代	21	19	40代	5	5
50代	23	21	50代	6	6
区部東部・北部	男性	女性	多摩中央南部	男性	女性
20代	24	22	20代	19	16
30代	31	28	30代	19	18
40代	23	21	40代	15	14
50代	26	24	50代	16	17
区部西部・南部	男性	女性	多摩西部	男性	女性
20代	39	38	20代	2	2
30代	44	44	30代	3	2
40代	34	32	40代	2	2
50代	33	33	50代	3	3
多摩東部	男性	女性			
20代	17	15			
30代	18	17			
40代	14	13			
50代	14	14			

II-4 回収状況(エリア別詳細)

	① 郵送ランダム(宛先不明戻り分を除く)					② 郵送モニター					③ WEBモニターA					④ WEBモニターB					⑤ WEB懸賞メールنگリスト				
	割付	発送数	配信/割付	回収数	回収率	宛先不明戻り数	発送数	配信/割付	回収数	回収率	配信数	配信/割付	回収数	回収率	配信数	配信/割付	回収数	回収率	配信数	配信/割付	回収数	回収率			
区部中央部_男性_20代	23	78	1.1	14	17.9%	4	31	1.3	20	64.5%	72	3.1	27	37.5%	53	2.3	37	69.8%	690	30.0	20	2.9%			
区部中央部_男性_30代	28	91	1.3	20	28.6%	4	37	1.3	36	97.3%	71	2.5	36	50.7%	59	2.1	43	72.9%	840	30.0	52	6.2%			
区部中央部_男性_40代	21	70	1.1	10	22.9%	2	28	1.3	22	78.6%	63	3.0	27	42.9%	42	2.0	32	76.2%	630	30.0	48	7.6%			
区部中央部_男性_50代	23	74	1.5	15	20.3%	1	31	1.3	29	93.5%	49	2.1	27	55.1%	42	1.8	33	78.6%	690	30.0	39	5.7%			
区部東部_北部_男性_20代	24	86	1.1	12	14.0%	4	32	1.3	24	75.0%	75	3.1	29	38.7%	53	2.2	39	73.6%	720	30.0	21	2.9%			
区部東部_北部_男性_30代	31	104	1.3	19	14.4%	1	41	1.3	34	82.9%	78	2.5	38	48.7%	59	1.9	45	76.3%	930	30.0	60	6.5%			
区部東部_北部_男性_40代	23	78	1.1	10	23.1%	1	31	1.3	29	93.5%	68	3.0	25	36.8%	42	1.8	33	78.6%	690	30.0	57	8.3%			
区部東部_北部_男性_50代	26	84	1.5	22	26.2%	1	35	1.3	32	91.4%	55	2.1	28	50.9%	51	2.0	36	70.6%	780	30.0	37	4.7%			
区部西部_南部_男性_20代	39	133	1.1	17	12.8%	2	52	1.3	41	78.8%	122	3.1	49	40.2%	76	1.9	56	73.7%	1170	30.0	42	3.6%			
区部西部_南部_男性_30代	44	155	1.4	14	9.0%	1	59	1.3	48	81.4%	111	2.5	50	45.0%	87	2.0	66	75.9%	1320	30.0	73	5.5%			
区部西部_南部_男性_40代	34	119	1.2	22	18.5%	1	45	1.3	40	88.9%	98	2.9	39	39.8%	65	1.9	50	76.9%	1020	30.0	80	7.8%			
区部西部_南部_男性_50代	33	127	1.6	34	26.8%	1	44	1.3	39	88.6%	78	2.4	34	43.6%	70	2.1	52	74.3%	990	30.0	68	6.9%			
多摩東部_男性_20代	17	55	1.1	0	0.0%	2	23	1.4	17	73.9%	52	3.1	22	42.3%	32	1.9	23	71.9%	510	30.0	0	1.8%			
多摩東部_男性_30代	18	63	1.4	0	0.0%	1	24	1.3	21	87.5%	46	2.6	20	43.5%	43	2.4	27	62.8%	540	30.0	50	9.3%			
多摩東部_男性_40代	14	47	0.8	19	27.7%	1	19	1.4	17	89.5%	57	4.1	24	42.1%	25	1.8	21	84.0%	420	30.0	36	8.6%			
多摩東部_男性_50代	14	51	1.7	15	29.4%	1	19	1.4	17	89.5%	30	2.1	22	73.3%	30	2.1	22	73.3%	420	30.0	26	6.2%			
多摩中央北部_男性_20代	5	18	1.1	1	5.6%		7	1.4	6	85.7%	16	3.2	5	31.3%	12	2.4	9	75.0%	150	30.0	7	4.7%			
多摩中央北部_男性_30代	7	22	1.2	1	4.5%		9	1.3	8	88.9%	18	2.6	7	38.9%	13	1.9	10	76.9%	210	30.0	22	10.5%			
多摩中央北部_男性_40代	5	16	1.3	3	18.8%		7	1.4	6	85.7%	12	2.4	5	41.7%	10	2.0	8	80.0%	150	30.0	13	8.7%			
多摩中央北部_男性_50代	6	17	1.3	3	17.6%		8	1.3	7	87.5%	13	2.2	6	46.2%	12	2.0	8	66.7%	180	30.0	13	7.2%			
多摩中央南部_男性_20代	19	62	1.1	0	0.0%	1	25	1.3	19	76.0%	59	3.1	21	35.6%	31	1.6	24	77.4%	570	30.0	30	5.3%			
多摩中央南部_男性_30代	19	73	1.5	19	26.0%		25	1.3	23	92.0%	48	2.5	23	47.9%	37	1.9	27	73.0%	570	30.0	41	7.2%			
多摩中央南部_男性_40代	15	56	1.6	17	30.4%		20	1.3	19	95.0%	34	2.3	17	50.0%	29	1.9	21	72.4%	450	30.0	34	7.6%			
多摩中央南部_男性_50代	16	57	3.6	15	26.3%	2	21	1.3	18	85.7%	34	2.1	19	55.9%	30	1.9	22	73.3%	480	30.0	32	6.7%			
多摩西部_男性_20代	2	9	4.5	0	0.0%		4	2.0	3	75.0%	15	7.5	4	26.7%	6	3.0	4	66.7%	60	30.0	1	1.7%			
多摩西部_男性_30代	3	10	3.3	1	10.0%		4	1.3	3	75.0%	8	2.7	4	50.0%	4	1.3	4	100.0%	90	30.0	4	4.4%			
多摩西部_男性_40代	2	8	4.0	2	25.0%		3	1.5	2	66.7%	5	2.5	5	100.0%	3	1.5	3	100.0%	60	30.0	3	5.0%			
多摩西部_男性_50代	3	9	3.0	2	22.2%		4	1.3	2	50.0%	7	2.3	6	85.7%	3	1.0	3	100.0%	90	30.0	9	10.0%			
区部中央部_女性_20代	22	72	3.3	19	20.8%	3	29	1.3	23	79.3%	64	2.9	24	37.5%	48	2.2	34	70.8%	660	30.0	29	4.4%			
区部中央部_女性_30代	27	90	3.3	10	20.0%	1	36	1.3	20	72.2%	72	2.7	32	44.4%	57	2.1	40	70.2%	810	30.0	63	7.8%			
区部中央部_女性_40代	19	61	3.2	0	0.0%	6	25	1.3	23	92.0%	43	2.3	22	51.2%	40	2.1	30	75.0%	570	30.0	50	8.8%			
区部中央部_女性_50代	21	72	3.4	19	26.4%	1	28	1.3	23	82.1%	41	2.0	23	56.1%	42	2.0	31	73.8%	630	30.0	42	6.7%			
区部東部_北部_女性_20代	22	82	3.7	20	24.4%	2	29	1.3	23	79.3%	64	2.9	30	46.9%	51	2.3	37	72.5%	660	30.0	30	4.5%			
区部東部_北部_女性_30代	28	99	3.5	19	18.2%		37	1.3	30	81.1%	75	2.7	31	41.3%	59	2.1	42	71.2%	840	30.0	76	9.0%			
区部東部_北部_女性_40代	21	75	3.6	13	17.3%		28	1.3	25	89.3%	56	2.7	22	39.3%	43	2.0	32	74.4%	630	30.0	69	11.0%			
区部東部_北部_女性_50代	24	83	3.5	35	42.2%		32	1.3	27	84.4%	47	2.0	25	53.2%	42	1.8	33	78.6%	720	30.0	63	8.8%			
区部西部_南部_女性_20代	38	126	3.3	31	24.6%	2	51	1.3	32	62.7%	110	2.9	44	40.0%	71	1.9	54	76.1%	1140	30.0	47	4.1%			
区部西部_南部_女性_30代	44	147	3.3	20	17.7%	1	59	1.3	48	81.4%	117	2.7	52	44.4%	86	2.0	62	72.1%	1320	30.0	75	5.7%			
区部西部_南部_女性_40代	32	110	3.4	31	28.2%	1	43	1.3	37	86.0%	88	2.8	34	38.6%	65	2.0	47	72.3%	960	30.0	84	8.8%			
区部西部_南部_女性_50代	33	125	3.8	35	28.0%	1	44	1.3	39	88.6%	65	2.0	41	63.1%	70	2.1	49	70.0%	990	30.0	96	9.7%			
多摩東部_女性_20代	15	48	3.2	0	0.0%	2	20	1.3	14	70.0%	43	2.9	23	53.5%	30	2.0	22	73.3%	450	30.0	22	4.9%			
多摩東部_女性_30代	17	60	3.5	17	28.3%	1	23	1.4	20	87.0%	45	2.6	23	51.1%	35	2.1	26	74.3%	510	30.0	40	7.8%			
多摩東部_女性_40代	13	44	3.4	13	29.5%		17	1.3	12	70.6%	30	2.3	15	50.0%	28	2.2	19	67.9%	390	30.0	49	12.6%			
多摩東部_女性_50代	14	49	3.5	19	38.8%		19	1.4	18	94.7%	28	2.0	15	53.6%	28	2.0	20	71.4%	420	30.0	51	12.1%			
多摩中央北部_女性_20代	5	17	3.4	3	17.6%		7	1.4	7	100.0%	15	3.0	8	53.3%	12	2.4	9	75.0%	150	30.0	12	8.0%			
多摩中央北部_女性_30代	6	19	3.2	3	15.8%		8	1.3	6	75.0%	16	2.7	9	56.3%	15	2.5	10	66.7%	180	30.0	20	11.1%			
多摩中央北部_女性_40代	5	15	3.0	3	20.0%		7	1.4	7	100.0%	27	5.4	8	29.6%	12	2.4	8	66.7%	150	30.0	16	10.7%			
多摩中央北部_女性_50代	6	16	2.7	4	25.0%		8	1.3	7	87.5%	12	2.0	7	58.3%	10	1.7	8	80.0%	180	30.0	18	10.0%			
多摩中央南部_女性_20代	16	60	3.8	19	31.7%		21	1.3	15	71.4%	54	3.4	17	31.5%	32	2.0	22	68.8%	480	30.0	22	4.6%			
多摩中央南部_女性_30代	18	69	3.8	19	27.5%		24	1.3	21	87.5%	48	2.7	24	50.0%	35	1.9	26	74.3%	540	30.0	69	12.8%			
多摩中央南部_女性_40代	14	51	3.6	16	31.4%	1	19	1.4	14	73.7%	32	2.3	16	50.0%	28	2.0	20	71.4%	420	30.0	45	10.7%			
多摩中央南部_女性_50代	17	57	3.4	22	38.6%	1	23	1.4	19	82.6%	34	2.0	20	58.8%	28	1.6	20	71.4%	510	30.0	49	9.6%			
多摩西部_女性_20代	2	8	4.0	1	12.5%		4	2.0	2	50.0%	6	3.0	3	50.0%	3	1.5	3	100.0%	60	30.0	4	6.7%			
多摩西部_女性_30代	2	10	5.0	4	40.0%		4	2.0	3	75.0%	14	7.0	2	14.3%	6	3.0	4	66.7%	60	30.0	3	5.0%			
多摩西部_女性_40代	2	6	3.0	2	33.3%	1	3	1.5	2	66.7%	5	2.5	4	80.0%	4	2.0	3	75.0%	60	30.0	12	20.0%			
多摩西部_女性_50代	3	9	3.0	1	11.1%																				

付属資料Ⅲ 調査票

Ⅲ - 1 郵送ランダム調査票

生活と社会意識に関する調査 2007年10月

生活と社会意識に関する調査

Q1. 男女の別および配偶者(妻又は夫)の有無について、○をつけてください。

※配偶者の有無は届出の有無に関係なく記入してください

男 / 女
未婚 / 配偶者あり / 死別・離別

Q2. 出生の年月を記入してください。

西暦 () 年 () 月

Q3. 7月29日の参议院選挙では、都道府県単位で行われる「選挙区選挙」と全国単位で行われる「比例代表選挙」の2つの選挙が行われましたが、今回の選挙ではあなたは投票しましたか、しませんでしたか。(○は1つだけ)

- 1. 選挙区、比例代表とも投票した
- 2. 選挙区だけ投票した
- 3. 比例代表だけ投票した
- 4. どちらも投票しなかった

(Q3で、1. 2. 3とお答えの方におたずねします)

SQ3-1. 投票日当日に投票しましたか、それとも期日前投票・不在者投票などをしましたか。(○は1つだけ)

- 1. 当日投票した
- 2. 期日前投票・不在者投票をした

SQ3-2. 7月29日の参议院選挙の投票の際、もっとも重視したのは何ですか。(○は1つだけ)

- 1. 格差問題
- 2. 教育問題
- 3. 憲法問題
- 4. 公務員制度改革
- 5. 政治とカネの問題
- 6. 地域の課題
- 7. 年金問題
- 8. 外交問題
- 9. その他
- 10. わからない

(Q3で、1. 2とお答えの方におたずねします)

SQ3-3. 選挙区選挙で、あなたが投票した人は何党の人でしたか、おさしつかえなければお答えください。(○は1つだけ)

- 1. 自民党
- 2. 民主党
- 3. 公明党
- 4. 日本共産党
- 5. 社会民主党
- 6. その他
- 7. わからない
- 8. 答えたくない

Q4. あなたは、国の年金制度を、全体として、信頼していますか、信頼していませんか。(○は1つだけ)

- 1. 信頼している
- 2. どちらかといえば信頼している
- 3. どちらかといえば信頼していない
- 4. 信頼していない

Q5. あなたに課せられている所得税は、高いと思いますか。(○は1つだけ)

- 1. 低い
- 2. やや低い
- 3. 適切
- 4. やや高い
- 5. 高い
- 6. わからない
- 7. 課せられていない

Q6. 「政府は、裕福な家庭と貧しい家庭の収入の差を縮めるために、対策をとるべきだ」という意見に、あなたは賛成ですか、反対ですか。(○は1つだけ)

- 1. 賛成
- 2. どちらかといえば賛成
- 3. どちらともいえない
- 4. どちらかといえば反対
- 5. 反対

Q7. あなたは、ふだん何党を支持していच्छいますか。(○は1つだけ)

- 1. 自民党
- 2. 民主党
- 3. 公明党
- 4. 日本共産党
- 5. 社会民主党
- 6. 国民新党
- 7. 新党日本
- 8. その他
- 9. 支持政党なし
- 10. わからない

Q8. 次のような意見について、あなたはどのように思いますか。あなたのお気持ちにもっとも近いものをそれぞれ 1 つずつ選んでください。(それぞれ〇は1つずつ)

- (1) 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである
 1. そう思う 3. どちらかといえばそう思わない
 2. どちらかといえばそう思う 4. そう思わない
- (2) 一般的に、人は信用できると思いますか。
 1. はい 2. いいえ 3. 場合による
- (3) かりに現在の日本社会全体を、以下の 5 つの層にわけるとすれば、あなた自身はどれに入ると思いますか。
 1. 上 2. 中の上 3. 中の中 4. 中の下 5. 下

Q9. あなたはふだん何か収入になる仕事をしてしていますか。(〇は1つだけ)

※ここで「仕事をしている」とはふだん仕事をしており今後もしていくことになっている場合をいいます
 ※収入になる仕事には家業(農業を含む)の手伝いや内職も含みます
 ※家事には育児・介護・看護などを含みます
 ※通学には予備校・専修学校・各種学校に通っている場合も含めます
 ※ふだん仕事をしていないのに、調査当日、あるいはその前数日間たまたま仕事をして「仕事をしていない」としますが、季節的な仕事や病気などでたまたま仕事を休んでいる場合は「仕事をしている」とします
 ※育児休業や介護休業などのため仕事を一時的に休んでいる場合は「仕事をしている」とします

仕事をしている人

1. 仕事をおもにしている
 2. 家事がおもで仕事もしている
 3. 通学がおもで仕事もしている
 4. 家事・通学以外のことがおもで仕事もしている

→ 以下、SQ9-A1. へお進みください。

仕事をしていない人

5. 家事をしている
 6. 通学している
 7. その他

→ P.3 の SQ9-B へお進みください。

ふだん仕事をしている方にお聞きします。

SQ 9-A1. 勤めか自営かの別等についてお答えください。(〇は1つだけ)

※「臨時雇」とは、雇用契約期間が1か月以上1年以内の人、「日雇」とは1か月未満の人をいいます

1. 常雇
 2. 臨時雇
 3. 日雇
 4. 会社などの役員
 5. 自営業主・雇人あり
 6. 自営業主・雇人なし
 7. 自家営業の手伝い
 8. 内職

(SQ9-A1.で、1. 2. 3とお答えの方におたずねします)

あなたの現在の**おもな働き方(就業形態)**は、次のどれにあたりますか。
(〇は1つだけ)

1. 正社員・正職員
 2. 契約社員・嘱託
 3. フリーター(社会人アルバイト)
 4. 学生アルバイト
 5. パートタイマー
 6. 派遣

SQ 9-A2. この1週間の就業時間についてお答えください。(〇は1つだけ)

※ふだん残業している場合はそれも含めて記入してください

1. 15時間未満 5. 30~34時間 9. 49~59時間
 2. 16~19時間 6. 35~42時間 10. 60~64時間
 3. 20~21時間 7. 43~45時間 11. 65時間以上
 4. 22~29時間 8. 46~48時間

Q13. あなたが、今後、調査に協力してもよいとお考えの調査の方法はつぎのどれにあたりますか。(○はいくつでも)

1. 訪問面接調査 (調査員が調査対象者の自宅を訪問し、面接で行う調査)
2. 留置き調査 (調査員が調査対象者の自宅を訪問して調査票を渡し、調査対象者が自分で回答を記入し、後日、調査員が訪問して調査票を回収する調査)
3. 電話調査 (調査員が調査対象者に電話をして行う調査)
4. 郵送調査 (調査対象者の自宅に調査票を郵送し、調査対象者が自分で回答を記入したあと郵送で返送する調査)
5. インターネット調査 (インターネットを通じて調査の依頼や回答を行う調査)
6. いずれも協力したくない

Q14. 過去 1 年間に於いて、インターネット(パソコンや携帯電話等からのメール送受信、ホームページの閲覧など)を利用したことがありますか。(どちらかに○を付けてください)

※パソコンからの利用のほか、携帯電話、PHS、携帯情報端末、ゲーム機等あらゆる機器からの利用を含みます
 ※個人的な利用だけでなく、仕事上の利用等あらゆる場合を含みます。利用場所については、自宅、外出先等、あらゆる場所が該当します

※図書館、インターネットカフェ等にある世帯保有以外の機器からの利用を含みます

1. はい
2. いいえ

Q15. あなたは、現在、民間の調査会社にモニターとして登録していますか。(○は 1 つだけ)

※「モニター」とは、調査会社に登録し、Eメールや郵便で送られてきた調査に回答して謝礼やポイントを受け取るものです

1. 登録している
2. 登録していないが、登録してもよい
3. 登録していないし、登録するつもりもない

(Q15.で、1とお答えの方におたずねします)

SQ 15-1. 登録しているモニターの種類は次のどれですか。(登録しているものすべてに○をつけてください)

1. インターネット調査モニター
2. 郵送調査モニター
3. その他 ()

SQ 15-2. どれくらいの頻度で調査に回答していますか。(○は 1 つだけ)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. 年に 1～2 回以下 | 5. 週に 3～4 回 |
| 2. 3ヶ月に 1～2 回 | 6. 週に 5～6 回 |
| 3. 月に 1～2 回 | 7. 週に 7 回以上 |
| 4. 週に 1～2 回 | 8. その他 (具体的に:) |

Q16. 教育についてお答えください。

※「在学中」が「卒業」のどちらかに○をつけてください

※「在学中」の人は在学している学校に○をつけてください

※「卒業」の人は最終卒業学校(中途退学した人はその前の学校)に○をつけてください(○は 1 つだけ)

※予備校などは ここでいう学校には含めません

- | | | | |
|--------|---|---|-----------|
| 1. 在学中 | } | → | 1. 小学・中学 |
| 2. 卒業 | | | 2. 高校・旧制中 |
| | | | 3. 専門学校 |
| | | | 4. 短大・高专 |
| | | | 5. 大学 |
| | | | 6. 大学院 |

以上です。ご協力、ありがとうございました。

謝礼 (500 円分の商品券) をお送りいたしますので、お名前とご住所をお書きください。

返信用封筒に入れて、10 月 22 日までに、郵便ポストにご投函ください。宜しく願いいたします。

ご氏名

ご住所 郵便番号

Ⅲ-2 インターネットモニターA 調査画面

生活と社会意識に関するアンケート

アンケートページにアクセスしていただき、ありがとうございます。

このアンケートの前半では、生活と社会意識に関する内容、及び分析の切り口として、
・政治、選挙、支持政党
・就業状況、職業、収入
などをおたずねする設問があります。

後半では、モニター以外の方々にもおたずねしているアンケートのため、
・アンケートモニターへの登録状況
・ご協力いただけるアンケートの方法（インターネット、郵送、訪問など）
などをおたずねする設問があります。

このご回答内容によって、アンケートの依頼回数に影響することはありません。
ご了承いただける場合は、アンケートにご協力ください。

アンケートにご協力いただける場合は、「開始」ボタンを押してください。

開始

アンケートにご回答いただくにあたり、最新の登録ガイドラインをご確認になり、
内容を理解し同意の上でご協力をお願いします。
[プライバシーの考え方](#) - [利用規約](#) - [登録ガイドライン](#) - [アンケート内容についてのお問い合わせ](#)

Q1 男女の別および配偶者(妻又は夫)の有無についてお答えください。

(回答は1つつ)

男女

- 男性
 女性

配偶者(妻又は夫)の有無 ※配偶者の有無は届出の有無に関係なく記入してください。

- 未婚
 配偶者あり
 死別・離別

Q2 出生の年月をお答えください。

(回答は半角数字で入力)

西暦 年 月

次のページ

SQ 9-A3. この仕事からの 1 年間の収入又は収益(税込み)についてお答えください。(○は 1 つだけ)

※この仕事について 1 年未満の人は 1 年間の見積額について記入してください

※自営業の場合は、売上高から必要経費を差し引いた営業利益について記入してください

- | | | |
|-----------------|----------------|------------------|
| 1. 収入なし・50 万円未満 | 6. 250～299 万円 | 11. 700～799 万円 |
| 2. 50～99 万円 | 7. 300～399 万円 | 12. 800～899 万円 |
| 3. 100～149 万円 | 8. 400～499 万円 | 13. 900～999 万円 |
| 4. 150～199 万円 | 9. 500～599 万円 | 14. 1000～1499 万円 |
| 5. 200～249 万円 | 10. 600～699 万円 | 15. 1500 万円以上 |

SQ 9-A4. どのような種類の仕事についているのですか。(○は 1 つだけ)

- | | | |
|------------|--------------|---------------|
| 1. 製造・生産工程 | 4. 営業・販売職 | 7. 管理的職業 |
| 2. 建設・労務 | 5. サービス職業 | 8. 事務職 |
| 3. 運輸・通信職 | 6. 専門的・技術的職業 | 9. その他(保安職など) |

SQ 9-A5. あなたは現在の仕事に満足していますか。(○は 1 つだけ)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 非常に満足している | 3. あまり満足していない |
| 2. まあ満足している | 4. 満足していない |

SQ 9-A6. あなたの働く理由は何ですか。それぞれについて、あてはまる程度に○をつけてください。

(それぞれ1つに○)

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
A 生計を維持するため	1	2	3	4	5
B 視野を広げるため	1	2	3	4	5
C 他にやるのがないから	1	2	3	4	5
D 今の仕事が好きだから	1	2	3	4	5
E 社会に影響を与えたいから	1	2	3	4	5

ふだん仕事をしていない方にお聞きます。

SQ 9-B. あなたは何か収入になる仕事をしたいと思っていますか。

1. 思っている 2. 思っていない

全ての方にお聞きます。

Q10. あなたと同居している方で、18-59 歳で仕事をしている方はあなたを含めて何人いますか。実数で回答してください。

() 人

Q11. あなたはこれまでに退職(会社や団体を辞めること)をしたことがありますか。(○は 1 つだけ) ある方はその回数もお答えください。

1. 退職したことはない
 2. 退職したことがある →→→() 回
 3. 働いたことがない

Q12. 調査を依頼されたとき、どこが実施している調査なら回答しますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 国や都道府県などの自治体
 2. 大学や公的な研究機関
 3. 新聞やテレビなどのマスコミ
 4. マーケティング会社などの民間の調査会社
 5. いずれも回答したくない

Q3 7月29日の参議院選挙では、都道府県単位で行われる「選挙区選挙」と全国単位で行われる「比例代表選挙」の2つの選挙が行われましたが、今回の選挙ではあなたは投票しましたか、しませんでしたか。

(回答は1つ)

- 選挙区、比例代表とも投票した
 選挙区だけ投票した
 比例代表だけ投票した
 どちらも投票しなかった

次のページ

Q3で「選挙区、比例代表とも投票した」または「選挙区だけ投票した」または「比例代表だけ投票した」とお答えの方におたずねします。

Q4 投票日当日に投票しましたか、それとも期日前投票・不在者投票などを行いましたか。

〈回答は1つ〉

- 当日投票した
- 期日前投票・不在者投票をした

Q5 7月29日の参議院選挙の投票の際、もっとも重視したのは何ですか。

〈回答は1つ〉

- 格差問題
- 教育問題
- 憲法問題
- 公務員制度改革
- 政治とカネの問題

- その他
- わからない
- 答えたくない

次のページ

Q3で「選挙区、比例代表とも投票した」または「選挙区だけ投票した」とお答えの方におたずねします。

Q6 選挙区選挙で、あなたが投票した人は何党の人でしたか。おさしつかえなければお答えください。

〈回答は1つ〉

- 自民党
- 民主党
- 公明党
- 日本共産党
- 社会民主党
- その他
- わからない
- 答えたくない

次のページ

Q7 あなたは、国の年金制度を、全体として、信頼していますか、信頼していませんか。

〈回答は1つ〉

- 信頼している
- どちらかといえば信頼している
- どちらかといえば信頼していない
- 信頼していない

Q8 あなたに課せられている所得税は、高いと思いますか。

〈回答は1つ〉

- 低い
- やや低い
- 適切
- やや高い
- 高い
- わからない
- 課せられていない

Q9 「政府は、裕福な家庭と貧しい家庭の収入の差を縮めるために、対策をとるべきだ」という意見に、あなたは賛成ですか、反対ですか。

〈回答は1つ〉

- 賛成
- どちらかといえば賛成
- どちらともいえない
- どちらかといえば反対
- 反対

次のページ

Q10 あなたは、ふだん何党を支持していらっしゃいますか。

(回答は1つ)

- 自民党
- 民主党
- 公明党
- 日本共産党
- 社会民主党
- 国民新党
- へ新党ロナ
- 新党日本
- その他
- 支持政党なし
- わからない

次のページ

次のような意見について、あなたはどのように思いますか。あなたのお気持ちにもっとも近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。

Q11 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである。」と思いますか。

(回答は1つ)

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

Q12 「一般的に、人は信用できる。」と思いますか。

(回答は1つ)

- はい
- いいえ
- 場合による

Q13 かりに現在の日本社会全体を、以下の5つの層に分けるとすれば、あなた自身はどれに入ると思いますか。

(回答は1つ)

- 上
- 中の上
- 中の中
- 中の下
- 下

次のページ

Q14 あなたはふだん何か収入になる仕事をしていますか。

(回答は1つ)

※ここで「仕事をしている」とはふだん仕事をしており今後もしていくことになっている場合をいいます。
※収入になる仕事には家業(農業を含む)の手伝いや内職も含まれます。
※家事には育児・介護・看護などを含まれます。
※通学には予備校・習字学校・各種学校に通っている場合も含めます。
※ふだん仕事をしていないのに、調査当日、あるいはその前数日間たまたま仕事をして「仕事をしていない」としますが、季節的な仕事や病気などでたまたま仕事を休んでいる場合は「仕事をしている」とします。
※育児休業や介護休業などのため仕事を一時的に休んでいる場合は「仕事をしている」とします。

<仕事をしている人>

- 仕事をおもにしている
- 家事がおもで仕事もしている
- 通学がおもで仕事もしている
- 家事・通学以外のことがおもで仕事もしている

<仕事をしていない人>

- 家事をしている
- 通学している
- その他

次のページ

ふだん仕事をしている方におたずねします。

Q15 勤めか自営かの別等についてお答えください。

〈回答は1つ〉

※「臨時雇」とは、雇用契約期間が1か月以上1年以内の人、「日雇」とは1か月未満の人をいいます。

- 常雇
- 臨時雇
- 日雇
- 会社などの役員
- 自営業主・雇人あり
- 自営業主・雇人なし
- 自家営業の手伝い
- 内職

次のページ

Q16 あなた現在の主な働き方(就業形態)は、次のどれにあたりますか。

〈回答は1つ〉

- 正社員・正職員
- 契約社員・嘱託
- フリーター(社会人アルバイト)
- 学生アルバイト
- パートタイマー
- 派遣

次のページ

Q17 この1週間の就業時間についてお答えください。

〈回答は1つ〉

※ふだん残業している場合はそれも含めてお答えください。

- 15時間未満
- 43～45時間
- 15～19時間
- 46～48時間
- 20～21時間
- 49～59時間
- 22～29時間
- 60～64時間
- 30～34時間
- 65時間以上
- 35～42時間

次のページ

Q18 この仕事からの1年間の収入又は収益(税込み)についてお答えください。

〈回答は1つ〉

※この仕事について1年未満の人は1年間の見込額についてお答えください。

※自営業の場合は、売上高から必要経費を差し引いた営業利益についてお答えください。

- 収入なし・50万円未満
- 500～599万円
- 50～99万円
- 600～699万円
- 100～149万円
- 700～799万円
- 150～199万円
- 800～899万円
- 200～249万円
- 900～999万円
- 250～299万円
- 1000～1499万円
- 300～399万円
- 1500万円以上
- 400～499万円

次のページ

Q19 どのような種類の仕事についているのですか。

(回答は1つ)

- 製造・生産工程
- 建設・労務
- 運輸・通信職
- 営業・販売職
- サービス職業
- 専門的・技術的職業
- 管理的職業
- 事務職
- その他(保安職など)

Q20 あなたは現在の仕事に満足していますか。

(回答は1つ)

- 非常に満足している
- まあ満足している
- あまり満足していない
- 満足していない

次のページ

Q21 あなたの働く理由は何ですか。それぞれについて、あてはまる程度をお答えください。

(回答は横の行ごとに1つずつ)

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
生計を維持するため	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
視野を広げるため	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
他にやることかからないから	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
今の仕事が好きだから	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
社会に影響を与えたいから	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

次のページ

ふだん仕事をしていない方におたずねします。

Q22 あなたは何か収入になる仕事をしたいと思っていますか。

(回答は1つ)

- 思っている
- 思っていない

次のページ

全ての方におたずねします。

Q23 あなたと同居している方で、18-59歳で仕事をしている方はあなたを含めて何人いますか。
実数で回答してください。

(回答は半角数字で入力)

人

Q24 あなたはこれまでに退職(会社や団体を辞めること)をしたことがありますか。

(回答は1つ)

- 退職したことはない
- 退職したことがある
- 働いたことがない

次のページ

「退職したことがある」とお答えになった方におたずねします。

Q24.1 退職したことがある回数をお答えください。

〈回答は半角数字で入力〉

退職したことがある回数… 回

次のページ

Q25 調査を依頼されたとき、どこが実施している調査なら回答しますか。

〈回答はいくつでも〉

- 国や都道府県などの自治体
- 大学や公的研究機関
- 新聞やテレビなどのマスコミ
- マーケティング会社などの民間の調査会社
- いずれも回答したくない

Q26 あなたが、今後、調査に協力してもよいとお考えの調査の方法はつぎのどれにあたりますか。

〈回答はいくつでも〉

- 訪問面接調査
(調査員が調査対象者の自宅を訪問し、面接で行う調査)
- 留置き調査
(調査員が調査対象者の自宅を訪問して調査票を渡し、調査対象者が自分で回答を記入し、後日、調査員が訪問して調査票を回収する調査)
- 電話調査
(調査員が調査対象者に電話をして行う調査)
- 郵送調査
(調査対象者の自宅に調査票を郵送し、調査対象者が自分で回答を記入したあと郵送で返送する調査)
- インターネット調査
(インターネットを通じて調査の依頼や回答を行う調査)
- いずれも協力したくない

次のページ

Q27 過去1年間において、インターネット(パソコンや携帯電話等からのメール送受信、ホームページの閲覧など)を利用したことがありますか。

〈回答は1つ〉

※パソコンからの利用のほか、携帯電話、PHS、携帯情報端末、ゲーム機等あらゆる機器からの利用を含みます。
※個人的な利用だけでなく、仕事上の利用等あらゆる場合を含みます。利用場所については、自宅、外出先等、あらゆる場所が該当します。
※図書館、インターネットカフェ等にある世帯以外での利用を含みます。

- はい
- いいえ

次のページ

Q28 あなたは、現在、民間の調査会社にモニターとして登録していますか。

〈回答は1つ〉

※「モニター」とは、調査会社に登録し、Eメールや郵便で送られてきた調査に回答して謝礼やポイントを受け取るものです。
※この調査を実施している調査会社のモニターも含めてご回答ください。

- 登録している
- 登録していないが、登録してもよい
- 登録していないし、登録するつもりもない

次のページ

Q29 登録しているモニターの種類は次のどれですか。

(回答はいくつでも)

- インターネット調査モニター
- 郵送調査モニター
- その他 具体的に:

Q30 どれくらいの頻度で調査に回答していますか。

(回答は1つ)

- 年に1~2回以下
- 3か月に1~2回
- 月に1~2回
- 週に1~2回
- 週に3~4回
- 週に5~6回
- 週に7回以上
- その他 具体的に:

[次のページ](#)

Q31 教育についてお答えください。※「在学中」か「卒業」かをお答えください。

(回答は1つずつ)

- 在学中
- 卒業

※「在学中」の方は在学している学校をお選びください。
※「卒業」の方は最終卒業学校(中途退学した人はその前の学校)をお選びください。
※予備校などはここでいう学校には含めません。

- 小学・中学
- 高校・旧制中
- 専門学校
- 短大・高専
- 大学
- 大学院

[次のページ](#)

Ⅲ-3 インターネットモニターB 調査画面

Q1 男女の別についてあてはまるものをお選びください。
【必須入力】

1. 男
 2. 女

Q2 配偶者(妻又は夫)の有無について、お知らせください。
※配偶者の有無は届出の有無に固く記入してください。
【必須入力】

1. 未婚
 2. 配偶者あり
 3. 死別・離別

..... ここまで改ページ

Q3 出生の年月を記入してください。
【全て必須】

西暦 年 月

..... ここまで改ページ

Q4 7月29日の参議院選挙では、都道府県単位で行われる「選挙区選挙」と全国単位で行われる「比例代表選挙」の2つの選挙が行われましたが、今回の選挙ではあなたは投票しましたか、しませんでしたか。(1つだけ)
【必須入力】

1. 選挙区、比例代表とも投票した
 2. 選挙区だけ投票した
 3. 比例代表だけ投票した
 4. どちらも投票しなかった

..... ここまで改ページ

Q5 投票日当日に投票しましたか、それとも期日前投票・不在者投票などを行いましたか。(1つだけ)
【必須入力】

1. 当日投票した
 2. 期日前投票・不在者投票をした

..... ここまで改ページ

Q6 7月29日の参議院選挙の投票の際、もっとも重視したのは何ですか。(1つだけ)
【必須入力】

1. 格差問題
 2. 教育問題
 3. 憲法問題
 4. 公務員制度改革
 5. 政治とカネの問題
 6. 地域の課題
 7. 年金問題
 8. 外交問題
 9. その他
 10. わからない

..... ここまで改ページ

Q7 選挙区選挙で、あなたが投票した人は何党の人でしたか。おさじかえなければお答えください。(1つだけ)
【必須入力】

1. 自民党
 2. 民主党
 3. 公明党
 4. 日本共産党
 5. 社会民主党
 6. その他
 7. わからない
 8. 答えたくない

..... ここまで改ページ

Q8 あなたは、国の年金制度を、全体として、信頼していますか、信頼していませんか。(1つだけ)
【必須入力】

1 信頼している	2 どちらかといえば信頼している	3 どちらかといえば信頼していない	4 信頼していない
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

ここで改ページ

Q9 あなたに課せられている所得税は、高いと思いますか。(1つだけ)
【必須入力】

1 低い	2 やや低い	3 適切	4 やや高い	5 高い	6 わからない	7 課せられていない
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

ここで改ページ

Q10 「政府は、裕福な家庭と貧しい家庭の収入の差を縮めるために、対策をとるべきだ」という意見に、あなたは賛成ですか、反対ですか。(1つだけ)
【必須入力】

1 賛成	2 どちらかといえば賛成	3 どちらともいえない	4 どちらかといえば反対	5 反対
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

ここで改ページ

Q11 あなたは、ふだん何党を支持していらっしゃいますか。(1つだけ)
【必須入力】

- 1. 自民党
- 2. 民主党
- 3. 公明党
- 4. 日本共産党
- 5. 社会民主党
- 6. 国民新党
- 7. 新党日本
- 8. その他
- 9. 支持政党なし
- 10. わからない

ここで改ページ

次のような意見について、あなたはどのように思いますか。
あなたのお気持ちに最も近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。(それぞれ1つずつ)

Q12 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである。」
【必須入力】

1 そう思う	2 どちらかといえばそう思う	3 どちらかといえばそう思わない	4 そう思わない
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q13 一般的に、人は信用できると思いますか。
【必須入力】

1 はい	2 いいえ	3 場合による
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q14 かりに現在の日本社会全体を、以下の5つの層にわけるとすれば、あなた自身はどれに入ると思いますか。
【必須入力】

1	2	3	4	5
上	中の上	中の中	中の下	下
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

ここで改ページ

Q15 あなたはふだん何か収入になる仕事をしていますか。(1つだけ)

※ここで「仕事をしている」とはふだん仕事をしており今後もしていくことになっている場合をいいます。
※収入になる仕事には家業(農業を含む)の手伝いや内職も含まれます。
※家事には育児・介護・看護なども含まれます。
※通学には予備校・専門学校に通っている場合も含まれます。
※ふだん仕事をしていないのに、調査当日、あるいはその前日働いたまま仕事をしていないとしますが、季節的な仕事や病気などでたまたま仕事を休んでいる場合は「仕事をしている」とします。
※育児休業や介護休業などのため仕事を一時的に休んでいる場合は「仕事をしている」とします。

【必須入力】

【仕事している人】

- 1. 仕事をおもこしている
- 2. 家事がおもで仕事もしている
- 3. 通学がおもで仕事もしている
- 4. 家事・通学以外のことがおもで仕事もしている

【仕事をしていない人】

- 5. 家事をしている
- 6. 通学している
- 7. その他

ここで改ページ

ふだん仕事をしている方にお聞きます。

Q16 勤めか自営かの別等についてお答えください。(1つだけ)

※「臨時雇」とは、雇用契約期間が1か月以上1年以内の人、「日雇」とは1か月未満の人をいいます。

【必須入力】

- 1. 常雇
- 2. 臨時雇
- 3. 日雇
- 4. 会社などの役員
- 5. 自営業主・雇人あり
- 6. 自営業主・雇人なし
- 7. 自家営業の手伝い
- 8. 内職

ここで改ページ

Q17 あなたの現在のおもな働き方(就業形態)は、次のどれにあたりますか。(1つだけ)

【必須入力】

- 1. 正社員・正職員
- 2. 契約社員・嘱託
- 3. フリーター(社会人アルバイト)
- 4. 学生アルバイト
- 5. パートタイマー
- 6. 派遣

Q18 この1週間の就業時間についてお答えください。(1つだけ)
 ※ふだん残業している場合はそれも含めて記入してください。

【必須入力】

- 1. 15時間未満
- 2. 15～19時間
- 3. 20～21時間
- 4. 22～29時間
- 5. 30～34時間
- 6. 35～42時間
- 7. 43～45時間
- 8. 46～48時間
- 9. 49～59時間
- 10. 60～64時間
- 11. 65時間以上

Q19 この仕事からの1年間の収入又は収益(税込み)についてお答えください。(1つだけ)
 ※この仕事について1年未満の人は1年間の見込額について記入してください。
 ※自営業の場合は、売上高から必要経費を差し引いた営業利益について記入してください。

【必須入力】

- | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|
| <input type="radio"/> 1. 収入なし・50万円未満 | <input type="radio"/> 9. 500～599万円 |
| <input type="radio"/> 2. 50～99万円 | <input type="radio"/> 10. 600～699万円 |
| <input type="radio"/> 3. 100～149万円 | <input type="radio"/> 11. 700～799万円 |
| <input type="radio"/> 4. 150～199万円 | <input type="radio"/> 12. 800～899万円 |
| <input type="radio"/> 5. 200～249万円 | <input type="radio"/> 13. 900～999万円 |
| <input type="radio"/> 6. 250～299万円 | <input type="radio"/> 14. 1000～1499万円 |
| <input type="radio"/> 7. 300～399万円 | <input type="radio"/> 15. 1500万円以上 |
| <input type="radio"/> 8. 400～499万円 | |

Q20 どのような種類の仕事についているのですか。(1つだけ)

【必須入力】

- 1. 製造・生産工程
- 2. 建設・労務
- 3. 運輸・通信業
- 4. 営業・販売業
- 5. サービス職業
- 6. 専門的・技術的職業
- 7. 管理的職業
- 8. 事務職
- 9. その他(保安職など)

Q21 あなたは現在の仕事に満足していますか。(1つだけ)

【必須入力】

1	2	3	4
非常に満足している	まあ満足している	あまり満足していない	満足していない
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q22 あなたの働く理由は何ですか。それぞれについて、あてはまる程度に○をつけてください。
 (それぞれ1つずつ)

【必須入力】

	1	2	3	4	5
	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 生計を維持するため	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 視野を広げるため	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 他にやることがないから	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 今の仕事が好きだから	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 社会に影響を与えたいから	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

..... ✂ ここて改ページ

ふだん仕事をしたい方にお聞きします。

Q23 あなたは何か収入になる仕事をしたいと思っていますか。
【必須入力】

1 思っている	2 思っていない
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

..... ✂ ここて改ページ

Q24 あなたと同居している方で、18-59歳で仕事をしている方はあなたを含めて何人いますか。
実数で回答してください。
【必須入力】

人

..... ✂ ここて改ページ

Q25 あなたはこれまでに退職(会社や団体を辞めること)をしたことがありますか。(1つだけ)
ある方はその回数もお答えください。
【必須入力】

1. 退職したことない
 2. 退職したことがある → 回
 3. 退職したことがない

..... ✂ ここて改ページ

Q26 調査を依頼されたとき、どこが実施している調査なら回答しますか。(あてはまるものすべてお選びください)
【必須入力】

- 1. 国や都道府県などの自治体
- 2. 大学や公的な研究機関
- 3. 新聞やテレビなどのマスコミ
- 4. マーケティング会社などの民間の調査会社
- 5. いずれも回答したくない

..... ✂ ここて改ページ

Q27 あなたが、今後、調査に協力してもよいとお考えの調査の方法はつぎのどれにあたりますか。(いくつでも)
【必須入力】

- 1. 訪問面接調査
(調査員が調査対象者の自宅を訪問し、面接で行う調査)
- 2. 留置き調査
(調査員が調査対象者の自宅を訪問して調査票を渡し、調査対象者が自分で回答を記入し、後日、調査員が訪問して調査票を回収する調査)
- 3. 電話調査
(調査員が調査対象者に電話をして行う調査)
- 4. 郵送調査
(調査対象者の自宅に調査票を郵送し、調査対象者が自分で回答を記入したあと郵送で返送する調査)
- 5. インターネット調査
(インターネットを通じて調査の依頼や回答を行う調査)
- 6. いずれも協力したくない

ここで改ページ

028 過去1年間において、インターネット(パソコンや携帯電話等)からのメール送受信、ホームページの閲覧などを
利用したことがありますか。(どちらかをお選びください)

※パソコンからの利用のほか、携帯電話、PHS、携帯情報端末、ゲーム機等あらゆる機器からの利用を含みます。
※個人的な利用だけでなく、仕事上の利用等あらゆる場合を含みます。利用場所については、自宅、外出先等、
あらゆる場所が該当します。
※図書館、インターネットカフェ等にある世帯保有以外の機器からの利用を含みます。

【必須入力】

1

はい

2

いいえ

ここで改ページ

029 あなたは、現在、民間の調査会社にモニターとして登録していますか。(1つだけ)
※「モニター」とは、調査会社に登録し、Eメールや郵便で送られてきた調査に回答して
謝礼やポイントを受け取るものです。
※この調査を実施している調査会社のモニターも含めてご回答ください。

【必須入力】

1. 登録している
 2. 登録していないが、登録してもよい
 3. 登録していないし、登録するつもりもない

ここで改ページ

030 登録しているモニターの種類は次のどれですか。(登録しているものすべてをお選びください)
【必須入力】

1. インターネット調査モニター
 2. 郵送調査モニター
 3. その他

031 どれくらいの頻度で調査に回答していますか。(1つだけ)
【必須入力】

1. 年1回以下
 2. 3ヶ月1回
 3. 月に1回
 4. 週に1回
 5. 週に3~4回
 6. 週に5~6回
 7. 週に7回以上
 8. その他(具体的に:)

ここで改ページ

032 教育についてお答えください。

※「在学中」か「卒業」のどちらかをお選びください。
※「在学中」の人は在学している学校をお選びください。
※「卒業」の人は最終卒業学校(中途退学した人はその前の学校)をお選びください。(1つだけ)
※予備校などは、ここでいう学校には含まれません。

【必須入力】

【在学中】

1. 小学・中学
 2. 高校・旧制中
 3. 専門学校
 4. 短大・高専
 5. 大学
 6. 大学院

【卒業】

7. 小学・中学
 8. 高校・旧制中
 9. 専門学校
 10. 短大・高専
 11. 大学
 12. 大学院

アンケートが以上で終わります。ご協力ありがとうございました。
回答がわからない確認、よろしければ「送信」ボタンをクリックしてください。


送信

Ⅲ-4 インターネットモニターC 調査画面

入力必須

生活と社会意識に関する調査


生活と社会意識に関する調査です。ご協力をお願い致します。

アンケート進行状況  3%

Q1 あなたがお住まいのエリアを教えてください。(1つだけ)
※下記のうち、あなたがお住まいの市区町村の該当するエリアをお選びください。

<input type="radio"/>	区部中央部 (千代田,中央,港,新宿,文京,台東,墨田,江東,渋谷,豊島,荒川)
<input type="radio"/>	区部東部・北部 (北,板橋,足立,葛飾,江戸川)
<input type="radio"/>	区部西部・南部 (品川,目黒,大田,世田谷,中野,杉並,練馬)
<input type="radio"/>	多摩東部 (武蔵野,三鷹,調布,小金井,小平,東村山,国分寺,狛江,清瀬,東久留米,西東京)
<input type="radio"/>	多摩中央北部 (立川,昭島,福生,東大和,武蔵村山,羽村,瑞穂)
<input type="radio"/>	多摩中央南部 (八王子,府中,町田,日野,国立,多摩,稲城)
<input type="radio"/>	多摩西部 (青梅,あきる野,日の出)
<input type="radio"/>	その他


入力必須

アンケート進行状況  6%

Q2 あなたの性別を教えてください。(1つだけ)

<input type="radio"/>	男
<input type="radio"/>	女

入力必須

アンケート進行状況  9%

Q3 配偶者(妻又は夫)の有無について、教えてください。(1つだけ)
※ここでは配偶者の有無(は届出の有無)に関係なく記入してください。

<input type="radio"/>	未婚
<input type="radio"/>	配偶者あり
<input type="radio"/>	死別・離別

入力必須

アンケート進行状況  11%

Q4 あなたの出生年月を西暦で記入してください。

例年:1980
月:5

(半角数字のみ)

年	<input type="text"/>
月	<input type="text"/>

入力必須

アンケート進行状況  14%

Q5 あなたの在学状況について教えてください。(1つだけ)

※予備校などは、ここでいう学校には含めません。

<input type="radio"/> 在学中
<input type="radio"/> 卒業

入力必須

アンケート進行状況  17%

Q6 前問で「在学中」と回答の方は在学している学校、「卒業」と回答の方は最終卒業学校(中途退学した方はその前の学校)について、教えてください。(1つだけ)


<input type="radio"/> 小学・中学
<input type="radio"/> 高校・旧制中
<input type="radio"/> 専門学校
<input type="radio"/> 短大・高专
<input type="radio"/> 大学
<input type="radio"/> 大学院

入力必須

アンケート進行状況  20%

Q7 去る7月29日の参議院選挙では、都道府県単位で行われる「選挙区選挙」と全国単位で行われる「比例代表選挙」の2つの選挙が行われましたが、今回の選挙ではあなたは投票しましたか。(1つだけ)

<input type="radio"/> 選挙区、比例代表とも投票した
<input type="radio"/> 選挙区だけ投票した
<input type="radio"/> 比例代表だけ投票した
<input type="radio"/> どちらも投票しなかった


アンケート進行状況  23%

Q8 前問で7月29日の参議院選挙に「投票した」とお答えの方にお伺いします。投票日当日に投票しましたか、それとも期日前投票・不在者投票などしましたか。(1つだけ)

当日投票した

期日前投票・不在者投票をした

入力必須

アンケート進行状況  26%

Q9 7月29日の参議院選挙の投票の際、もっとも重視したのは何ですか。(1つだけ)

格差問題

教育問題

憲法問題

公務員制度改革

政治とカネの問題

地域の課題

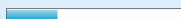
年金問題

外交問題

わからない

その他

入力必須

アンケート進行状況  29%

Q10 選挙区選挙で、あなたが投票した人は何党の立候補者でしたか。(1つだけ)
おさしつかえなければお答えください。

自民党

民主党

公明党

日本共産党

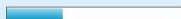
社会民主党

わからない

答えたくない

その他

入力必須

アンケート進行状況  31%

Q11 あなたは(は)国の年金制度を、全体として信頼していますか、信頼していませんか。(1つだけ)

信頼している

どちらかといえば信頼している

どちらかといえば信頼していない

信頼していない

次へ進む キャンセル

入力必須

アンケート進行状況  34%

Q12 あなたに課せられている所得税は、高いと思いますか。(1つだけ)

- 低い
- やや低い
- 適切
- やや高い
- 高い
- わからない
- 課せられていない

次へ進む キャンセル

入力必須

アンケート進行状況  37%

Q13 「政府は、裕福な家庭と貧しい家庭の収入の差を縮めるために、対策をとるべきだ」という意見に、あなたは賛成ですか、反対ですか。(1つだけ)

- 賛成
- どちらかといえば賛成
- どちらともいえない
- どちらかといえば反対
- 反対

次へ進む キャンセル

入力必須

アンケート進行状況  40%

Q14 あなたは、普段何党を支持していらっしゃいますか。

- 自民党
- 民主党
- 公明党
- 日本共産党
- 社会民主党
- 国民新党
- 新党日本
- 支持政党なし
- わからない
- その他

次へ進む キャンセル

入力必須


アンケート進行状況  43%

Q15 次のような意見について、あなたはどのように思いますか。
あなたのお気持ちにもっとも近いものを選んでください。

男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである。(1つだけ)

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

入力必須

アンケート進行状況  46%

Q16 一般的に、人は信用できると思いますか。(1つだけ)

- はい
- いいえ
- 場合による

入力必須

アンケート進行状況  49%

Q17 仮に現在の日本社会全体を、以下の5つの層にわけるとすれば、あなた自身はどこに入ると思いますか。(1つだけ)

- 上
- 中の上
- 中の中
- 中の下
- 下

入力必須

アンケート進行状況  51%

Q18 あなたは普段、何か収入になる仕事をしていますか。(1つだけ)

※ここで「仕事をしている」とは普段仕事をしており今後もしていくことになっている場合をいいます。

※収入になる仕事には家業(農業を含む)の手伝いや内職も含まれます。

※家事には育児・介護・看護などを含まれます。


※通学には予備校・専修学校・各種学校に通っている場合も含めます。

※普段仕事をしていたのに、調査当日、あるいはその前数日間たまたま仕事をしても「仕事をしていない」としますが、季節的な仕事や病休などでたまたま仕事を休んでいる場合は「仕事をしている」とします。

※育児休業や介護休業などのため仕事を一時的に休んでいる場合は「仕事をしている」とします。

- 仕事をおもにしている
- 家事がおもで仕事もしている
- 通学がおもで仕事もしている
- 家事・通学以外のことがおもで仕事もしている
- (仕事をしていない)家事をしている
- (仕事をしていたい)通学している
- その他
(仕事をしていない) |

入力必須

アンケート進行状況  54%

Q19 勤めか自営かの別等についてお答えください。(1つだけ)

※「臨時雇」とは、雇用契約期間が1か月以上1年以内の人、「日雇」とは1か月未満の人をいいます。

- 常雇
- 臨時雇
- 日雇
- 会社などの役員
- 自営業主・雇人あり
- 自営業主・雇人なし
- 自家営業の手伝い
- 内職

入力必須

アンケート進行状況  57%

Q20 前問で「常雇」「臨時雇」「日雇」とお答えの方にお伺いします。

あなたの現在のおもな働き方(就業形態)は、次のどれにあたりますか。(1つだけ)

- 正社員・正職員
- 契約社員・嘱託
- フリーター(社会人アルバイト)
- 学生アルバイト
- パートタイマー
- 派遣

入力必須

アンケート進行状況  60%

Q21 この1週間の就業時間についてお答えください。(1つだけ)

- 15時間未満
- 15～19時間
- 20～24時間
- 22～26時間
- 30～34時間
- 35～42時間
- 43～45時間
- 46～48時間
- 49～58時間
- 60～64時間
- 65時間以上

入力必須

アンケート進行状況  63%


Q22 この仕事からの1年間の収入又は収益(税込み)についてお答えください。(1つだけ)

※この仕事について1年未満の人は1年間の見積額について記入してください。

※自営業の場合は、売上高から必要経費を差し引いた営業利益について記入してください。

- 収入なし・50万円未満
- 50～99万円
- 100～149万円
- 150～199万円
- 200～249万円
- 250～299万円
- 300～399万円
- 400～499万円
- 500～599万円
- 600～699万円
- 700～799万円
- 800～899万円
- 900～999万円
- 1000～1499万円
- 1500万円以上


入力必須

アンケート進行状況  66%

Q23 どのような業種の仕事についていますか。(1つだけ)

- 製造・生産工程
- 建設・労務
- 運輸・通信職
- 営業・販売職
- サービス職業
- 専門的・技術的職業
- 管理的職業
- 事務職
- その他(保安職など)


入力必須

アンケート進行状況  69%

Q24 あなたは現在の仕事に満足していますか。(1つだけ)

- 非常に満足している
- まあ満足している
- あまり満足していない
- 満足していない


横入力必須

アンケート進行状況  71%

Q25 あなたの働く理由は何ですか。
以下の項目それぞれについて、あてはまる程度を選んでください。

		あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
生計を維持するため	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
視野を広げるため	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
他にやることがないから	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
今の仕事が好きだから	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
社会に影響を与えたいから	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

入力必須

アンケート進行状況  74%


Q26 あなたは何か収入になる仕事をしたいと思っていますか。

Q26 あなたは何か収入になる仕事をしたいと思っていますか。

思っている

思っていない

入力必須


アンケート進行状況  77%

Q27 あなたと同居している方で、18-59歳で仕事をしている方はあなたを含めて何人いますか。実数で回答してください。

(半角数字のみ)

人

入力必須


アンケート進行状況  80%

Q28 あなたはこれまでに退職(会社や団体を辞めること)をしたことがありますか。(1つだけ)

退職したことはない

退職したことがある

入力必須


アンケート進行状況  83%

Q29 前問で「退職した事」があるとお答えの方にお伺いします。これまでに退職した回数を教えてください。

(半角数字のみ)

回

入力必須

アンケート進行状況  86%

Q30 仮に調査を依頼されたとき、どこが実施している調査なら回答しますか。(1つでも)

国や都道府県などの自治体

大学や公的な研究機関

新聞やテレビなどのマスコミ

付属資料Ⅳ GT表

表頭：*エリア

	TOTAL	区部中央部	区部東部・北部	区部西部・南部	多摩東部	多摩中央北部	多摩中央南部	多摩西部
(割付)		19.1	20.2	30.0	12.3	4.4	12.4	1.4
TOTAL	4723	18.2	20.0	29.5	12.3	4.3	13.9	1.8
郵送ランダム	753	17.5	20.3	27.9	13.7	2.8	16.1	1.7
郵送モニター	986	18.3	20.2	29.5	12.2	4.6	13.5	1.8
WEBモニターA	1000	18.4	19.9	29.7	12.2	4.5	13.4	1.9
WEBモニターB	1000	18.4	19.9	29.7	12.2	4.5	13.4	1.9
WEBモニターC	984	18.4	19.9	30.2	11.5	4.6	13.6	1.8

表頭：Q1 性別

	TOTAL	男性	女性
(割付)		51.4	48.6
TOTAL	4723	50.2	49.8
郵送ランダム	753	44.5	55.5
郵送モニター	986	51.7	48.3
WEBモニターA	1000	51.4	48.6
WEBモニターB	1000	51.4	48.6
WEBモニターC	984	50.7	49.3

表頭：*年代

	TOTAL	20代	30代	40代	50代	不明
(割付)		25.2	29.4	22.2	23.2	
TOTAL	4723	23.6	28.5	22.5	25.3	0.1
郵送ランダム	753	19.9	24.4	23.6	32.0	0.0
郵送モニター	986	24.1	29.5	22.2	24.1	0.0
WEBモニターA	1000	24.9	29.2	22.0	23.9	0.0
WEBモニターB	1000	24.1	29.4	22.3	24.2	0.0
WEBモニターC	984	24.0	29.1	22.6	23.8	0.6

※以下、郵送ランダムと比較して、5ポイント以上高い場合は太字、5ポイント以上低い場合は斜字

表頭：Q1 未婚

	TOTAL	未婚	配偶者あり	死別・離別	無回答
TOTAL	4723	38.2	57.2	4.1	0.5
郵送ランダム	753	33.6	60.7	4.6	1.1
郵送モニター	986	35.1	60.4	3.1	1.4
WEBモニターA	1000	39.4	56.1	4.5	0.0
WEBモニターB	1000	40.3	58.8	0.9	0.0
WEBモニターC	984	41.5	57.0	7.5	0.0

表頭：Q3 7月29日選挙投票有無

	TOTAL	選挙区、比例代表とも投票した	選挙区だけ投票した	比例代表だけ投票した	どちらも投票しなかった	無回答
TOTAL	4723	67.5	0.9	0.3	29.5	1.8
郵送ランダム	753	68.5	0.7	0.1	26.4	4.2
郵送モニター	986	66.5	0.8	0.1	27.0	5.6
WEBモニターA	1000	66.7	0.5	0.5	32.3	0.0
WEBモニターB	1000	69.7	1.2	0.3	28.8	0.0
WEBモニターC	984	66.4	1.2	0.3	32.1	0.0

表頭：Q3SQ1 投票日【ベース：投票した方】

	TOTAL	当日投票した	期日前投票・不在者投票をした	無回答
TOTAL	3244	78.9	21.1	0.0
郵送ランダム	522	76.1	23.8	0.2
郵送モニター	665	78.9	21.1	0.0
WEBモニターA	677	77.0	23.0	0.0
WEBモニターB	712	80.1	19.9	0.0
WEBモニターC	668	81.9	18.1	0.0

表頭：Q3SQ2 投票の際、もっとも重視した問題【ベース：投票した方】

表側：*属性

	TOTAL	格差問題	教育問題	憲法問題	公務員制度改革	政治とカネの問題	地域の課題	年金問題	外交問題	その他	わからない	無回答
TOTAL	3244	12.1	5.6	6.2	2.9	20.2	1.8	29.2	3.3	12.6	5.3	0.9
郵送ランダム	522	11.3	5.0	8.2	2.7	14.9	1.9	29.5	2.7	16.7	4.6	2.5
郵送モニター	665	9.5	7.4	6.2	2.4	19.7	2.0	29.5	2.4	15.6	3.2	2.3
WEBモニターA	677	11.2	5.3	5.8	3.8	19.1	1.2	27.6	3.5	17.3	5.2	0.0
WEBモニターB	712	14.5	5.3	5.5	2.4	22.8	2.1	28.4	3.9	8.3	6.9	0.0
WEBモニターC	668	13.6	4.9	5.8	3.0	23.2	1.8	31.0	3.9	6.1	6.6	0.0

表頭：Q3SQ3 投票した政党【ベース：選挙区選挙に投票した方】

表側：*属性

	TOTAL	自民党	民主党	公明党	日本共産党	社会民主党	その他	わからない	答えたくない	無回答
TOTAL	3231	16.2	44.0	6.3	5.6	2.1	6.3	1.4	14.5	3.6
郵送ランダム	521	17.9	39.7	8.3	6.3	2.1	8.1	1.5	7.3	8.8
郵送モニター	664	15.7	39.6	6.3	5.3	2.6	6.3	1.1	12.7	10.5
WEBモニターA	672	14.9	46.7	5.4	6.8	1.0	7.7	1.0	16.4	0.0
WEBモニターB	709	17.9	49.1	5.4	4.1	2.7	5.4	1.1	14.4	0.0
WEBモニターC	665	14.9	43.8	6.9	5.6	2.3	4.4	2.1	20.2	0.0

表頭:Q4 年金制度信頼度

	TOTAL	信頼している(4)	どちらかといえば信頼している(3)	どちらかといえば信頼していない(2)	信頼していない(1)	無回答	平均	標準偏差
TOTAL	4723	1.6	20.9	38.9	38.4	0.2	1.9	0.8
郵送ランダム	753	2.4	28.6	40.1	28.6	0.4	2.1	0.8
郵送モニター	986	1.7	23.2	39.9	34.7	0.5	1.9	0.8
WEBモニターA	1000	1.3	18.8	35.8	44.1	0.0	1.8	0.8
WEBモニターB	1000	2.0	17.6	41.6	38.8	0.0	1.8	0.8
WEBモニターC	984	0.8	18.3	37.6	43.3	0.0	1.8	0.8

表頭:Q5 課せられている所得税高低感

	TOTAL	低い	やや低い	適切	やや高い	高い	わからない	課せられていない	無回答
TOTAL	4723	0.8	0.8	11.9	22.6	47.5	7.0	9.4	0.1
郵送ランダム	753	0.5	0.7	14.6	23.1	41.0	6.8	13.0	0.3
郵送モニター	986	0.6	0.8	10.4	25.5	46.5	6.0	9.9	0.3
WEBモニターA	1000	1.0	1.1	11.7	19.3	50.8	7.6	8.5	0.0
WEBモニターB	1000	0.8	0.6	10.6	24.4	49.2	5.5	8.9	0.0
WEBモニターC	984	0.8	0.6	12.6	21.0	48.3	9.0	7.6	0.0

表頭:Q6 世帯格差を縮める対策賛否度

	TOTAL	賛成(5)	どちらかといえば賛成(4)	どちらともいえない(3)	どちらかといえば反対(2)	反対(1)	無回答	平均	標準偏差
TOTAL	4723	27.4	30.5	29.9	7.7	4.5	0.0	3.7	1.1
郵送ランダム	753	31.6	31.2	26.7	6.9	3.6	0.0	3.8	1.1
郵送モニター	986	25.7	30.4	31.4	9.4	3.0	0.0	3.7	1.1
WEBモニターA	1000	28.3	28.9	30.0	8.1	4.7	0.0	3.7	1.1
WEBモニターB	1000	24.0	32.7	32.1	5.8	5.4	0.0	3.6	1.1
WEBモニターC	984	28.7	29.6	28.4	7.9	5.5	0.0	3.7	1.1

表頭:Q7 支持政党

	TOTAL	自民党	民主党	公明党	日本共産党	社会民主党	国民新党	新党日本	その他	支持政党なし	わからない	無回答
TOTAL	4723	18.8	17.4	3.7	3.3	1.5	0.3	0.6	0.7	49.4	4.3	0.1
郵送ランダム	753	22.7	15.5	6.1	3.6	1.1	0.4	0.3	0.7	45.0	4.2	0.4
郵送モニター	986	21.0	16.9	4.1	3.5	2.1	0.3	0.5	0.7	45.5	5.0	0.3
WEBモニターA	1000	17.5	16.8	3.1	3.5	1.0	0.4	0.6	0.8	53.1	3.2	0.0
WEBモニターB	1000	18.6	20.8	2.3	2.9	1.7	0.2	0.6	0.2	48.8	3.9	0.0
WEBモニターC	984	15.0	16.6	3.4	2.9	1.5	0.3	0.7	1.0	53.6	5.0	0.0

表頭:Q8-1 男性は外で働き、女性は家庭を守るべき

	TOTAL	そう思う(4)	どちらかといえばそう思う(3)	どちらかといえばそう思わない(2)	そう思わない(1)	無回答	平均	標準偏差
TOTAL	4723	4.0	29.4	26.8	39.8	0.0	2.0	0.9
郵送ランダム	753	5.6	31.1	16.7	46.6	0.0	2.0	1.0
郵送モニター	986	4.2	31.3	24.0	40.3	0.2	2.0	0.9
WEBモニターA	1000	3.5	29.7	25.3	41.5	0.0	2.0	0.9
WEBモニターB	1000	3.8	29.1	33.6	33.5	0.0	2.0	0.9
WEBモニターC	984	3.4	26.0	31.7	38.9	0.0	1.9	0.9

表頭:Q8-2 一般的に人は信用できるか

	TOTAL	はい	いいえ	場合による	無回答
TOTAL	4723	23.1	11.6	65.2	0.0
郵送ランダム	753	26.0	7.2	66.5	0.3
郵送モニター	986	23.5	8.6	67.8	0.0
WEBモニターA	1000	21.1	16.8	62.1	0.0
WEBモニターB	1000	23.1	13.2	63.7	0.0
WEBモニターC	984	22.7	11.2	66.2	0.0

表頭:Q8-3 日本社会階層での自分の位置づけ

	TOTAL	上(5)	中の上(4)	中の中(3)	中の下(2)	下(1)	無回答	平均	標準偏差
TOTAL	4723	1.2	15.4	41.1	33.3	8.8	0.2	2.7	0.9
郵送ランダム	753	1.3	14.9	47.5	28.4	6.9	0.9	2.8	0.8
郵送モニター	986	1.5	17.6	44.1	29.9	6.4	0.4	2.8	0.9
WEBモニターA	1000	1.8	14.2	40.0	34.5	9.5	0.0	2.6	0.9
WEBモニターB	1000	0.7	17.0	40.5	33.5	8.3	0.0	2.7	0.9
WEBモニターC	984	0.9	13.1	34.7	38.9	12.4	0.0	2.5	0.9

表頭: Q9 仕事・通学・家事状況

	TOTAL	仕事を おもに している	家事が おもで 仕事も している	通学が おもで 仕事も している	家事・ 通学以 外のこ とがお もで仕 事もし ている	家事を している	通学し ている	その他	無回答
TOTAL	4723	65.7	10.7	2.5	1.2	12.7	3.8	2.2	1.3
郵送ランダム	753	61.1	13.1	3.2	0.7	11.4	3.3	1.9	5.3
郵送モニター	986	63.9	12.4	4.1	0.8	11.0	4.3	1.3	2.3
WEBモニターA	1000	67.6	9.7	2.0	1.4	13.1	4.0	2.2	0.0
WEBモニターB	1000	65.9	9.1	1.5	1.4	16.2	4.4	1.5	0.0
WEBモニターC	984	68.7	9.6	2.1	1.6	11.3	2.8	3.9	0.0

表頭: Q9A1 雇用・自営状況【ベース: 仕事をしている方】

	TOTAL	常雇	臨時雇	日雇	会社な どの役 員	自営業 主・雇 人あり	自営業 主・雇 人なし	自家営 業の手 伝い	内職	無回答
TOTAL	3781	67.3	9.3	1.2	3.2	2.1	8.1	2.3	1.6	4.8
郵送ランダム	588	59.7	9.9	1.4	3.2	2.6	5.4	2.7	1.5	13.6
郵送モニター	800	67.1	8.1	0.5	2.3	1.8	4.4	1.9	1.1	12.9
WEBモニターA	807	71.6	9.3	1.6	3.5	2.0	8.7	2.4	1.0	0.0
WEBモニターB	779	69.8	8.9	1.4	3.6	0.8	10.9	2.4	2.2	0.0
WEBモニターC	807	66.4	10.5	1.4	3.3	3.5	10.4	2.4	2.1	0.0

表頭: Q9ASQ 就労形態【ベース: 常雇・臨時雇・日雇の方】

	TOTAL	正社 員・正 職員	契約社 員・嘱 託	フリー ター (社会 人アル バイ パイ)	学生ア ルバイ ター	パート タイ マー	派遣	無回答
TOTAL	2945	65.5	9.4	4.3	3.4	12.0	5.3	0.2
郵送ランダム	417	62.8	8.4	5.3	4.8	14.9	3.4	0.5
郵送モニター	606	64.4	8.7	3.5	4.8	13.9	4.1	0.7
WEBモニターA	666	66.2	9.8	3.9	2.4	11.1	6.6	0.0
WEBモニターB	624	68.1	8.2	4.2	2.4	10.3	6.9	0.0
WEBモニターC	632	64.9	11.6	5.1	3.0	10.8	4.7	0.0

表頭: Q9A2 1週間就業時間【ベース: 仕事をしている方】

	TOTAL	15時 間未満	15~1 9時間	20~2 1時間	22~2 9時間	30~3 4時間	35~4 2時間	43~4 5時間	46~4 8時間	49~5 9時間	60~6 4時間	65時 間以上	無回答	~34 時間	35~4 8時間	49時 間以上
TOTAL	3781	10.5	4.6	3.6	4.5	5.6	22.8	11.6	9.5	14.6	5.0	7.5	0.2	28.8	43.9	27.1
郵送ランダム	588	8.8	6.5	4.9	4.6	6.6	20.2	7.1	10.4	16.2	6.6	7.1	0.9	31.4	37.7	29.9
郵送モニター	800	10.5	4.3	2.6	4.5	6.3	21.5	11.4	8.5	17.3	5.0	7.9	0.4	28.2	41.4	30.2
WEBモニターA	807	10.4	4.5	3.6	4.0	5.3	25.7	12.8	8.9	12.5	5.3	7.1	0.0	27.8	47.4	24.9
WEBモニターB	779	12.5	5.0	4.5	4.4	3.2	22.6	12.3	10.3	13.5	4.5	7.3	0.0	29.6	45.2	25.3
WEBモニターC	807	9.9	3.3	2.7	5.1	6.9	23.4	13.1	9.8	13.9	4.0	7.8	0.0	27.9	46.3	25.7

表頭: Q9A3 1年間収入(収益)【ベース: 仕事をしている方】

	TOTAL	収入な し・50 万円未 満	50~9 9万円	100~ 149万 円	150~ 199万 円	200~ 249万 円	250~ 299万 円	300~ 399万 円	400~ 499万 円	500~ 599万 円	600~ 699万 円	700~ 799万 円	800~ 899万 円	900~ 999万 円	1000 ~149 9万円	1500 万円以 上	無回答
TOTAL	3781	5.3	8.4	6.7	4.4	6.5	6.8	13.8	12.9	9.0	7.0	4.8	3.9	3.5	4.8	1.9	0.3
郵送ランダム	588	6.0	10.0	8.2	6.0	7.0	5.4	12.1	10.9	7.7	7.0	4.4	4.1	4.1	4.8	2.0	0.5
郵送モニター	800	5.4	10.0	7.6	3.8	4.4	8.5	13.3	10.0	8.3	8.4	4.4	4.3	2.9	6.0	1.8	1.3
WEBモニターA	807	4.1	7.6	5.7	4.5	7.1	6.8	13.8	16.7	8.9	6.1	5.5	4.5	3.6	3.8	1.5	0.0
WEBモニターB	779	4.9	6.5	6.8	3.5	5.6	6.3	15.3	13.7	10.5	6.0	5.3	3.7	3.9	5.6	2.3	0.0
WEBモニターC	807	6.3	8.1	5.8	4.7	8.6	6.7	14.3	12.4	9.4	7.7	4.3	3.0	3.3	3.7	1.7	0.0

表頭: Q9A4 職種【ベース: 仕事をしている方】

	TOTAL	製造・ 生産工 程	建設・ 労務	運輸・ 通信職	営業・ 販売職	サービ ス職業	専門 的・技 術的職 業	管理的 職業	事務職	その他 (保安 職など)	無回答	~299 万円	300~ 499万 円	500~ 799万 円	800万 円以上
TOTAL	3781	5.1	3.2	3.3	11.8	16.7	25.9	7.1	21.9	4.8	0.2	38.1	26.7	20.8	14.1
郵送ランダム	588	5.4	2.0	2.9	13.8	19.0	24.0	6.6	20.9	4.6	0.7	42.6	23.0	19.1	15.0
郵送モニター	800	6.1	2.5	2.5	14.9	17.6	21.4	8.0	21.9	4.9	0.3	39.7	23.3	21.1	15.0
WEBモニターA	807	4.6	3.5	4.1	9.2	16.0	27.0	6.9	23.8	5.0	0.0	35.8	30.5	20.5	13.4
WEBモニターB	779	4.2	4.2	3.9	9.0	14.4	28.1	8.3	23.0	4.9	0.0	33.6	29.0	21.8	15.5
WEBモニターC	807	5.0	3.6	3.1	12.9	17.1	28.6	5.6	19.6	4.6	0.0	40.2	26.7	21.4	11.7

表頭: Q9A5 仕事満足度【ベース: 仕事をしている方】

	TOTAL	非常に 満足し ている (4)	まあ満 足して いる (3)	あまり 満足し ていな い(2)	満足し ていな い (1)	無回答	平均	標本 標準 偏差
TOTAL	3781	6.5	54.5	27.4	11.1	0.5	2.6	0.8
郵送ランダム	588	10.2	52.0	26.0	10.4	1.4	2.6	0.8
郵送モニター	800	6.8	61.4	22.3	8.3	1.4	2.7	0.7
WEBモニターA	807	6.8	50.9	28.9	13.4	0.0	2.5	0.8
WEBモニターB	779	5.7	54.7	28.6	11.6	0.0	2.5	0.8
WEBモニターC	807	4.5	52.9	31.0	11.6	0.0	2.5	0.8

表頭: Q9A6 働く理由【ベース: 仕事をしている方】 A) 生計を維持するため

	TOTAL	あてはまる(5)	ややあてはまる(4)	どちらともいえない(3)	あまりあてはまらない(2)	あてはまらない(1)	無回答	平均	標本標準偏差
TOTAL	3781	73.9	17.0	3.3	3.2	2.4	0.1	4.6	0.9
郵送ランダム	588	76.5	13.3	2.4	3.9	3.2	0.7	4.6	1.0
郵送モニター	800	74.5	16.9	3.1	3.4	2.1	0.0	4.6	0.9
WEBモニターA	807	75.2	17.0	2.7	2.9	2.2	0.0	4.6	0.9
WEBモニターB	779	67.8	22.6	4.5	3.5	1.7	0.0	4.5	0.9
WEBモニターC	807	76.2	14.5	3.6	2.7	3.0	0.0	4.6	0.9

表頭: Q9A6 働く理由【ベース: 仕事をしている方】 B) 視野を広げるため

	TOTAL	あてはまる(5)	ややあてはまる(4)	どちらともいえない(3)	あまりあてはまらない(2)	あてはまらない(1)	無回答	平均	標本標準偏差
TOTAL	3781	19.1	34.6	22.0	12.9	10.9	0.4	3.4	1.2
郵送ランダム	588	26.0	30.3	18.7	12.2	11.2	1.5	3.5	1.3
郵送モニター	800	20.0	35.9	22.4	12.8	8.3	0.8	3.5	1.2
WEBモニターA	807	17.6	34.6	22.9	12.5	12.4	0.0	3.3	1.3
WEBモニターB	779	16.4	37.9	23.4	13.6	8.7	0.0	3.4	1.2
WEBモニターC	807	17.5	33.6	21.9	13.3	13.8	0.0	3.3	1.3

表頭: Q9A6 働く理由【ベース: 仕事をしている方】 C) 他にやることがないから

	TOTAL	あてはまる(5)	ややあてはまる(4)	どちらともいえない(3)	あまりあてはまらない(2)	あてはまらない(1)	無回答	平均	標本標準偏差
TOTAL	3781	7.8	17.7	20.8	19.5	33.7	0.4	2.5	1.3
郵送ランダム	588	8.8	16.7	13.8	17.0	41.8	1.9	2.3	1.4
郵送モニター	800	6.8	16.9	19.1	20.0	36.6	0.6	2.4	1.3
WEBモニターA	807	7.6	16.9	22.7	20.7	32.2	0.0	2.5	1.3
WEBモニターB	779	7.2	20.5	26.6	20.4	25.3	0.0	2.6	1.3
WEBモニターC	807	9.0	17.6	20.1	18.7	34.6	0.0	2.5	1.4

表頭: Q9A6 働く理由【ベース: 仕事をしている方】 D) 今の仕事が好きだから

	TOTAL	あてはまる(5)	ややあてはまる(4)	どちらともいえない(3)	あまりあてはまらない(2)	あてはまらない(1)	無回答	平均	標本標準偏差
TOTAL	3781	16.6	32.5	26.7	12.8	11.1	0.3	3.3	1.2
郵送ランダム	588	22.3	32.1	23.8	11.2	9.4	1.2	3.5	1.2
郵送モニター	800	15.3	34.4	27.8	13.0	8.9	0.8	3.3	1.2
WEBモニターA	807	15.6	31.4	25.9	14.5	12.6	0.0	3.2	1.2
WEBモニターB	779	14.4	34.3	27.1	12.2	12.1	0.0	3.3	1.2
WEBモニターC	807	16.9	30.4	28.1	12.6	12.0	0.0	3.3	1.2

表頭: Q9A6 働く理由【ベース: 仕事をしている方】 E) 社会に影響を与えたいから

	TOTAL	あてはまる(5)	ややあてはまる(4)	どちらともいえない(3)	あまりあてはまらない(2)	あてはまらない(1)	無回答	平均	標本標準偏差
TOTAL	3781	6.2	15.2	27.6	20.4	30.2	0.4	2.5	1.2
郵送ランダム	588	7.8	14.8	19.4	21.4	34.9	1.7	2.4	1.3
郵送モニター	800	5.4	15.8	29.4	20.6	28.0	0.9	2.5	1.2
WEBモニターA	807	5.6	14.4	28.7	20.6	30.7	0.0	2.4	1.2
WEBモニターB	779	5.9	19.0	28.4	20.7	26.7	0.0	2.6	1.2
WEBモニターC	807	6.8	12.0	29.7	18.8	32.6	0.0	2.4	1.2

表頭: Q9B 収入になる仕事をしたいと思うか【ベース: 仕事をしていない方】

	TOTAL	思っている	思っていない	無回答
TOTAL	879	83.6	16.3	0.1
郵送ランダム	125	79.2	20.8	0.0
郵送モニター	163	77.9	21.5	0.6
WEBモニターA	193	86.5	13.5	0.0
WEBモニターB	221	89.1	10.9	0.0
WEBモニターC	177	81.9	18.1	0.0

表頭: Q10 18~59歳有職同居家族人数

	TOTAL	0人	1人	2人	3人	4人以上	無回答	平均(人)	標本標準偏差
TOTAL	4723	18.8	37.4	29.1	8.8	5.3	0.6	4.2	148.6
郵送ランダム	753	21.0	30.8	29.3	10.1	6.2	2.5	1.5	1.2
郵送モニター	986	14.7	37.2	31.3	10.3	5.4	1.0	1.6	1.9
WEBモニターA	1000	20.3	38.5	28.5	7.9	4.8	0.0	1.5	2.2
WEBモニターB	1000	16.1	40.0	30.3	8.2	5.4	0.0	3.6	60.1
WEBモニターC	984	22.7	38.7	26.0	7.8	4.8	0.0	12.0	318.7

表頭: Q11 退職経験

	TOTAL	退職したことはない	退職したことがある	働いたことがない	無回答
TOTAL	4723	28.2	66.4	4.6	0.8
郵送ランダム	753	28.4	64.9	3.5	3.2
郵送モニター	986	28.6	63.9	6.0	1.5
WEBモニターA	1000	27.1	68.2	4.7	0.0
WEBモニターB	1000	31.4	63.7	4.9	0.0
WEBモニターC	984	25.4	70.7	3.9	0.0

表頭: Q11-1 退職回数【ベース:退職経験者】

	TOTAL	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上	無回答	平均(回)	標本標準偏差
TOTAL	3134	0.1	37.5	27.4	17.1	6.5	10.6	0.7	2.4	1.9
郵送ランダム	489	0.0	43.8	24.7	14.9	4.1	10.2	2.2	2.2	1.8
郵送モニター	630	0.0	39.7	27.5	17.5	6.7	6.8	1.9	2.2	1.6
WEBモニターA	682	0.0	<i>34.6</i>	30.2	17.6	7.3	10.3	0.0	2.4	1.8
WEBモニターB	637	0.0	<i>35.8</i>	29.5	16.8	7.7	10.2	0.0	2.4	1.6
WEBモニターC	696	0.6	<i>35.3</i>	24.7	18.1	6.3	14.9	0.0	2.7	2.5

表頭: Q12 回答する調査実施主体(MA)

	TOTAL	国や都道府県などの自治体	大学や公的な研究機関	新聞やテレビなどのマスコミ	マーケティング会社などの民間調査会社	いずれも回答したくない	無回答
TOTAL	4723	79.0	73.0	61.0	72.1	6.4	0.6
郵送ランダム	753	80.1	78.5	39.2	37.7	6.9	2.5
郵送モニター	986	80.2	<i>72.1</i>	65.2	84.8	4.8	0.7
WEBモニターA	1000	81.1	73.8	67.8	77.4	5.0	0.0
WEBモニターB	1000	79.9	76.8	68.8	84.1	4.8	0.0
WEBモニターC	984	<i>74.0</i>	<i>64.9</i>	58.7	67.9	10.8	0.0

表頭: Q13 協力してもよい調査方法(MA)

	TOTAL	訪問面接調査	留置き調査	電話調査	郵送調査	インターネット調査	いずれも協力したくない	無回答
TOTAL	4723	12.5	31.2	22.6	78.1	79.2	3.8	0.3
郵送ランダム	753	5.6	18.9	9.7	84.1	39.7	8.0	1.1
郵送モニター	986	20.1	40.6	32.4	94.7	60.1	3.1	0.5
WEBモニターA	1000	10.9	30.5	22.0	<i>70.4</i>	96.5	2.0	0.0
WEBモニターB	1000	15.8	36.8	27.4	80.1	97.1	2.1	0.0
WEBモニターC	984	8.6	26.4	18.5	<i>62.6</i>	92.9	4.8	0.0

表頭: Q14 1年間インターネット利用経験

	TOTAL	はい	いいえ	無回答
TOTAL	4723	95.6	4.1	0.3
郵送ランダム	753	88.0	11.4	0.5
郵送モニター	986	91.3	7.7	1.0
WEBモニターA	1000	99.0	<i>1.0</i>	0.0
WEBモニターB	1000	98.9	<i>1.1</i>	0.0
WEBモニターC	984	98.9	<i>1.1</i>	0.0

表頭: Q15 民間調査会社登録有無

	TOTAL	登録している	登録していないが、登録してもよい	登録していないし、登録するつもりもない	無回答
TOTAL	4723	68.9	16.7	14.1	0.3
郵送ランダム	753	14.5	30.5	54.2	0.8
郵送モニター	986	74.8	<i>17.0</i>	<i>7.4</i>	0.7
WEBモニターA	1000	84.3	<i>12.2</i>	<i>3.5</i>	0.0
WEBモニターB	1000	90.2	<i>7.4</i>	<i>2.4</i>	0.0
WEBモニターC	984	67.5	<i>19.6</i>	<i>12.9</i>	0.0

表頭:Q15-1 登録モニター(MA)【ベース:モニター登録者】

	TOTAL	インターネット調査モニター	郵送調査モニター	その他	無回答
TOTAL	3256	85.4	33.0	1.5	0.0
郵送ランダム	109	73.4	39.4	4.6	0.0
郵送モニター	738	42.3	86.7	2.6	0.0
WEBモニターA	843	99.4	14.9	1.1	0.0
WEBモニターB	902	99.4	14.5	1.0	0.0
WEBモニターC	664	98.5	20.2	0.9	0.0

表頭:Q15-2 調査回答頻度【ベース:モニター登録者】

	TOTAL	年に1~2回以下	3ヶ月に1~2回	月に1~2回	週に1~2回	週に3~4回	週に5~6回	週に7回以上	その他	無回答
TOTAL	3256	8.0	16.3	12.1	21.4	15.4	10.2	15.5	0.9	0.2
郵送ランダム	109	33.0	18.3	19.3	11.9	6.4	3.7	3.7	3.7	0.0
郵送モニター	738	18.6	49.3	14.4	6.7	3.9	2.4	2.7	1.5	1.1
WEBモニターA	843	2.4	3.4	10.8	35.8	21.1	11.9	14.4	0.5	0.0
WEBモニターB	902	3.7	5.8	7.0	18.1	20.4	15.9	28.9	0.3	0.0
WEBモニターC	664	5.4	9.9	17.0	26.5	15.4	9.9	14.9	0.9	0.0

表頭:Q16 在学状況

	TOTAL	在学中	卒業	無回答
TOTAL	4723	6.9	91.2	1.8
郵送ランダム	753	6.8	86.5	6.8
郵送モニター	986	7.9	88.5	3.5
WEBモニターA	1000	6.5	93.5	0.0
WEBモニターB	1000	8.6	91.4	0.0
WEBモニターC	984	4.9	95.1	0.0

表頭:Q16-1 在籍・卒業学校

	TOTAL	小学・中学	高校・旧制中校	専門学校	短大・高専	大学	大学院	無回答
TOTAL	4723	1.7	20.6	13.2	11.6	46.2	6.0	0.8
郵送ランダム	753	3.1	23.9	13.3	13.0	39.4	4.6	2.7
郵送モニター	986	1.7	19.9	11.5	11.5	48.1	5.7	1.7
WEBモニターA	1000	1.8	18.5	11.6	13.3	47.8	7.0	0.0
WEBモニターB	1000	0.8	18.3	13.3	11.3	48.7	7.6	0.0
WEBモニターC	984	1.4	23.2	16.3	9.0	45.2	4.9	0.0

付属資料V-1 訪問留め置き調査 調査票

付属資料I 調査票

I-1 訪問留め置き調査 調査票

働く人々の就業実態調査 2008年

現在の働き方（就業形態）についておたずねします

- Q1 あなたの現在の働き方（就業形態）は、次のどれに当てはまりますか。（1つに○）
- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1. 正社員・正職員 | 5. 派遣 |
| 2. 契約社員・嘱託 | 6. 業務委託（一社専属） |
| 3. フリーター（社会人アルバイト） | 7. 業務委託（複数社と契約） |
| 4. パートタイマー | |
- Q2 あなたは現在の働き方（就業形態）に満足していますか。（1つに○）
- | | |
|--------------|----------------|
| 1. とても満足している | 3. あまり満足していない |
| 2. まあ満足している | 4. まったく満足していない |
- Q3 あなたは、仕事をするに対して、どの程度の意欲を持っていますか。（1つに○）
- | |
|----------|
| 1. 非常に強い |
| 2. やや強い |
| 3. やや弱い |
| 4. 非常に弱い |

現在の勤務先（会社・団体等）のことについておたずねします

現在派遣で働いている方は、この調査の質問において、次の4つの言葉を以下のように考えてご回答ください。

- 「現在の勤務先」とは 派遣先の会社・団体ではなく、登録している派遣会社のことです。
- 「退職」というのは、そのとき登録していた派遣会社の仕事（登録契約）が終わり、次の仕事につかないことです。同じ派遣会社から異なった会社・団体へ派遣された場合は含みません。
以前に派遣以外で働いていたときは、雇用されていた勤務先を辞めたことをさします。
- 「転職」とは、登録する派遣会社を変わることで、あるいは派遣以外の働き方に変わることで、同じ派遣会社から異なった会社・団体へ派遣されることは、転職に含みません。
- 「前の勤務先」とは、2008年7月25～31日の期間以前に、
 - 1) 現在登録している派遣会社とは別の派遣会社で派遣社員として働いていた場合は、その派遣会社のことです。
 - 2) 正社員・正職員、契約社員・嘱託、パートタイマー、フリーター、など、派遣以外で働いていた場合は、その勤務先のことです。

- Q4 あなたが現在の勤務先に入社したのはいつですか。またそのときは何歳でしたか。

西暦 年 月 で その当時は 歳

Q5 あなたが現在の勤務先を選んだとき、次の事項について、どれくらい重視しましたか。(それぞれ1つ、数字に○)

A 会社の規模・知名度	1	2	3	4	5	6	7
B 会社の理念やビジョン	1	2	3	4	5	6	7
C 職場の雰囲気	1	2	3	4	5	6	7
D 仕事内容	1	2	3	4	5	6	7
E 賃金・福利厚生	1	2	3	4	5	6	7
F 勤務地	1	2	3	4	5	6	7
G 勤務時間・休日	1	2	3	4	5	6	7

Q6 現在の勤務先の業種は何ですか。別紙の業種コード表からあてはまるものを1つだけ選び、下の枠内にその3桁の業種コード番号をご記入ください。(番号を1つだけ)

【注:業種が複数にまたがる場合は、主な方をお書きください】

現在の勤務先の業種は →

G		
---	--	--

 (別紙コード表の2ページを参照)

Q7 現在の勤務先の従業員数(常用雇用のアルバイト・パートを含む人数)は会社全体でどれくらいですか。(1つに○)

- | | | | |
|-----------|-------------|----------------|-------------|
| 1. 4人以下 | 5. 30~49人 | 9. 500~999人 | 13. 公務(官公庁) |
| 2. 5~9人 | 6. 50~99人 | 10. 1000~1999人 | |
| 3. 10~19人 | 7. 100~299人 | 11. 2000~4999人 | |
| 4. 20~29人 | 8. 300~499人 | 12. 5000人以上 | |

Q8 あなたは、現在の職場に満足していますか。現在派遣で働いている方は、この質問については、派遣先の現在の職場についてお答えください。(1つに○)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 非常に満足している | 3. あまり満足していない |
| 2. まあ満足している | 4. 満足していない |

Q9 1週間のうち、何日働いていますか。

また1週間の平均的労働時間は全部でどれくらいですか。残業時間(サービス残業も含む)はカウントし、通勤時間、食事時間、休憩時間は除きます。(例:毎日9時から17時まで、休憩1時間で週5日働くと、7×5=35時間です)

アルバイトを2箇所で行っているなど、複数の勤務先で仕事をしている場合は、合計の時間でお答えください。

週に

--

 日 週に およそ合計で

--	--

 時間

- Q10 現在のあなたの職種は何ですか。別紙の職種コード表からあてはまるものを1つ選び、下の枠内にその3桁の職種コード番号をお書きください(番号を1つだけ)。またその職種での経験年数はどれくらいですか。1か月未満の場合は「0」年「1」か月とご記入ください。
複数の会社で同じ職種に就いている場合は合計の年数をお答えください。

現在の職種 → (別紙コード表の3、4ページを参照)

現在の職種の経験期間 → 年 か月

- Q11 総合的に考えて、あなたは現在の勤務先に入社してよかったと思いますか。(1つに○)
1. 非常によかったと思う
 2. まあよかったと思う
 3. あまりよかったとは思えない
 4. よかったとは思えない

現在の仕事についておたずねします

- Q12 あなたは現在の仕事に満足していますか。(1つに○)
1. 非常に満足している
 2. まあ満足している
 3. あまり満足していない
 4. 満足していない
- Q13 あなたは、現在の仕事を通じて、「成長している」という実感を、どの程度持っていますか。(1つに○)
1. 強く持っている
 2. 持っている
 3. どちらともいえない
 4. あまり持っていない
 5. 持っていない
- Q14 あなたは、仕事上で困難にぶつかった場合でも、それをやり遂げる強い意志がありますか。(1つに○)
1. 常に強い意志がある
 2. だいたいにおいて、強い意志がある
 3. だいたいにおいて、強い意志はない
 4. 常に強い意志はない
- Q15 あなたは、自分の一生の仕事(分野)とするものを決めていますか。(1つに○)
1. はい
 2. いいえ

【 SQ15-1 は、Q15 で「1. はい」とお答えの方におたずねします 】

- SQ15-1 それは、現在の仕事(分野)ですか。(1つに○)
1. はい
 2. いいえ

Q16 あなたは現在の仕事(分野)において、どの段階まで達していると、上司や顧客から思われていますか。下記の段階のうち、最も近いと思われるものに○をつけてください。(1つに○)

1. 第1段階. 仕事の基本ややり方を習得しつつある段階
2. 第2段階. ひとり立ちしている段階
3. 第3段階. 常に、期待以上の成果をあげ続けている段階
4. 第4段階. 自分ならではの知識や技術、やり方が高く評価されている段階
5. 第5段階. その道をきわめ、第一人者として社会的に広く認められている段階

Q17 以下のそれぞれの文章について、あてはまるものを選んで、選択肢に○をつけてください。(それぞれ1つに○)

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
A 仕事では、職場外より、職場内の人々と接することが多い	1	2	3	4
B 仕事で接する人々は、お互いのことをよく知っている	1	2	3	4
C 仕事で接する人々とは、仕事以外でも付き合いがある	1	2	3	4
D 仕事で接する人々を、紹介したり仲介したりすることが多い	1	2	3	4
E 仕事では、少数の人々と深く付き合いより、多数の人々と幅広く付き合い方を好む	1	2	3	4
F プライベートでは、少数の人々と深く付き合いより、多数の人々と幅広く付き合い方を好む	1	2	3	4
G 自分の仕事上の人間関係は、固定的だと思う	1	2	3	4
H 職場の人とは職場でしか、付き合いたくない	1	2	3	4
I 仕事を通じて人々をつなげることが好きだ	1	2	3	4

Q18 以下のAの考え方とBの考え方を比較し、あなたの考え方や志向にあてはまるものに○をつけてください。(それぞれ1つに○)

	A	Aに近い	ややAに近い	どちらともいえない	ややBに近い	Bに近い	B
1	ひとつの分野の専門性を高めていく	1	2	3	4	5	さまざまな分野の技術・スキルを身につけていく
2	キャリアを積み上げるためには、ひとつの会社に長く勤務することが有効だ	1	2	3	4	5	キャリアを積み上げるためには、機会をとらえて転職することが有効だ
3	(営業、販売、生産などの)現場で、実務にたずさわる	1	2	3	4	5	(本社、支社などの)オフィスで、事務にたずさわる
4	仕事を進める上では、まず枠組みを考えてから、行動する	1	2	3	4	5	仕事を進める上では、まず行動した上で、状況を見ながら進め方を考える

Q19 今の仕事に限らず、あなたが仕事をする上で、以下の項目はどれくらい大切ですか。それぞれの項目について最も近いものを1つ選び○をつけてください。(それぞれ1つに○)

	とても大切である	大切である	少しは大切である	あまり大切ではない	大切ではない
1	1	2	3	4	5
2	1	2	3	4	5
3	1	2	3	4	5
4	1	2	3	4	5
5	1	2	3	4	5
6	1	2	3	4	5
7	1	2	3	4	5
8	1	2	3	4	5
9	1	2	3	4	5
10	1	2	3	4	5
11	1	2	3	4	5
12	1	2	3	4	5
13	1	2	3	4	5
14	1	2	3	4	5
15	1	2	3	4	5
16	1	2	3	4	5
17	1	2	3	4	5
18	1	2	3	4	5
19	1	2	3	4	5
20	1	2	3	4	5
21	1	2	3	4	5
22	1	2	3	4	5
23	1	2	3	4	5
24	1	2	3	4	5
25	1	2	3	4	5
26	1	2	3	4	5
27	1	2	3	4	5
28	1	2	3	4	5
29	1	2	3	4	5
30	1	2	3	4	5

Q20 上記の中で、あなたが今後仕事をしていく上で、特に重視したい項目を5つまで選んで、それぞれ1～30の番号をご記入ください。(Q19の表の左端にある1～30の番号を記入)

--	--	--	--	--

Q21 また、以下の項目はどのくらい大切ですか。(それぞれ1つに○)

	とても大切である	大切である	少しは大切である	あまり大切ではない	大切ではない
31	1	2	3	4	5
32	1	2	3	4	5

- Q22 あなたは、海外赴任を経験したことがありますか。(1つに○)
1. ある 2. ない
- Q23 あなたは仕事でどれくらい英語を使いますか。(1つに○)
1. ほぼ毎日使う 2. 時々使う 3. ほとんど使わない
- Q24 あなたの職場には、外国人の方が働いていますか。(1つに○)
※就業形態(正社員、アルバイトなど)は問いません。
1. 働いている 2. 働いていない
【 SQ24-1 は、Q24 で「1. 働いている」とお答えの方におたずねします 】
SQ24-1 その方(たち)の就業形態は何ですか。(いくつでも○)
1. 正社員 2. 正社員以外 3. わからない
- Q25 あなたは仕事上、職場の方、顧客や取引先などの社外の方を含め外国人の方と接する機会がありますか。(1つに○)
1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない
【 SQ25-1 は、Q25 で「1. よくある」、「2. 時々ある」とお答えの方におたずねします 】
SQ25-1 仕事上、外国人の方と接する機会は、どのくらい前からありましたか。(1つに○)
1. 最近～半年前から
2. 半年～2年前から
3. 3、4年前から
4. 5～9年前から
5. 10年以上前から
- Q26 あなたは仕事上、外国人の方と接することに抵抗や困難を感じますか。(1つに○)
1. よく感じる 2. 時々感じる 3. ほとんど感じない
【 SQ26-1 は、Q26 で「1. よく感じる」、「2. 時々感じる」とお答えの方におたずねします 】
SQ26-1 あなたが外国人の方と接するときに、抵抗や困難を感じる点は何ですか。(いくつでも○)
1. 言語力 5. 時間の観念 9. 宗教
2. 仕事の進め方 6. 人間関係 10. その他()
3. 仕事の価値観 7. 文化習慣
4. 金銭感覚 8. ナショナリズム

初めて仕事をしたときのことについておたずねします

- Q27 あなたが学校を卒業して初めて社会人として仕事をしたときの働き方(就業形態)は、次のどれでしたか。(1つに○)
1. 正社員・正職員 6. 業務委託(一社専属)
2. 契約社員・嘱託 7. 業務委託(複数社と契約)
3. フリーター(社会人アルバイト) 8. 自営業・家族従業員
4. パートタイマー 9. その他()
5. 派遣
- Q28 そのときの業種は何でしたか。別紙の業種コード表からあてはまるものを1つだけ選び、下の枠内にその3桁の業種コード番号をご記入ください。(番号を1つだけ)
【注:業種が複数にまたがる場合は、主な方をお書きください】

そのときの勤務先の業種は -

G		
---	--	--

 (別紙コード表の2ページを参照)

現在のあなたの役職についておたずねします

Q29 現在の勤務先での役職は次のどれにあてはまりますか。名称が異なる場合も、職位が近いと思われるものに○をつけてください。(1つに○) ※ ここでの「専門職」は、営業、技術、事務など、すべての分野を含みます。

※ 出向中の場合は本社の役職でお答えください。

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1. 部長・次長・副部長クラスの管理職 | 5. 係長・主任・班長クラスの管理職 |
| 2. 部長・次長・副部長クラスと同待遇の専門職 | 6. 係長・主任・班長クラスと同待遇の専門職 |
| 3. 課長・課長補佐・課長代理クラスの管理職 | 7. 役職にはついていない |
| 4. 課長・課長補佐・課長代理クラスと同待遇の専門職 | |

現在、正社員の方におたずねします

【Q30～Q32 は現在正社員の方におたずねします。

それ以外の方は9ページ、Q33までお進みください】

Q30 あなたの現在の階級(職位)や資格等級、任されている役職は、同期入社の人達と比べて次のどれですか。(1つに○)
※中途で今の会社に入社された方は、学校の卒業年次と入社年次との関係から同期入社に相当すると思われる人々を想定してください。

1. 同期入社に比べて早い
2. 同期入社の中で平均的なところ
3. 同期入社に比べて遅い
4. 同期入社内で、まだ差はついていない

【ここからは次の説明をお読みになってお進みください】

現在、正社員で転職経験がなく

「課長・課長補佐・課長代理クラス」もしくは「部長・次長・副部長クラス」の方



下記の説明をお読みになって次のページのQ31へお進みください

それ以外の方



9ページのQ33へお進みください

【次ページでは、あなたが課長や部長に昇進するまでに社内ですでにどれくらい異動したか等をおたずねします】

現在、「課長・課長補佐・課長代理クラス」の役職についている方(Q29で3、もしくは4と答えた方)は Q31をお答えください。

現在、「部長・次長・副部長クラス」の役職についている方(Q29で1、もしくは2と答えた方)は Q31とQ32をお答えください。

【回答のご記入にあたって】

- ・複数の仕事を兼務している場合は、主に担当している仕事だけでお答えください。
- ・組織の合併や分割、名称変更のみの場合は異動の数には含めないでください。
- ・最初の配属が出向だった場合は、異動の数には含めないでください。

Q31 あなたが、「課長・課長補佐・課長代理クラス」に昇進したのは入社何年目でしたか。 入社 年目

Q31-1 入社してから「課長・課長補佐・課長代理クラス」に昇進する前までの期間に、人事異動を何回経験しましたか。
 ※「課長・課長補佐・課長代理クラス」に昇進時の異動は、異動の数には含めないでください。

回

Q31-2 そのうち、次のAからLにあてはまる異動は何回ですか。

※ひとつの異動が、複数の項目に該当する場合があります。

例) 「部門が変わり、職種も変わる」異動の場合はAとBそれぞれに含めて数えてください。

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
部門をまたぐ異動	職種変更を伴う異動	ラインから スタッフへの異動	スタッフから ラインへの異動	本社→支社への異動	支社→支社への異動	支社→本社への異動	日本→海外への異動	海外→海外への異動	海外→日本への異動	出向	出向戻り
<input type="text"/> 回	<input type="text"/> 回	<input type="text"/> 回	<input type="text"/> 回	<input type="text"/> 回	<input type="text"/> 回	<input type="text"/> 回	<input type="text"/> 回	<input type="text"/> 回	<input type="text"/> 回	<input type="text"/> 回	<input type="text"/> 回

※ラインとは、開発・製造・営業など スタッフとは、人事・総務・経理など

【現在、「部長・次長・副部長クラス」の役職についている方(Q29で1、もしくは2と答えた方)におたずねします】

Q32 あなたが、「部長・次長・副部長クラス」に昇進したのは入社何年目でしたか。 入社 年目

Q32-1 「課長・課長補佐・課長代理クラス」になってから「部長・次長・副部長クラス」に昇進する前までの期間に、人事異動を何回経験しましたか。

※「課長・課長補佐・課長代理クラス」に昇進時の異動は、ここで異動の数に含めてください。

※「部長・次長・副部長クラス」に昇進時の異動は、異動の数には含めないでください。

回

Q32-2 そのうち、次のAからLにあてはまる異動は何回ですか。

※ひとつの異動が、複数の項目に該当する場合があります。

例) 「部門が変わり、職種も変わる」異動の場合はAとBそれぞれに含めて数えてください。

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
部門をまたぐ異動	職種変更を伴う異動	ラインから スタッフへの異動	スタッフから ラインへの異動	本社→支社への異動	支社→支社への異動	支社→本社への異動	日本→海外への異動	海外→海外への異動	海外→日本への異動	出向	出向戻り
<input type="text"/> 回	<input type="text"/> 回	<input type="text"/> 回	<input type="text"/> 回	<input type="text"/> 回	<input type="text"/> 回	<input type="text"/> 回	<input type="text"/> 回	<input type="text"/> 回	<input type="text"/> 回	<input type="text"/> 回	<input type="text"/> 回

※ラインとは、開発・製造・営業など スタッフとは、人事・総務・経理など

退職・転職経験についておたずねします

Q33 あなたはこれまでに退職(会社や団体を辞めること)をしたことがありますか。(1つに○)
ある方はその回数もお答えください。

1. 退職したことがある →→→ 回 ⇒ Q34 へお進みください
2. 退職したことはない ⇒ P.11 Q43 へお進みください

退職経験のある方についておたずねします

【Q34～Q42はQ33で「1. 退職した」と答えた方におたずねします。
ただし、退職経験が複数回ある方の場合、一番最近の退職のことをお答えください】

Q34 あなたが前の勤務先(現在の勤務先の、直前の勤務先)を退職した理由は何ですか。あてはまるものすべてを選んで番号に○をつけてください。またその中で最も重要な理由を1つだけ選び、その番号を下の枠内にお書きください。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1. 定年 | 12. 肉体的にきつい仕事だから |
| 2. 契約期間の満了 | 13. 精神的にきつい仕事だから |
| 3. 会社倒産、人員整理・解雇 | 14. 自分の能力や専門性が仕事に活かせないから |
| 4. 結婚 | 15. 仕事を通じて成長感を実感できなかったから |
| 5. 出産 | 16. よりよい仕事や会社が見つかったから |
| 6. 育児に専念するため | 17. 会社の将来性や方向性への不安 |
| 7. 介護 | 18. 配置転換・出向・転籍への不満 |
| 8. 自分のけがや病気 | 19. 職場の人間関係への不満 |
| 9. 賃金への不満 | 20. 進学・資格取得のため |
| 10. 評価への不満 | 21. 独立のため |
| 11. 勤務条件(勤務時間、休日数、勤務地など)への不満 | 22. その他() |

最も重要な退職理由 →→→ (Q34の番号を1つ)

Q35 あなたの退職は、次の2つのうちではどちらに近いですか。(1つに○)

1. 自発的退職(自分の希望、事情で退職した)
2. 非自発的退職(自分の希望や事情とは関係なく、勤務先の都合で退職した)

Q36 あなたが転職で現在の仕事を探す際に、最終的に決定した転職先、アルバイト先、派遣会社を見つけた情報源は何ですか。複数のものがあてはまる場合は、最も影響力が大きかったものを1つお選びください。(1つに○)

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 働きたい会社に直接問い合わせ | 8. 新聞の求人広告 |
| 2. 学校(学生課)の窓口や掲示板 | 9. 折り込みチラシ |
| 3. ハローワーク(職業安定所) | 10. インターネットの転職情報サイト |
| 4. 民間人材紹介会社 | 11. 企業のホームページ |
| 5. 人材派遣会社 | 12. 携帯電話の求人サイト |
| 6. 有料の求人情報誌 | 13. 家族や友人・知人、縁故 |
| 7. 無料の求人情報誌やタウン誌 | 14. その他() |

転職前の働き方や勤務先についておたずねします

- Q37 前の勤務先(現在の勤務先の、直前の勤務先)の業種は何ですか。別紙の業種コード表からあてはまるものを1つだけ選び、下の枠内にその3桁の業種コード番号をご記入ください。(番号を1つだけ)

【注:業種が複数にまたがる場合は、主な方をお書きください】

前の勤務先の業種は →

G		
---	--	--

 (別紙コード表の2ページを参照)

- Q38 前の勤務先(現在の勤務先の、直前の勤務先)の従業員数(常用雇用のアルバイト・パートを含む人数)は会社全体でどれくらいですか。(1つに○)

- | | | | |
|-----------|-------------|----------------|-------------|
| 1. 4人以下 | 5. 30~49人 | 9. 500~999人 | 13. 公務(官公庁) |
| 2. 5~9人 | 6. 50~99人 | 10. 1000~1999人 | |
| 3. 10~19人 | 7. 100~299人 | 11. 2000~4999人 | |
| 4. 20~29人 | 8. 300~499人 | 12. 5000人以上 | |

- Q39 前の勤務先(現在の勤務先の、直前の勤務先)での、1週間の労働日数は何日でしたか。また、1週間の平均的労働時間はどれくらいでしたか。残業時間(サービス残業も含む)はカウントし、通勤時間、食事時間、休憩時間は除きます。(例:毎日9時から17時まで、休憩1時間で週5日働く、7×5=35時間です)
2箇所でアルバイトをするなど複数の勤務先があった場合は、合計の時間をお答えください。

週に

--

 日 週におよそ合計で

--	--

 時間

- Q40 A:前の勤務先(現在の勤務先の、直前の勤務先)での職種と、B:現在の勤務先に転職した直後の職種は何でしたか。別紙の職種コード表の番号からあてはまるものを1つずつ選び、下の枠内にその3桁の職種コード番号をご記入ください。(番号を1つずつ)【注:職種が複数にまたがる場合は、主な方をお書きください】

A. 転職直前の職種 →

--	--	--

 (別紙コード表3、4ページを参照)

B. 現在の会社に転職直後の職種 →

--	--	--

 (別紙コード表3、4ページを参照)

- Q41 前の勤務先(現在の勤務先の、直前の勤務先)の働き方は次のどれにあてはまりますか。(1つに○)

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1. 正社員・正職員 | 5. 派遣 |
| 2. 契約社員・嘱託 | 6. 業務委託(一社専属) |
| 3. フリーター(社会人アルバイト) | 7. 業務委託(複数社と契約) |
| 4. パートタイマー | 8. 自営業・家族従業 |

- Q42 転職前の年収(税込み)と、転職後1年目、2年目の年収(税込み)をそれぞれお答えください。(転職後2年未満の方は、見込みをお答えください)

※転職後1年間は、試用期間や在籍期間が年収額に大きな影響を与えるため、
転職後2年目の年収もおたずねします。

A: 転職前

--	--	--	--

 万円

B: 転職後1年目

--	--	--	--

 万円

C: 転職後2年目

--	--	--	--

 万円

【 ★ ここからは全員におたずねします ★ 】

ここからは、これからの働き方や転職についておたずねします

Q43 あなたは今後転職(会社や団体を変えること)することを考えていますか。(1つに○)

1. 現在転職したいと考えており、転職活動をしている
2. 現在転職したいと考えているが、転職活動はしていない
3. いずれ転職したいと思っている
4. 転職するつもりはない

Q44 あなたが転職するとしたら、どのようなことがネック(障害)になるとお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 今まで年功序列で上がってきた給料が下がってしまう
2. 退職金の額が下がってしまう
3. 企業年金の継続ができなくなり、これまでの分が無駄になってしまう
4. 今の会社に住宅資金などの借金をしている
5. 金融機関に住宅ローンなどの返済ができなくなってしまう
6. 社宅や寮、住宅補助等の恩恵が受けられなくなってしまう
7. 子供の教育費の工面ができなくなってしまう
8. 金融機関からの社会的信用を失ってしまう
9. 家族の理解が得られない
10. 世間体が悪くなってしまう
11. 今の仕事の経験、職務経歴は世間一般では通用しにくいと思う
12. 転職すると今までの人間関係が無になってしまう
13. 募集求人年齢制限を超えていることが多い
14. 適当な転職先を探す手段が思いつかない
15. その他()

Q45 あなたは「地方への転職」(首都圏以外への地域への転職)をしたいとお考えですか。(1つに○)

1. ぜひ「地方」へ転職したい
2. できれば「地方」へ転職したい
3. 「地方」へ転職したいとは思わない

Q46 あなたは将来独立して仕事してみたいとお考えですか。(1つに○)

1. してみたい
2. したくない →→→ Q47 へお進みください

↓

【 SQ46-1、SQ46-2 は、Q46 で「1. してみたい」とお答えの方におたずねします 】

SQ46-1 あなたは独立して仕事することを、どの程度考えていますか。(1つに○)

1. すぐにも独立したい
2. 近い将来独立したい
3. いつになるかわからないが独立したい
4. 関心はあるが、本当に独立するかどうかは未定である

SQ46-2 独立するとしたら、どのような形がよいですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 会社を設立する
2. お店を開く(法人化しない自営業)
3. フリーランス
4. 非営利団体(NPO)を設立する
5. フランチャイズや販売店・代理店に加盟する
6. 友人や仲間と共同して事業を行う(ワーカーズコレクティブ等)
7. その他()

Q47 あなたは現在副業をお持ちですか。また、今後副業を持ちたいと思いますか。(1つに○)

1. 現在副業を持っている →+++++ SQ47-1 へ
 2. 現在副業を持っていないが、今後は持ちたい →→ SQ47-1 へ
 3. 現在副業を持っていないし、今後も持とうとは思っていない → Q48 へお進み下さい

【 SQ47-1 は Q47 で「1. 現在副業をもっている」、または「2. 今後持ちたい」とお答えの方におたずねします 】

SQ47-1 副業をもっている(持ちたい)のはなぜですか。次のうち最も近い理由を1つお答えください。(1つに○)

1. 収入を補填するため
 2. 将来の独立・開業のため
 3. 趣味の延長
 4. その他()

Q48 あなたは、あなたご自身の雇用について不安を持っていますか。(1つに○)

1. 不安を持っている
 2. 少し不安を持っている
 3. あまり不安を持っていない
 4. 不安を持っていない

あなたの能力・学習行動についておたずねします

Q49 仕事を進めるにあたって、あなたは以下の能力をどの程度持っていると思いますか。それぞれの項目について最も近いものを1つ選び、○をつけてください。(それぞれ1つに○)

	十分 持っている	持っている	どちらとも いえない	あまり 持って いない	持って いない
A 円滑な人間関係を築く力	1	2	3	4	5
B 人と協力しながら物事に取り組む力	1	2	3	4	5
C 目標に向かって人や集団をひっぱる力	1	2	3	4	5
D 自分の感情をコントロールする力	1	2	3	4	5
E やる気を維持する力	1	2	3	4	5
F 良い行動を習慣として続けられる力	1	2	3	4	5
G 情報を収集・分析して、課題を発見する力	1	2	3	4	5
H 課題解決のための計画を立案する力	1	2	3	4	5
I 行動を起こし、最後までやりきる力	1	2	3	4	5
J 現在の仕事に関する体系的な知識	1	2	3	4	5
K 現在の仕事の遂行や問題解決に必要な 技術やノウハウ	1	2	3	4	5
L 上記を含む、現在の仕事に必要な能力すべて	1	2	3	4	5

Q50 あなたの現在の仕事能力について、全体を100%としたとき、①今勤めの会社でのみ役に立つ能力と、②他の会社でも使える能力は、それぞれどのくらいの割合だと思いますか？

①今勤めの会社でのみ
役に立つ能力
() % + ②他の会社でも
使える能力
() % = 100%

- Q51 勤務時間以外の時間の活用についてお聞きします。あなたは、自分自身のキャリアのために、次のことへのどの程度取り組んでいますか。(それぞれ1つに○)

	よく取り組んでいる	取り組んでいる	あまり 取り組んでいない	全く 取り組んでいない
A テレビ・ラジオの講座を視聴する	1	2	3	4
B 詳しい人に話を聞きに行く	1	2	3	4
C 参加型の勉強会や交流会に参加する	1	2	3	4
D 講演会やセミナーを聴講する	1	2	3	4

- Q52 あなたが社会人になってから活用したことがある教育機関をお答えください。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|----------------------------|
| 1. 専門学校・各種学校 | 6. 英会話などの語学スクール |
| 2. 職業訓練校 | 7. 通信教育 |
| 3. 大学・大学院の公開講座 | 8. その他() |
| 4. 大学の学部在籍 | 9. 社会人になってから教育機関を活用したことはない |
| 5. 社会人大学院・ビジネススクール | |

- Q53 あなたは現在、以下のジャンルの本をどの程度読んでいますか。(それぞれ1つに○)

	よく読む	読む	あまり 読まない	全く 読まない
A ノウハウ書(営業術、話術、自己啓発書など)	1	2	3	4
B 専門書(自分の仕事に直結する領域のもの)	1	2	3	4
C ビジネス書(社会経済領域全般)	1	2	3	4
D 教養書(歴史書、学術書など)	1	2	3	4
E 語学書(テキスト、参考書など)	1	2	3	4

あなたご自身のことについておたずねします

F1 性別 1.男性 2.女性

F2 あなたの現在の年齢 歳

F3 現在、配偶者の方がいらっしゃいますか。(1つに○)
 1.配偶者がいる 2.配偶者はいない

【 SF3-1 は、F3 で「1. 配偶者がいる」とお答えの方におたずねします 】
 SF3-1 ご結婚されたのは何歳のときですか。初婚の年齢をおしえてください。

歳

F4 昨年のあなたの年収(2007年4月～2008年3月末までの税込みの実績)と、配偶者の年収をお教えてください。

あなたの年収 万円 配偶者の年収 万円

F5 お子様はいらっしゃいますか。(1つに○) いる場合は、人数をご記入ください。

1. いる →→ 人 2. いない

【 SF5-1 は F5 で「1. いる」とお答えの方におたずねします 】
 SF5-1 一番下のお子様の年齢をおしえてください。

歳

F6 現在同居しているのはどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|---------------|-----------------|-----------------|
| 1. 1人暮らし | 4. 兄弟姉妹 | 7. 子供 |
| 2. 父(義理の父を含む) | 5. 祖父または祖母 | 8. 友人・ルームメイト・同僚 |
| 3. 母(義理の母を含む) | 6. 配偶者(内縁関係を含む) | 9. その他の人 |

F7 あなたは世帯主ですか。(1つに○)

1. はい 2. いいえ

F8 現在お住まいの住宅の住居形態をお答えください。(1つに○)

1. 一戸建て
2. アパート・マンション(共同住宅)
3. その他

【 SF8-1 は、F8 で「2. アパート・マンション(共同住宅)」とお答えの方におたずねします 】

SF8-1 現在お住まいのアパート・マンションにはオートロックがありますか。

1. はい
2. いいえ

F9 あなたの最終卒業校は次のどれですか。(1つに○)

1. 中学校
2. 高等学校
3. 専修各種学校
4. 短期大学
5. 高等工業専門学校
6. 大学
7. 大学院

【 SF9 は、F9 で「6. 大学」、または「7. 大学院」とお答えの方におたずねします 】

SF9 卒業された学部(研究科)は次のどれですか。(1つに○)

1. 文科系
2. 理科系
3. その他

F10 あなたは、学校を中退した経験がありますか。経験がある場合はどれにあてはまりますか。(1つに○)

1. 中退した経験がある →
1. 高等学校中退
2. 専修各種学校中退
3. 短期大学中退
4. 高等工業専門学校中退
5. 大学中退
6. 大学院中退
2. 中退した経験はない

F11 次にあげるAからDのそれぞれは、あなたの生活にとってどの程度重要ですか。(それぞれ1つに○)

	非常に重要	やや重要	あまり重要ではない	全く重要でない
A 家族	1	2	3	4
B 友人・知人	1	2	3	4
C 余暇(レジャー)時間	1	2	3	4
D 仕事	1	2	3	4

F12 あなたは、全体として、現在の生活にどの程度満足していますか。(1つに○)

1. 満足している
2. まあ満足している
3. やや不満だ
4. 不満だ
5. どちらともいえない
6. わからない

F13 一般的に、人は信用できると思いますか。(1つに○)

1. はい
2. いいえ
3. 場合による

- F14 あなたは、これまで、海外で1年以上、生活をしたことがありますか。(1つに○)
 1. ある 2. ない

【 SF14-1 は F14 で「1. ある」とお答えの方におたずねします 】

SF14-1 それはいつごろですか？(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|---------|--------|-----------|
| 1. 6歳以前 | 5. 10歳 | 9. 14歳 |
| 2. 7歳 | 6. 11歳 | 10. 15歳 |
| 3. 8歳 | 7. 12歳 | 11. 16歳以降 |
| 4. 9歳 | 8. 13歳 | |

- F15 あなたは、日常、仕事・私的利用を問わず、どのくらいの頻度でパソコンを使ってインターネットを利用していますか。
 (携帯電話での使用は含みません)(1つに○)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. ほぼ毎日 | 4. 1ヶ月に1, 2回程度 |
| 2. 1週間に数回程度 | 5. ほとんど利用していない |
| 3. 1週間に1回程度 | 6. 全く利用していない |

- F16 あなたは、現在、民間の調査会社にモニターとして登録していますか。(1つに○)

※「モニター」とは調査会社に登録し、Eメールや郵便で送られてきた調査に回答して謝礼やポイントを受け取るものです
 ※この調査を実施している調査会社のモニターも含めてご回答ください(インターネット調査のとき)

1. 登録している
2. 登録していないが、登録してもよい
3. 登録していないし、登録するつもりもない

【 SF16-1, SF16-2 は F16 で、「1.登録している」とお答えの方におたずねします 】

SF16-1 登録しているモニターの種類は次のどれですか。(登録しているものすべてに○)

1. インターネット調査モニター
2. 郵送調査モニター
3. その他()

SF16-2 どれくらいの頻度で調査に回答していますか。(1つに○)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. 年に1~2回以下 | 5. 週に3~4回 |
| 2. 3ヶ月に1~2回 | 6. 週に5~6回 |
| 3. 月に1~2回 | 7. 週に7回以上 |
| 4. 週に1~2回 | 8. その他(具体的に:) |

- F17 あなたが、今後、協力してもよいとお考えの調査の方法はつぎのどれにあたりますか。(○はいくつでも)

1. 訪問面接調査 (調査員が調査対象者の自宅を訪問し、面接で行う調査)
2. 訪問留置き調査 (調査員が調査対象者の自宅を訪問して調査票を渡し、調査対象者が自分で回答を記入し、後日、調査員が訪問して調査票を回収する調査)
3. 電話調査 (調査員が調査対象者に電話をして行う調査)
4. 郵送調査 (調査対象者の自宅に調査票を郵送し、調査対象者が自分で回答を記入したあと郵送で返送する調査)
5. インターネット調査 (インターネットを通じて調査の依頼や回答を行う調査)
6. いずれも協力したくない

以上です。ご協力ありがとうございました。

※このアンケートは、前のページに戻ることはできません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

■現在の勤務先(会社・団体等)のことについておたずねします。

現在派遣で働いている方は、この調査の質問において、次の4つの言葉をおよび以下のように考えてご回答ください。

●「現在の勤務先」とは、派遣先の会社・団体ではなく、登録している派遣会社のことです。

●「退職」というのは、そのとき登録していた派遣会社の仕事(登録契約)が終わった(次の仕事につかれない)ことです。同じ派遣会社から異なった会社・団体へ派遣された場合は含まれません。

●「転職」とは、登録する派遣会社を変わることで、あるいは派遣以外の働き方へ変わることで、同じ派遣会社から異なった会社・団体へ派遣されることは、転職に含まれません。

●「前の勤務先」とは、2008年7月26～31日の期間以前に

(1)現在登録している派遣会社と別の派遣会社で派遣社員として働いていた場合は、その派遣会社のことです。

(2)正社員・正職員、契約社員・嘱託、パート・アルバイト、フリーター、など、派遣以外で働いていた場合は、その勤務先のことです。

Q4 あなたが現在の勤務先に入社したのはいつですか。またそのときは何歳でしたか。

(回答は半角数字で入力)

西暦 年 月 で、その当時は 歳

Q5 あなたが現在の勤務先を選んだとき、次の事項について、どれくらい重視しましたか。

(回答は横の行ごとにつづつ)

	非常に重視した	←	←	どちらからも重視していない	→	→	全く重視していない
会社の規模・知名度	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6	<input type="radio"/> 7
会社の理念やビジョン	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6	<input type="radio"/> 7
職場の雰囲気	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6	<input type="radio"/> 7
仕事内容	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6	<input type="radio"/> 7
賃金・福利厚生	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6	<input type="radio"/> 7
勤務地	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6	<input type="radio"/> 7
勤務時間・休日	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6	<input type="radio"/> 7

次のページ 戻る

Q6 現在の勤務先の業種は何ですか。業種選択ボタンをクリックして、業種コード表からあてはまるものを1つだけお選びください。

注:業種が複数にまたがる場合は、主なものをお選びください。

業種選択

次のページ 戻る

業種選択 - Microsoft Internet Explorer

業種を選択してください。

業種		販売・小売業	
G01	農林漁業	G37	卸売業
G02	鉱業	G38	百貨店、ディスカウントストア
建設業		G39	服飾・衣類・身の回り品小売業
G03	総合工事業	飲食料点小売業	
G04	彫刻工事業(大工、とび、左官、石工など)	G40	スーパー・ストア
G05	設備工事業	G41	コンビニエンスストア
製造業		G42	その他の飲食料点小売業
G06	食料品製造業	G43	その他的小売業
G07	繊維工業、衣服・繊維製品製造業	金融・保険業	
G08	木材・木製品、家具、紙・パルプ	G44	銀行・信託業
G09	印刷・同梱造業	G45	信金、信用組合
G10	化学工業、石油・石炭製品、プラスチック製品製造業	G46	貸金業、控除業等非預金信用機関
G11	ゴム、皮革、窯業・土石製品製造業	G47	証券業、商品先物取引業
G12	鉄鋼業	G48	保険業
G13	非金属製品製造業		

ページが表示されました

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q8 あなたは、現在の職場に満足していますか。現在派遣で働いている方は、この質問については、派遣先の現在の職場についてお答えください。

(回答は1つ)

非常に満足している	まあ満足している	あまり満足していない	満足していない
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q9 1週間のうち、何日働いていますか。また1週間の平均的労働時間は全部でどれくらいですか。

(回答は半角数字で入力)

※残業時間(サービス残業も含む)はカウントし、通勤時間、食事時間、休憩時間は除きます。
(例:毎日9時から17時まで、休憩1時間で週5日働く、7×5=35時間です。)

※アルバイトを2箇所で行っているなど、複数の勤務先で仕事をしている場合は、合計の時間でお答えください。
※11日、111時間以上でお答えください。

週に 日 週におよそ合計で 時間

[次のページ](#) [戻る](#)

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q7 現在の勤務先の従業員数(常用雇用のアルバイト・パートを含む人数)は会社全体でどれくらいですか。

(回答は1つ)

- | | |
|--------------------------------|----------------------------------|
| <input type="radio"/> 4人以下 | <input type="radio"/> 300~499人 |
| <input type="radio"/> 5~9人 | <input type="radio"/> 500~999人 |
| <input type="radio"/> 10~19人 | <input type="radio"/> 1000~1999人 |
| <input type="radio"/> 20~29人 | <input type="radio"/> 2000~4999人 |
| <input type="radio"/> 30~49人 | <input type="radio"/> 5000人以上 |
| <input type="radio"/> 50~99人 | <input type="radio"/> 公務(官公庁) |
| <input type="radio"/> 100~299人 | |

[次のページ](#) [戻る](#)

※ このアンケートは、前のページに戻ることができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q10 現在のあなたの職種は何ですか。職種選択ボタンをクリックして、職種コード表からあてはまるものを1つお選びください。またその職種での経験年数はどれくらいですか。

(回答は半角数字で入力)

※1か月未満の場合は「0」年「1」か月とご記入ください。

※3年の場合は「0」年「0」か月とご記入ください。

※複数の会社で同じ職種に就いている場合は合計の年数をお答えください。

現在の職種の経験期間 → 年 か月

付属資料VI クロス集計表

Q1 現在の就業形態

n=	就業形態 (%)							
	正社員・正職員	契約社員・嘱託	フリーランス （社会人アルバイト/ライター）	パートタイマー	派遣	業務委託 （一社専属）	業務委託 （複数社と契約）	
TOTAL	12,920	68.6	5.2	5.5	15.6	4.0	0.8	0.3
2008WEB	6,420	68.9	6.9	5.7	11.7	5.9	0.6	0.3
2008郵の聞き	6,500	68.2	3.5	5.3	19.5	2.1	0.9	0.4

Q2 現在の就業形態満足

n=	満足度 (%)						
	とても満足している (4)	まあ満足している (3)	あまり満足していない (2)	まったくない (1)	無回答	平均値	
TOTAL	12,920	14.4	59.0	21.8	4.7	0.1	2.8
2008WEB	6,420	14.0	58.1	22.0	5.9	0.0	2.8
2008郵の聞き	6,500	14.8	60.0	21.6	3.5	0.1	2.9

Q3 仕事をするにに対する意欲

n=	意欲 (%)						
	非常に高い (4)	やや高い (3)	やや低い (2)	非常に低い (1)	無回答	平均値	
TOTAL	12,920	17.9	57.8	21.5	2.7	0.1	2.9
2008WEB	6,420	15.3	54.5	26.2	4.0	0.0	2.8
2008郵の聞き	6,500	20.5	61.0	17.0	1.4	0.1	3.0

*Q4 現在の勤務先の勤続年数

n=	勤続年数 (%)														
	3か月未満	3～6か月未満	6か月～1年未満	1～2年未満	2～3年未満	3～4年未満	4～5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20～30年未満	30年以上	無回答	平均値	
TOTAL	12,920	3.5	6.3	5.6	11.7	9.1	7.2	5.9	17.8	10.4	7.7	9.3	5.1	0.3	101.9
2008WEB	6,420	3.9	6.7	6.3	12.8	9.0	7.6	5.9	17.6	9.4	7.1	9.0	4.5	0.2	96.3
2008郵の聞き	6,500	3.1	5.9	5.0	10.7	9.3	6.8	5.8	18.0	11.5	8.2	9.6	5.6	0.4	107.4

Q5 勤務先選択理由 A 会社の規模・知名度

n=	理由 (%)								
	非常に重視した (7)	— (6)	— (5)	どちらともいえない (4)	— (3)	— (2)	全く重視していない (1)	平均値	
TOTAL	12,920	7.8	12.8	14.7	25.6	8.6	7.3	23.3	3.7
2008WEB	6,420	7.9	11.7	13.6	23.5	8.3	7.9	27.2	3.5
2008郵の聞き	6,500	7.7	13.9	15.8	27.6	8.8	6.7	19.3	3.9

Q5 勤務先選択理由 B 会社の理念やビジョン

n=	理由 (%)								
	非常に重視した (7)	— (6)	— (5)	どちらともいえない (4)	— (3)	— (2)	全く重視していない (1)	平均値	
TOTAL	12,920	6.6	11.4	16.4	33.2	8.9	6.7	16.7	3.9
2008WEB	6,420	6.1	10.3	15.8	31.8	9.3	7.3	19.5	3.7
2008郵の聞き	6,500	7.1	12.5	17.1	34.5	8.6	6.2	13.9	4.0

Q5 勤務先選択理由 C 職場の雰囲気

n=	理由 (%)									
	非常に重視した (7)	— (6)	— (5)	どちらともいえない (4)	— (3)	— (2)	全く重視していない (1)	無回答	平均値	
TOTAL	12,920	12.1	18.4	22.4	29.4	5.1	3.6	8.9	0.1	4.6
2008WEB	6,420	11.4	16.5	21.9	29.5	5.8	4.3	10.5	0.0	4.4
2008郵の聞き	6,500	12.8	20.2	22.9	29.4	4.5	2.8	7.2	0.2	4.7

Q5 勤務先選択理由 D 仕事内容

n=	理由 (%)								
	非常に重視した (7)	— (6)	— (5)	どちらともいえない (4)	— (3)	— (2)	全く重視していない (1)	平均値	
TOTAL	12,920	31.6	29.3	19.8	13.0	2.1	1.0	3.1	5.6
2008WEB	6,420	31.0	28.9	20.2	12.8	2.1	1.2	3.7	5.6
2008郵の聞き	6,500	32.2	29.7	19.3	13.1	2.1	0.9	2.6	5.6

Q5 勤務先選択理由 E 賃金・福利厚生

n=	理由 (%)									
	非常に重視した (7)	— (6)	— (5)	どちらともいえない (4)	— (3)	— (2)	全く重視していない (1)	無回答	平均値	
TOTAL	12,920	14.2	22.1	22.0	25.2	6.2	3.4	6.8	0.1	4.8
2008WEB	6,420	13.4	20.4	21.8	25.4	7.0	4.0	8.1	0.0	4.6
2008郵の聞き	6,500	15.0	23.7	22.3	25.0	5.4	2.9	5.6	0.1	4.9

Q5 勤務先選択理由 F 勤務地

n=	理由 (%)									
	非常に重視した (7)	— (6)	— (5)	どちらともいえない (4)	— (3)	— (2)	全く重視していない (1)	無回答	平均値	
TOTAL	12,920	31.0	26.7	18.8	14.4	3.2	1.8	4.0	0.1	5.5
2008WEB	6,420	30.1	25.3	19.6	14.9	3.5	2.0	4.6	0.0	5.4
2008郵の聞き	6,500	31.8	28.1	18.1	13.8	3.0	1.7	3.4	0.1	5.5

Q5 勤務先選択理由 G 勤務時間・休日

n=	理由 (%)								
	非常に重視した (7)	— (6)	— (5)	どちらともいえない (4)	— (3)	— (2)	全く重視していない (1)	平均値	
TOTAL	12,920	25.4	23.8	19.7	19.5	4.2	2.5	5.0	5.2
2008WEB	6,420	25.0	22.3	20.6	19.6	4.5	2.6	5.4	5.1
2008郵の聞き	6,500	25.7	25.3	18.7	19.4	3.9	2.4	4.6	5.2

*Q6 現在の業種(大分類)

n=	業種 (%)																	
	原料・食品	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業	郵便・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店、宿泊業	医療・福祉	教育・学習支援	娯楽	サービス業	公務	他に分類されないもの	
TOTAL	12,920	0.1	0.0	6.0	17.8	0.9	10.5	6.1	13.2	6.0	1.7	5.0	7.6	3.7	0.6	10.7	3.9	6.2
2008WEB	6,420	0.0	0.1	4.5	19.0	1.0	14.6	5.6	10.8	6.4	2.1	3.3	7.3	4.4	0.6	9.8	4.1	6.6
2008郵の聞き	6,500	0.1	0.0	7.6	16.6	0.8	6.4	6.6	15.6	5.6	1.4	6.6	7.9	3.0	0.5	11.6	3.8	5.9

*Q7 現在の従業員規模

n=	従業員規模 (%)											
	9人以下	10～19人	20～49人	50～99人	100～299人	300～499人	500～999人	1000～4999人	5000人以上	公務	無回答	
TOTAL	12,920	12.5	8.8	13.0	9.3	13.5	6.0	7.4	12.5	12.2	3.9	0.9
2008WEB	6,420	10.1	6.9	10.7	8.9	14.5	6.5	8.5	15.0	14.1	4.1	0.6
2008郵の聞き	6,500	14.7	10.7	15.2	9.6	12.5	5.4	6.3	10.1	10.4	3.8	1.2

Q8 職着満足

n=		満足している(%)				無回答	平均値
		非常に満足している(4)	まあ満足している(3)	あまり満足していない(2)	満足していない(1)		
TOTAL	12,920	9.3	59.6	23.9	6.9	0.3	2.7
2008WEB	6,420	8.4	56.6	25.9	9.2	0.0	2.6
2008郵め置き	6,500	10.2	62.5	22.0	4.7	0.7	2.8

*Q9 1週間の労働日数

n=		労働日数(%)							平均値
		1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	
TOTAL	12,920	0.5	1.5	4.8	6.6	69.4	16.4	0.9	5.0
2008WEB	6,420	0.6	1.7	4.6	6.2	74.8	11.3	0.8	4.9
2008郵め置き	6,500	0.4	1.4	4.9	6.9	64.1	21.4	0.9	5.0

*Q9 現在の週労働時間

n=		労働時間(%)										平均値	
		10時間未満	10~20時間未満	20~30時間未満	30~35時間未満	35~40時間未満	40~45時間未満	45~50時間未満	50~55時間未満	55~60時間未満	60~70時間未満		70時間以上
TOTAL	12,920	1.9	6.1	7.8	3.9	11.0	25.8	14.9	14.2	3.4	7.5	3.6	41.5
2008WEB	6,420	2.4	5.9	6.8	3.4	10.8	28.2	14.4	14.5	3.5	6.8	3.5	41.4
2008郵め置き	6,500	1.3	6.3	8.8	4.4	11.3	23.4	15.4	13.9	3.3	8.3	3.7	41.6

*Q10 現在の職種(大分類)

n=		職種(%)									
		サービス職	接客・営業職	販売・運送・運賃	運送・運賃・運賃	生産・加工・労働	管理職	事務職	営業職	専門職・技術職	分類不能の職業
TOTAL	12,920	12.7	1.0	0.1	3.7	6.4	8.7	32.7	6.4	24.6	3.6
2008WEB	6,420	7.9	0.9	0.0	2.6	4.4	8.2	38.0	5.8	28.1	4.1
2008郵め置き	6,500	17.4	1.2	0.1	4.9	8.3	9.1	27.5	7.1	21.2	3.2

Q11 勤務先満足

n=		満足している(%)				無回答	平均値
		非常に満足している(4)	まあよかったと思う(3)	あまり満足していない(2)	よかったとは思えない(1)		
TOTAL	12,920	16.2	64.8	14.6	3.6	0.8	2.9
2008WEB	6,420	15.1	63.6	16.3	5.1	0.0	2.9
2008郵め置き	6,500	17.3	65.9	12.9	2.2	1.6	3.0

Q12 現在の仕事満足

n=		満足している(%)				平均値
		非常に満足している(4)	まあ満足している(3)	あまり満足していない(2)	満足していない(1)	
TOTAL	12,920	9.6	61.0	23.8	5.6	2.7
2008WEB	6,420	8.3	57.8	26.2	7.6	2.7
2008郵め置き	6,500	10.8	64.1	21.4	3.6	2.8

Q13 成長実感

n=		成長実感(%)				平均値	
		全く持っていない(0)	持っている(1)	どちらでもない(2)	あまり持っていない(3)		
TOTAL	12,920	9.7	44.6	28.3	13.1	4.2	3.4
2008WEB	6,420	7.7	41.6	27.9	16.6	6.2	3.3
2008郵め置き	6,500	11.8	47.6	28.7	9.7	2.2	3.6

Q14 困難に対する強い意志

n=		強い意志がある(%)			平均値	
		常に強い意志がある(4)	だいたい強い意志がある(3)	だいたい強い意志がない(2)		
TOTAL	12,920	16.5	69.8	12.4	1.3	3.0
2008WEB	6,420	13.3	71.0	14.0	1.6	3.0
2008郵め置き	6,500	19.7	68.6	10.7	1.0	3.1

Q15 一生の仕事

n=		一生の仕事(%)	
		はい	いいえ
TOTAL	12,920	42.8	57.2
2008WEB	6,420	42.9	57.1
2008郵め置き	6,500	42.7	57.2

SQ15-1 一生の仕事は現在の仕事か(ベース:一生の仕事を決めている方)

n=		現在の仕事か(%)		
		はい	いいえ	
TOTAL	5,530	82.1	17.3	0.6
2008WEB	2,753	80.2	19.8	0.0
2008郵め置き	2,777	84.0	14.8	1.3

Q16 仕事の段階

n=		仕事の段階(%)					無回答	平均値
		仕事の基本ややり方を覚悟しつつある段階(1)	ひとりで立ち回れる段階(2)	常に、期待以上の成果をあげている段階(3)	自分の知識や技術が活かされている段階(4)	第一人として社会的に活躍している段階(5)		
TOTAL	12,920	15.7	35.1	21.4	24.2	3.7	0.1	2.7
2008WEB	6,420	14.5	34.2	22.3	25.4	3.7	0.0	2.7
2008郵め置き	6,500	16.8	36.0	20.5	23.0	3.6	0.1	2.6

Q27 初職の就業形態

n=		就業形態(%)								
		正社員・正社員	契約社員・嘱託	フリーター(社会人アルバイト)	パート・タイマー	派遣	業務委託(複数社と契約)	業務委託(単一社)	自営業・零担営業	その他
TOTAL	12,920	80.0	3.7	10.8	2.4	1.1	0.2	0.1	1.2	0.4
2008WEB	6,420	81.7	3.9	9.8	1.6	1.3	0.2	0.0	1.0	0.4
2008郵め置き	6,500	78.4	3.6	11.7	3.2	0.9	0.3	0.1	1.5	0.3

*Q28 初職の業種(大分類)

n=		業種(%)																			
		農林漁業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業	卸売・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店・宿泊業	医療・福祉	教育・学習支援	娯楽	サービス業	公務	他に分類されないもの			
TOTAL	12,920	0.1	0.0	5.6	21.5	0.7	9.6	4.3	15.7	7.7	1.1	6.7	5.5	3.5	0.3	8.7	3.6	5.4			
2008WEB	6,420	0.1	0.0	4.3	21.8	0.5	13.3	4.4	13.9	8.1	1.3	5.2	5.1	3.9	0.4	7.7	3.7	6.2			
2008郵め置き	6,500	0.1	0.0	6.9	21.1	0.8	6.0	4.2	17.6	7.3	0.8	8.2	5.9	3.1	0.3	9.7	3.4	4.6			

Q29 現在の役職

n=	(%)							
	部長・次長・副部長クラスの管理職	部長・次長・副部長クラスと同程度の専門職	課長・課長補佐・課長代理クラスの専門職	課長・課長補佐・課長代理クラスと同程度の専門職	係長・主任・班長クラスの管理職	係長・主任・班長クラスと同程度の専門職	役職に就いていない	
TOTAL	12,920	5.5	2.1	6.5	3.2	7.4	9.4	65.8
2008WEB	6,420	5.5	2.1	7.0	3.9	7.1	10.4	64.0
2008郵政向き	6,500	5.6	2.0	6.1	2.6	7.8	8.3	67.6

Q30 昇進スピード【ベース:正社員】

n=	(%)					
	同期入社に比べて早い	同期入社の中で平均的なところ	同期入社に比べて遅い	同期入社内で、まだ遅はっていない	無回答	
TOTAL	8,859	15.9	45.4	16.2	21.7	0.9
2008WEB	4,424	15.7	41.0	19.4	24.0	0.0
2008郵政向き	4,435	16.1	49.8	12.9	19.4	1.7

Q33 退職経験有無

n=	(%)		
	退職したことがある	退職したことはない	
TOTAL	12,920	64.5	35.5
2008WEB	6,420	65.0	35.0
2008郵政向き	6,500	63.9	36.1

*** Q38 退職経験(回数)**

n=	(%)								
	1回	2回	3回	4回	5回	6回以上	無回答	平均値	
TOTAL	8,327	38.2	25.7	17.7	7.6	6.2	4.7	0.1	2.4
2008WEB	4,176	34.6	25.4	19.1	7.6	7.6	5.7	0.0	2.5
2008郵政向き	4,151	41.8	25.9	16.2	7.6	4.7	3.6	0.1	2.2

Q34 退職理由(MA)【ベース:退職経験者】

n=	(%)																							
	定年	契約期間の満了	会社側による人員整理・解雇	結婚	出産	育児に専念するため	介護	自分の会社が合わぬ	賃金への不満	評価への不満	勤務条件(勤務時間・休日数・休日調整など)への不満	会社側による評価・評価方法から	精神的・身体的な負担が大きい	自分の能力・専門性が仕事に活かされない	仕事を通じて成長感を得られなかった	よりよい仕事や会社が見つかった	会社の将来性や方向性への不安	配置転換・出向・転籍への不満	職場の人間関係への不満	進学・資格取得のため	独立のため	その他	無回答	
TOTAL	8,327	0.5	5.7	9.6	13.7	9.1	3.0	1.1	4.0	16.2	9.2	21.4	11.9	16.7	9.8	13.1	18.7	18.2	3.7	14.9	2.3	1.8	6.8	0.1
2008WEB	4,176	0.6	7.6	9.6	9.7	6.6	1.6	1.1	3.8	17.1	9.9	19.8	10.8	17.3	10.8	13.7	17.0	19.5	4.7	14.9	2.8	1.7	9.4	0.0
2008郵政向き	4,151	0.3	3.8	9.6	17.7	11.6	4.5	1.2	4.2	19.4	8.6	23.1	12.9	16.0	8.9	12.4	20.4	16.9	2.7	15.0	1.9	1.9	4.1	0.2

Q35 退職の自発性【ベース:退職経験者】

n=	(%)			
	自発的退職(自分の意思・事情で退職した)	非自発的退職(会社側の都合で退職した)	無回答	
TOTAL	8,327	87.4	12.5	0.2
2008WEB	4,176	85.5	14.5	0.0
2008郵政向き	4,151	89.2	10.4	0.4

Q36 転職情報源【ベース:退職経験者】

n=	(%)															
	親戚・友人・知人・知人・知人からの紹介	学校(学生)の窓口や関係者	ハローワーク(職業安定所)	民間人材紹介会社	人材派遣会社	有料の求人情報誌	無料の求人情報誌やウェブサイト	新聞の求人広告	折り返しチラシ	インターネットの転職情報サイト	企業のホームページ	携帯電話の求人サイト	その他	無回答		
TOTAL	8,327	8.0	0.7	10.0	3.1	3.9	4.0	5.3	7.3	10.1	9.6	2.1	0.3	30.8	4.6	0.2
2008WEB	4,176	6.8	1.0	10.3	4.5	6.0	3.9	4.5	5.4	9.8	14.5	2.8	0.2	24.6	5.6	0.0
2008郵政向き	4,151	9.1	0.5	9.7	1.7	1.8	4.1	6.2	9.3	10.4	4.6	1.3	0.4	37.0	3.6	0.3

Q43 転職意向

n=	(%)				
	転職を考えた(+)	転職を考えている(+)	いずれ転職したい(+)	転職するつもりはない(-)	
TOTAL	12,920	6.6	14.8	28.1	50.5
2008WEB	6,420	8.5	16.9	29.8	44.8
2008郵政向き	6,500	4.7	12.7	26.5	56.2

Q44 転職阻害要因(MA)

n=	(%)																
	年功序列で上がっていきにくい	退職後の生活費が心配	企業年金の繰上り出金が必要	今の会社に住み残る必要がなくなる	金銭的に余裕がない	住宅や車などの固定費がなくなる	子供の教育費がなくなる	多動機からの社会的責任がなくなる	家族の理解が得られない	周囲の理解が得られない	仕事の経験・知識は通用しない	転職すると今までの人間関係がなくなってしまう	募集求人の年齢制限を越えている	適度な転職先を探しにくい	その他	無回答	
TOTAL	12,920	20.3	14.8	6.0	1.5	9.6	2.9	11.4	4.6	11.2	4.9	23.5	14.7	39.1	24.0	9.0	0.6
2008WEB	6,420	17.7	14.2	5.6	1.4	9.3	3.4	8.0	5.2	9.0	5.4	25.0	12.7	41.8	24.8	9.9	0.0
2008郵政向き	6,500	22.9	15.4	6.5	1.7	10.0	2.3	14.8	4.0	13.3	4.5	21.9	16.6	36.5	23.3	8.1	1.2

Q45 地方転職希望

n=	(%)				
	「地方」へ転職したい(+)	できれば「地方」へ転職したい(+)	「地方」へ転職したい(+)		
TOTAL	12,920	3.7	10.2	86.0	0.1
2008WEB	6,420	5.2	13.6	81.2	0.0
2008郵政向き	6,500	2.2	6.7	90.8	0.2

Q46 独立意向

n=	(%)			
	してみたい	したくない	無回答	
TOTAL	12,920	32.2	67.7	0.1
2008WEB	6,420	40.5	59.5	0.0
2008郵政向き	6,500	24.1	75.7	0.2

SG46-1 独立意向の度合い【ベース:独立希望者】

n=	(%)					
	すぐにも独立したい(+4)	近い将来独立したい(+3)	いつになるかわからないが独立したい(+2)	関心はあるが実際に独立するかどうかは未定である(+1)		
TOTAL	4,164	6.6	15.6	31.1	46.7	0.1
2008WEB	2,597	6.6	15.5	30.0	47.9	0.0
2008郵政向き	1,567	6.5	15.8	32.8	44.5	0.3

SQ46-2 独立の形態(MA)【ベース:独立希望者】

	会社を独立する	お店を開く(法人化しない自営業)	フリーランス	空利団体(NPO)を設立する	フランチャイズの販売店・代理店に加盟する	友人や仲間と共同して事業を行う	その他	無回答	
TOTAL	4,164	42.5	43.3	18.9	4.3	5.1	18.2	2.0	0.2
2008WEB	2,597	45.3	41.0	24.1	5.5	5.4	18.6	2.2	0.0
2008紙の調査	1,567	37.8	47.2	10.3	2.4	4.7	17.4	1.8	0.5

Q47 副業意向

	現在副業を 持っていないが 持っていきたい	現在副業を 持っているが 増やしたい	現在副業は 持っていないし、 増やしたくない	
TOTAL	12,920	8.0	26.2	65.7
2008WEB	6,420	10.0	37.8	52.2
2008紙の調査	6,500	6.1	14.7	79.1

SQ47-1 副業意向理由【ベース:副業意向者】

	収入を増加 するため	将来的な 立派なため	趣味の延長	その他	無回答	
TOTAL	4,423	60.3	14.8	22.5	2.2	0.2
2008WEB	3,069	60.9	15.8	21.1	2.2	0.0
2008紙の調査	1,354	58.9	12.6	25.5	2.2	0.8

Q48 雇用不安

	不安を持って いる	少し不安を 持っている	あまり不安 を持っていない	不安を持って いない	無回答	平均値	
TOTAL	12,920	16.4	39.4	31.2	12.8	0.2	2.8
2008WEB	6,420	18.8	43.4	28.5	9.4	0.0	2.7
2008紙の調査	6,500	14.0	35.5	33.8	16.2	0.5	2.5

Q49 持っている能力 A 円滑な人間関係を築く力

	十分持 っている	持っている	どちらとも 言いえない	あまり持 っていない	持ってい ない	平均値	
TOTAL	12,920	16.5	53.5	21.8	6.6	1.6	3.8
2008WEB	6,420	16.3	49.5	22.9	8.7	2.6	3.7
2008紙の調査	6,500	16.6	57.5	20.7	4.4	0.7	3.8

Q49 持っている能力 B 人と協力しながら物事に取り組む力

	十分持 っている	持っている	どちらとも 言いえない	あまり持 っていない	持ってい ない	平均値	
TOTAL	12,920	16.7	60.2	17.8	4.3	1.0	3.9
2008WEB	6,420	16.4	56.9	19.7	5.4	1.7	3.8
2008紙の調査	6,500	17.1	63.4	15.9	3.2	0.4	3.9

Q49 持っている能力 C 目標に向かって人や集団をひっぱる力

	十分持 っている	持っている	どちらとも 言いえない	あまり持 っていない	持ってい ない	平均値	
TOTAL	12,920	8.6	35.3	37.6	14.9	3.6	3.3
2008WEB	6,420	8.7	35.7	34.9	16.1	4.6	3.3
2008紙の調査	6,500	8.6	35.0	40.2	13.6	2.6	3.3

Q49 持っている能力 D 自分の感情をコントロールする力

	十分持 っている	持っている	どちらとも 言いえない	あまり持 っていない	持ってい ない	平均値	
TOTAL	12,920	14.7	47.2	28.2	8.5	1.4	3.7
2008WEB	6,420	15.7	43.0	29.5	9.8	2.0	3.6
2008紙の調査	6,500	13.7	51.4	26.9	7.2	0.8	3.7

Q49 持っている能力 E やる気を維持する力

	十分持 っている	持っている	どちらとも 言いえない	あまり持 っていない	持ってい ない	平均値	
TOTAL	12,920	10.2	48.5	31.8	7.8	1.6	3.6
2008WEB	6,420	9.6	44.8	33.4	9.8	2.4	3.5
2008紙の調査	6,500	10.8	52.2	30.2	5.8	0.9	3.7

Q49 持っている能力 F 良い行動を習慣として続けられる力

	十分持 っている	持っている	どちらとも 言いえない	あまり持 っていない	持ってい ない	平均値	
TOTAL	12,920	10.3	50.2	32.3	6.0	1.1	3.6
2008WEB	6,420	11.3	48.4	31.9	6.8	1.6	3.6
2008紙の調査	6,500	9.3	52.1	32.7	5.3	0.6	3.6

Q49 持っている能力 G 情報を収集・分析して、課題を発見する力

	十分持 っている	持っている	どちらとも 言いえない	あまり持 っていない	持ってい ない	平均値	
TOTAL	12,920	12.5	42.8	34.1	9.1	1.6	3.6
2008WEB	6,420	14.9	45.9	30.2	7.3	1.7	3.6
2008紙の調査	6,500	10.1	39.6	38.0	10.8	1.4	3.5

Q49 持っている能力 H 課題解決のための計画を立案する力

	十分持 っている	持っている	どちらとも 言いえない	あまり持 っていない	持ってい ない	平均値	
TOTAL	12,920	10.4	40.8	35.8	10.9	2.1	3.5
2008WEB	6,420	12.0	41.7	33.8	10.1	2.5	3.5
2008紙の調査	6,500	8.7	39.9	37.9	11.7	1.7	3.4

Q49 持っている能力 I 行動を起こし、最後までやりきる力 (%)

	十分持っている (5)	持っている (4)	どちらともいえない (3)	あまり持っていない (2)	持っていない (1)	平均値	
TOTAL	12,920	15.2	50.4	27.8	5.5	1.2	3.7
2008WEB	6,420	15.4	50.1	27.3	5.5	1.7	3.7
2008郵政	6,500	15.0	50.7	28.2	5.4	0.7	3.7

Q49 持っている能力 J 現在の仕事に関する体系的な知識 (%)

	十分持っている (5)	持っている (4)	どちらともいえない (3)	あまり持っていない (2)	持っていない (1)	平均値	
TOTAL	12,920	13.9	49.7	28.8	6.2	1.4	3.7
2008WEB	6,420	14.7	47.8	28.4	7.0	2.1	3.7
2008郵政	6,500	13.0	51.5	29.3	5.5	0.7	3.7

Q49 持っている能力 K 現在の仕事の進捗や問題解決に必要な技術ノウハウ (%)

	十分持っている (5)	持っている (4)	どちらともいえない (3)	あまり持っていない (2)	持っていない (1)	平均値	
TOTAL	12,920	13.2	47.5	30.7	7.0	1.6	3.6
2008WEB	6,420	14.1	47.0	29.4	7.3	2.3	3.6
2008郵政	6,500	12.4	47.9	31.9	6.7	1.0	3.6

Q49 持っている能力 L 上記を含む、現在の仕事に必要な能力すべて (%)

	十分持っている (5)	持っている (4)	どちらともいえない (3)	あまり持っていない (2)	持っていない (1)	平均値	
TOTAL	12,920	7.3	52.3	34.1	5.2	1.1	3.6
2008WEB	6,420	7.9	53.8	31.2	5.7	1.4	3.6
2008郵政	6,500	6.8	50.7	37.0	4.6	0.7	3.6

***Q50 仕事能力割合(社内のみ活用+社外でも活用)** (%)

	社内のみ0-20% + 社外活用0%	社内のみ21-40% + 社外活用0-9%	社内のみ41-59% + 社外活用10-29%	社内のみ60-79% + 社外活用30-49%	社内のみ80-100% + 社外活用50-79%	社内のみ80-100% + 社外活用80-100%	無回答
TOTAL	12,920	8.3	10.2	26.6	29.2	25.5	0.2
2008WEB	6,420	10.8	12.8	26.4	26.3	23.7	0.0
2008郵政	6,500	5.8	7.6	26.8	32.1	27.2	0.5

Q51 勤務時間外の学び A テレビ・ラジオの講座を視聴する (%)

	よく取り組んでいる (+4)	取り組んでいる (+3)	あまり取り組んでいない (+2)	全く取り組んでいない (+1)	平均値	
TOTAL	12,920	2.8	11.5	31.2	54.5	1.6
2008WEB	6,420	2.7	11.1	27.6	58.6	1.6
2008郵政	6,500	2.8	12.0	34.8	50.4	1.7

Q51 勤務時間外の学び B 詳しい人に話を聞きに行く (%)

	よく取り組んでいる (+4)	取り組んでいる (+3)	あまり取り組んでいない (+2)	全く取り組んでいない (+1)	平均値	
TOTAL	12,920	5.0	25.9	32.5	36.5	2.0
2008WEB	6,420	4.7	24.7	30.7	39.9	1.9
2008郵政	6,500	5.3	27.2	34.4	33.1	2.0

Q51 勤務時間外の学び C 参加型の勉強会や交流会に参加する (%)

	よく取り組んでいる (+4)	取り組んでいる (+3)	あまり取り組んでいない (+2)	全く取り組んでいない (+1)	平均値	
TOTAL	12,920	3.1	14.5	30.9	51.5	1.7
2008WEB	6,420	3.0	14.0	28.7	54.3	1.7
2008郵政	6,500	3.2	15.1	33.0	48.6	1.7

Q51 勤務時間外の学び D 講演会やセミナーを聴講する (%)

	よく取り組んでいる (+4)	取り組んでいる (+3)	あまり取り組んでいない (+2)	全く取り組んでいない (+1)	平均値	
TOTAL	12,920	3.6	16.1	29.6	50.7	1.7
2008WEB	6,420	4.0	16.8	27.7	51.6	1.7
2008郵政	6,500	3.3	15.5	31.5	49.7	1.7

Q52 社会人での教育機関経験 (MA) (%)

	専門学校や各種学校	職業訓練校	大学・大学院の公認講座	大学の学部に在籍	社会人大学院・ビジネススクール	英会話などの語学スクール	通信教育	その他	社会人になってから教育機関を専らに受けていない	無回答	
TOTAL	12,920	10.7	3.9	4.1	1.9	2.9	11.2	24.5	3.4	53.7	0.9
2008WEB	6,420	12.1	4.5	5.5	2.7	3.4	14.7	29.6	3.7	47.4	0.0
2008郵政	6,500	9.2	3.3	2.8	1.1	2.4	7.8	19.4	3.2	60.0	1.8

Q53 読んでいる本のジャンル A ノウハウ書(営業術、技術、自己啓発書など) (%)

	よく読む (+4)	読む (+3)	あまり読まない (+2)	全く読まない (+1)	平均値	
TOTAL	12,920	5.2	21.4	30.7	42.6	1.9
2008WEB	6,420	5.4	22.2	31.7	40.7	1.9
2008郵政	6,500	5.0	20.7	29.8	44.4	1.9

Q53 読んでいる本のジャンル B 専門書(自分の仕事に直結する領域のもの) (%)

	よく読む (+4)	読む (+3)	あまり読まない (+2)	全く読まない (+1)	平均値	
TOTAL	12,920	10.8	34.0	24.7	30.5	2.2
2008WEB	6,420	11.1	34.7	25.7	28.5	2.3
2008郵政	6,500	10.4	33.3	23.7	32.6	2.2

Q53 読んでいる本のジャンル C ビジネス書(社会経済領域全般) (%)

	よく読む (+4)	読む (+3)	あまり読まない (+2)	全く読まない (+1)	無回答	平均値	
TOTAL	12,920	3.8	16.6	31.6	48.0	0.1	1.8
2008WEB	6,420	4.5	19.4	31.4	44.7	0.0	1.8
2008郵政	6,500	3.2	13.8	31.7	51.2	0.1	1.7

Q62 読んでいる本のジャンル D 教養書(歴史書、学術書など) (%)

	n=	読んでいる本のジャンル D 教養書(歴史書、学術書など)				平均値
		よく読む (+4)	読む (+3)	あまり読まない (-2)	全く読まない (-1)	
TOTAL	12,920	5.1	16.2	30.9	47.8	1.8
2008WEB	6,420	6.0	18.2	30.6	45.2	1.9
2008郵の置き	6,500	4.2	14.3	31.1	50.4	1.7

Q63 読んでいる本のジャンル E 図学書(テキスト、参考書など) (%)

	n=	読んでいる本のジャンル E 図学書(テキスト、参考書など)				平均値
		よく読む (+4)	読む (+3)	あまり読まない (-2)	全く読まない (-1)	
TOTAL	12,920	4.4	15.8	31.3	48.5	1.8
2008WEB	6,420	5.3	18.5	31.9	44.3	1.8
2008郵の置き	6,500	3.5	13.0	30.8	52.7	1.7

F1 性別

	n=	性別		平均値
		男性	女性	
TOTAL	12,920	57.7	42.3	
2008WEB	6,420	57.7	42.3	
2008郵の置き	6,500	57.6	42.4	

F2 年齢

	n=	年齢										平均値
		18~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65歳以上	
TOTAL	12,920	11.1	13.8	15.1	15.0	12.9	10.8	9.9	11.5	38.7		
2008WEB	6,420	10.6	13.9	15.2	15.1	13.0	10.9	9.9	11.5	38.8		
2008郵の置き	6,500	11.6	13.7	15.0	14.9	12.8	10.7	9.8	11.4	38.6		

F3 配偶者の有無

	n=	配偶者の有無			平均値
		配偶者がいる	配偶者がいない	無回答	
TOTAL	12,920	59.7	39.9	0.4	
2008WEB	6,420	54.4	45.6	0.0	
2008郵の置き	6,500	64.3	34.4	0.7	

***SF3_1 初婚年齢【ベース:配偶者有り】**

	n=	初婚年齢【ベース:配偶者有り】								平均値
		16~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40歳以上	無回答	平均値	
TOTAL	7,711	1.3	25.0	46.6	18.0	5.5	3.1	0.5	27.7	
2008WEB	3,495	0.6	19.7	46.3	21.1	6.8	5.5	0.1	28.8	
2008郵の置き	4,216	1.9	29.5	46.9	15.4	4.4	1.1	0.9	26.7	

***F4 昨年の年収・自分【ベース:年収0円および無回答を除く】**

	n=	昨年の年収・自分【ベース:年収0円および無回答を除く】													平均値
		0円未満	0~10万円未満	10~20万円未満	20~30万円未満	30~40万円未満	40~50万円未満	50~60万円未満	60~70万円未満	70~80万円未満	80~90万円未満	90~100万円未満	100~120万円未満	120万円以上	
TOTAL	11,944	1.9	7.0	11.8	13.6	15.8	13.2	9.9	8.0	5.7	4.6	2.6	3.1	2.5	437.0
2008WEB	6,235	1.9	5.8	10.0	13.2	16.1	13.6	10.2	8.3	6.1	4.9	3.2	3.4	3.3	463.7
2008郵の置き	5,709	2.0	8.4	13.8	14.0	15.5	12.7	9.6	7.7	5.3	4.3	2.2	2.8	1.7	408.0

***F4 昨年の年収・配偶者【ベース:無回答を除く】**

	n=	昨年の年収・配偶者【ベース:無回答を除く】													平均値
		0円	1~50万円未満	50~100万円未満	100~200万円未満	200~300万円未満	300~400万円未満	400~500万円未満	500~600万円未満	600~700万円未満	700~800万円未満	800~900万円未満	900~1000万円未満	1000~1200万円未満	
TOTAL	7,112	31.7	2.2	7.5	10.2	5.0	7.2	7.8	7.4	6.2	4.2	3.7	2.0	2.2	301.5
2008WEB	3,438	29.2	2.4	6.1	9.3	5.4	7.3	7.6	7.7	6.8	4.4	4.6	2.4	3.4	341.6
2008郵の置き	3,674	33.9	1.9	8.8	10.9	4.7	7.2	7.9	7.1	5.6	4.0	2.9	1.6	2.3	263.9

F5 子供の有無

	n=	子供の有無			平均値
		いる	いない	無回答	
TOTAL	12,920	54.8	45.0	0.2	
2008WEB	6,420	46.0	54.0	0.0	
2008郵の置き	6,500	63.6	36.0	0.4	

***SF5 子供の人数【ベース:子供有り】**

	n=	子供の人数【ベース:子供有り】				平均値
		1人	2人	3人以上	無回答	
TOTAL	7,085	26.5	52.5	20.7	0.2	2.0
2008WEB	2,952	32.3	51.1	16.5	0.1	1.9
2008郵の置き	4,133	22.4	53.6	23.7	0.2	2.0

***SF5-1 末子年齢【ベース:子供有り】**

	n=	末子年齢【ベース:子供有り】										平均値
		0歳	1~2歳	3~5歳	6~11歳	12~14歳	15~17歳	18~22歳	23歳以上	不明	平均値	
TOTAL	7,085	4.3	10.2	12.9	23.1	9.8	9.5	14.1	15.7	0.3	12.5	
2008WEB	2,952	4.3	10.4	11.2	19.6	9.2	11.0	16.5	17.7	0.1	13.2	
2008郵の置き	4,133	4.4	10.1	14.1	25.6	10.3	8.4	12.4	14.2	0.5	11.9	

***F6 同居者**

	n=	同居者									平均値	
		1人暮らし	父(義理の父を含む)	母(義理の母を含む)	兄弟姉妹	祖父または祖母	配偶者(内縁関係を含む)	子供	友人・ルームメイト・同居者	その他の人		親と同居
TOTAL	12,920	14.8	19.9	25.9	11.6	2.8	58.0	49.9	1.3	1.7	27.4	0.1
2008WEB	6,420	21.3	16.9	22.8	9.5	2.2	52.4	41.0	1.7	2.0	24.2	0.0
2008郵の置き	6,500	8.4	22.9	28.8	13.7	3.3	63.6	58.8	0.8	1.3	30.5	0.2

F7 世帯主

	n=	世帯主		平均値
		はい	いいえ	
TOTAL	12,920	56.7	43.3	
2008WEB	6,420	61.1	38.9	
2008郵の置き	6,500	52.3	47.6	

F8 住居形態

	n=	住居形態			平均値
		一戸建て	アパート・マンション(共同住宅)	その他	
TOTAL	12,920	46.5	51.5	1.9	
2008WEB	6,420	38.1	59.3	2.6	
2008郵の置き	6,500	54.9	43.9	1.3	

SF8-1 オートロック有無【ベース:共同住宅居住者】

n=	はい	いいえ	無回答	(%)
TOTAL	6,657	29.2	69.6	1.2
2008WEB	3,896	36.7	63.3	0.0
2008郵の聞き	2,851	19.1	78.0	2.9

F9 最終学歴

n=	中学校	高等学校	専修各種学校	短期大学	高等工業専門学校	大学	大学院	無回答	(%)
TOTAL	12,920	3.0	30.8	15.6	8.6	1.5	36.4	4.0	0.1
2008WEB	6,420	1.5	23.3	14.5	8.7	1.5	44.4	6.1	0.0
2008郵の聞き	6,500	4.6	38.2	16.6	8.5	1.6	28.5	1.8	0.1

SF9-1 卒業学部(研究科)【ベース:大学・大学院卒業生】

n=	文系	理系	その他	無回答	(%)
TOTAL	5,215	58.5	36.7	4.4	0.5
2008WEB	3,242	56.4	40.2	3.4	0.0
2008郵の聞き	1,973	62.0	30.9	5.9	1.2

F10 学校の中退経験

n=	中退した経験がある	中退した経験はない	無回答	(%)
TOTAL	12,920	8.3	91.2	0.5
2008WEB	6,420	8.9	91.1	0.0
2008郵の聞き	6,500	7.8	91.3	0.9

F10 中退経験学校【ベース:中退経験者】

n=	高等学校中退	専修各種学校中退	短期大学中退	高等工業専門学校中退	大学中退	大学院中退	無回答	(%)
TOTAL	1,077	31.4	18.7	4.0	2.2	39.8	3.6	0.3
2008WEB	572	23.8	15.4	4.4	2.3	49.1	5.1	0.0
2008郵の聞き	505	40.0	22.4	3.6	2.2	29.3	2.0	0.6

F11 生活満足度 A 家族

n=	非常に重要ではない(4)	やや重要(3)	あまり重要ではない(2)	全く重要でない(1)	無回答	平均値	(%)
TOTAL	12,920	73.7	21.4	3.8	1.0	0.1	3.7
2008WEB	6,420	66.6	26.4	5.5	1.5	0.0	3.6
2008郵の聞き	6,500	80.8	16.5	2.1	0.5	0.1	3.8

F11 生活満足度 B 友人・知人

n=	非常に重要ではない(4)	やや重要(3)	あまり重要ではない(2)	全く重要でない(1)	無回答	平均値	(%)
TOTAL	12,920	42.8	49.1	7.1	0.9	0.1	3.3
2008WEB	6,420	37.2	52.5	9.1	1.2	0.0	3.3
2008郵の聞き	6,500	48.4	45.8	5.1	0.6	0.1	3.4

F11 生活満足度 C 余暇(レジャー)時間

n=	非常に重要ではない(4)	やや重要(3)	あまり重要ではない(2)	全く重要でない(1)	無回答	平均値	(%)
TOTAL	12,920	43.0	48.5	7.7	0.7	0.1	3.3
2008WEB	6,420	44.3	47.5	7.5	0.7	0.0	3.4
2008郵の聞き	6,500	41.7	49.6	8.0	0.7	0.2	3.3

F11 生活満足度 D 仕事

n=	非常に重要ではない(4)	やや重要(3)	あまり重要ではない(2)	全く重要でない(1)	無回答	平均値	(%)
TOTAL	12,920	29.8	54.8	13.8	1.7	0.1	3.1
2008WEB	6,420	22.9	56.8	17.8	2.5	0.0	3.0
2008郵の聞き	6,500	36.5	52.7	9.8	0.8	0.1	3.3

F12 生活満足度

n=	満足している(4)	まあ満足している(3)	やや不満だ(2)	不満だ(1)	どちらともいえない(0)	わからない(0)	平均値	(%)
TOTAL	12,920	11.5	56.4	19.0	8.2	4.3	0.5	2.6
2008WEB	6,420	7.6	54.7	24.4	10.7	2.1	0.5	2.6
2008郵の聞き	6,500	15.4	58.1	13.7	5.8	6.6	0.5	2.7

F13 人の信頼

n=	はい	いいえ	場合による	(%)
TOTAL	12,920	36.0	10.2	53.8
2008WEB	6,420	33.5	11.8	54.7
2008郵の聞き	6,500	38.5	8.6	52.9

F14 海外生活経験

n=	ある	ない	(%)
TOTAL	12,920	6.1	93.9
2008WEB	6,420	7.7	92.3
2008郵の聞き	6,500	4.6	95.4

F15 インターネット使用頻度

n=	ほぼ毎日	1週間に数回程度	1週間に1回程度	1ヶ月に1、2回程度	ほとんど利用していない	全く利用していない	(%)
TOTAL	12,920	71.2	11.6	3.0	2.7	4.5	7.1
2008WEB	6,420	92.9	5.7	0.8	0.2	0.1	0.2
2008郵の聞き	6,500	49.8	17.3	5.1	5.1	8.7	13.9

F16 調査モニター登録有無

n=	登録している	登録していないが、登録してもよい	登録していない	無回答	(%)
TOTAL	12,920	42.7	18.7	38.5	0.1
2008WEB	6,420	76.4	16.0	7.6	0.0
2008郵の聞き	6,500	9.5	21.3	69.1	0.2

SF16-1 登録モニターの種類(MA)【ベース:モニター登録者】

	n=	インターネット調査モニター				郵送調査モニター		その他	無回答	(%)
		インターネット調査モニター	インターネット調査モニター	インターネット調査モニター	インターネット調査モニター	郵送調査モニター	郵送調査モニター			
TOTAL	5,518	94.6	14.0	1.8	0.3					
2008WEB	4,902	99.1	10.6	1.0	0.0					
2008紙め置き	616	58.6	40.4	8.3	2.3					

SF16-2 調査協力頻度【ベース:モニター登録者】

	n=	調査協力頻度							その他	無回答	(%)
		年に1~2回以下	3ヶ月に1~2回	月に1~2回	週に1~2回	週に3~4回	週に5~6回	週に7回以上			
TOTAL	5,518	6.2	6.0	13.5	31.0	20.5	11.3	10.7	0.6	0.3	
2008WEB	4,902	3.3	3.4	12.3	33.7	22.5	12.5	11.8	0.5	0.0	
2008紙め置き	616	29.1	26.9	23.1	9.7	4.5	1.5	1.5	1.5	2.3	

F17 協力している調査方法(MA)

	n=	調査方法							無回答	(%)
		訪問調査	訪問調査	電話調査	郵送調査	インターネット調査	インターネット調査	インターネット調査		
TOTAL	12,920	12.5	29.1	15.0	46.4	59.0	21.6	0.5		
2008WEB	6,420	11.3	19.9	21.6	60.4	96.4	2.7	0.0		
2008紙め置き	6,500	13.6	38.2	8.5	32.5	22.0	40.3	1.0		